



平成30年度全国高等学校総合体育大会登山大会
第62回全国高等学校登山大会
記録報告書

■主催

(公財)全国高等学校体育連盟
(公社)日本山岳・スポーツライミング協会
三重県、三重県教育委員会
菰野町、菰野町教育委員会

■主管

(公財)全国高等学校体育連盟登山専門部
三重県高等学校体育連盟
三重県山岳連盟

■後援

スポーツ庁
(公財)日本スポーツ協会
日本放送協会
(公財)三重県体育協会
菰野町体育協会

■会場

鈴鹿山系菰野町内、三重県民の森

■共催

読売新聞社

■特別協賛

大塚製薬

■協賛

JTB
マイナビ
KDDI
カプラー学生服

翔
東へ
誰
海より
の起
空高く

2018 彩る感動 東海総体



平成 30 年 8 月 24 日 湯の山かもしか大橋 開通

- シンボルマーク 岐阜県立岐阜総合学園高等学校 2年 近藤寛子
- 大会愛称 三重県立四日市商業高等学校 2年 水越粹花
- スローガン 三重県津市立橋北中学校 1年 曾我萌々子
- スローガン毛筆作品(縦書き) . . . 三重県立いなべ総合学園高等学校 2年 藤田和花
- 原 画 三重県立菰野高等学校美術部

第1回安全対策会議（平成29年10月）



医療スタッフの三浦教授による熱中症対策講座



第3回安全対策会議 兼 菰野町消防本部、三重県防災航空隊との合同救助訓練（平成30年7月）



大会ルートの整備（平成30年3月 鎌ヶ岳への登り口）



300 日前イベント（平成 29 年 10 月）＊イオンモール東員にて



ナイフの使い方講座（平成 29 年 11 月、平成 30 年 5 月）＊三重県民の森とのコラボイベント



四日市農芸高校の先生と山岳部員が全面協力

インターハイ開催記念登山「登山隊長と行くインターハイコース」（平成 30 年 5 月）＊御在所山



山頂で開かれた「御在所山の自然講話」は大好評！

第 6 回「夏山フェスタ」で三重県知事とともにインターハイ登山競技を PR（平成 30 年 6 月）＊名古屋にて



三重の四日市工業高等学校と愛知の旭丘高等学校の選手がパネラー



四日市農芸高等学校の生徒たちが丹精込めて
育てた花々



菰野町内の小中学生が作ってくれた応援
メッセージ入りののぼり

サンプリングの準備をする補助員



全国専門委員長会議



監督、リーダー会議



各都道府県高体連旗の掲示作業

行動役員会議（四日市市少年自然の家）



各施設・設備

受付（菰野町体育センター）



開会式・諸会議会場（菰野町市民センター）



幕営地（三重県民の森）



設営本部（三重県民の森「ふれあいの館」）



救護所（三重県民の森「ふれあいの館」内）



サンプリング提供所（三重県民の森「ふれあいの館」前）



幕営地仮設トイレ



幕営地仮設シンク



給水車（5 t + 1 t）自衛隊車両



簡易トイレテント（お菊池周辺にて）



大会本部

各隊の状況把握 → 地図に情報を書き込み、マグネットを班に見立てて移動させていく。



本部通信と消防隊本部詰め



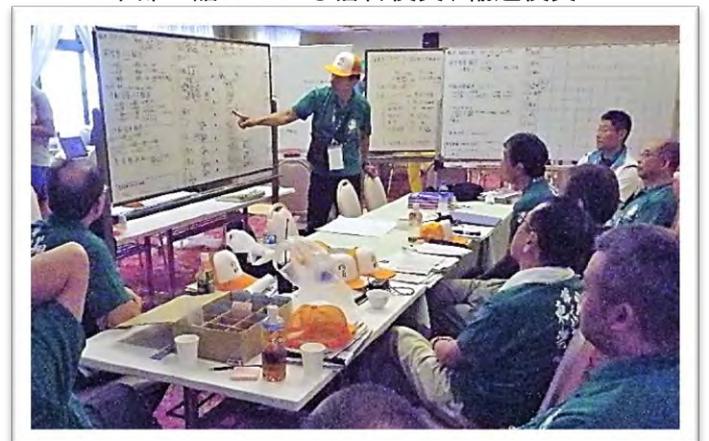
自衛隊本部班



気象予報士の皆さん



本部に詰めている宿舎役員、輸送役員



隊の行動について協議中



本部にて気象予報士から情報提供を受ける



開会式

各都道府県高体連旗掲示



受付（菰野高等学校補助員）

（暑い中、ご苦労様！）



サンプリング（菰野高等学校補助員）



歓迎アトラクション

（菰野高等学校吹奏楽部）



優勝杯返還、レプリカ授与

（盛岡第一高等学校、長崎北陽台高等学校）



レプリカ（菰野ばんこ）



岡田 正治 全国高等学校

体育連盟 会長



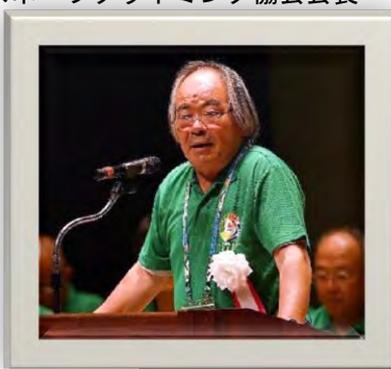
松本 哲 全国高等学校体育連盟

登山専門部部长



八木原 聡明 日本山岳・

スポーツライミング協会会長



石原 正敬 菰野町長

（菰野町実行委員会会長）



歓迎の言葉（菰野高等学校 増田 紘也）



選手宣誓

（四日市工業高等学校—奥山 裕矢、神戸高等学校—田辺 夏子）



知識審査から幕営地へ

開会式会場から審査会場へ歩いて移動



天気図審査会場

審査会場の菰野高等学校では補助員が誘導…感謝!!



知識審査 スタート!



菰野町体育センターに戻ってコース隊編



三重県民の森で設営隊への引継ぎ式



設営審査 スタンバイ



幕営地でのサンプリング
補助員と菰野町のボランティアが頑張ってくれました



幕营地、交流会



A隊 設営審査



兵庫県



B隊 設営審査



写真提供 P&P 浜松



千葉東



炊事審査



写真提供 P&P 浜松



千葉東

A隊 交流会 芸が始まっています



こちらでも…



B隊 交流会



ここも…



B隊 交流会 この班はチームをシャッフルしてグループを作っています



副班長さんも選手と交流



監督のテント場



応援メッセージ入りのぼりとパチリッ



8月4日大会2日目 八風キャンプ場駐車場→三池岳→八風峠→八風スポーツ公園



日の出とともに出発



監督隊 出発準備



三池岳への急登が始まる



三池岳への急登



お菊池付近



八風峠



八風峠からの下り



きちんと書き込んでから
記録書を提出



激励に駆けつけてくださった
専門委員長隊



マコモ入りそうめんを地元の方が「おもてなし」

8月5日大会3日目 朝明駐車場→ブナ清水→朝明茶屋キャンプ場

幕営地から出発 設営隊がお見送り



A 隊旗手



B 隊旗手



A 隊 出発



B 隊 登山道へ



伊勢谷の渡渉



監督隊



ブナ林に行く



ブナ清水



ゴール (朝明茶屋キャンプ場)



幕営地の夜



8月6日大会4日目 御在所ロープウェイ駐車場→御在所中道→御在所朝陽台

おばれ岩



キレット(A隊)



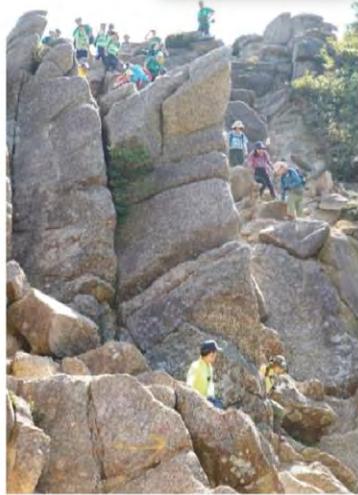
ロープウェイの架線の下を行く



ゴンドラを驚づかみ?!



キレット(B隊)



実はこんなところも下っていたのです



地藏岩を背に登る



B隊コース隊長 (朝陽台にて)



A隊コース隊長 (朝陽台にて)



8月6日 解団式（御在所ロープウェイ駐車場）

B隊解団式



B隊コース隊長の胴上げ



A隊解団式



A隊 班別で解散会



来年度開催の宮崎県の監督さんをご挨拶



B隊 班別で解散会



「お疲れ様！」副班長さんと握手



A隊コース隊長の胴上げ



A隊 班のみんなで集合写真



班長さんを胴上げ



8月7日 閉会

閉会式会場



審査講評、成績発表(松本 至巨 審査員長)



A隊優勝 広島県 修道高等学校



B隊優勝 山口県 防府高等学校



国旗引継 (菰野町から宮崎県へ)



大会旗引継



Aコース隊旗、Bコース隊旗引継

感謝状贈呈式



宮崎県実行委員会
米丸 麻貴生 事務局長



三重県高等学校体育連盟
登山専門部 河北 冠 部長



「皆様のご協力によって、大会日程を無事終了することができました。大変、ありがとうございました。」
 「それでは、皆様、どうぞ、お気をつけてふるさとへ お帰りください。さようなら。」



開会式、閉会式 司会
 いなべ総合学園高等学校 放送部



いつかまた、鈴鹿の山で会えるといいですね



菰野町町民センターホールの片づけ



幕営地仮設トイレの撤収



目 次

◇ 大会写真集

◇ あいさつ

全国高等学校体育連盟登山専門部	部 長	松本 哲	2
菰野町実行委員会	町 長	石原 正敬	3
三重県高等学校体育連盟	会 長	阿形 克己	4
三重県山岳連盟	会 長	根本 幹雄	5
三重県高等学校体育連盟登山専門部	部 長	河北 冠	6

◇ 大会記録

1 審査長講評	審 査 員 長	松本 至巨	8
I 項目別講評と審査報告			10
II 共通課題テスト模範解答			13
III 自然観察課題テスト模範解答			14
IV 救急課題テスト模範解答			16
V 気象課題テスト模範解答			18
VI 天気図審査と模範天気図	一般社団法人	日本気象予報士会	20
2 成績一覧表			25
3 日程及び変更後コース			27
4 登山大会コース位置図及び概念図			28
5 都道府県別出場校一覧表、班編成表			30
6 役員、補助員一覧表 役員等人数表			33
7 A隊行動記録	A 隊 コース 隊長	小林 孝光	40
8 B隊行動記録	B 隊 コース 隊長	岸田 誠司	43
9 A隊、B隊行動記録表			46
10 A隊支援隊記録	A 隊 支 援 隊 長	永戸 晋太郎	49
11 B隊支援隊記録	B 隊 支 援 隊 長	阪本 高樹	50
12 設営隊記録	設営隊長	西 和典	51
13 気象記録	一般社団法人	日本気象予報士会 東海支部	57
14 通信記録	隊 付 き 通 信 係	赤塚 正則	60
15 救護記録	総 務 副 委 員 長	高松 真親	61
16 式典記録	総 務 (式典担当)	廣田 育男	62
17 総務記録	総 務 委 員 長	松尾 浩志	64
18 専門委員長記録	専 門 委 員 長 対 応	中村 訓	70
19 開催までの経緯	総 務 委 員 長	松尾 浩志	72

◇ 大会感想文

1 A隊班編成、A隊大会感想文	75
2 B隊班編成、B隊大会感想文	103

◇ 大会を終えて

登山大会を終えて	登 山 隊 長	葛原 義和	133
----------	---------	-------	-----

ごあいさつ



あいさつ

(公財) 全国高等学校体育連盟
登山専門部長 松本 哲

「2018 彩る感動 東海総体」平成 30 年度全国高等学校総合体育大会登山大会第 62 回全国高等学校登山大会は、「翔べ 誰よりも高く 東海の空へ」のスローガンのもと、鈴鹿山系を舞台にまさに若さあふれる大会となりました。

この大会を何年も前から準備し、支えてくださった三重県の皆様、大会会場として素晴らしい山々や温泉に私たちを迎えてくださった菰野町の皆様に、全国高体連登山専門部を代表して、心から感謝の意を表します。ありがとうございました。

1 日目は、菰野高校吹奏楽部の素晴らしい演奏から始まりました。連日の猛暑の中でしたが、とても良いスタートとなりました。

さて、ご承知のとおり、今大会は例年のない猛暑の影響で熱中症予防を含めた対策から急遽、コース距離短縮やザック等に変更がありました。観測史上に残る気象条件の中、選手や監督の皆様にはご対応いただき感謝申し上げます。

その結果、2 日目は八風キャンプ場から八風峠、3 日目は朝明茶屋キャンプ場からブナ清水往復、4 日目は湯の山温泉から御在所中道をとおり御在所山へと登り、ロープウェイで下山しました。暑い中、地元の皆様からは「マコモ入りそうめん」や「名物の草餅」、「アイスキャンディー」の差し入れをいただき、選手にとってはサプライズであり、とても喜んだことと思います。ありがたいことだと感謝申し上げます。

大会は勝利を目指すものでもあります。日本全国の山の仲間と知り合えるのも登山大会の素晴らしいところだと思います。そして最終日は好天に恵まれ素晴らしい天気となりました。登山行動初日で数名が体調不良になりましたが、青空のもと、全参加者で御在所山からの眺めを満喫できたことを大変うれしく思います。

そして、この大会を支えていただいた皆様に感謝申し上げます。コース変更や体調不良等での突発な対応が必要となりましたが、葛原登山隊長や松尾総務委員長をはじめとする菰野町実行委員会の皆様には、臨機応変にご対応いただき心から感謝申し上げます。

また、この大会のためにご多忙の中、ご支援くださった町長をはじめ菰野町の皆様、三重県山岳連盟の皆様、山岳ドクターと看護師の皆様、陸上自衛隊第 33 普通科連隊の皆様、菰野消防署と三重県防災航空隊の皆様、四日市西警察署の皆様、気象予報士の皆様、様々な形で応援いただいたすべての皆様に主催者を代表して心より感謝申し上げます。

選手の皆さんが一生の思い出になる登山ができたのも、多くの人々の支援があったからだと思います。支えてくださった関係者の皆様やチームの仲間、先生だけではなく笑顔で送り出してくれた家族にも感謝の気持ちを伝えてほしいと思います。

終わりに、いつの日か菰野の地を訪れ鈴鹿山系の素晴らしい山々に登ってほしいと思います。その時に、この大会での思い出を語る事ができれば素晴らしいことだと思います。それではこの大会の携わった全ての皆様が元気で過ごされることを祈念してあいさつとさせていただきます。本当にありがとうございました。



あいさつ

菰野町長 石原 正敬

「跳べ 誰よりも高く 東海の空へ」の大会スローガンのもと、平成30年度全国高等学校総合体育大会登山大会は、46都道府県から選手、監督のみなさんをお迎えし、多くの成果と様々な感動を残して、無事に終えることができました。

今大会は、開催前から連日猛暑に見舞われ、大変厳しい状況での大会となり、安全確保の観点からあらかじめ計画された登山ルート的大幅な短縮やザックの重量軽減の措置を取りました。こうした急な変更により、大会に向けた準備に多くの時間を費やしてきた選手のみなさんは戸惑ったかもしれません。

しかし、このような事態に適切に対応し、お互いをいたわり合い、助け合いながら競技を続けられた選手のみなさんに、心から敬意を表します。

また、県内の高校生のみなさんと菰野町内の多くの方々には大会準備、清掃活動、さらに菰野町の特産品の提供など様々な場面で大会の成功に向けて関わっていただきました。選手のみなさんからは、整備された登山道や幕营地、地元の方々からの声援や地元高校生補助員の笑顔などに触れて、厳しい競技に精一杯取り組むことができたという声をいただいて、我々の準備が無駄ではなかったと感じました。

菰野町では2021年に国民体育大会のスポーツクライミング競技が開催されます。

ワールドカップで活躍しているトップアスリートたちも出場し、ハイレベルな熱い戦いを目の当たりにできると期待しています。大会に出場されたみなさんには、再び菰野町を訪ねていただいて、躍動感溢れるスポーツクライミング競技を観戦するとともに、鈴鹿の山々の頂にもう一度立って、眼下に広がる伊勢湾や街並みを眺めながら、菰野町の良さを味わっていただきたいと思います。

結びに、今大会の開催にあたり、多大なご支援ご協力をいただきました各関係者の皆様に深く敬意を表し、心より感謝申し上げますとともに、全国高等学校総合体育大会登山大会のさらなる発展を祈念いたしまして、あいさつといたします。



願いと夢が叶えられますよう

三重県高等学校体育連盟
会長 阿形 克己

「翔べ誰よりも高く東海^にの空へ」の大会スローガンのもと、平成30年度全国高等学校総合体育大会「2018彩る感動東海総体」が三重県・愛知県・静岡県・岐阜県・和歌山県の5県において開催されました。7月26日のバレーボール男子・ハンドボールを皮切りに、8月20日までの期間、熱中症対策や上陸した台風第12号の影響など様々な課題がありましたが、高校生トップアスリートのみなさまの競技に臨む真摯な姿や、数多くのドラマを拝見でき、記憶に残る大会を終了することができました。たゆまない努力を重ねられてきた選手・監督・コーチのみなさま並びに陰となり支えられてきた保護者のみなさまに深く敬意を表します。

45年ぶりの全国高校総体開催となりました三重県では、8月1日三重県営サンアリーナにおいて、皇太子殿下のご臨席を仰ぎ、選手団・観客・高校生の演者など4,227名が参加し、総合開会式がとりおこなわれました。歓迎演技では、海・山・空に囲まれた「常若の地、三重」を実感していただき、平成最後のインターハイから新たな時代を支えるみなさまの未来を予感し、躍動感あふれるダンスパフォーマンスによる選手たちの爆発的なエネルギーや選手とともに見る人・支える人が一体となる感動を感じ、みなさまの未来における活躍を予感する「未来絵」を描いていただけることとなりました。

高校生活動は3年前より始動し、三重県内全67校の高校生が大会の成功に向けて、企画・準備・運営を自らの創意工夫を持ちPR活動・300日前イベントの開催・カウンタダウンボード制作・草花装飾制作・宿泊施設に飾るウエルカムボード制作・総合案内所の運営・投擲運搬車制作や特別支援学校の生徒による手作り記念品制作などに取り組んできました。なかでも大会に参加される選手や監督のみなさまへの記念品として、三重の伝統工芸品である伊賀くみひもを使ったミサンガを制作しました。その結び目には「叶結び」を使用し、選手のみなさまの願いと夢が叶うよう思いをこめて、三重県中の高校生が制作したものです。

さいごに、本大会の準備・開催・運営にご尽力いただきました、公益財団法人全国高等学校体育連盟をはじめ、開催県・会場地市町ならびに各実行委員会、各競技団体ならびに各競技専門部、大会運営にかかわっていただいた生徒や先生方など、全てのみなさまに深く感謝申し上げますとともに、選手・監督・応援の方々を含め、本大会に関係されたすべてのみなさまのこれからの人生が、色鮮やかに彩られますことを願い、あいさついたします。



2018年東海総体登山競技を終えて

三重県山岳連盟
会長 根本 幹雄

まずは本書面を拝借し、本大会関係者の皆様に厚く御礼申しあげます。本当にありがとうございました。

私が本大会に関与させて頂くことになったのは2016年の4月、ある先生から「当校山岳部の外部講師になって欲しい！」とお誘いを頂戴してからである。その先生は、三重県のインターハイサポート事業の一つである実行委員会に専任され、インターハイ開催にご尽力された方である。「私のような爺さんが引き受けて若い者とうまくやっていけるのだろうか？」一抹の不安を覚えた。同時期山岳部へ入部した男女8名が3年生になり、女子部員がこの大会に出場してくれた。昨年はトラブルで県予選敗退！リベンジの想いを胸に今年の県予選で強豪校を破つての出場であった。

私の山登りのきっかけは、職域山岳会にはいつから。部の先輩から「山登りは人づくり」と教えてもらった。『人との出会いを大切に！』

『縁たれ！縁たれ！』は亡き母の言葉。会社を定年退職して早5年！「人との出会い、人との縁が人生にとってこれほど大切であること！」この大会を通じ 改めて感じさせて頂いた。

連盟の支援体制がまだまだ不十分な時期、真っ先に支援体制を表明してくれたのは出身母体の職域山岳会であった。後輩が皆をまとめ、最終的に連盟支援の約7割に及ぶ人員が協力してくれた。行動中コース隊長と支援隊員の会話、『来てくれてんのやな！ありがとな！』『あいつは女子で一番強かった努力家で！』『先生との約束やもんな！』彼女は学校を卒業し数年は経っている。恩師との約束を果たし閉会式に出る事無く行動最終日の下山後、勤務先に戻っていった。第一回安全対策会議後に体調をくずされ、裏方に徹せられたN先生！OGを引き連れ行動役員のユニフォーム洗濯を一举に引き受けてくださった。毎日猛暑で汗ビショビショ！ただでさえ匂うポロシャツ！行動役員は毎日柔軟剤の良い香りがするユニフォームを着て行動することができた。その先生とは約二十年前、県境の峠に60Kgの石柱（道標）を生徒と担ぎ上げた仲。大会初日、下山ルート変更で新人副班長は下見でも下山したことが無いルートにドキドキ！途中、落石危険！渡渉地点は道迷いリスク！其処に立って的確に道案内しているのは私よりお年を召した高体連OBの先生達！「飛べ誰よりも高く！」は今回の大会スローガン。「行け！誰よりも高いところへ！」はOB先生への指示。

全日 高体連OBの先生達はコース上で最も標高の高い危険個所に立って安全監視の任務にあられた。実態をご存知無い方は「老人虐待??」と思われるかもしれない。登山隊長の信頼の証！である。

監督隊を引率されたD先生、T先生！絶妙のコンビネーション！D先生とは新採以来のお付き合いをさせて頂いている。大会最終日、国道を横断する手前の休憩ポイントには連盟傘下山岳会の元会長達大先輩が交通整理にあたってくださっていた。その中には高体連の超OB御年81歳の先生達も！皆さんは朝早く目が覚めるのか？『根本！ご苦労さんやな！』『先生ご無沙汰しております。お元気でしたか？』『連盟頼むぞ！』先生方はこの4月、連盟長になった経緯はご存知である！後ろでは一緒に大会出場を果たした生徒たちが聞いていた。これらの会話、生徒達はどう感じたのか？連盟傘下山岳会の大先輩の皆さん並びに三重高体連の超OB先生達を大会最終日に引き込んだのは、連盟長就任の際、一緒に副会長、理事長職に就いてくれたH君、K君の尽力の賜物！このお二人も大会中、縁の下で大活躍してくれた！これ 人との出会い！縁たれ縁たれ！

本大会、多くの方の恩・縁に支えられ無事終了することができた。皆さんへの 感謝以外何物でもありません。三重高体連の若い先生方！この経験をぜひ次に活かして頂きたい。

2021年開催の「三重とこわか国体」多くの皆さんに支えて頂き、開催準備にあたりたい！



登山大会を終えて

三重県高等学校体育連盟
登山専門部長 河北 冠

菰野町の鈴鹿山系を舞台に開催された「平成30年度全国高等学校総合体育大会登山大会」から1ヶ月が過ぎました。わたしたち三重県高体連登山専門部では、菰野町、三重県山岳連盟や東芝山岳会、OB顧問の方々とともに、大会コースや幕営地の選定・調査、登山道の整備から始まり、登山大会が安全かつ円滑に実施できるよう、また、全国から集う高校生山岳部員たちに鈴鹿の山々の魅力を十分に感じてもらえるよう、準備を進めてまいりました。大会期間中は災害とも言える酷暑に見舞われ、登山コースや形態の短縮・変更を余儀なくされましたが、無事に大会を終えることができたことは何よりの喜びです。

登山行動を行ったコースは、いずれも鈴鹿の魅力のいっぱい詰まったコースです。第2日目には、三池岳の頂上に立ち、三重県側が急峻で、滋賀県側がなだらかな鈴鹿山脈の地形を実感するとともに、コース変更により八風峠越えの古道の趣も味わいました。第3日目には、やはり古くからの峠道である根の平峠への道を通り、ブナ清水では冷たい清水を味わいました。第4日目には、岩稜つづく「中登山道」から御在所山に登り、下山はロープウェイに乗り空中散歩もたのしみました。とりわけこの日は、全選手が御在所山に無事登頂できたことが大きな感動でした。

さて、山を志す人たちの世界では、登山をすることを「山をヤル」と言います。「登山」といっても日帰り登山や縦走登山もあれば幕営登山もあります。岩登りや氷壁の登攀もあります。それらをひっくるめて「山をヤル」。登山部の高校生である皆さんは、「山をヤル」世界に一步、足を踏み入れているわけです。わたしはこの言葉には山の奥深い世界が詰まっているように思います。「山をヤル」は、単に登山を行ったり、岩壁登攀を行ったりすることだけを指すのではなく、山の世界にまるごと浸るような行為であるように思われます。シーズンによってまったく異なった様相を見せる山を体感し、仲間と作った料理と美味しい空気を体内に取り入れ、苦しい急登の足もとに咲く花に慰められ、満天の星をテントから見上げ、時には荒天に閉じこめられて泣きそうになり……こういった経験を身体全体で受け止める行為が「山をヤル」と言うのだと思います。そして、そういう人が「山ヤ」。……どうか皆さんが、「山ヤ」としての経験をいっそう積まれ、再び鈴鹿の山々を訪れてくれることを願っています。

大会記録

1 審査員長講評

審査委員長 松本 至巨
東京学芸大学附属高等学校

選手、監督、役員、補助員の皆さん、4日間にわたる登山行動、たいへんお疲れさまでした。「翔べ誰よりも高く東海の空へ」をスローガンに行われた2018 彩る感動東海総体、平成30年度全国高等学校総合体育大会登山大会、第62回全国高等学校登山大会は、三重県北部に位置する菰野町を中心に、三重県と滋賀県との県境に位置する鈴鹿山脈で行われました。鈴鹿の山々は古くから現在の滋賀県である近江と三重県の伊勢を結ぶ交易路として利用され、塩などさまざまな物資の交流が盛んに行われるなど、地域の人々と深い関わりを持つ山域となってきました。今大会で登山行動1日目に通過した八風峠や、2日目に歩いた朝明溪谷の上部にある根の平峠は、今は静かな場所となっていますが、昔は近江と伊勢を結ぶ街道が通っていたことから多くの人々に歩かれたところです。

大会前の予定では登山行動初日に三池岳・釈迦ヶ岳、2日目は国見山・御在所山、3日目は鎌ヶ岳・御在所山に登るコースが設定されていました。しかし今年は梅雨明け以降、各地で例年にならないような気温上昇が見られ、大会期間中、三重県北部においても酷暑に見舞われ、厳しい大会となりました。夜もあまり気温が低くならず、なかなか寝付くことのできない選手もいたのではないかと思います。選手の皆さんの体調に配慮し、3日間すべての登山行動の日程を短縮しましたが、体調を崩す選手が多く見られました。夏の登山の準備として暑さ対策ということも必要ですが、今大会はそれを上回るような猛暑であったため、本来持っている体力や技量を精一杯出し切ることのできなかつたチームもあったと思います。本大会は夏の気温の高い時期の登山の厳しさを非常に実感させられる大会となりました。

暑いという印象が強い大会でありましたが、登山行動2日目に訪れた森の中のブナ清水は涼しく、岩の間から湧く清冽な水がみなさんの心と体を潤してくれたのではないかと思います。登山行動3日目には負ばれ岩や地蔵岩といった奇岩を見たり、難所であるキレットを緊張して下ったりしながら御在所山に向かいました。御在所山の山頂部では心地よい風に吹かれながら、監督の先生と菰野町をはじめとする北勢の町や伊勢湾など雄大な景色を眺めることができたのではないかと思います。今大会中は残念ながら釈迦ヶ岳や鎌ヶ岳に登ることはできませんでしたが、また機会があれば是非これらの山に登り、鈴鹿の山々のよさを感じていただければと思います。

酷暑の日々が続く中でも大会を無事終了することができたのは、大会を支えてくださった開催地・菰野町をはじめとする三重県のみなさまのおかげです。災害級ともいわれる暑さの中で、選手が安全に山行を行えるよう柔軟に対応していただいたり、山中や幕営地等各所で支援をいただいたおかげで、昨日までの登山行動を無事終えることができました。特に菰野町の皆様には、大会の開催・運営にご協力いただいただけでなく、下山口において地元の食材を振る舞っていただくなどたいへんお世話になりました。本当にありがとうございました。感謝を申し上げますとともに、大会の成功を皆様と共に喜びたいと思います。

次に、審査に当たった審査員の先生方の報告をもとに、いくつかの項目について大会の講評をいたします。

まず体力面についてですが、今大会は酷暑の中での開催となり、選手のみなさんは大きな負荷を背負いながら登山をすることになりましたが、よく頑張ってくれたのではないかと考えています。大会中は暑さに対する対応について学ぶよい機会になったと思います。今後さらにトレーニングに励んでいただき、暑さをはじめさまざまな環境に対応することができるような健康な体を作るよう努めてほしいと思います。一方、無理をしすぎないということも大切です。自分の体に負荷をかけすぎないように、限界に至らないように、自分の体のことを知り、コントロールするということが学んでほしいと思います。

歩行面では、今回のコースは花崗岩の岩場やその風化物が見られるザレ場がところどころに見られ、これらの足場の悪いところではスリップが多く見られました。スリップは時と場合によっては大事故につながりますので、十分気をつけてください。普段の山行において、いろいろな地形に対応できるようにバランス感覚を養うことを意識して歩くようにしてほしいと思います。

装備についてですが、大会期間中は晴天に恵まれていましたが、数日間にわたる山行ではさまざまな天候に遭遇することの方が一般的です。山では天気が急変することも多々あります。防水袋の口が閉じられていなかったり、防水する必要のある装備品が防水袋からはみ出しているようなケースが見受けられました。特に寝袋が濡れてしまうと命に関わるようなことにもなり得ますので、普段から確実に防水するように意識してください。

炊事審査に関してですが、バーナーを使用する際、バーナーシートを使用せず三脚のみで使用するチームが散見されました。暑い時期の大会ですので、献立や食材の管理についてはそれに応じた対策をとってください。レトルト食品に頼りすぎないように、献立をもっと工夫してほしいと思います。しっかりした食事によって十分な栄養を摂ることは安全登山には欠かせませんので、荷物が多少重くなっても必要な食糧は必ず持参してください。

読図技術については、地形を意識しながら歩いていけば初見でも十分にわかる地点や、場所を特定するヒントがある場所にポイントを設置しました。普段から登山の際は地形を意識しながら歩くようにするとともに、山行前に地図をしっかりと確認してから歩く習慣を付けておくようにしてください。

課題テストでは、大会山域を歩くのに必要となる知識や一般的な登山用語の理解、基本的な読図力、天気図の読み方、熱中症に関する知識を問う問題を出題しました。特に今大会では熱中症に関する知識は必要不可欠であったと思います。大切な知識であると思いますので、救急知識を担当しなかった選手もしっかりと学んでおいてほしいと思います。

態度・マナーについてですが、審査員の指示を聞かずに勝手な行動をするチームが見られました。審査員の指示はしっかりと聞いて必ず従うようにしてください。また、事前に実施要項や予報をよく読んでから大会に臨むようにしてください。

今大会では幕営地において他のチームの選手と交流する時間が長くとれたのではないかと思います。全国各地から山を愛する選手が一同に集まる機会はあまりありません。ふるさとの山の話の話を互いに交換することによって、全国各地の山に関する知識が増えるとともに、友達の輪も広がります。普段の学校生活では、この大会のように全国から高校生が集まる機会はほとんどないと思いますので、このような機会を上手に活用して、すばらしい人間関係を幅広く作ってもらいたいと思います。

I 項目別講評と審査報告

今大会では、以下の1～10の項目について「審査基準と指導目標」および「審査確認事例」に従って審査しました。

1 体力（40点）

今回は酷暑の中での大会となったため、登山行動3日間すべてについて予定より短縮・変更するという措置がとられました。そのため3日もサブザック行動、隊行動となりました。荷物による負担が小さくなっている上に隊全体で速度を下げたことから、どのチームも比較的よく歩けたのではないかと思います。しかし、登山行動中および登山行動後に暑さによるとみられる体調不良に見舞われた選手が多少見られました。普段から体力をつけるようなトレーニングをするのはもちろんですが、多少の暑さにも耐えられるような健康な身体づくりも必要と考えます。一方で体調が悪くても無理をして歩行を続けることは大きな事故につながりかねず危険です。自分の体調をよく観察しながら、無理のない安全な山行を楽しめるようにしてください。

2 歩行技術（10点）

今大会で登山行動を行った鈴鹿山脈中南部は花崗岩が広く分布する地域であり、岩場や花崗岩の風化物であるマサの広がるザレ場が各所に見られます。このような足場の悪い場所でのスリップが多くみられました。普段の山行において、さまざまな地形や足場のところでも、バランスよく歩けるようしっかりと訓練を積んでほしいと思います。足場の悪い所では登りでも軍手が必要となることがありますので、速やかに軍手を着用できるように備えておきましょう。

3 装備（5点）

装備品の多くは普段の山行や大会中に使用するものです。使用頻度が少ないものもいざという時には必要不可欠になることがありますので、忘れずに必ず持参するようにしてください。今回の大会中のように晴天が続くことは山では稀で、数日間にわたる山行では降雨に見舞われることがあります。したがって防水が必要なものについては個々に確実に防水を施すようにしてください。今回、防水袋の口が開いていたり、装備品が防水袋からはみ出していたりするというチームが見られました。注意しましょう。

審査した装備は以下の通り（A・B隊共通）。

※ [] 内の数字は装備不足と判断されたチームの数（A隊/B隊）

寝袋 [10/4]	携帯トイレ [8/5]	虫さされ薬 [3/6]
テーピング [4/7]	ラジオ [4/6]	マッチ [14/9]
時計 [2/1]	針金 [0/3]	地形図 [5/2]

4 設営・撤収（5点）

概ね良好でした。今回は気温が高いことから、就寝時にテントやフライの入口を開けて風通しをよくするように勧めましたが、靴や装備が完全に外に置かれているチームがいくつも見られました。夜間に急な降雨がある場合がありますので、必ずテント内やフライの内側に入れるようにしてください。

5 炊事（5点）

三脚を使用して火器を使用する際、バーナーシートを使用していないチームが散見されました。また、レトルト食品に頼りすぎているチームが見られました。一方で、食料計画を工夫し、バラエティに富んだ食事を摂っている優れたチームも見られました。食材の保存方法には注意が必要ですが、山行に充分対応できるような食料計画を立て、少し荷物が重くなっても必要な食材は必ず持参するようにしてください。

6 天気図（4点）

日本気象予報士会の方に作成していただいた講評を19～23ページに掲載しました。

7 課題テスト（各4点）

共通課題テストでは大会山域に関する基本的な事項を聞きました。どのチームも比較的よくできていました。鈴鹿山脈についていろいろと学んだと思いますので、その知識を生かすためにも是非またこれらの山に訪れてほしいと思います。自然観察課題テストでは、地形図を正確に読み取ることができるか、大会で利用するコースの特徴などをわかっているかを問う問題を出題しました。救急課題テストでは、熱中症や傷病者に対する初期対応などについて出題しました。気象課題テストでは、大会山域の夏の気象の特徴および一般的な雲の特徴などについて出題しました。各課題テストは全般的によくできていました。これらの知識を山行中に活かしてほしいと思います。

8 計画書（2点）

10項目について審査しました。全体的によくできていました。昨年と同様、概念図や断面図が一部不正確となっているチームがありました。できるだけ正確に描けるようにしてください。また、装備や食材については重量もできるだけ正確に書くようにしてください。

審査した項目は以下の通り（A・B隊共通）。※ [] 内の数字は記載率（A隊/B隊，単位は%）

- ・メンバー表 監督項目の有無 [100/89]
- ・緊急連絡先 留守本部（夜間・休日を含む）の記載 [100/94]
- ・日程表 8月4日のメインザック行動の記載 [87/91]
- ・概念図 三池岳・釈迦ヶ岳コース沿いの県境尾根の記載 [78/83]
- ・概念図 八風峠・中峠・仙香池・釈迦ヶ岳・猫岳の記載 [91/91]
- ・断面図 御在所山・国見岳コースのスタートからキレットまでの断面 [73/62]
- ・断面図 鎌ヶ岳・御在所山コースの武平峠から御在所ロープウェイ山上公園駅までの断面 [89/89]
- ・個人装備 水筒とその重量（飲料水を含む）の記載 [60/60]
- ・食料計画 8月3日夕食の材料と分量の記載 [93/85]
- ・救急装備表 消毒液の記載 [96/91]

9 行動記録（2点）

予定よりもルートが大きく変更されましたが、行動記録は比較的よく記載されていました。事後に役立つ記載ができるよう、普段の山行から行動記録をしっかりと作成するようにしてください。

審査した項目は以下の通り（A・B隊共通）。※ [] 内の数字は記載率（A隊/B隊，単位は%）

8月4日 ・入山時の広場（旧射撃場跡）におけるメンバーの体調 [84/87]

- ・お菊池までにあった急登 [60/58]
- ・三池岳山頂における天気 [93/91]
- ・八風峠にあった鳥居（祠） [80/78]
- ・広場（旧射撃場跡）の到着時刻（下山時） [93/87]

8月5日 ・入山時の朝明茶屋キャンプ場における天気 [98/100]

- ・ブナ清水周辺の植生にブナがあったこと [98/91]
- ・根の平峠直下の分岐の通過時刻 [84/76]
- ・朝明茶屋キャンプ場におけるメンバーの体調 [98/98]

8月6日 ・負ばれ岩の通過時刻 [93/87]

10 読図技術（10点）

今大会ではコースの短縮・変更がありましたので、設置したポイント数はA隊 12ヶ所、B隊 11ヶ所としました（A隊は4点、B隊は4.5点を付与点としました）。初めて歩いたチームでも十分に正答できる地点にポイントを設置しました。普段から山行では尾根や谷などの地形を確認しながら歩くようにしましょう。山行前に歩くコースの地形等を地図で確認してから歩くようにしてください。全チームの正答率は87.1%、全ての地点を答えられたのはA隊 21チーム、B隊 15チームでした。

11 マナー・自然保護（5点）

大会前にチームのメンバー全員が実施要項や予報、監督・リーダー会議資料を必ず確認するようにしてください。

Ⅱ 共通課題テスト模範解答

1. 次の文中の(①)から(⑤)に適する語句を下の語群から選び、記号で答えよ。また、Aに適する語句をひらがなで答えよ。(0.1点×6)

三重県の内陸部には魅力的な山々があり、地元の人はもちろん、大阪や名古屋からも山登りを楽しむ人々が多く訪れます。その一つが今大会が行われる(①)山脈です。大会2日目のコースには、皿にまつわる(②)の伝説が残る池や、(③)も通ったといわれている八風峠があります。さらに羽鳥峰峠からの下山ルートでは、明治時代にオランダ人技師ヨハネス・デレーケの工法の流れを汲む、自然石を谷の斜面に合わせた「A堰堤」が見事に山を守っている様子が見られます。大会3日目と4日目に目指す御在所山には(④)壁があり、多くの世界的なクライマーを育てたクライミングゲレンデとして有名です。御在所ロープウェイは、(⑤)湾をぐるっと全部見下ろす絶景を楽しむことから人気の観光スポットとなっています。

【語群】 ア. 台高 イ. 鈴鹿 ウ. 紀伊 エ. お花 オ. お菊
カ. 織田信長 キ. 豊臣秀吉 ク. 徳川家康 ケ. 藤内 コ. 屏風
サ. ヨセミテ シ. 伊勢 ス. 伊賀 セ. 駿河

①	②	③	④	⑤	A	小計
イ	オ	カ	ケ	シ	なわだるみ	

2. 次のA～Dの幕营地または山頂のおおよその標高を下の語群から選び、記号で答えよ。(0.1点×4)

A. 今大会の幕营地(三重県民の森) B. 鎌ヶ岳 C. 御在所山 D. 釈迦ヶ岳

【語群】 ア. 100m イ. 200m ウ. 300m エ. 400m オ. 500m
カ. 970m キ. 1060m ク. 1090m ケ. 1160m コ. 1210m

A	B	C	D	小計
イ	ケ	コ	ク	

3. 次の(1)～(5)に最も関係の深いコースを下の語群から選び、記号で答えよ。(0.1点×5)

(1) チーム行動 (2) メインザック行動 (3) ブナ清水
(4) 伊勢谷 (5) 猫谷

【語群】 ア. 鎌ヶ岳・御在所山コース イ. 御在所山・国見岳コース ウ. 三池岳・釈迦ヶ岳コース

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	小計
ア	ウ	イ	イ	ウ	

4. 次のA～Eの読みひらがなで答えよ。(0.1点×5)

A. 菰野町 B. 武平峠 C. 羽鳥峰 D. 朝明溪谷 E. 雲母峰

A こもの ちょう	B ぶへい とうげ	C はと みね	小計
D あさけ けいこく	E きらら みね		

	都道府県番号	都道府県名	学校名	係名	得点(2点満点)
□A隊				□ 自然観察	
□B隊				□ 救急	
				□ 気象	

Ⅲ 自然観察課題テスト模範解答

1. 右の図は大会2日目（登山行動1日目）のコースを含む地形図の一部である。これをもとに、問いに答えよ。（0.1点×11）

(1) 大会2日目のコースは、A・Bのうち、どちらの方向から進んでくるか。

(2) あ・いに入る峠の名称の正しい組合せを次の中から選び、番号で答えよ。

- | | | | | | |
|---|----|---|---|----|----|
| | あ | い | | あ | い |
| ① | 岳 | 中 | ② | 岳 | 八風 |
| ③ | 八風 | 岳 | ④ | 八風 | 中 |
| ⑤ | 中 | 岳 | ⑥ | 中 | 八風 |

(3) C・Dのうち、尾根線であるのはどちらか。

(4) 図中の—・—・—・—の記号は都府県界を表すものである。これより西側の府県名として正しいものを次から選び、記号で答えよ。

- ア. 三重 イ. 和歌山 ウ. 奈良 エ. 滋賀 オ. 京都

(5) 地形図を見て、次の文の（ a ）～（ f ）に入る適切な数値または語句を下の語群から選び、記号で答えよ。

あ峠とい峠はほぼ同じ標高で、約（ a ）mである。この2つの峠から地図上で右下に向かう道を（ b ）ルートとして利用すると、それぞれの峠から標高差約（ c ）m下った地点で2つの道が合流し、さらに標高差約（ d ）m下ると、川を（ e ）岸から（ f ）岸に渡ることがわかる。

- | | | | | | | |
|--------|--------|----------|----------|--------|--------|---------|
| ア. 120 | イ. 170 | ウ. 220 | エ. 250 | オ. 300 | カ. 950 | キ. 1000 |
| ク. 左 | ケ. 右 | コ. トラバース | サ. エスケープ | シ. 高巻き | | |

(6) あ峠から、この日のバス降車地点までの直線距離は、2万5千分の1の地形図で9.4cmである。これは実際の距離にすると何mになるか。

(1)	(2)	(3)	(4)				(6)
B	④	C	エ				
(5)							
(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)		
カ	サ	エ	ア	ケ	ク	2 3 5 0 m	

2. 次の文章を読み、下線(a)～(f)に該当する登山用語を下の語群から選び、記号で答えよ。

(0.1点×6)

「三池岳・釈迦ヶ岳コース」は、登山口から登り始めると、ヒノキの植林地の中を (a) 山腹を横切っていきうに進む。高度を上げていくと尾根に出るが、いったん尾根からはずれ、再び西にのびる尾根に出る。なだらかな (b) 峰と峰との間の稜線上で低くなつたところを通過すると急な登りとなる。途中手を使って岩場を乗り越える地点があり、しっかりと (c) 手がかりや足場と (d) 足の位置を確かめて三点支持で登る。

「御在所山・国見岳コース」では、919mの小ピークで6合目となり、ここからの急な下りは (e) 稜線が鋭く切れ込んでいるところを通過する。国見峠から国見岳への登りは大岩の間を抜けた (f) 砂れきでおおわれているところの縁をたどったりで気は抜けないが、気持ちのいい登りだ。

【語群】 ア. コル イ. ホールド ウ. ガレ エ. トラバース オ. トレース
カ. 徒渉 キ. キレット ク. スタンス ケ. ザレ場 コ. ルンゼ

(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)
エ	ア	イ	ク	キ	ケ

3. 次の文章を読み、(a)～(c)にはいる適切な語句を下の語群から選び、記号で答えよ。

(0.1点×3)

「鎌ヶ岳・御在所山コース」は両側が切れ落ちた狭い尾根である (a) 登山口から急登がはじまる。鎌ヶ岳へ向かう途中には (b) の露岩が点在し、急な崖となっていて樹木もまばらな白ハゲと呼ばれるところがある。また、鎌ヶ岳頂上部東面には、三重県の天然記念物に指定されている (c) の原生林が残されている。

【語群】 ア. 馬の背 イ. 中道 ウ. 朝明 エ. 玄武岩 オ. 花崗岩
カ. 安山岩 キ. ツツジ ク. ブナ ケ. ヒノキ コ. イワカガミ

(a)	(b)	(c)
ア	オ	ク

□A隊 □B隊	都道府県番号	都道府県名	学 校 名	得点 (2点満点)

自然観察課題 (平成30年度全国高校総体)

IV 救急知識課題テスト模範解答

1. 傷病者の初期対応についてまとめた「3 S A B C D E」について、次の各問いに答えよ。
(0.1 点×6)

(1) 次の各文が示す行為は「3 S A B C D E」のうちのA～Eのどれにあてはまるか、それぞれA～Eの記号で答えよ。

- ア. 寒さ、雨、風、日射などから負傷者を保護する。
- イ. 脈をとって、速さ・強さ・リズムを確認する。
- ウ. 頭から足先まで触ってみて、死に至るような怪我がないか確認する。
- エ. 呼吸を普通に行っているかどうかを確認する。
- オ. 口の中に異物があれば、よく見ながら取り除く。舌根が沈下していないかを確認。

(2) 「3 S A B C D E」の中で行う脈や呼吸の確認、及び初期対応全体にかかる時間の目安として正しいものを、次のア～エの中から記号で選べ。

- ア. 脈 10 秒・呼吸 10 秒・全体 2 分 イ. 脈 10 秒・呼吸 10 秒・全体 5 分
- ウ. 脈 20 秒・呼吸 20 秒・全体 5 分 エ. 脈 30 秒・呼吸 30 秒・全体 7 分

(1)ア	(1)イ	(1)ウ	(1)エ	(1)オ	(2)
E	C	D	B	A	ア

小 計
0.6

2. 次の文章中の(①)～(⑨)に入る適語を、あとの語群から選んで記号で答えよ。(0.1 点×9)

熱中症にはさまざまな症状がある。足がつるといった症状が現れる(①)は軽症に分類される。たちくらみやめまいが生じたり、疲労感や吐き気、頭痛が生じる(②)や(③)は中等症である。その場合には、日陰に入れて衣服を脱がせたりゆるめたりして、(④)を上げて横たわせる。また(⑤)を含む水分を補給したり、体を扇いだりする。30分以内に改善傾向がない場合や日没が近い場合は、救助を要請する。自力下山はできないどころか、命にかかわる。

(⑥)が正常でない、歩行や動作がきちんとできない、体温が39℃前後以上ある、のいずれか一つでもあてはまる症状の場合は、(⑦)とよぶ重症の状態である。体温を調節できなくなり、脳に影響を及ぼすようになり、生命の危険が迫っている。この場合、至急救助要請をして、すぐに体温を下げるよう(⑧)を開始する。(⑥)が正常でない人には、水を与えると、誤嚥して肺炎や(⑨)を起こすため、水を飲ませてはいけない。

- 【語群】
- | | | | |
|----------|----------|--------|--------|
| ア. 熱痙攣 | イ. 熱射病 | ウ. 熱失神 | エ. 熱疲労 |
| オ. 脈 | カ. 塩分 | キ. 鉄分 | ク. 手 |
| ケ. 足 | コ. 頭部 | サ. 下痢 | シ. 窒息 |
| ス. マッサージ | セ. ラッピング | ソ. 洗浄 | タ. 意識 |
| チ. クーリング | ツ. 低体温症 | | |

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
ア	ウ	エ	ケ	カ	タ	イ	チ	シ

※②と③の解答は順不同

小 計
0.9

3. 次の(1)～(5)の処置のうち、正しいものには○、誤っているものには×を答えよ。(0.1点×5)

- (1) 毒へビかもしれないへビに咬まれた。痛かったので、咬まれたあたりをさすったり揉んだりした。
- (2) 傷口が深くえぐれていたので、傷の中にティッシュを詰めて上から包帯で圧迫した。
- (3) 山頂で昼食を作っていて熱傷をした。持ち物に、凍らせてきてまだ半分しか融けていないお茶と、常温の水があったが、常温の水のほうを使って冷やした。
- (4) 低体温症の症状があり、手足が冷たいのでそこを使い捨てカイロで温めた。
- (5) ダニが皮膚に咬みついていたので、ダニをつぶして取り除いた。

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
×	付与点	○	×	×

小 計
0.5

3. (2)の付与点について

登山部報 No. 61 P. 108 ウ 出血の確認 に基づいて出題しました。部報には「深くえぐれた傷→傷の中にガーゼを詰めて上から圧迫する。」とあるため、ティッシュ（ペーパー）では不相当と考えました。しかしこのような場合、清潔なものが他に何もなければティッシュを使っての止血もやむをえません。そのためこの短文は誤りとは言えないため、付与点としました。

<input type="checkbox"/> A 隊 <input type="checkbox"/> B 隊	都道府県番号	都道府県名	学 校 名	得点(2点満点)

救急知識課題（平成 30 年度全国高校総体）

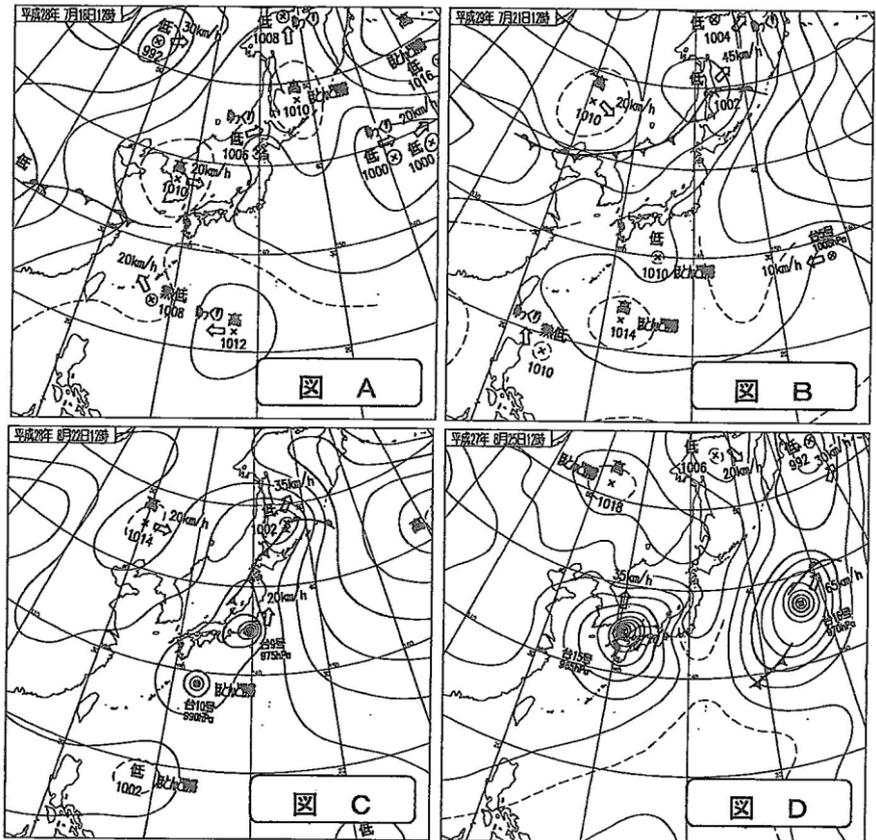
V 気象課題テスト模範解答

1. 天気図 A～D と大会山城の気象に関する以下の文章の〔 〕内において、最も適切な語の記号を選び、その答を解答欄に記入せよ。(0.1 点×10)

三重県は東から南にかけて海に面している。南東からの風が吹くと、〔①_ア暖かく湿った・_イ暖かく乾いた・_ウ冷たく湿った・_エ冷たく乾いた〕気流が山地にぶつかって〔②_ア上昇・_イ下降〕気流となり、まとまった雨や、ときに大雨になることがある。

図 A と図 B のうち、大会山城付近で南東の風が吹いているのは〔③_ア図 A ・_イ図 B 〕の方で、このとき降水も記録され、また、暑い夏の主役ともいえる〔④_ア赤道・_イマリアナ・_ウ小笠原・_エオホーツク海〕気団の影響で気温が上昇している。図 A と図 B に共通にみられる前線は〔⑤_ア温暖・_イ寒冷・_ウ停滞・_エ閉塞〕前線だが、この前線はいずれも大会山城の天気 に 直接 影響 して 〔⑥_アいる・_イいない〕。

図 C と図 D のうち、大会山城近くの四日市で強い南東の風が吹き、日降水量が 90.5mm に達した日のものは〔⑦_ア図 C ・_イ図 D 〕である。もう一方の天気図では、三重県で吹いているのは〔⑧_ア北西・_イ南西〕からの風で、降水も記録されていない。図 D では、中心気圧 965hPa の台風第 15 号が九州付近にあり、三重県はその進行方向の〔⑨_ア右側・_イ左側〕にあたる。一般に、台風はその進行方向の〔⑩_ア右側・_イ左側〕の方が、風が強くなる。



【解答欄】

①	②	③	④	⑤
ア	ア	イ	ウ	ウ
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
イ	イ	ア	ア	ア

小計	1.0
----	-----

2. 次の文章の〔 〕内において、最も適切な語の記号を選び、その答を解答欄に記入せよ。(0.1点×4)

梅雨明け後の日本は勢力の強い高気圧に覆われ、〔①_ア東高西低・イ_イ西高東低・ウ_ウ南高北低・エ_エ北高南低〕型の気圧配置になり天気は安定する。梅雨明け後は菰野町でも最高気温が〔②_ア25・イ_イ30・ウ_ウ35〕℃以上の酷暑日が出現することがある。三重県の内陸部では強い日差しのため〔③_ア積乱雲・イ_イ乱層雲・ウ_ウ層積雲〕が発生し、激しい夕立となることがある。菰野町の高麓付近では、真夏の日中に海から内陸部に〔④_ア海風・イ_イ陸風〕が、夜間はその逆向きの風が吹くことがある。

【解答欄】

①	②	③	④
ウ	ウ	ア	ア

小計	0.4
----	-----

3. 次の(1)~(3)の説明が当てはまる雲の写真をa~e から、それぞれの名称を語群ア~クから選び、記号で答えよ。(0.1点×6)

- (1) 朝からこの雲が出ていて蒸し暑い日は雷が起きやすい。
 (2) 主に低気圧に伴う温暖前線面上に現れ、気温上昇が伴えば6~12時間後に雨になる確率が高い。
 (3) 中層の雲であり、空の一部にある時はよいが、空一面に広がってくると悪天の前触れである。

a 通称：すじ雲 	b 通称：ひつじ雲 	c 通称：霧雲 
d 通称：綿雲 	e 通称：おぼろ雲 	

0.6 【語群】

ア.層雲 イ.巻層雲 ウ.高層雲 エ.巻雲 オ.巻積雲 カ.高積雲 キ.積雲 ク.積乱雲

【解答欄】

	(1)	(2)	(3)
写真の記号	d	e	b
雲の名称の記号	キ	ウ	カ

小計	0.6
----	-----

□A隊 □B隊	都道府県番号	都道府県名	学校名	得点(2点満点)

気象知識課題 (平成30年度全国高校総体)

VI 天気図審査と模範天気図

一般社団法人 日本気象予報士会

審査概要

審査対象にした天気図は平成 30 年 6 月 19 日 12 時のものです。

審査は、登山部報の統一学習資料「登山と気象知識 II 地上天気図の書き方」に基づいて行いました。

対象となった日は、梅雨期の天気図で、台風 6 号くずれの低気圧が南岸を通過後に関東沖に進み、そこから中国大陸まで伸びた梅雨前線が西から北上し始め、西から再び天気がくずれる形になっています。三重県の大会山城では、翌日は雨が予想される天気図でした（翌日、四日市では終日雨天で 97 ミリの雨量が観測された）。

天気図の基本的な事項（天気記号や矢羽の描き方、高気圧・低気圧の記入の仕方）や前線の描き方や等圧線の引き方がきちんとできるか試される天気図として出題しました。

審査項目

項目ごとの配点（合計 4 点）

審査項目 1	審査項目 2	審査項目 3	審査項目 4
各地の天気・ 船舶の報告	高気圧・低気圧 ・前線	等圧線	解析・予報等
1.2 点	1.0 点	0.8 点	1.0 点

以下、審査項目ごとのポイントを示します。

審査項目 1 各地の天気、船舶の報告（配点 1.2 点）

【採点基準】

下表の 5 地点と船舶の報告 1 件について、風向、風力、天気、気圧、気温および船舶の位置が正確に記入されているか審査しました。審査地点には、特徴的な気象状況となっている地点、描画上重要な地点、大会山城近くを選定しました。

配点：地点ごとに配点は 0.2 点で誤りが 1 項目あれば -0.1 点、2 項目以上あれば -0.2 点。

浜田	潮岬	輪島	御前崎	ウラジオストク	北緯度 31 度 東経 142 度
北	南東	北東	南南東	南南東	西
風力 1	風力 2	風力 3	風力 2	風力 4	風力 5
雨	雨	晴れ	くもり	霧	くもり
07hPa	11hPa	07hPa	06hPa	04hPa	08hPa
24℃	22℃	25℃	24℃	13℃	-

<コメント>

全体的にはよく書けていました。一部で、矢羽の向きが直角であったり、先端が長くなってなかったりで、形の悪いものもありました。霧の天気図記号が書けてないのも見られました。細いペンを使っているためか数値が小さすぎて判定しづらいものも多数ありました。

審査項目2 高気圧、低気圧、前線（配点1.0点）

【採点基準】

・高気圧

以下の高気圧の表記（H）、位置、中心気圧、進行方向、進行速度の記入が適切かどうかを審査しました。

配点：0.2点、誤りが1項目あれば-0.1点、2項目以上あれば-0.2点。

北緯 41 度 東経 163 度	気圧 1026hPa	進行方向 東南東	進行速度 20 km/h
---------------------	---------------	-------------	-----------------

・低気圧

以下の低気圧の表記（L）、位置、中心気圧、進行方向、進行速度の記入が適切かどうかを審査しました。特に、進行方向は緯度経度を参考にした方向に記載されているかに注目しました。

配点：0.2点、誤りが1項目あれば-0.1点、2項目以上あれば-0.2点。

北緯 34 度 東経 145 度	気圧 998hPa	進行方向 東北東	進行速度 35km/h
---------------------	--------------	-------------	----------------

・前線

関東の東の低気圧から延びる閉塞前線が正しく描画されているか、閉塞点の位置に誤りはないか、閉塞点の先の温暖前線の終了位置は正しいか、寒冷前線と停滞前線の境界は正しいかについて審査しました。

停滞前線の描画については、適切に描かれているか、位置や描画は正しいかを審査しました。描画については、記号による描画でも色付けによる描画でもよいものとししました。

配点：0.6点、誤りが1項目あれば-0.1点。

閉塞点位置 北緯 34 度 東経 148 度	温暖前線 終了位置 北緯 29 度 東経 152 度	寒冷・停滞 前線 境界位置 北緯 27 度 東経 141 度	停滞前線 終了位置 北緯 29 度 東経 109 度	描画 途中の通報 ポイント 滑らかさ 各前線記号	鹿児島 島の南 側を通 過して 描かれ ている か
------------------------------	-------------------------------------	--	-------------------------------------	--------------------------------------	---

<コメント>

高気圧・低気圧の表し方と中心示度の記入位置がさまざまで、採点者として見にくく感じました。記入の仕方の統一性が必要だと感じました。

今回最も多く間違っていたのは、閉塞点の意味が分かっていないのか寒冷前線が低気圧から直接引かれており、閉塞前線と温暖前線の境界部から引かれていないものが数多くみられました。また停滞前線記号が正しく書けてないものも多く見られました。

前線の種類を線の色で表す学校が多くありました。色線が細すぎて前線が目立たないものも多くありました。色線より前線記号であらわした方が天気図らしく見やすくなると思います。

審査項目3 等圧線（配点0.8点）

【採点基準】

・等圧線

等圧線がなめらかに描かれているか。過不足がないか。1010hPa が太く描かれ、気圧表記があるかをしました。

配点：0.8点 誤りの項目ごとに減点。

等圧線の数：アムール川下流の低気圧と日本のはるか東の高気圧までの数があるか。 (-0.1)
太平洋高気圧の張り出し 1012hPa の等圧線：父島の北を通っているか。(-0.1)
日本付近の 1010hPa の等圧線：太線で潮岬と室戸岬の間を通っているか。(-0.1)
大陸の 1004hPa の等圧線：香港の北、台北の南を通っているか。(-0.1)
日本海の 1006hPa の等圧線：西郷とウルルン島の間を通っているか。(-0.1)
サハリンの 1020hPa の等圧線：太線でセベロクリリスクの西を通っているか。(-0.1)
気圧通報データに対して適切に等圧線が描かれ、全体に滑らかであるか。(-0.1)
等圧線の記載本数が適切で、切れ目や枝分かれ、交差が無いか。(-0.1)

<コメント>

気象通報では 1012 hPa と 1008hPa の等圧線の通る位置が示されましたが、その間の 1010hPa 線の記入に苦労したようです。室戸岬と潮岬の間に 1010hPa を通さずに描いているものが多くありました。関東沖の低気圧の 1010hPa 線を独立して描いてもいいし一つにくくってもよいのですが、そこが上手くできないものが多くありました。

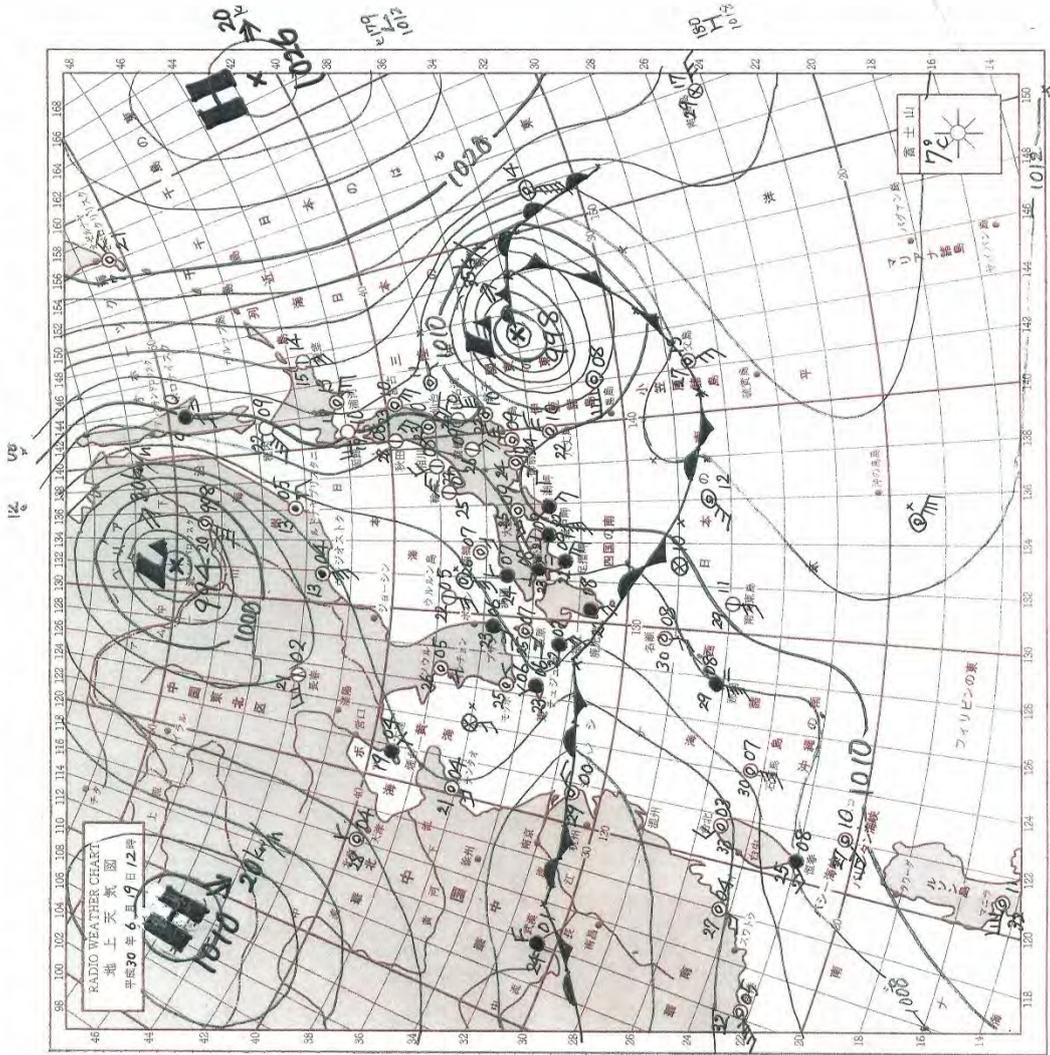
大陸の気象データが少ない中で等圧線を描くのは難しかったと思います。モンゴルの 1010hPa 高気圧を正しく描くためには東にある 1004hPa 線が上手く引けないと描けず、そこで能力差が見られました。完璧に等圧線が引けている生徒もいれば、まったく各地の気圧を無視して適当に滑らかに引いているものも見られました。各地の気圧データを無視せずに等圧線を引くようにしたいものです。

審査項目 4 解析・予報等（配点 1.0 点）

【採点基準】

解析・予報答時間が短いため、問題を平易にすることと、採点の客観性を明確にするため、解析と予報から計 5 問を選択肢（3 択）から選び記号で解答する形式としました。

隊	都道府県番号	都道府県名
<input type="checkbox"/> A隊 <input type="checkbox"/> B隊		
学校名	模範天気図	
学校名	解析・予報 解答	
	【(ア)(イ)(ウ)のいずれかで答えること】	
①	イ	
②	ウ	
③	ウ	
④	ア	
⑤	イ	
メモ	<p>日本付近を通る1010hPaと中国大陸の1004hPaの線の引き分けが否かで差ができました。葛藤があったと思います。長江付近に低圧帯がありましたが、発表がななく引き分けがなくなったと思います。関東沖の低気圧は、台風予報で気圧傾度が大きくなっています。</p> <p>＜今後のために＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前線は必ずバツ記号を用いて明確に表す。 ・高気圧は自立のよりに書く。 ・前線付近は等圧線がくびれることが多い。 ・各地の気圧の直交に注意。 ・閉塞点が寒冷前線と伸びず、(鉄)が冷たい 	



記入者氏名

天気図審査 天気図解析、予想の問題

自分で作成した天気図に基づき、次の文の中で①～⑤の部分について最も適切なものの記号を答えなさい。

(1) 実況解析

日本の東には中心気圧が 998 ヘクトパスカルの発達中の低気圧があり、へ毎時 35 km で進んでいる。この低気圧の中心から東経 148 度付近まで前線が東に延びている。

また、日本の南には前線があり、九州地方から紀伊半島南部にかけての広い範囲で雨が降っている。

(2) 翌日の予報

作成天気図翌日 9 時の予想天気図では、前線が九州南部から紀伊半島南部まで北上し、四国東部付近には低気圧が発生する予想となっている。

そのため大会山城（鈴鹿山脈）付近では前線に近いため、の天気が予想される。

また、大気の状態が不安定となるため、や竜巻などの激しい突風にも注意が必要である。

選択肢

- | | | | |
|---|---------|---------|--------------|
| ① | (ア) 北 | (イ) 東北東 | (ウ) 南東 |
| ② | (ア) 停滞 | (イ) 温暖 | (ウ) 閉塞 |
| ③ | (ア) 寒冷 | (イ) 温暖 | (ウ) 停滞 |
| ④ | (ア) 雨 | (イ) 曇り | (ウ) 曇りで所により雨 |
| ⑤ | (ア) 季節風 | (イ) 落雷 | (ウ) 寒気 |

正解 ① (イ) ② (ウ) ③ (ウ) ④ (ア) ⑤ (イ)

<コメント>

①、②、③は自分で書いた天気図を見て回答する問題です。正しく天気図が書けていれば簡単に解答できます。ほぼ全員の人が正解でした。

④、⑤は描画した天気図から翌日の天気を予想する問題です。④は翌日に前線が大会山城に近づき、低気圧が発生するにもかかわらず、天気が大きく崩れないとの判断で (ウ) と回答する人が一部に見受けられました。低気圧、前線が接近する場合、山地では平地よりも早く天気が悪化するという認識をもっていない人がいました。

2 成績一覧表

第62回全国高等学校登山大会

団体男子(A隊) 成績一覧表 [成績順]

班	県番	都道府県	学校名	行動		生活技術			知識					読図技術	マナー 自然保護	計	順位	
				体力	歩行	装備	設営 撤収	炊事	天気図	課題テスト			計画書					行動 記録
										自然	救急	気象						
40.0	10.0	5.0	5.0	5.0	4.0	4.0	4.0	4.0	2.0	2.0	10.0	5.0	100.0					
A-5	34	広島県	修道高等学校	40.0	10.0	5.0	5.0	5.0	4.0	4.0	4.0	4.0	2.0	2.0	10.0	5.0	100.0	1
A-6	28	兵庫県	兵庫県立神戸高等学校	40.0	9.8	5.0	5.0	5.0	4.0	4.0	3.9	4.0	2.0	2.0	10.0	5.0	99.7	2
A-6	10	群馬県	群馬県立前橋高等学校	40.0	9.8	5.0	5.0	5.0	4.0	4.0	4.0	4.0	1.8	2.0	10.0	5.0	99.6	3
A-4	12	千葉県	千葉県立千葉東高等学校	40.0	10.0	5.0	5.0	5.0	3.9	4.0	4.0	4.0	1.8	1.8	10.0	5.0	99.5	4
A-5	35	山口県	山口県立下松工業高等学校	40.0	10.0	5.0	5.0	5.0	3.8	4.0	4.0	3.7	2.0	2.0	10.0	5.0	99.5	5
A-2	3	岩手県	岩手高等学校	40.0	9.8	5.0	4.8	5.0	3.9	4.0	4.0	3.3	2.0	2.0	10.0	5.0	98.8	6
A-2	36	香川県	香川県立丸亀高等学校	39.2	10.0	5.0	4.9	5.0	3.8	4.0	4.0	3.9	2.0	2.0	10.0	5.0	98.8	7
A-1	37	徳島県	徳島県立城ノ内高等学校	40.0	9.8	5.0	4.9	4.8	3.5	4.0	4.0	3.7	2.0	2.0	10.0	5.0	98.7	8
A-1	6	山形県	山形県立村山産業高等学校	40.0	9.7	5.0	5.0	5.0	3.6	3.9	3.6	3.8	1.8	2.0	10.0	5.0	98.4	9
A-5	17	長野県	長野県大町岳陽高等学校	40.0	10.0	4.5	5.0	5.0	3.3	3.9	3.9	4.0	1.8	1.8	10.0	5.0	98.2	10
A-4	33	岡山県	岡山県立岡山工業高等学校	40.0	10.0	5.0	5.0	5.0	3.1	4.0	4.0	3.3	1.8	1.8	10.0	5.0	98.0	11
A-3	23	三重県	三重県立神戸高等学校	39.2	9.8	5.0	5.0	5.0	3.7	4.0	3.9	3.8	2.0	2.0	9.5	5.0	97.9	12
A-4	42	長崎県	長崎県立長崎北陽台高等学校	38.3	10.0	5.0	5.0	5.0	4.0	4.0	4.0	4.0	1.8	1.8	10.0	5.0	97.9	12
A-4	41	佐賀県	佐賀県立佐賀工業高等学校	39.2	10.0	4.5	5.0	5.0	3.5	4.0	3.8	4.0	1.8	2.0	10.0	5.0	97.8	14
A-3	19	石川県	石川県立金沢泉丘高等学校	39.2	9.9	4.5	4.5	5.0	3.6	3.9	4.0	4.0	2.0	2.0	10.0	5.0	97.6	15
A-2	23	三重県	三重県立四日市工業高等学校	38.3	9.9	5.0	5.0	4.8	3.9	3.9	4.0	4.0	2.0	1.8	10.0	5.0	97.6	15
A-1	39	高知県	土佐高等学校	39.2	9.9	5.0	5.0	5.0	3.7	4.0	4.0	3.6	1.6	2.0	9.5	5.0	97.5	17
A-4	15	山梨県	山梨県立北杜高等学校	40.0	10.0	5.0	4.8	5.0	2.7	4.0	3.6	4.0	2.0	1.8	9.5	5.0	97.4	18
A-1	40	福岡県	福岡県立福岡高等学校	38.3	10.0	5.0	5.0	4.5	3.8	4.0	4.0	4.0	2.0	1.6	10.0	5.0	97.2	19
A-4	21	静岡県	静岡県立富士高等学校	37.7	10.0	4.5	5.0	5.0	4.0	4.0	4.0	4.0	1.8	2.0	9.5	5.0	96.5	20
A-3	4	宮城県	宮城県多賀城高等学校	40.0	9.6	5.0	4.5	4.8	4.0	3.7	3.5	3.5	1.8	1.6	9.5	4.5	96.0	21
A-1	14	神奈川県	神奈川県立麻溝台高等学校	40.0	9.7	4.0	4.5	4.8	3.1	3.9	3.9	3.8	1.8	2.0	9.5	5.0	96.0	21
A-3	43	熊本県	熊本県立人吉高等学校	39.2	9.9	5.0	5.0	4.5	3.4	4.0	3.5	3.3	1.6	1.6	10.0	5.0	96.0	21
A-6	18	富山県	富山県立富山高等学校	38.3	9.9	5.0	4.4	5.0	3.7	3.6	3.9	3.4	2.0	1.6	10.0	5.0	95.8	24
A-1	2	青森県	青森県立八戸高等学校	39.2	10.0	4.0	5.0	5.0	3.7	3.8	3.6	3.5	1.4	1.8	9.0	5.0	95.0	25
A-5	31	鳥取県	鳥取県立境港総合技術高等学校	40.0	9.5	4.5	4.5	5.0	3.5	3.4	3.4	2.9	1.6	2.0	9.5	5.0	94.8	26
A-5	16	新潟県	新潟県立長岡工業高等学校	39.2	10.0	4.0	4.8	5.0	2.5	3.7	3.9	3.7	1.6	1.8	9.0	5.0	94.2	27
A-4	5	秋田県	秋田県立秋田南高等学校	38.5	9.5	5.0	5.0	4.3	3.7	3.6	3.7	3.1	1.4	1.8	9.5	5.0	94.1	28
A-3	8	茨城県	茨城県立日立工業高等学校	40.0	9.7	5.0	4.7	5.0	3.7	3.6	2.9	2.5	2.0	1.0	9.0	5.0	94.1	28
A-5	22	愛知県	愛知県立旭丘高等学校	36.5	9.9	5.0	4.9	5.0	3.4	3.8	3.6	3.9	1.8	1.8	9.5	5.0	94.1	28
A-2	32	島根県	島根県立松江工業高等学校	39.2	9.8	4.5	4.6	4.5	3.5	3.2	3.9	2.3	1.8	1.6	10.0	5.0	93.9	31
A-1	24	岐阜県	岐阜県立飛騨神岡高等学校	39.2	10.0	4.5	5.0	4.0	3.4	2.9	3.1	3.3	1.8	1.4	10.0	5.0	93.6	32
A-2	7	福島県	福島県立福島東高等学校	39.2	10.0	4.5	4.8	5.0	3.3	3.9	3.5	4.0	1.0	1.8	8.5	4.0	93.5	33
A-2	26	京都府	京都府立桃山高等学校	40.0	10.0	3.0	4.7	4.8	2.9	3.6	3.4	3.4	1.6	1.0	10.0	5.0	93.4	34
A-6	29	奈良県	奈良県立郡山高等学校	38.3	9.6	4.0	4.7	3.8	3.4	3.7	3.9	3.2	2.0	1.8	9.5	5.0	92.9	35
A-2	44	大分県	大分県立竹田高等学校	38.3	9.7	4.5	4.8	5.0	2.9	3.7	3.4	3.9	1.6	1.6	8.5	5.0	92.9	35
A-6	45	宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校	37.7	10.0	4.0	3.9	4.8	3.6	4.0	3.7	3.2	1.4	1.8	9.0	5.0	92.1	37
A-5	46	鹿児島県	鹿児島県立鶴丸高等学校	38.3	9.9	4.0	4.5	4.8	3.6	3.5	3.7	3.3	1.4	2.0	8.0	5.0	92.0	38
A-6	20	福井県	福井県立敦賀高等学校	40.0	9.8	3.0	4.4	4.8	2.8	3.6	3.8	3.4	1.4	1.8	8.0	5.0	91.8	39
A-3	13	東京都	早稲田大学系属早稲田実業学校高等部	38.3	9.4	3.5	4.4	4.5	2.5	4.0	4.0	3.8	1.4	1.8	8.5	4.5	90.6	40
A-1	27	大阪府	大阪府立北野高等学校	38.5	9.8	1.9	3.6	4.8	3.3	3.2	3.9	4.0	1.6	2.0	8.5	5.0	90.1	41
A-3	30	和歌山県	和歌山県立橋本高等学校	39.2	9.9	3.5	3.6	4.5	3.1	3.3	2.8	2.1	1.8	1.8	9.5	5.0	90.1	41
A-6	9	栃木県	栃木県立矢板東高等学校	34.2	9.6	4.0	3.8	4.5	3.1	3.3	3.4	3.1	1.4	0.6	8.0	5.0	84.0	43
A-4	1	北海道	北海道旭川東高等学校	24.2	10.0	2.5	5.0	5.0	3.9	4.0	3.9	3.5	1.8	0.8	8.0	4.0	76.6	44
A-4	11	埼玉県	埼玉県立和光国際高等学校	34.2	9.5	2.8	1.6	2.8	1.1	2.5	2.5	2.1	1.0	1.4	4.5	5.0	71.0	45

第62回全国高等学校登山大会

団体女子(B隊) 成績一覧表 [成績順]

班	県番	都道府県	学校名	行動		生活技術			知識					読図技術	マナー 自然保護	計	順位	
				体力	歩行	装備	設営 撤収	炊事	天気図	課題テスト			計画書					行動 記録
										自然	救急	気象						
40.0	10.0	5.0	5.0	5.0	4.0	4.0	4.0	4.0	2.0	2.0	10.0	5.0	100.0					
B-5	35	山口県	山口県立防府高等学校	40.0	10.0	5.0	5.0	5.0	3.8	3.9	4.0	4.0	1.8	1.8	10.0	5.0	99.3	1
B-1	12	千葉県	千葉県立千葉東高等学校	40.0	10.0	5.0	5.0	5.0	3.8	3.7	4.0	4.0	1.6	1.8	10.0	5.0	98.9	2
B-3	6	山形県	山形県立山形西高等学校	39.4	10.0	5.0	5.0	5.0	3.7	4.0	4.0	3.7	2.0	2.0	10.0	5.0	98.8	3
B-3	21	静岡県	静岡県立藤枝東高等学校	39.2	10.0	5.0	5.0	5.0	3.9	3.9	4.0	3.9	1.8	2.0	10.0	5.0	98.7	4
B-3	36	香川県	香川県立善通寺第一高等学校	40.0	10.0	5.0	5.0	5.0	3.4	3.4	4.0	4.0	1.8	2.0	10.0	5.0	98.6	5
B-5	10	群馬県	群馬県立高崎女子高等学校	40.0	10.0	5.0	4.3	5.0	3.6	4.0	3.9	3.9	1.8	2.0	10.0	5.0	98.5	6
B-1	3	岩手県	岩手県立盛岡第一高等学校	40.0	9.9	5.0	4.8	5.0	3.8	3.9	4.0	3.8	2.0	1.8	9.5	5.0	98.5	7
B-5	44	大分県	大分県立竹田高等学校	40.0	10.0	5.0	4.8	5.0	3.4	4.0	4.0	3.9	1.4	1.8	10.0	5.0	98.3	8
B-2	28	兵庫県	兵庫県立長田高等学校	39.2	9.9	5.0	5.0	5.0	3.6	3.9	4.0	4.0	1.8	1.8	10.0	5.0	98.2	9
B-5	33	岡山県	就実高等学校	40.0	10.0	5.0	5.0	5.0	3.3	4.0	4.0	3.9	2.0	2.0	9.0	5.0	98.2	9
B-1	46	鹿児島県	鹿児島県立加治木高等学校	39.2	10.0	5.0	5.0	5.0	3.8	3.6	3.9	3.9	2.0	1.8	10.0	5.0	98.2	9
B-2	34	広島県	広島市立基町高等学校	40.0	10.0	5.0	4.5	5.0	3.5	3.6	4.0	3.7	2.0	2.0	9.5	5.0	97.8	12
B-5	18	富山県	富山県立富山高等学校	40.0	10.0	4.9	4.4	4.8	3.8	3.8	4.0	3.9	2.0	1.6	9.5	5.0	97.7	13
B-3	42	長崎県	長崎県立長崎北陽台高等学校	38.3	9.8	5.0	5.0	5.0	3.9	4.0	4.0	3.9	1.8	1.8	10.0	5.0	97.5	14
B-6	17	長野県	長野県松本県ヶ丘高等学校	39.2	10.0	5.0	5.0	5.0	2.9	3.8	4.0	4.0	2.0	2.0	10.0	4.5	97.4	15
B-4	23	三重県	三重県立神戸高等学校	40.0	10.0	5.0	5.0	5.0	3.1	3.4	4.0	3.7	2.0	2.0	9.0	5.0	97.2	16
B-2	15	山梨県	山梨県立甲府第一高等学校	40.0	9.9	5.0	5.0	5.0	3.3	3.9	3.8	2.7	2.0	1.4	9.5	5.0	96.5	17
B-4	5	秋田県	秋田県立横手高等学校	38.5	10.0	5.0	4.3	5.0	3.8	4.0	4.0	3.9	1.4	2.0	10.0	4.5	96.4	18
B-4	25	滋賀県	滋賀県立守山高等学校	39.2	10.0	4.0	4.8	5.0	3.8	4.0	4.0	3.7	1.8	1.6	9.5	5.0	96.4	18
B-1	2	青森県	青森県立八戸高等学校	39.2	9.5	5.0	5.0	4.8	3.5	3.9	3.4	3.7	1.6	2.0	9.5	5.0	96.1	20
B-6	37	徳島県	徳島県立城ノ内高等学校	38.3	10.0	4.5	5.0	5.0	3.6	3.8	3.8	4.0	2.0	2.0	9.0	5.0	96.0	21
B-2	22	愛知県	愛知県立西尾高等学校	39.4	9.7	4.5	5.0	5.0	3.4	3.9	3.9	4.0	1.6	2.0	9.0	4.5	95.9	22
B-5	40	福岡県	福岡県立修猷館高等学校	38.3	9.9	5.0	5.0	5.0	3.0	3.9	3.8	3.7	1.8	1.6	9.5	5.0	95.5	23
B-6	27	大阪府	大阪府立高津高等学校	38.3	9.8	4.0	4.7	4.8	3.7	4.0	4.0	3.9	2.0	1.6	9.5	5.0	95.3	24
B-3	8	茨城県	茨城県立水戸第三高等学校	40.0	10.0	5.0	4.9	5.0	3.4	3.6	3.8	3.2	1.8	1.4	8.0	5.0	95.1	25
B-3	32	島根県	島根県立松江北高等学校	39.2	10.0	5.0	4.8	5.0	3.2	3.6	3.9	3.2	1.6	1.6	9.0	5.0	95.1	25
B-1	16	新潟県	新潟県立長岡高等学校	40.0	10.0	5.0	4.6	4.5	3.3	3.6	4.0	3.1	1.6	1.8	8.5	5.0	95.0	27
B-4	43	熊本県	熊本県立人吉高等学校	38.3	9.9	3.9	4.9	4.8	3.3	3.9	3.9	3.9	1.2	1.6	10.0	5.0	94.6	28
B-4	4	宮城県	宮城県多賀城高等学校	39.2	9.9	4.5	5.0	4.8	3.8	3.8	3.3	3.4	1.4	1.4	9.5	4.5	94.5	29
B-6	23	三重県	三重県立いなべ総合学園高等学校	38.1	9.9	4.5	5.0	4.5	3.7	3.7	3.7	3.9	1.6	1.8	9.0	5.0	94.4	30
B-1	38	愛媛県	愛媛県立松山南高等学校	40.0	9.8	4.5	4.9	5.0	2.8	3.5	3.4	3.0	2.0	1.6	8.5	5.0	94.0	31
B-4	26	京都府	京都府立嵯峨野高等学校	39.2	10.0	3.5	4.9	4.8	3.2	4.0	3.9	3.6	1.4	1.4	9.0	5.0	93.9	32
B-1	20	福井県	福井県立武生高等学校	39.4	9.7	4.0	4.8	5.0	3.7	3.7	3.8	2.9	1.8	1.6	8.0	5.0	93.4	33
B-6	31	鳥取県	鳥取県立境港総合技術高等学校	39.4	9.9	4.5	4.9	5.0	2.8	3.6	3.5	2.6	1.4	2.0	8.5	5.0	93.1	34
B-4	39	高知県	高知県立高知追手前高等学校	35.6	10.0	5.0	4.9	5.0	3.1	4.0	3.7	3.7	2.0	1.8	9.5	4.5	92.8	35
B-4	45	宮崎県	宮崎県立宮崎大宮高等学校	38.3	9.7	4.9	4.0	4.8	3.1	3.1	3.4	3.2	1.8	1.6	9.0	5.0	91.9	36
B-2	7	福島県	福島県立安積黎明高等学校	38.3	10.0	4.0	4.8	4.5	3.2	3.8	3.1	3.1	1.0	1.0	10.0	5.0	91.8	37
B-5	24	岐阜県	岐阜県立飛騨神岡高等学校	35.2	10.0	4.5	4.9	5.0	3.0	3.4	3.7	3.7	1.8	1.4	10.0	5.0	91.6	38
B-6	41	佐賀県	佐賀県立唐津東高等学校	39.2	9.5	5.0	4.9	5.0	3.7	3.7	3.7	2.8	1.8	1.8	5.5	5.0	91.6	38
B-6	1	北海道	北海道釧路湖陵高等学校	39.2	9.2	3.3	4.3	4.8	3.6	3.7	3.7	3.1	1.4	1.6	8.5	4.5	90.9	40
B-5	9	栃木県	栃木県立矢板東高等学校	35.6	9.9	4.5	4.4	4.5	3.3	3.9	3.3	2.8	1.8	1.6	8.5	5.0	89.1	41
B-2	11	埼玉県	埼玉県立浦和第一女子高等学校	39.2	9.5	2.9	4.1	4.8	2.4	3.9	3.9	3.7	1.2	0.6	7.5	5.0	88.7	42
B-3	19	石川県	石川県立金沢二水高等学校	37.7	9.9	3.0	5.0	4.8	2.9	2.9	3.0	3.3	1.4	1.6	7.5	5.0	88.0	43
B-2	13	東京都	東京都立工芸高等学校	38.5	9.9	3.2	3.8	4.3	1.9	2.9	3.4	3.2	1.0	1.2	6.0	4.5	83.8	44
B-2	30	和歌山県	和歌山県立田辺高等学校	23.3	6.4	3.4	4.9	5.0	3.4	2.6	3.8	3.0	1.6	1.2	5.5	4.0	68.1	45
B-1	29	奈良県	奈良県立畝傍高等学校	22.7	6.5	1.5	1.8	2.0	2.7	3.3	2.2	2.2	1.2	0.8	7.0	3.5	57.4	46
B-3	14	神奈川県	神奈川県立生田高等学校	10.0	3.3	1.0	2.5	2.5	3.0	3.2	3.7	3.5	0.8	0.2	5.5	3.0	42.2	47

3 日程及び変更後コース

(1) 日程

- 平成30年 8月 1日(水) 諸会議(全国常任委員会ほか)
 8月 2日(木) 受付・諸会議(全国専門委員長会議、監督・リーダー会議ほか)
 8月 3日(金) 開会式・入山(幕営)
 8月 4日(土) 登山行動(幕営)
 8月 5日(日) 登山行動(幕営)
 8月 6日(月) 登山行動・下山(宿舎)・諸会議
 8月 7日(火) 閉会式

(2) コース (全コース サブザックでの隊行動に変更)

		A隊(団体男子)	B隊(団体女子)
8 月 3 日	開会式	菰野町町民センターホール	
	審査	県立菰野高等学校 (天気図・自然・気象・救急)	
	移動	開会式会場＝幕営地	
	幕営地	三重県民の森	三重県民の森
8 月 4 日	三池岳 コース	幕営地 == 八風キャンプ場駐車場… 八風射撃場跡 … 三池岳 … 八風峠 … 八風射撃場跡 … 八風スポーツ公園 = =幕営地	幕営地 == 八風キャンプ場駐車場… 八風射撃場跡 … 三池岳 … 八風峠 … 八風射撃場跡 … 八風スポーツ公園 = =幕営地
	幕営地	三重県民の森	三重県民の森
8 月 5 日	ブナ清水 往復コース	幕営地 == 朝明駐車場 … ブナ清 水 … 朝明茶屋キャンプ場 … 朝明駐 車場 == 幕営地	幕営地 == 朝明駐車場 … ブナ清 水 … 朝明茶屋キャンプ場 … 朝明駐 車場 == 幕営地
	幕営地	三重県民の森	三重県民の森
8 月 6 日	御在所山 コース	幕営地 == 御在所ロープウェイ駐 車場 … 中道登山口 … (中道登山道)… 御在所朝陽台広場 … 国見峠 … 国見 岳直下 … 御在所朝陽台広場 (パーティ ー行動)… 山上公園駅 == (ロープウエ ー) == 湯の山温泉駅 … 御在所ロー プウェイ駐車場(解団式)… 宿舎	幕営地 == 御在所ロープウェイ駐 車場 … 中道登山口 … (中道登山道)… 御在所朝陽台広場(パーティー行動)… 山上公園駅 == (ロープウエー) == 湯の山温泉駅 … 御在所ロープウエイ 駐車場(解団式)… 宿舎
	宿泊地	湯の山温泉 旅館 ホテル等	
8 月 7 日	移動	宿舎＝閉会式場	
	閉会式	菰野町町民センターホール	

凡例 ==バスまたはロープウェイ輸送 ---登山行動(メインザック行動)
 …登山行動(サブザック行動)

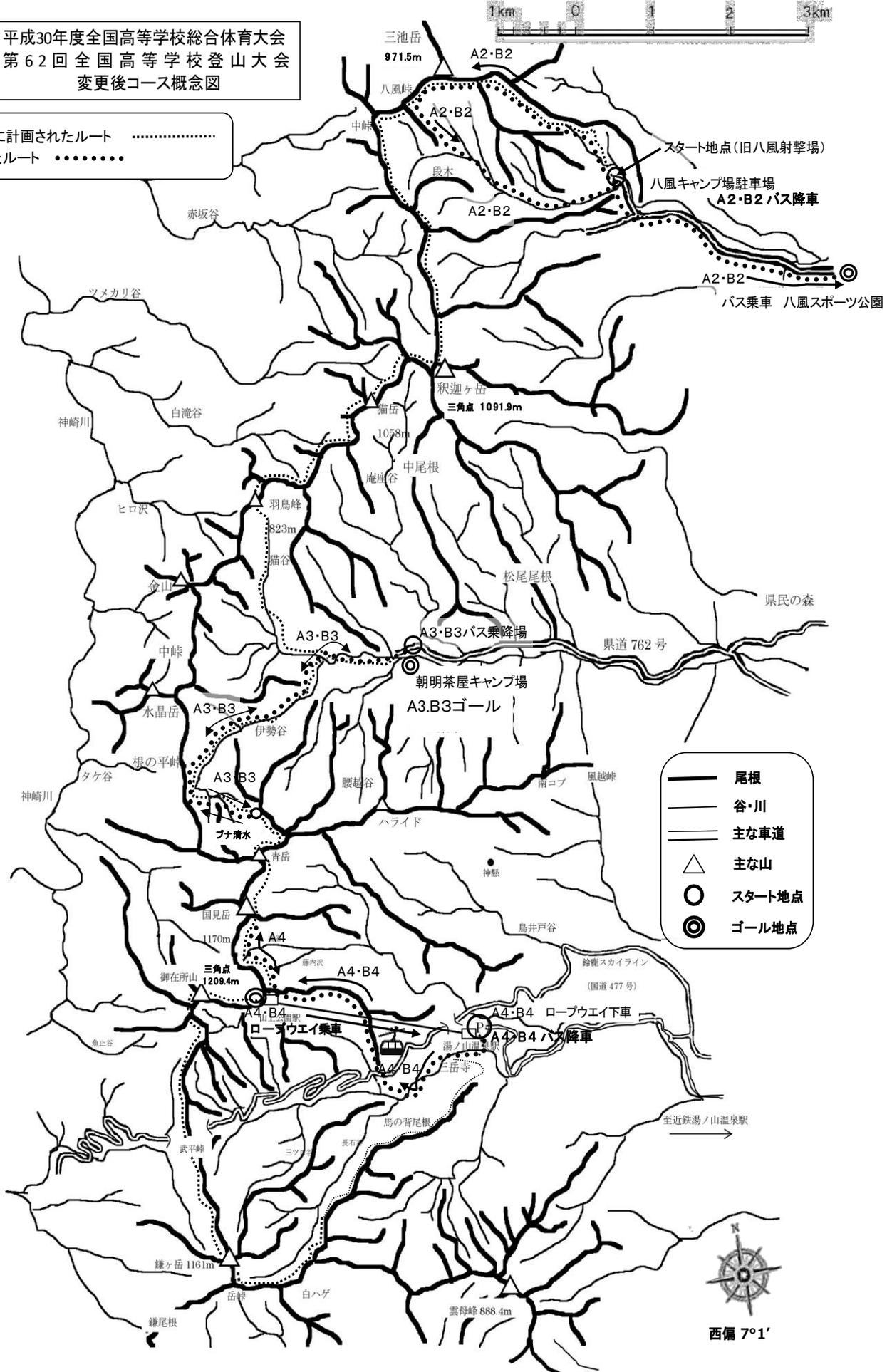
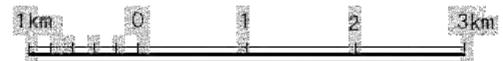
4 登山大会コース位置図及び概念図



この地図は国土地理院の地理院地図に競技関係施設などを追記したものである。

平成30年度全国高等学校総合体育大会
第62回全国高等学校登山大会
変更後コース概念図

大会前に計画されたルート
変更したルート



- 尾根
- 谷・川
- 主な車道
- △ 主な山
- スタート地点
- ◎ ゴール地点



5 都道府県別出場校一覧表、班編成表

番号	都道府県	A隊(団体男子)		B隊(団体女子)	
		学校名	監督名	学校名	監督名
1	北海道	北海道旭川東高等学校	小俣 太	北海道釧路湖陵高等学校	飯田 一三
2	青森県	青森県立八戸高等学校	田名部 聡史	青森県立八戸高等学校	上野 元嗣
3	岩手県	岩手高等学校	竹本 英三	岩手県立盛岡第一高等学校	佐藤 幸久
4	宮城県	宮城県多賀城高等学校	金澤 俊範	宮城県多賀城高等学校	佐藤 寿正
5	秋田県	秋田県立秋田南高等学校	中村 東	秋田県立横手高等学校	山信田 修
6	山形県	山形県立村山産業高等学校	笹原 智也	山形県立山形西高等学校	武田 英幸
7	福島県	福島県立福島東高等学校	村上 英夫	福島県立安積黎明高等学校	五十嵐 則夫
8	茨城県	茨城県立日立工業高等学校	上林 拓哉	茨城県立水戸第三高等学校	梅原 郁夫
9	栃木県	栃木県立矢板東高等学校	高秀 大作	栃木県立矢板東高等学校	関谷 恭弘
10	群馬県	群馬県立前橋高等学校	里見 至	群馬県立高崎女子高等学校	新井 伸栄
11	埼玉県	埼玉県立和光国際高等学校	瀧嶋 明康	埼玉県立浦和第一女子高等学校	高橋 智史
12	千葉県	千葉県立千葉東高等学校	眞田 武彦	千葉県立千葉東高等学校	住吉 信夫
13	東京都	早稲田大学系属早稲田実業学校高等部	増山 秀樹	東京都立工芸高等学校	斎藤 俊博
14	神奈川県	神奈川県立麻溝台高等学校	高田 雅文	神奈川県立生田高等学校	伴 恕弘
15	山梨県	山梨県立北杜高等学校	山本 健一	山梨県立甲府第一高等学校	保坂 礼
16	新潟県	新潟県立長岡工業高等学校	新保 雅稔	新潟県立長岡高等学校	宮入 雅史
17	長野県	長野県大町岳陽高等学校	河竹 康之	長野県松本県ヶ丘高等学校	藤岡 善弘
18	富山県	富山県立富山高等学校	栄 秀樹	富山県立富山高等学校	三田 浩由樹
19	石川県	石川県立金沢泉丘高等学校	西崎 伸子	石川県立金沢二水高等学校	藤澤 友大
20	福井県	福井県立敦賀高等学校	松宮 利絵	福井県立武生高等学校	松井 真治
21	静岡県	静岡県立富士高等学校	諸戸 明	静岡県立藤枝東高等学校	松井 太朗
22	愛知県	愛知県立旭丘高等学校	柄澤 健介	愛知県立西尾高等学校	三田 孝
23	三重県	三重県立四日市工業高等学校	野村 和弘	三重県立神戸高等学校	梅村 昌宏
23	三重県	三重県立神戸高等学校	伊藤 直司	三重県立いなべ総合学園高等学校	西山 泰徳
24	岐阜県	岐阜県立飛騨神岡高等学校	古田 克仁	岐阜県立飛騨神岡高等学校	中村 晃徳
25	滋賀県	滋賀県立守山高等学校	三谷 法顕	滋賀県立守山高等学校	森野 高広
26	京都府	京都府立桃山高等学校	田中 英一	京都府立嵯峨野高等学校	糸井 剛志
27	大阪府	大阪府立北野高等学校	伊藤 寿章	大阪府立高津高等学校	伊勢田 佳典
28	兵庫県	兵庫県立神戸高等学校	桑田 克治	兵庫県立長田高等学校	福原 伸光
29	奈良県	奈良県立郡山高等学校	木山 康史	奈良県立畝傍高等学校	上野 仁
30	和歌山県	和歌山県立橋本高等学校	山田 大貴	和歌山県立田辺高等学校	沼野 正博
31	鳥取県	鳥取県立境港総合技術高等学校	深田 洋史	鳥取県立境港総合技術高等学校	岩田 顕作
32	島根県	島根県立松江工業高等学校	柿田 訓宏	島根県立松江北高等学校	南波 陽平
33	岡山県	岡山県立岡山工業高等学校	熊代 徹	就実高等学校	妹尾 奈月
34	広島県	修道高等学校	内藤 弘泰	広島市立基町高等学校	岩佐 和樹
35	山口県	山口県立下松工業高等学校	近藤 己顕生	山口県立防府高等学校	小田 晋
36	香川県	香川県立丸亀高等学校	白川 直美	香川県立善通寺第一高等学校	細川 悦代
37	徳島県	徳島県立城ノ内高等学校	渡部 健介	徳島県立城ノ内高等学校	小濱 愛
38	愛媛県	愛媛県立松山中央高等学校	枝吉 一世	愛媛県立松山南高等学校	松下 吉之
39	高知県	土佐高等学校	利岡 幸信	高知県立高知追手前高等学校	石川 律子
40	福岡県	福岡県立福岡高等学校	深江 一美	福岡県立修猷館高等学校	佐々木 英治
41	佐賀県	佐賀県立佐賀工業高等学校	加藤 昭平	佐賀県立唐津東高等学校	宮川 淳
42	長崎県	長崎県立長崎北陽台高等学校	池田 保幸	長崎県立長崎北陽台高等学校	小畑 喬晴
43	熊本県	熊本県立人吉高等学校	甲斐 惇雄	熊本県立人吉高等学校	藤本 裕人
44	大分県	大分県立竹田高等学校	高橋 憲一	大分県立竹田高等学校	合澤 哲郎
45	宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校	谷口 正春	宮崎県立宮崎大宮高等学校	杉田 岳士
46	鹿児島県	鹿児島県立鶴丸高等学校	江口 智	鹿児島県立加治木高等学校	福元 裕樹

【A隊 班編成表】

都道府県名	学校名	監督	選手(リーダー)	選手	選手	選手
1班	青森県 青森県立八戸高等学校	田名部 聡史	岩館 理仁	下沢 隆太	照井 千裕	上野 泰知
	山形県 山形県立村山産業高等学校	結城 俊広	安藤 海里	赤塚 亮太	木村 虎成	高橋 朱利
	神奈川県 神奈川県立麻溝台高等学校	高田 雅文	森 伊万里	登坂 拓矢	佐藤 祐太郎	鈴木 陽介
	岐阜県 岐阜県立飛騨神岡高等学校	古田 克仁	牛丸 瑞斗	坂部 高志	山本 創太	下堂前 聡
	大阪府 大阪府立北野高等学校	伊藤 寿章	住吉 俊亮	則包 敏	森 俊介	奥西 亮介
	徳島県 徳島県立城ノ内高等学校	渡部 健介	北野 優	國重 俊輔	内藤 勇魚	武市 悠
	高知県 土佐高等学校	利岡 幸信	岡 竜生	松本 拓磨	宮下 智成	中野 友資
福岡県 福岡県立福岡高等学校	深江 一美	堤 優佑	田中 雄登	堀江 健太郎	安河内 辰一朗	

都道府県名	学校名	監督	選手(リーダー)	選手	選手	選手
2班	北海道 北海道旭川東高等学校	小俣 太	小田 拓諒	高田 椎	高田 柊	加賀谷 勇太
	岩手県 岩手高等学校	竹本 英三	門外 銀河	熊谷 宗平	菊池 誠	一戸 藍
	福島県 福島県立福島東高等学校	村上 英夫	菱沼 寛斗	平 怜恩	星野 京介	斎藤 純
	三重県 三重県立四日市工業高等学校	野村 和弘	奥山 裕矢	竹野 雷千	村松 雄太	渥美 駿
	京都府 京都府立桃山高等学校	田中 英一	上田 一輝	田村 統真	幸壬 晃	中西 一真
	島根県 島根県立松江工業高等学校	柿田 訓宏	小野 羽月	宇野 滉希	稲田 長太郎	小豆澤 優海
	香川県 香川県立丸亀高等学校	白川 直美	西村 航成	岩崎 善彦	細川 新太	佐藤 大芽
大分県 大分県立竹田高等学校	高橋 憲一	佐々木 裕杜	森下 太雅	高橋 健太	倉田 拓真	

都道府県名	学校名	監督	選手(リーダー)	選手	選手	選手
3班	宮城県 宮城県多賀城高等学校	金澤 俊範	阿部 大和	飛内 拓磨	宇佐美 直輝	佐々木 陸
	茨城県 茨城県立日立工業高等学校	上林 拓哉	築田 達矢	草野 広輝	阿部 凌大	早川 智也
	東京都 早稲田大学系属早稲田実業学校高等部	増山 秀樹	百合田 耕平	鈴木 隆太郎	箱井 寛紀	北 正宗
	石川県 石川県立金沢泉丘高等学校	西崎 伸子	新濃 慶弥	岸 海都	宮北 蒼大	四谷 仰
	三重県 三重県立神戸高等学校	伊藤 直司	田中 伸玖	吉見 峻河	毛塚 颯太	藤田 和真
	和歌山県 和歌山県立橋本高等学校	山田 大貴	熱川 智哉	奥 健太郎	佐々木 蓮	嶋田 竜也
	愛媛県 愛媛県立松山中央高等学校	枝吉 一世	森岡 康	梅本 浩平	渡邊 正浩	稲田 衣吹
熊本県 熊本県立人吉高等学校	甲斐 惇雄	越替 大貴	高木 翼	福川 照真	福田 悠太	

都道府県名	学校名	監督	選手(リーダー)	選手	選手	選手
4班	秋田県 秋田県立秋田南高等学校	中村 東	竹村 竜一	畠山 奨汰	工藤 拓真	渡辺 周平
	埼玉県 埼玉県立和光国際高等学校	瀧嶋 明康	石川 広大	小林 祥大	本領 一稀	大野 舜也
	千葉県 千葉県立千葉東高等学校	眞田 武彦	八角 祥悟	安藤 岳	越川 竜	稲生 悠佑
	山梨県 山梨県立北杜高等学校	山本 健一	長嶺 武	山之上 陽	小泉 偉央	小原 寛斗
	静岡県 静岡県立富士高等学校	諸戸 明	舘野 岳時	植松 真一	鈴木 康平	北原 稔朗
	岡山県 岡山県立岡山工業高等学校	熊代 徹	松本 征磨	古田 勝也	吉井 雄馬	中野 立基
	佐賀県 佐賀県立佐賀工業高等学校	加藤 昭平	大坪 俊輔	副島 大揮	池田 昂世	畑瀬 一樹
長崎県 長崎県立長崎北陽台高等学校	池田 保幸	宮原 昂大郎	鬼塚 雄人	菊地 鴻太	鶴長 大輝	

都道府県名	学校名	監督	選手(リーダー)	選手	選手	選手
5班	新潟県 新潟県立長岡工業高等学校	新保 雅稔	大橋 礼旺	矢川 耕志	関川 颯人	佐藤 優雅
	長野県 長野県大町岳陽高等学校	河竹 康之	新井 貫太	倉科 俊介	勝家 拓巳	原澤 太郎
	愛知県 愛知県立旭丘高等学校	柄澤 健介	佐藤 俊一	中原 直幹	藤澤 佑真	丹下 聖也
	滋賀県 滋賀県立守山高等学校	三谷 法頭	古田 尚輝	中川 巧	中村 薫	満田 壮晴
	鳥取県 鳥取県立境港総合技術高等学校	深田 洋史	森本 翔太	荒木 宗一郎	齋藤 勇紀	門脇 銀士
	広島県 修道高等学校	内藤 弘泰	白根 颯	御手洗 聡	山田 岳士	窪田 昂星
	山口県 山口県立下松工業高等学校	近藤 己顕生	金盛 一久	岩本 晃誠	佐伯 隆之	藤井 光希
鹿児島県 鹿児島県立鶴丸高等学校	江口 智	折田 龍哉	中澤 佑哉	山田 護久	東 恭平	

都道府県名	学校名	監督	選手(リーダー)	選手	選手	選手
6班	栃木県 栃木県立矢板東高等学校	高秀 大作	小貫 龍太郎	高宮 康生	板橋 歩貴	和地 恭宏
	群馬県 群馬県立前橋高等学校	里見 至	三田 修平	内山 晃良	狩野 律斗	佐藤 勇斗
	富山県 富山県立富山高等学校	栄 秀樹	亀田 俊哉	井上 颯太	清水 悠馬	長谷田 一真
	福井県 福井県立敦賀高等学校	松宮 利絵	清水 康平	磯野 輝彦	山内 崇雅	石原 尚昌
	兵庫県 兵庫県立神戸高等学校	桑田 克治	大島 隆之介	大久保 琉登	横田 蓮	三尾 浩輔
	奈良県 奈良県立郡山高等学校	木山 康史	天正 知樹	結崎 江雪	泥谷 拓真	西田 耕己
	宮崎県 宮崎県立宮崎西高等学校	谷口 正春	佐々木 将平	別府 剛行	吉田 智皓	岡田 真杜

【B隊 班編成表】

都道府県名	学校名	監督	選手(リーダー)	選手	選手	選手
青森県	青森県立八戸高等学校	上野 元嗣	白戸 麻優紗	室谷 楓香	柏本 結子	林 紗玖波
岩手県	岩手県立盛岡第一高等学校	佐藤 幸久	西森 優	山下 ちひろ	愛木 伶依	佐藤 百恵
千葉県	千葉県立千葉東高等学校	住吉 信夫	丸山 晏奈	箕西 あかり	石原 里紅乃	瀧澤 日菜
新潟県	新潟県立長岡高等学校	宮入 雅史	西山 陽歌	関 海	西野 弥佑	山崎 莉映加
福井県	福井県立武生高等学校	松井 真治	古屋 潤佳	落井 くるみ	加畑 実咲	土川 花
奈良県	奈良県立畝傍高等学校	上野 仁	清水 夏歩	瀬山 采加	今井 夕葵	松浦 憂
愛媛県	愛媛県立松山南高等学校	松下 吉之	松村 唯美	好川 知里	宇都宮 花音	羽藤 愛
鹿児島県	鹿児島県立加治木高等学校	福元 裕樹	菅井 美玖	清藤 未来	加藤 風香	倉山 佳奈

都道府県名	学校名	監督	選手(リーダー)	選手	選手	選手
福島県	福島県立安積黎明高等学校	五十嵐 則夫	滝田 裕美	小池 真尋	廣戸 美和	堀部 優香
埼玉県	埼玉県立浦和第一女子高等学校	高橋 智史	飯田 萌咲	高橋 恩	深田 ひより	大野 愛奈
東京都	東京都立工芸高等学校	斎藤 俊博	亀井 優希	坂和 佑紀	亀谷 あまね	橋本 彩衣
山梨県	山梨県立甲府第一高等学校	保坂 礼	内藤 愛果	永井 陽奈子	標 沙弥香	丸山 陽向
愛知県	愛知県立西尾高等学校	三田 孝	石川 真咲	近藤 千愛	近藤 里帆	今井 香里
兵庫県	兵庫県立長田高等学校	福原 伸光	落合 未玖	杉本 芽生	尾崎 元香	青柳 祐希
和歌山県	和歌山県立田辺高等学校	沼野 正博	坂本 夏巳	北 弥生	中道 香澄	中本 朱優
広島県	広島市立基町高等学校	岩佐 和樹	青野 ひとみ	林 明穂	向井 こころ	平山 楓子

都道府県名	学校名	監督	選手(リーダー)	選手	選手	選手
山形県	山形県立山形西高等学校	武田 英幸	真野 あずさ	鈴木 紀恵子	青山 美凜	今野 歩
茨城県	茨城県立水戸第三高等学校	梅原 郁夫	吉澤 紅葉	三浦 句織	長谷川 佳徳	岡野 珠里
神奈川県	神奈川県立生田高等学校	伴 恕弘	斉藤 ひかる	金田 幸奈	渡辺 美樹	渡邊 百南
石川県	石川県立金沢二水高等学校	藤澤 友大	小野田 美羽	吉田 緒那	紙 彩華	窪田 友理
静岡県	静岡県立藤枝東高等学校	松井 太朗	神谷 美里	長谷川 咲希	鈴木 麻友	中越 美結
島根県	島根県立松江北高等学校	南波 陽平	栗原 美桜	濱口 美如	森岡 咲紀	桑原 花帆
香川県	香川県立善通寺第一高等学校	細川 悦代	河井 里友	山口 香織	土居 千華	岩田 果穂
長崎県	長崎県立長崎北陽台高等学校	小畑 喬晴	蓮子 令佳	上野 睦	荒川 北海	鳥山 真鈴

都道府県名	学校名	監督	選手(リーダー)	選手	選手	選手
宮城県	宮城県多賀城高等学校	佐藤 寿正	柴崎 千寛	北條 亜香里	高橋 菜月	佐藤 美咲
秋田県	秋田県立横手高等学校	山信田 修	佐藤 楓	佐藤 美理	阿部 穂花	高橋 綾乃
三重県	三重県立神戸高等学校	梅村 昌宏	田辺 夏子	坂本 小雪	今村 美月	宮部 愛美
滋賀県	滋賀県立守山高等学校	森野 高広	山村 優香	柳生 莉子	徳地 美晴	寺井 未央
京都府	京都府立嵯峨野高等学校	糸井 剛志	古橋 万葉	石田 奈穂	田中 碧	赤羽 春香
高知県	高知県立高知追手前高等学校	石川 律子	西岡 古珠	森下 天晴	高橋 真衣	岡林 加津子
熊本県	熊本県立人吉高等学校	藤本 裕人	森田 真礼	早田 あおい	椎葉 舞	税所 待琳
宮崎県	宮崎県立宮崎大宮高等学校	杉田 岳士	井上 智尋	田代 涼花	疋田 乃愛	永野 千紗

都道府県名	学校名	監督	選手(リーダー)	選手	選手	選手
栃木県	栃木県立矢板東高等学校	関谷 恭弘	中丸 奏	築瀬 徳花	森 絵美里	石崎 莉奈
群馬県	群馬県立高崎女子高等学校	新井 伸栄	永村 麻結	松原 夏矢	木暮 理	並木 優衣
富山県	富山県立富山高等学校	三田 浩由樹	酒谷 架音	篠島 菜津子	藤井 野乃子	青柳 萌
岐阜県	岐阜県立飛騨神岡高等学校	中村 晃徳	野口 由里江	木村 碧輝	井口 日菜子	野口 涼加
岡山県	就実高等学校	妹尾 奈月	田中 彩貴	井上 亜美	石井 彩友美	森川 華帆
山口県	山口県立防府高等学校	小田 晋	藤永 葉名	清水 このみ	岩本 彩花	船木 彩加
福岡県	福岡県立修猷館高等学校	佐々木 英治	大塚 千聖	藤村 元子	宇梶 葉子	米田 カンナ
大分県	大分県立竹田高等学校	合澤 哲郎	進 加南子	久保 香凜	志賀 董	佐藤 香帆

都道府県名	学校名	監督	選手(リーダー)	選手	選手	選手
北海道	北海道釧路湖陵高等学校	飯田 一三	高木 杜萌	秋吉 美優羽	石山 侑芽	伊藤 涼葉
長野県	長野県松本県ヶ丘高等学校	藤岡 善弘	齊藤 みづき	櫻井 宥実	古田 優希	大木 菜緒
三重県	三重県立いなべ総合学園高等学校	西山 泰徳	當間 友愛	鈴木 麻央	久古 めぐみ	二井 直香
大阪府	大阪府立高津高等学校	伊勢田 佳典	榊 小春	高橋 茉莉奈	南條 美乃里	林 里美
鳥取県	鳥取県立境港総合技術高等学校	岩田 顕作	土岐 千夏	松本 萌花	西山 ももこ	古賀 葵
徳島県	徳島県立城ノ内高等学校	小濱 愛	辻 瑛衣美	新開 未玖	藤井 結萌	福池 夏実
佐賀県	佐賀県立唐津東高等学校	宮川 淳	森 苒華	吉田 日向子	橋本 衣那	岡本 あさひ

6 役員、補助員一覧表 役員等人数表

コース隊総人数(コース隊=参加者+行動役員)

	参加チーム		参加者数			行動隊役員数		合計
	参加校数	班編成数	選手	監督	視察員	行動役員	補助員	
A隊(団体男子)	45	6	180	45	2	39	6	272
B隊(団体女子)	47	6	188	47	2	44	6	287
A隊/B隊 共通						22	19	41
合計	92	12	368	92	4	105	31	600

行動隊役員数(行動隊=行動隊競技役員+自衛隊協力隊)

係名	県高体連	県高体連OB	県岳連	近県	OB・OG	高校生	自衛隊	他	A隊	B隊	合計
コース隊長	2								1	1	2
コース副隊長	1		1						1	1	2
先行			2						1	1	2
班長	4			8					6	6	12
副班長	3		2	6	1				6	6	12
隊付総務	3	2							2	3	5
隊付通信	1			1					1	1	2
医師								5	5		5
看護師								3	3		3
支援	3		7	2	5		29		21	25	46
コースサポート	2	2	3	2	5	19			33		33
旗手						12			6	6	12
合計	19	4	15	19	11	31	29	8			136

審査員	2			5				9	8	8	16
-----	---	--	--	---	--	--	--	---	---	---	----

設営隊役員数

	県高体連	近県	OB・OG	医療機関	自衛隊	高校生	合計
隊長	1						1
副隊長	1						1
設営隊員	1	2	2				5
看護師				6			6
自衛隊					1		1
補助員						19	19
合計	3	2	2	6	1	19	33

競技役員(本部・通信隊・行動隊・設営隊)および補助員数

		全国		近県		三重県内								合計	
		高体連	日山協	高体連	他	県高体連	県高体連OB	専門部外	県岳連	町職員	OB・OG	高校生	自衛隊		他
競技役員・補助員	中央本部	競技委員長	1												1
	競技副委員長	1				1									2
	技術顧問		1						1						2
	名誉会長		1												1
	中央総務委員長	1													1
	中央総務委員	13													13
	登山隊長					1									1
	審査委員長	1													1
	審査副委員長	1													1
	審査員	9		5	2										16
	小計	27	2	5	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	39
大会本部	総務委員長					1									1
総務副委員長					2										2
総務委員			1	16	9	3	5					4		38	
気象予報士				5									1	6	
救護							2							2	
小計	0	0	1	5	19	0	11	3	5	0	0	4	1	49	
通信	通信隊			2	5	2		1				4		14	
競技役員	行動隊			19	19	4		15		11	31	29	8	136	
設営隊				2	3					2	19	1	6	33	
小計				21	22	4		15		13	50	30	14	169	

運営役員および補助員数

	県高体連	専門部外	町職員	県岳連	自衛隊	高校生	合計
総務委員長	1						1
総務副委員長	2						2
総務委員	2		5	2			9
式場運営	1	2				20	23
式典	3	2				43	48
受付	2	1				20	23
審査会場設営		1				21	22
弁当		1				10	11
サンプリング提供						10	10
輸送	6				4	10	20
駐車場		1				10	11
宿舎	2			2			4
救護		2					2
筆耕		1					1
合計	19	11	5	4	4	144	187

役員・補助員名簿

登山大会競技役員

競技委員長	松本 哲	神奈川県立光陵高等学校			
競技副委員長	細木 祐吾	山口県立下松工業高等学校	河北 冠	三重県立松阪商業高等学校	
名誉会長	八木原 圀明	日本山岳・スポーツクライミング協会			
技術顧問	蛭田 伸一	日本山岳・スポーツクライミング協会	加藤 正之	三重県山岳連盟	
中央総務委員長	前田 善彦	奈良県立奈良朱雀高等学校			
中央総務委員	皆川 朋典	山形県立山形南高等学校	大西 浩	長野県大町岳陽高等学校	
	新田 亮一	岩手高等学校	玉垣 光伺朗	香川県立津田高等学校	
	光富 英輔	長崎県立長崎明誠高等学校	赤嶺 和樹	大分県立津久見高等学校	
	原田 貴義	熊本県立八代清流高等学校	下村 真一	宮崎県立宮崎西高等学校	
	樽 正人	千葉商科大学附属高等学校	田垣 繁之	神奈川県立川崎工科高等学校	
	厚谷 綱良	茨城県立日立工業高等学校	谷口 浩平	藤沢翔陵高等学校	
	伊勢 遼	神奈川県立厚木高等学校			
審査員長	松本 至巨	東京学芸大学附属高等学校			
副審査員長	福永 輝彦	広島県立五日市高等学校			
A 隊審査員	西村 真也	香川県立善通寺第一高等学校	鈴木 牧雄	秋田県立角館高等学校	
	佐橋 秀男	豊川高等学校	高間 一	滋賀県立東大津高等学校	
	下前 知義	広島学院高等学校	内山 一彦	静岡県立浜松北高等学校	
	井堀 昭二	奈良県立法隆寺国際高等学校	檜作 幸司	三重県立相可高等学校	
B 隊審査員	玉井 淳	福井県立敦賀高等学校	相田 敬史	北海道旭川東高等学校	
	井田 祐一	群馬県立渋川工業高等学校	武末 良樹	佐賀県立多久高等学校	
	中村 裕征	岐阜県立飛騨神岡高等学校	鎌原 伸博	京都産業大学附属高等学校	
	林 靖之	和歌山市立和歌山高等学校	戸田 大輔	鈴鹿高等学校	
登山隊長	葛原 義和	三重県立いなべ総合学園高等学校			
総務委員長	松尾 浩志	三重県立稲生高等学校			
総務副委員長	松本 功	三重県立四日市農芸高等学校	高松 真親	三重県立四日市高等学校	
総務	縣 明隆	菰野町教育委員会	内田 正英	菰野町教育委員会	
	黒田 泰弘	菰野町教育委員会	松岡 武臣	菰野町教育委員会	
	水谷 裕太	菰野町教育委員会			
通信隊長	赤塚 正則	三重県立津工業高等学校			
A 隊コース隊長	小林 孝光	三重県立久居農林高等学校			
A 隊コース副隊長	宮崎 幸二	三重県山岳連盟			
B 隊コース隊長	岸田 誠司	三重県立神戸高等学校			
B 隊コース副隊長	神野 亮太	三重県立相可高等学校			
設営隊長	西 和典	三重県立神戸高等学校			
設営副隊長	中村 貞司	鈴鹿高等学校			

行 動 隊		A隊 (団体男子)		B隊 (団体女子)	
コース 隊長	小林 孝光	三重県立久居農林高等学校	岸田 誠司	三重県立神戸高等学校	
コース 副隊長	宮崎 幸二	三重県山岳連盟	神野 亮太	三重県立相可高等学校	
先 行	後藤 元気	三重県山岳連盟	大竹 博之	三重県山岳連盟	
1 班 班 長	澁谷 悠太	三重県立四日市南高等学校	野村 綾子	三重県立菰野高等学校	
2 班 班 長	服部 誠	愛知県立旭丘高等学校	林 昭彦	福井県立武生高等学校	
3 班 班 長	小島 洋平	愛知県立岡崎高等学校	鈴木 重幸	静岡県立静清高等学校	
4 班 班 長	岩狭 満	愛知県立一宮工業高等学校	吉田 孝夫	愛知県立稲沢東高等学校	
5 班 班 長	稲垣 秀樹	浜松日体高等学校	五島 治明	三重県立北星高等学校	
6 班 班 長	石川 哲	名古屋市立名古屋北高等学校	藤村 真帆	三重県立城山特別支援学校	
1 班 副 班 長	上原 真一	愛知県立半田高等学校	新田 昭彦	福井県立敦賀高等学校	
2 班 副 班 長	松沢 洋祐	福井県立敦賀高等学校	橋川 弘子	三重県山岳連盟	
3 班 副 班 長	深田 将希	三重県立四日市農芸高等学校	岡安 壽光	三重県立四日市農芸高等学校	
4 班 副 班 長	坂口 博紀	三重県立神戸高等学校OB	利渉 幾多郎	名古屋市立向陽高等学校	
5 班 副 班 長	東山 英樹	愛知県立津島北高等学校	藤井 滋子	三重県山岳連盟	
6 班 副 班 長	勝又 慎介	静岡県立富士宮西高等学校	水野 悟	三重県立桑名西高等学校	
隊付 支援 隊長	永戸 晋太郎	三重県立四日市中央工業高等学校	阪本 高樹	三重 高 等 学 校	
隊付 支援 員	岡田 浩嗣	三重県山岳連盟	根本 幹雄	三重県山岳連盟	
	藤井 薫	三重県山岳連盟	杉浦 諒子	菰野 厚生病院	
	浅生 康裕	三重県山岳連盟	太田 宏史	三重県山岳連盟	
	麻生 俊樹	三重県立神戸高等学校OB	紋田 栞里	三重県立神戸高等学校OB	
	谷口 哲大	三重県立神戸高等学校OB	中根 青空	三重県立神戸高等学校OB	
	清水 雄三	静岡県立富士東高等学校	遠藤 ひとみ	三重県山岳連盟	
	金森 慎二	三重県山岳連盟	田邊 充司	愛知県立幸田高等学校	
			出口 恵美	三重県立菰野高等学校	
隊付 総務 (監督対応) (自衛隊対応)	花山 愛治	三重県立桑名西高等学校	西村 幸三	三重県立桑名西高等学校	
隊付 通信	土井 秀之	三重県高体連登山専門部OB	高橋 紀夫	三重県高体連登山専門部OB	
	赤塚 正則	三重県立津工業高等学校	竹上 俊也	三重 高 等 学 校	
			河野 義人	名古屋市立名古屋商業高等学校	
コース サポート リーダー	谷口 正夫	三重県高体連登山専門部OB	宮本 秀男	三重県高体連登山専門部OB	
コース サポート	宮崎 智文	三重県立四日市農芸高等学校	市川 航大	三重県立四日市農芸高等学校OB	
	東原 清	三重県立桑名高等学校	桜沢 耕生	三重県立四日市農芸高等学校OB	
	仲 幸秀	愛知県立小牧工業高等学校	小倉 祐衣	三重県立神戸高等学校OB	
	角野 彰	愛知県立一宮工業高等学校	森 秀光	三重県山岳連盟	
	杉野 弘樹	三重県立久居農林高等学校OB	大野 安道	三重県山岳連盟	
	山川 真輝	三重県立四日市農芸高等学校OB	吉澤 千栄	三重県山岳連盟	
コース 案内	三重県山岳連盟	朝明アルパインクラブ			
		五 目 山 岳 会			
		鈴 鹿 山 岳 会			
		山岳同好会 やまびと			
		東芝山岳会 三重支部			
		三重県高体連登山部OB			
設 営 隊					
設 営 隊 長	西 和典	三重県立神戸高等学校			
設 営 副 隊 長	中村 貞司	三重県立鈴鹿高等学校			
設 営 隊 員	小西 悠二郎	三重県立四日市高等学校			
	田辺 元祥	愛知県高体連登山専門部OB	森田 優衣	三重県立神戸高等学校OB	
	藤井 稔久	愛知県立阿久比高等学校	和波 明日香	三重県立神戸高等学校OB	
看護師(幕営地)	嶋田 美歩	菰野 厚生病院	三木 恭子	菰野 厚生病院	
	安井 雅子	菰野 厚生病院	小林 美和	いなべ総合病院	
	門野 朋美	菰野 厚生病院	三谷 祐子	いなべ総合病院	

救護	醫師	三浦 裕至	学館大学教授	市川 智英	松本協立病院
		野村 雄大	兵庫県立柏原病院	江村 俊也	江村医院
		中島 隆之	盛岡友愛病院		
看護	師	浦川 陽子	豊橋市民病院	福島 弓子	名古屋がんセンター
		宮田 智美	天竜すずかけ病院		
通信隊長					
通信隊長		赤塚 正則	三重県立津工業高等学校		
本部通信・記録		近藤 義孝	三重県高体連登山専門部OB	生川 正秋	三重県立四日市農芸高等学校
		土井 忠之	三重県高体連登山専門部OB	清水 秀敏	三重県山岳連盟
通信中継		大澤 聡	三重県立桑名工業高等学校	山門 浩	三重県いなべ総合学園高等学校
		佐野 哲也	三重県立津東高等学校	松林 隆幸	名古屋市立桜台高等学校
		堀田 剛史	三重県立津工業高等学校	船井 裕由	愛知教育大附属高等学校
大会運営役員（総務）					
総務委員長		松尾 浩志	三重県立稲生高等学校		
総務副委員長		松本 功	三重県立四日市農芸高等学校	高松 真親	三重県立四日市高等学校
記録		水谷 一也	三重県山岳連盟		
審査対応		芝 光雄	三重県立松阪高等学校		
専門委員長対応		中村 訓	三重県立久居農林高等学校	渡邊 俊幸	一宮興道高等学校
輸送		西田 洋一	三重県立桑名高等学校	山本 雅彦	三重県立松阪高等学校
		酒井 利明	三重県立桑名高等学校	大塚 直樹	三重県立稲生高等学校
		安濃田 禎宏	三重県立桑名工業高等学校	藤本 光臣	三重県立津東高等学校
宿舎		萩 真生	鈴鹿高等学校	鈴木 勝利	三重県山岳連盟
		深川 浩也	三重県立四日市工業高等学校	黒田 重次	三重県山岳連盟
式場運営		真弓 守	三重県立四日市工業高等学校	中澤 見真	三重県立菰野高等学校
		東 周作	三重県いなべ総合学園高等学校		
式典		廣田 育男	三重県立四日市南高等学校	横田 美千子	三重県立菰野高等学校
		近藤 治樹	三重県立四日市南高等学校	佐田 悟志	三重県立菰野高等学校
		桂山 誠司	三重県立津工業高等学校		
受付		大杉 昇	三重県立四日市高等学校	印南 美和子	三重県立菰野高等学校
		水元 筆	三重県立桑名高等学校		
筆耕		安達 未来	三重県立菰野高等学校		
審査会場運営		福川 大介	三重県立菰野高等学校		
弁当		西川 峻	三重県立菰野高等学校		
駐車場		竹林 聖央	三重県立菰野高等学校		
救護		加藤 裕美子	三重県立西日野にじ学園	西村 雅	三重県立菰野高等学校

気象予報士 藤井 聡 (静岡県) 與語 基宏 (愛知県)
 一般社団法人 伊藤 荒人 (愛知県) 上田 歳彦 (愛知県)
 日本気象予報士会 小田切 正 (愛知県) 関谷 不二夫 (三重県)

自衛隊協力隊 陸上自衛隊 第33普通科連隊

支援隊長 中島 健二
 運用訓練幹部 中澤 貴明
 渉外幹部 倉田 伸哉
 通信陸曹 鈴木 大輔
 監視員 阿比留 充文
 輸送班 黒木 優 谷口 理貴 井上 健太 大重 嘉英
 通信班 柳瀬 孝雄 裕 寄 祥吾 川越 稔 高濱 広幸
 A隊支援班 班長 工藤 大典
 A隊支援班 1組 戸上 雄太 重山 正宏 平郷 達也 三好 修平
 A隊支援班 2組 仲地 祐樹 横矢 幸大 植村 崇志 細渕 恵佑
 A隊支援班 3組 川原 晃 奈良本 幸雄 甲斐 幸樹 永見 豊
 B隊支援班 班長 林 真輝
 B隊支援班 1組 藤井 暢明 二階 充貴 杉本 良平 鎌田 斗史輝 梨木 孔実
 B隊支援班 2組 海藏 清隆 萩原 浩二 後藤 和洋 脇 聖弥 石原 英理
 B隊支援班 3組 竹内 睦博 稲垣 数騎 森田 怜英 永吉 慧秋 岡本 亜衣

競技補助員

A 隊 旗手 松嶺 歩 濱口 太一 神田 哲兵
 四日市工業高校 加藤 翔也 堀田 幸希 上原 優介

B 隊 旗手 堀木 翔太 清水 菜々美 伊藤 美優
 四日市農芸高校 森島 さくら 米田 美咲 位田 智紀

コース案内

桑名工業高校 二村 開人 森 貴一
 いなべ総合学園高校 川杉 杏奈 山口 由季 藤田 芽生 木下 莉緒 伊東 日向
 四日市高校 位田 健一郎 伊藤 穂香 吉田 優作 小池 寛英 安井 ことみ
 四日市南高校 中邑 陸人 山田 敬祐 山崎 伊風 高橋 航大 青 健太郎
 菰野高校 廣瀬 双葉 山口 彩希

設 営 隊

神戸高校 渡部 麻人 佐藤 芳樹 黒宮 大輔 中山 雄登 近藤 颯音
 柴田 陽斗 村木 新 森田 雄紀 味香 晃平 下岡 優真
 田中 裕也 伊藤 大輔 堀内 春輝 小田 耀巧
 桑名西高校 水谷 太一 早川 智隆 大河 内彬 向井 瑠哉

運営補助員

歓迎の言葉 菰野高校 増田 紘也

放送・アシスタント

いなべ総合学園高校 石垣 奈巳 日紫喜 優奈 香川 まい 濱島 史於 神内 蒼羽
 中村 結 伊藤 駿太 相馬 春華 大西 康陽 渡部 ゆりあ
 春田 萌瑛 伊藤 天音 本郷 萌愛

アトラクション 菰野高校	東 稲畑千種田邊上園	美羽 鮎乃穂万里奈春歩	市川 林市川板倉大石内田	桜 弘芽百真由	慎 熙奈音由	加藤 西山岡今井杉田稲垣	紅 愛花大遼也音	川尻 加藤岡真水後藤	有 真紗雪蒼早	真音乃衣希	坂下 山藤木本	桜 真生陽乃翔
式典会場設営 菰野高校	黒田 西川加藤中川	伸 翔也百葉華月	中野 別役中村山川	弘 稀杜静将輝	尾 朝井平瀬中井	頼 輝ひなの凜侑叶	伊藤 安藤加藤伊坂	夢 菜治貴雛	岩田 岩瀬中川松岡	朋也 永樹綾香詩英南		
受 菰野高校	付校	渡邊 勝島山本山中	光 菜々真凜音	萩 菜々北宇大橋	菜々 萌美佳優	清水 川北田中	美 亜明奈空	吉 岩松濱山本	花 実舞さくら	大島 戸山小西	千尋 実衣奈咲	
輸送案内 菰野高校	山上 早川	斎 遼	森 稲福	海斗 亮三	伊藤 板倉	幹 太波流斗	後藤 諸岡	和 磨真凱	金沢 フェリッペ	堤 洋介		
駐車場案内 菰野高校	堤 渡部	わかな 眞子	吉本 川田	華子 梨夢	羽木 平井	明日華 葵	松田 原	彩 瑠衣	向井 西川	未来 愛莉		
弁当管理・配布 菰野高校	濱口	パヤニ マハルリカ アン 奏海	奥山 井村	楓 花侑希	吉原 黒田	濤 琉偉	磯部 佐藤	あゆみ 琉哉	館 橋本	美優 青空		
サンプリング提供 菰野高校	川合 高橋	愛海 あみ	牧野 田中	愛加 葵	山下 石田	りり香 有澄	千種 藤澤	愛理 美菜	中村 佐々木	優花 愛歌		
審査会場設営・案内 菰野高校	青木 安田栗原伊藤多湖	望 実新健貫凌帆	中川 北住戸谷伊藤	恵 実公太郎真大風義	石田 五十棲駒田土井	ナミ 悠人尚弥康平	清水 中西脇市川	沙 絢飛翔稜太亮太	石川 吉田池田乾	ヒロ 光希伶人秀成		

7 A 隊行動記録

A 隊コース隊長 小林 孝光
三重県立久居農林高等学校

7月14, 15, 16日に第3回安全対策会議が行われ、本番と同じコースを同じ日程で歩いた。すでに梅雨明けし、猛暑であった。行動役員の先生が何人も熱中症にかかり下山していった。我々三重県役員は滋賀、岡山、山形の3大会を視察し、今大会の最重要課題は熱中症対策であると決定した。国際認定山岳医の資格を持つ医師・看護師に全国から集まっただき救護班を6班作り隊に同行することにした。



第1日目 8月4日(土) 開会式

開会式、知識審査の後、菰野町体育センターでコース隊編成を行った。室内にもかかわらず暑さ指数を示すWBGT計測器は32を指していた。32は危険・運動中止を意味する。班長、副班長をはじめとして行動役員を選手に紹介した。また、今回協力いただく自衛隊員にも会うことができた。その隊員の頑強な姿が印象的で全員の胸にはレンジャーの印があった。それを見て自衛隊の今大会に対する危機感がよくわかり、あらためて気の引き締まる思いがした。その後県民の森幕営地へバスで移動した。

この日の夕方、明日のコースを大幅に変更する連絡が入った。行動役員会まで1時間しかなかった。私はコース短縮なので安易に考えていたが、B隊隊長の造詣の深さから、コース案内

の配置換え、新たな輸送計画の作成など課題が山積みである現実を知らされた。変更案が出来上がったのは会議の1分前であった。このコースを歩いた経験のない班長・副班長が多く、三重県山岳連盟の方々の助言なしにはこの変更は実行出来なかった。輸送計画の見直しは複雑さを極め担当者の仕事は夜遅くまで続いた。



第2日目 8月4日(土) 三池岳・釈迦ヶ岳コース

サブザック行動で八風峠から八風谷を下るコースに変更された。下りの落石箇所にはコース変更によって不要になったサポート係をあて、道案内もしてもらった。



最初から急登である。渋滞したかと思うと急にペースが上がるインターバルトレーニングのような行動ペースであった。それでバテる選手が出ないか心配していると、6班班長から間が

開くチームがあると無線が入った。班離脱の可能性もあったが、お菊池の休憩地まで近かったのでそのまま行かせた。休憩中にドクターの診察を受け何とか最後まで歩くことができた。コースは短縮されたが、バス乗車場所までアスファルト道を延々と歩くことになった。

設営場に戻ってから熱中症になり点滴を受ける選手がでた。夜には回復したので本人や監督は次の日の行動を強く希望したが担当医は「明日の行動は認められない」と頑として譲らなかった。今大会の前に熱中症について何度も学ぶ機会を持った。「熱中症は血液が皮膚表面に集まり内臓に血液がいかない、いわゆる大量出血状態と同じである。見た目の症状が回復しても内臓に重大な障害が残る場合がある」。担当医の思いを理解してもらい次の日の行動離脱を受け入れてもらった。最終日には全行程を歩くことが出来たのでこの判断は正しかった。

引き継ぎ式時に翌日の変更が伝えられた。朝明茶屋からブナ清水往復である。多くの役員の予定していた仕事がなくなった。その役員に新たな役割を割り振る案を考える時間的余裕はなかった。設営場でまこもそうめんがふるまわれ、交流会が行われた。

行動役員会ではペースの上げ下げをどうやって防ぐかを議論した。正副班長の連絡を密にし、班長は後続班が離れた場合には思い切って班を止めることを確認した。連日の変更に次ぐ変更で逆に行動隊はまとまり「どんな変更でもやってやろうじゃないか」との気概が生まれたような気がした。

第3日目 8月5日(日) 御在所山・国見岳コース



朝明茶屋からブナ清水往復に変更。前日の行動役員会での反省を正副班長は忠実に実行した。隊のまとまりは格段によくなった。連日の猛暑が嘘のようにブナ清水は涼しかった。朝明茶屋では草もちとアイスキャンデーがふるまわれた。



行動役員会でB隊隊長は言った。「えーと言わないでください。明日は御在所山です」。みんな言った。「えー」。みんな思った。「明日はタダでは済まない。何チームの行動離脱がでるか」。キレットまでは来た道を下ろす、それ以降は防災ヘリを呼ぶことを確認した。県の防災も飛ぶことを前提に待機していると聞いた。支援隊長は不安で寝れなかったようだ。

第4日目 8月6日(月) 鎌ヶ岳・御在所山コース

御在所山から国見尾根で引き返し御在所山でパーティー行動、ロープウエーで下山に変更。

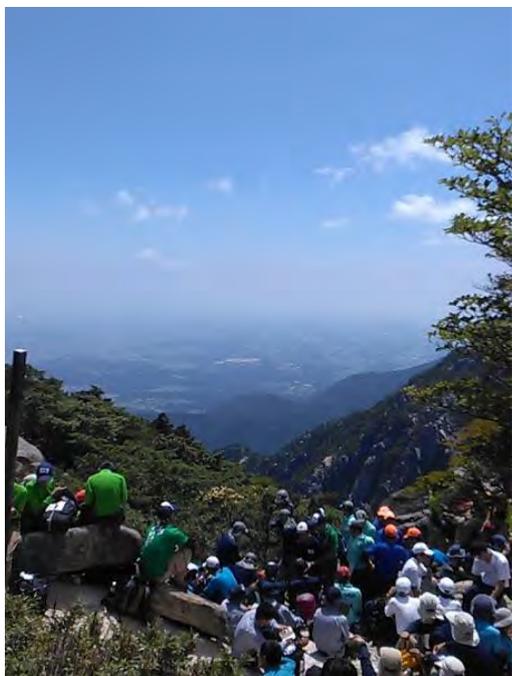
神風が吹いた。一チームも離脱が出なかった。



それはこの日吹いた風のおかげで涼しかった。また、危険箇所を通過する際発生する渋滞が幸いにもコースタイム引き延ばすことになった。ある選手が言った言葉が印象的だった。「もう1時間近く休憩した」。キレットを通過するのにA隊全体で40分かった。



国見尾根手前で記録書を回収した。そこは休憩には絶好のポイントで藤内壁から御在所山の雄姿を眺めることができた。本来のコースであれば通り過ぎるだけで休憩地には設定されていなかった。この3日間で初めて山を登った実感を持たせた瞬間でもあった。



御在所山まで引き返しパーティー行動。ロープウエーで下山し解団式を駐車場で行った。



解団式でこんな話をした。「昨日、本日の変更の連絡を聞く前のあるチームでの会話である。「明日はCP2までかな。俺は鎌ヶ岳登りたかったな」。これを聞いて私はうれしかった。コースが短縮され楽になってよかったと思っていると予想していた。しかし違った、君たちは鈴鹿に山を登るためにやって来たのだ」。

第5日目 8月7日(火) 閉会式



A隊優勝校は100点満点だった。A隊としては行動中に離脱する班も無く無事に終わった。しかし、1年間この大会のために一生懸命努力してきたチームは力を出し切れたのだろうか。そんなことを考えながら表彰式を見ていた。

おわりに

今大会に他府県から多くの応援役員に来ていただいた。三重県役員だけで開催することは不可能であった。また、突然のコース変更時に最も頼りになったのは地元の山域に詳しい山岳連盟の方々であった。どんなに心強かったことか。あらためて感謝申し上げます。

8 B隊行動記録

B隊コース隊長 岸田 誠司
三重県立神戸高等学校

各地に記録的な大雨と甚大な被害をもたらした7月上旬の西日本豪雨。その報道に接しながら、インターハイ出場予定のチームは大丈夫だろうかと考えていたことを思い出す。その後、天候は一変して今度は各地から猛暑日200地点以上だの、観測史上最高気温だのといったニュースが連日続いた。そんな中でのインターハイ開催となった。毎日のように予想気温は37℃前後だった。「全日程行動予定短縮」、過去に聞いたことがない形での実施となったが、史上最多の熱中症による病院搬送者数を数える状況の中では最善の方法だったのではないかな。

準備段階

予報1号の「コース案内」を書く関係もあって、コース検討から決定までとにかく何度もコースに入った。今回カットされたコースの中には、是非全国の高校生に歩いてほしいところも含まれているので、ただただ残念であったが、最優先されるべきは生徒の安全である。是非いつか鈴鹿の山を再訪してほしい。

7月中旬に行われた、第3回安全対策会議でのコース試走は灼熱の中で実施された。あまりの暑さで行動のスピードが極端に落ちる。体調不良で下山する役員も数名出た。あの暑さを行動役員が実体験したことは、低山・猛暑のインターハイを知っていただく上では有意義であった。この状況の中で大会が行われていたら…熱中症に対する危機感を大いに共有することになった。なお、この安全対策会議には、多数の医療関係者や消防、防災航空隊、自衛隊の方々にも参加いただいた。緊急事態発生の際の搬出訓練やヘリを飛ばしてのピックアップ訓練なども実施した。



行動1日目（8月4日）

3日の夜7時前にコース変更の決定があり、急遽役員配置の変更やそれに伴う配車計画の見直しを余儀なくされた。結局これが3日続くことになった。宿舎の部屋の中で、ああでもない、こうでもないと言い合いながら変更案をひねり出し、夕方の行動役員会議で提案し承認していただく。というよりも、「これをお願いします」という少々強引な形となった。とにかくゆっくり議論している時間がない中での慌ただしい決定であった。



この日はコース短縮となり、八風峠から谷道を下山ということになった。猛暑の中抑え気味のペースでスタートしたが、休憩予定地点の「お菊池」の少し手前で、相次いで2チームが動け

なくなった。ともに熱中症の症状だ。今大会は隊内の2班ごとに救護班を挟む体制で隊を組んでいた。救護班の中にはドクターかナースが配置されており、緊急時にも手遅れということがないという安心感があった。これは現場の行動役員にとっては本当に心強い。一方は時間をおいてもなかなか脈拍が下がらず、もう一方は点滴を必要とした。結局行動離脱ということになり、それぞれに支援をつけて下山させることとなった。その間、B隊本隊はお菊池で待機してもらった。1時間20分隊を止めることになったが、医療関係者の初動も早く、行動離脱という判断も的確で迅速だっただけに残念だ。

八風峠から先は、予定コースから外れる。途中、落石が心配される箇所や、迷い込みそうな分岐があるが、そこには役員や補助員を配置し、問題なく行動を終えた。



行動2日目（8月5日）

この日の行動は、ブナ清水往復となった。前日に行動離脱となったチームの一つに加え、サイト場で体調不良となったチームもあり、この日は朝から2チームが行動を離脱した。大幅な短縮に加え、高低差も比較的少ないコースなので、体調不良を訴えるチームはなかった。ブナ清水では長めの休憩を取った。日陰のブナ林の中、しかも冷たい清水が湧き出す絶好の休憩地である。選手の表情も和らいで笑顔も見られた。

ゴールの朝明茶屋に戻ってから装備審査を受け、地元のおもてなし（お茶、草もち、アイス）に再び顔がほころぶ。



行動3日目（8月6日）

本来なら今大会唯一のチーム行動の予定であったが、大幅変更で、ロープウェイ駅—中道—御在所朝陽台広場—国見峠（往復）、その後、朝陽台で監督が合流し、パーティー行動となって、御在所頂上部散策という行動計画であった。前日の行動役員会は、依然として暑さが和らがないことと、短縮とはいえ陽に照らされるコースであることで、かなりの体調不良者が出るのではないかと危惧する意見が出た。その場合の対処や判断の迅速性がより求められるということを確認した。私としては、キレットをはじめとするいくつもの悪場を搬送することを考えれば、防災ヘリの出動要請をためらわないと心に決めていた。



ロープウェイ駐車場からのアスファルト道も日が照りつけていればかなりの負担となるところだが、この日はまだ朝も早く、その心配はなかった。班と班との間が開かないようなペースで行動させたかったので、かなり頻繁に無線でそのことを確認した。班長や副班長同士でも特小無線でそういうやりとりをしてくれていたようだ。A隊から15分遅れでロープウェイ駅を出発したが、キレットの休憩地点で最後尾に追いついてしまった。15分の間隔でも徐々にA隊との間隔は開くだろうと思っていたが、悪くないペースで歩いているということだ。ただ、A隊はキレット通過に40分あまりかかったという。B隊が何分かかかるか心配になった。結局、1時間10分あまりかけてキレットを通過した。これは予想外のことだった。全パーティーが通過するのを上から見ていたが、やはり岩場の通過、しかも下りを苦手とする選手が相当数いるということがわかった。



その後、ペースダウンしたりストップしたりで徐々に隊内の間隔を修正し、朝陽台につく頃にはほぼ正常な間隔に戻っていた。本部から、B隊の行動はここまでという変更指示があった。この日は相変わらず高温の予報であったが、終始さわやかな風が吹いた。この風に助けられた。ただの1チームも欠けることなく、すべてのチームが朝陽台に到達したのは、うれしい誤算であった。その後、審査より朝陽台広場にて記録

や地図の回収、審査終了宣言がなされ、監督と合流した。

ロープウェイで下山後、解団式が行われた。式後の各班の様子を見てみると、全日程隊行動ということもあり、班長、副班長と選手たちのつながりが例年より強かったのだと思った。私もB隊行動役員の方々や、監督の方々から望外のねぎらいを受け、本当にうれしかった。



最終日（8月7日）

閉会式では、次年度開催の宮崎県にB隊旗を引き継いだ。コース隊長という任の重さもさることながら、コースの正式決定がまだというのを聞くにつけ、今後のご苦労が偲ばれた。そういった様々な思いを込めて、「よろしくお願いします」と声をかけ、1年間三重県にあったB隊旗を手元を離れていった。これでコース隊長としてのすべての任務が終わった。

9 A隊、B隊行動記録表

8月4日(土) 三池岳コース				
	地点・事柄	A隊		B隊
		記録		記録
	引継式	4:58		
		5:25 バス出発	5:55 バス出発	
P	八風キャンプ場駐車場着	5:47 バス着	6:17 バス着	
S0	旧八風射撃場跡	6:05 1班出発	6:32 1班出発	
		6:11 6班出発	6:38 6班出発	
S1	標高510m付近	6:23 先頭到着	6:48 先頭到着	
		6:35 最後尾到着	6:58 最後尾到着	
	(班の順序をローテーション)	6:39 先頭出発	7:01 先頭出発	
		6:51 最後尾出発	7:13 最後尾出発	
S2	お菊池	7:23 先頭到着	7:50 先頭到着	8:00 S2手前でB隊1チーム行動離脱
		7:45 最後尾到着	8:10 最後尾到着	↓
		8:05 先頭出発	9:36 先頭出発	9:35 下山開始
		8:11 最後尾出発	9:44 最後尾出発	↓
				11:04 救護所着
S3	八風峠	8:32 先頭到着	10:02 先頭到着	8:28 S2手前でB隊1チーム行動離脱
		8:41 最後尾到着	10:15 最後尾到着	↓
		8:49 先頭出発	10:30 先頭出発	9:30 下山開始
		8:58 最後尾出発	10:40 最後尾出発	↓
				11:04 救護所着
S11	中峠との分岐	9:11~9:22 通過	11:00~11:03 通過	
S12	林道入り口	9:37 先頭到着	11:25 先頭到着	
		9:44 最後尾到着	11:35 最後尾到着	
		9:55 先頭出発	11:46 先頭出発	
		10:04 最後尾出発	11:51 最後尾出発	
S0	旧八風射撃場跡	10:18 先頭到着	12:03 先頭到着	
	↓	10:24 最後尾到着	12:08 最後尾到着	
	装備審査	11:13 出発	12:45 出発	
		12:53 監督隊 S0 到着		
	八風スポーツ公園	12:14 到着・バス乗車	13:17 到着・バス乗車	
		13:30 監督隊バス待機所到着		
	引継式	14:00		

8月5日(日) ブナ清水往復コース			
	地点・事柄	A隊	B隊
		記録	記録
	引継式	5:00	
	幕営地バス発	5:24	5:51
P	朝明駐車場	6:06 先頭出発	6:38 先頭出発
		6:10 最後尾出発	6:40 最後尾出発
G8	620m付近渡渉点	6:40 先頭到着	7:14 先頭到着
		6:48 最後尾到着	7:18 最後尾到着
		6:55 出発	7:29 先頭出発
			7:32 最後尾出発
G7	根の平峠との分岐	7:23~7:31 通過	7:59~8:09 通過
G6	G6「ブナ清水」	7:46 先頭到着	8:30 先頭到着
		7:56 最後尾到着	8:35 最後尾到着
G6	G6「ブナ清水」	8:36 先頭出発	9:10 先頭出発
		8:44 最後尾出発	9:18 最後尾出発
G7	根の平峠との分岐	8:56~9:05 通過	9:30~9:39 通過
G8	G8「渡渉点」	9:21 先頭到着	9:56 先頭到着
		9:27 最後尾到着	10:02 最後尾到着
		9:39 先頭出発	10:15 先頭出発
		9:44 最後尾出発	10:19 最後尾出発
ゴール	朝明茶屋キャンプ場着	10:06 先頭到着	10:41 先頭到着
		10:12 最後尾到着	10:45 最後尾到着
	装備審査		
	朝明駐車場・バス発	11:10	11:40
	三重県民の森着	11:35	12:07
	引継式	12:25	

※ 幕営地にて待機（行動離脱）：A隊1チーム、B隊2チーム

8月6日(月) 御在所山コース			
	地点・事柄	A隊	B隊
		記録	記録
	引継式	4:59	
	幕営地バス発	5:23	5:35
G0	御在所ロープウェイ駐車場	5:50 バス着	6:02 バス着
		6:00 先頭出発	6:16 先頭出発
		6:04 最後尾出発	6:20 最後尾出発
G1	旧料金所跡駐車場	6:29 先頭到着	6:50 先頭到着
		6:34 最後尾到着	6:52 最後尾到着
		6:48 先頭出発	7:08 先頭出発
		6:53 最後尾出発	7:12 最後尾出発
		6:59 R477横断完了	7:15 R477 横断完了
G2	休憩地点(キレット上部)	7:39 先頭到着	8:06 先頭到着
		7:47 最後尾到着	
		8:02 先頭出発	8:55 先頭出発
		8:41 最後尾出発	10:03 最後尾出発
G3	御在所山朝陽台	9:19 先頭到着	10:24 先頭到着
		9:45 最後尾到着	11:09 最後尾到着
		10:11 先頭出発	
		10:14 最後尾出発	
G5	国見峠	10:29~10:38 通過	
	国見岳直下(国見岩付近)	10:48 先頭到着	
		10:59 最後尾到着	
		11:16 先頭出発	
		11:25 最後尾出発	
	国見峠	11:25~11:33 通過	
	御在所山朝陽台	11:44 先頭到着	11:35 隊行動終了
		11:50 最後尾到着	パーティー行動に変更
	(スキー場グレンデ内)	12:03 隊行動終了	
		パーティー行動に変更	
	解団式	15:00	14:30

B隊先頭 A隊に追いつく。
 B隊の後半はキレット手前の日陰で休憩。
 A隊1班につき、キレット通過に約5分
 B隊1班につき、キレット通過に約10分
 10:27 B隊の国見峠行きを中止

10 A隊支援隊記録

A隊支援隊長 永戸 晋太郎
三重県立四日市中央工業高等学校

1 支援隊人数について

支援隊長 1名 支援隊員 6名
自衛隊救護 13名 補助員 5名
(合計 25名)

6班編成の隊行動において、先頭から2班毎に救護班①、救護班②、救護班③を配置した。

救護班①には支援隊員3名、自衛隊員4名、補助員2名、救護班②には支援隊員2名、自衛隊員4名、補助員3名、救護班③には支援隊員1名と支援隊長、自衛隊員5名を配置した。支援隊員と補助員は支援物資を分担して携行し、支援が必要になったときに備えた。

2 医師・看護師について

A隊付医師 2名 A隊付看護師 2名

猛暑の中での登山行動のため、熱中症が大変心配された。選手が急に倒れて歩行ができなくなった場合など、治療が必要な選手が出た場合でも迅速に対応できるように2班毎に救護班を編成した。

救護班①に医師1名、救護班②に看護師1名、救護班③に医師1名・看護師1名を配置した。

登山行動1日目の三池岳コースではB隊で2チーム行動離脱がありB隊医師もチームに同行して下山したため、A隊救護班③の医師1名がB隊救護班の応援のために八風峠から三池岳へ引き返してB隊に合流した。

猛暑の中での大会であったが、医師の適切なアドバイスもありA隊はトラブル無く3日間の登山行動を終えることが出来た。

今回の救護班は国際山岳医と国際山岳看護師、国内山岳看護師の有資格者で編成されていたので、大変心強かった。

3 支援物資について

各救護班の支援隊員と補助員で医薬品、ブルーシート、冷却剤、冷却用の霧吹きと水、冷却スプレー、経口補水液、ツェルト、簡易

トイレを分担して携行した。また、背負い搬送用のレスキューキャリングラックを救護班①と救護班②で1つずつ、AEDは救護班②と救護班③で1台ずつ携行した。

医師が使用する医薬品の中には劇薬も含まれているため、点滴セット等は各救護班の医師と看護師が分担して携行した。

4 自衛隊との連携について

自衛隊は13名の方が各救護班に4～5名に分散して入っていただき、3日間同行していただいた。今回は幸いにも活躍していただく機会は無かったが、選手にトラブルがあった際には直ぐに支援していただける体制であったので、大変心強かった。



5 監督対応について

監督隊はB隊の後方に配置されA隊からはかなり離れていたが、各隊が無線で直接または中継を経て本部との連絡を取れる体制が構築されていた。

6 支援の状況について

今回は猛暑のため登山行動の3日間ともコース短縮・コース変更がなされた。そのおかげでA隊では登山行動中に体調を崩す選手が出ることなく下山でき、支援隊が支援する場面は無かった。

11 B隊支援隊記録

B隊支援隊長 阪本 高樹
三重高等学校

1 支援隊人数について

支援隊長 1名 支援隊員 9名(コースサポート2名を含む)
自衛隊救護 15名 補助員 5名
(合計 30名)

支援隊・自衛隊・補助員と医師・看護師を1つにまとめたものを「救護班」とした。

そして6班編成の隊行動において、A隊と同じく先頭から2班毎に救護班①、救護班②、救護班③を配置した。

救護班①には支援隊員4名、自衛隊員5名、補助員2名、救護班②には支援隊員4名、自衛隊員5名、補助員3名、救護班③には支援隊員1名と支援隊長、自衛隊員5名を配置した。支援隊員と補助員は支援物資を分担して携行し、支援が必要になったときに備えた。

2 医師・看護師について

B隊付医師 3名 B隊付看護師 1名

今回は猛暑の中での登山行動のため、当初から熱中症が大変心配された。選手が急に倒れて歩行ができなくなった場合など、治療が必要な選手が出た場合でも迅速に対応できるように2班毎に救護班を編成した。

救護班①に医師1名、救護班②に医師1名、救護班③に医師1名・看護師1名を配置した。

登山行動1日目の三池岳コースでは2チーム行動離脱があり医師及び看護師がチームに同行して下山した。

今回の救護班は国際山岳医と国際山岳看護師、国内山岳看護師の有資格者で編成されていたので、大変心強かった。

3 支援物資について

支援物資及び分担はA隊と同じにした。各救護班の支援隊員と補助員で医薬品、ブルーシート、冷却剤、冷却用の霧吹きと水、冷却スプレー、経口補水液、ツェルト、簡易トイレを分担して携行した。また、背負い搬送用のレスキューキャリングラックを救護班②と

救護班③で1つずつ、AEDは救護班①と救護班②で1台ずつ携行した。

医師が使用する医薬品の中には劇薬も含まれているため、点滴セット等は各救護班の医師と看護師が分担して携行した。

4 自衛隊との連携について

自衛隊は15名の方が各救護班に5名ずつ分散して入っていただき、3日間同行していただいた。B隊は女子隊であるため構成する隊員も考慮していただいております、5名の内訳はすべて男性4名+女性1名としてもらっていた。行動1日目に2チームの行動離脱があったが、その際にも直ぐに支援していただき、大変ありがたかった。

5 監督対応について

監督隊はB隊の後方に配置されていた。各隊が無線で直接または中継を経て本部との連絡を取れる体制が構築されていた。監督隊にも1台AEDを配備した。

6 支援の状況について

B隊の支援状況は、行動1日目には2チームが行動離脱となった。2チームとも熱中症によるものであり、山中で点滴を処置したチームもあった。この2チームとも救護班がすぐに駆けつけ、早急な処置を行うことができた。処置・経過観察後2チームとも医師・支援隊・自衛隊救護がそれぞれ付き添い、安全に下山させることができた。自衛隊救護が担ぎ搬送を行う可能性もあったが、共に自力で下山した。行動2日目は、行動時間及びコースが当初予定より短くなったこと、気温も下がり風も吹いていたことなどの条件が重なり支援を要するチームは出なかった。行動3日目は気温やコースの状況から何かしらの救援があるのでは、ということが心配されたが、2日目同様天候が味方をしてくれたこともあり、支援が必要となるチームは出なかった。

12 設営隊記録

設営隊長 西 和典
三重県立神戸高等学校

1 はじめに

三重県でのインターハイ開催が決定されてからは各開催地で視察を行った。それぞれの開催地で事情は異なっていたが、必要な点を各県の設営隊より教えていただくことができた。

総数約 94 の天幕を男女 2 グループにおいて幕営できる広さと、幕営本部や救護所を置ける建屋、荒天時の避難場所や選手の入浴などを考慮すると候補地は限られたが、少しでも涼しい所ということで「三重県民の森」に決定したと記憶している。

滋賀大会の佐野良樹先生、岡山大会の勝目忠久先生、山形大会の金子豊先生、藤井信二先生にはお世話になった。感謝したい。

2 設営隊スタッフ

本大会の設営隊には県内教職員が 3 名、愛知県教職員 2 名、山岳部OBの大学生が 2 名、設営隊補助員として山岳部員である高校生 20 名が従事した。設営地の整備・清掃や区画割り、サンプリングなどを行った。しかしながら、名簿にある設営隊員だけで設営地は運営されたのでは無い。大会期間中の救護所には医師、看護師が常駐しており体調を崩してしまった選手の対応を行った。菰野町教育委員会、菰野町スポーツ・文化振興会、菰野町社会福祉協議会からはテントや機器を貸していただき、設置、操作まで行っていただいた。また、応援のぼりの設置やゴミやザックの輸送の手配はほぼ全て菰野町のみなさままで行っていただき、たいへん助かった。三重県民の森の職員のみなさまにも事前の芝生の整備から蜂の巣の駆除まで様々なことをご配慮いただき、大会期間中も 24 時間体勢で対応していただいた。選手の給水については自衛隊より給水車を手配していただき、こちらも 24 時間体勢で対応していただいた。

設営隊では準備、運営と人手の必要な場面が多い。関わっていただいた全ての方々のおかげで設営がうまく機能したと考えている。この場を借りて感謝申し上げたい。

3 設営

(1) 設営地

三重県民の森の幕営地は、緩やかな斜面となっている芝生の広場で通常は天幕等の設営や火気の使用は認めていない。今回はインターハイの幕営地として使用する許可を申請した。

他の候補地よりも若干標高が高いことと、芝生で地面の温度が下がりやすいだろうと考えた。

7 月の日中に高温が続いたときに測定したが、日が暮れると芝生は冷め、朝方は気温も 25 度まで下がった。また、雨の日にも視察を行ったが、幕営地には水が溜まることは無く、水はけも良好であった。水道、トイレは既設の物はあるが選手数に対して少ないので、選手の給水は自衛隊の給水車 (5t+1t) を要請し、トイレについては仮設トイレ(男子用 15 基、女子用 20 基、監督用 5 基) の設置を行った。

緊急時の避難場所として 3.7 km のところにある千種小学校の体育館といくつかの教室を借りた。過去の設営地では避難場所を汚さないように、大会前にブルーシートを敷くなどの準備を行っていたが、千種小学校では大会中、避難が決定してからブルーシートを敷くことになった。今大会では、事前の天気予報では荒天は予想されておらず、実際にも避難場所を使用するに至らなかった。

(2) 設営地準備作業

8 月 3 日(金)の開会に向けて、8 月 1 日(水)から補助員を動員して設営地準備を行った。このとき設営隊長は諸会議に出席し、設営地に不在なことも多い。現場は副隊長が指揮をとり、

補助員とともに作業を行うこととなる。補助員は県下の高校より1日につき最大20名が参加した。また、菰野町教育委員会からも資材やゴミ運搬のトラック、給水車への水道水補給の手配などを行っていただき、設営地でも補助員を指揮していただいた。設営地では炎天下での作業となるため熱中症に注意した。設営本部となる建屋「ふれあいの館」はエアコンが効くので、そちらで休憩をとりながらの作業であった。菰野町から冷たいドリンクを提供いただき、たいへんに助かった。役員、補助員には昼食を用意したが、作業中の給水にも配慮が必要だろう。

設営地には菰野町の小学生のみなさまに作成していただいた応援のぼりが各チームごと届いた。これを設営地を囲むように設置したが、7月中に、菰野町のみなさまが設置するための杭を打っておいてくださった。

設営区画の各チームの割り当ては班内でローテーションをしながら、班ごとの位置を毎日大きく変えた。事前の検証により、設営地の東側と西側で夕方の日照時間に1時間近く差があるためである。暑い時期であるので日向と日陰で気温に大きな差がでる。3日間の設営で日照時間に差がでないように3パターン作成し配慮した。また、設営区画割案は事前に審査隊にも報告した。

会場に設置する放送機器は菰野町スポーツ・文化振興会から借りた。大会期間中は機器の操作にも専任の方がついてくださった。過去の視察では朝、夕の引継式に放送機器のトラブルで連絡が伝わりにくいことがあったが、この放送機器は4台のスピーカーを展開し広範囲に明瞭な音声を送ることができるものであった。引継式だけでなく、大会期間中の全体への放送・連絡に大活躍となった。

設営隊は設営地準備により開会式に出席できない。出席するならば、準備を早い段階で終わらせる必要がある。

8月1日(水)

雨天炊事場となるスクールテントは菰野町社

会福祉協議会から借り、県民の森に輸送、組立てを行った。大会中、雨は降らなかったが、日よけのテントとして非常に有効であった。

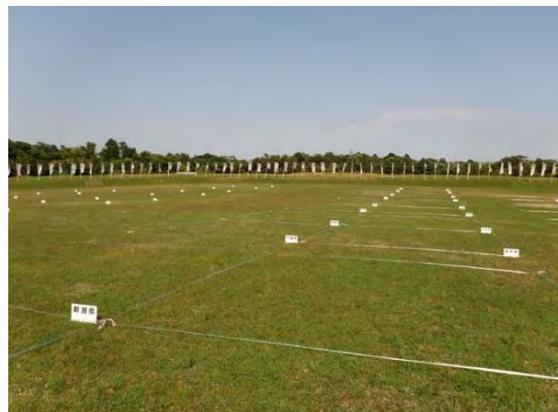
サンプリング場もスクールテントを使用、ふれあいの館前に設置した。

8月2日(木)

設営区画を作成。農業用のU字針金に目印のビニルひもを結びつけ5m×5mの区画の角をとり、そこにビニルひもを渡して区画を作成する。100mの巻き尺を使い、直角をつくりながらの作業であった。設営地は芝生であるため、ビニルひもの目印がなければ、U字針金は撤収時に残置してしまう可能性が高い。区画割には概ね1日かかった。応援のぼりもこの日に設置した。天候が許せばもっと早くに設置しても良かった。のぼりを描いた菰野町のみなさんが大会前から会場を見学に訪れていたからである。またこの日の夕方、サンプリングのドリンクと資材が大塚製薬から届けられた。

設営本部にはレンタルのパソコン、プリンタ複合機、携帯電話が設置され、救護室には菰野厚生病院より医薬品と保冷剤、簡易ベッドが届けられた。保冷剤はふれあいの館の冷蔵庫に入れた。救護所に冷蔵庫は必ず必要である。

簡易デジタル無線も届けられたが、事前の検証により設営地では無線が入りにくいことが判っていたので連絡は携帯電話で行うこととなった。



この日に業者により仮設トイレ、仮設シンクの搬入が行われた。

この日の監督、リーダー会議で設営地の注意事項と8月3日の設営地区画割りをプリントにして配布した。引継式では猛暑が予想されるので、話す時間を省略するためである。

四日市農芸高校からは選手激励のための園芸品種のプランターが届いたので設営本部前に配置した。

8月3日（金）

区画割りの最終確認と県名プレートの設置をした。サンプリング担当者はサンプリングの手順の確認を行い、夕方から入ってくる選手を迎える準備を行った。サンプリングを冷やす氷が届けられた。救護所・設営本部看板の設置や掲示板、体重計の設置などを行った。自衛隊より給水車が到着した。

仮設シンクは排水専用で、給水は行わないが、水のポリタンクを置き、手洗い程度には利用できるようにした。

水のポリタンクと仮設トイレには毎日水を補給する必要があり、50mのホースリールを用意し既設トイレの水道から補給することができた。女性用仮設トイレには汚物入れを設置した。

放送機器の準備を整えた。

ゴミ箱はサンプリング用のPETボトルを捨てるものと、使用済み携帯トイレを捨てるものの2種類を用意した。生ゴミ・可燃物は最終日



のみ回収する。

ふれあいの館はエアコンがあるとはいえ夏場は効率が落ちるということで、県民の森職員により屋根にスプリンクラーが設置され、冷却効率をあげた。

当直の看護師2名が会場に到着。救護所には看護師か医師が交代で常駐する。

選手が設営地にバスで到着するのを迎え、設営地まで案内するのも設営隊の役目である。



(3) 大会運営

8月3日（金）

筆記の審査を終えた選手団がバスで到着するのを迎え、設営地までの道案内を行った。整列後すぐに引継式で設営隊長挨拶・設営隊員の紹介を行った。炎天下での引継式で、挨拶等簡潔に終わるよう努めた。この後選手はこの日使う傷みややすい食材を設営本部のザック置場においた後、設営審査、炊事審査を行った。

審査の合間にサンプリングを行い、登山行動用のPETボトルのポカリスエットの配布も行った。

審査中は監督との接見が無いよう、選手との境界にビニルひもを張った。監督には審査の様子を見てもらいたいが、不正行為防止のためにも明確な線引きと、立ち入り禁止について事前の連絡が必要である。

炊事審査終了後に本部から連絡事項が届き、緊急に監督、リーダーを設営地中央付近に集合させ、伝達をした。翌日の行動に関することで

全員に正確に伝えることが要求された。

まず、全体に対して10分後に集合することを放送し、集合の後に各チームの点呼を行った。連絡事項は、本部から送付された文書を二度読み上げ、その文書は掲示板に掲示した。

本部より天気図と予報が届いたので掲示板に掲示した。

夜間は補助員と設営隊員2名は宿舎となっている菰野高校に移動する。夕食の弁当を持ち、ホテルで入浴を行い教室で就寝した。

他の設営隊員は入浴後、設営本部にて就寝した。

救護所は看護師2名が常駐し、医師と電話で連絡をとりながら来所者の対応を行った。

選手は20:00就寝。

役員は順次就寝。

8月4日(土)

選手は3:00起床。

設営地には設営隊と自衛隊のための食事が届けられたが、暗い中、発注数が不明で仕分けに手間取った。

猛暑が想定されるため、前日の連絡により本日の行動予定は大幅に変更され、選手のメインザックは設営本部に保管。選手が置きに来た。設営本部は狭く、混み合う中、ザックは県名プレートにしたがって積み上げながら各チームごとに置いた。設営隊員は各選手の誘導を行った。

各チームからは毎朝、健康チェックカードを提出してもらい、それに従って医療引継会を行った。

救護所の看護師、登山隊の医師、運営の役員とも医療情報の引継を行った。

5:00引継式の後、選手を見送り、設営会場の作業を行った。体調不良で設営地に待機するチームはエアコンの効いてる救護室もしくは付近の日陰で休養をとっていた。

予定変更のため、選手の帰還が早くなることが予想され、掃除等は省略し、設営区画の入れ替え、仮設トイレ、仮設シンクへの給水、トイレトペーパーの補充などを優先に作業を行っ

た。また、設営区画の調整など行った。

区画の調整については審査員にも連絡し、調整の確認をしていただいた。

選手帰還後の引継式を行い、サンプリングとなった。また、この会場で菰野町よりそうめんのふるまいが行われた。この日はA隊の入浴でバス輸送を行ったが、バスの中や浴場での忘れ物が目立った。

設営地での滞在が長時間となったが、選手達は日陰で休養をとっていた。

設営審査の後、炊事審査を行った。

3日と同様、炊事審査終了後、本部から連絡事項が届き3日と同様の手順で伝達を行った。

選手は20:00就寝。

役員は順次就寝。

8月5日(日)

選手は3:00起床。

この日もサブザック行動でメインザックは設営本部に保管。コースも大幅に短縮され、設営地への帰還も早い予定であった。

掃除等は省略し、仮設トイレ、仮設シンクの水の補給、設営区画の入れ替え等を優先的に行った。この日はB隊の入浴を行った。6日(月)もコースの変更が行われるが、その連絡は夕方の引継式で行った。選手が設営地にいる時間が長いのでサンプリング時間も長くなった。この日にサンプリングのテントは撤収した。日陰とはいえ猛暑の中での作業が続き、補助員も疲労が蓄積しているようであった。

選手は20:00就寝。

役員は順次就寝。

8月6日(月)

選手は3:00起床。

この日は選手の設営地の撤収である。メインザックは監督とともに設営本部前の広場に県名プレートに沿って積み、可燃ゴミは本部前のゴミ箱に提出して、引継式を行った。

選手出発の後、PETボトル、可燃ゴミをトラックに積み、菰野町の処理場に運んでいただいた。その後、3台のトラックでメインザック

を御在所ロープウェイに輸送していただいた。

設営区画の撤収、のぼりの回収、スクールテントの撤収と行い、午前いっぱい補助員は解散とした。のぼりは閉会式で各チームに配布する予定である。午後には大塚製薬よりサンプリングセットの回収、菰野厚生病院より医薬品等の回収に来た。仮設シンク、仮設トイレは6日、7日の2日間で業者が回収に来た。

つどいの広場とふれあいの館を復旧し、設営地の仕事は終了。設営役員はこの日の役員宿舎である少年自然の家へと向かった。



運営全体について

3泊を通して、猛暑により、選手の行動が大幅に変更される中、設営地でも臨機応変な対応が必要となった。設営隊長は設営本部に常駐して総務の本部との連絡をとらなければならない。従って、設営地で実際に作業を行うのは他の役員および補助員である。できなかった反省点は、予め業務の役割分担を決め、他の役員には準備の段階からその主となって運営してもらうことで、想定外のトラブルが発生した時にも平行作

業でスムーズに解決ができるものとする。

設営隊役員には登山の専門外の者や、県外からの応援者が割り当てられることも多く、事前の情報交換が他の隊よりも遅れていた。設営隊長はその点に留意し、事前に顔を合わせられなかったとしてもメール等で業務内容や分担を早期に周知徹底するべきであった。前述のとおり設営隊長は開会式数日前から始まる現地での準備作業や大会中の作業にも指示を出すだけで、あまり関わることができない。事前の情報交換で他の役員に用件を伝え、作業をまかせることである。

設営補助員は8月1日（水）の準備から同じメンバーで運営した。仕事内容が熟知され、スムーズに運営できたが、不規則な就寝時間や、長時間の屋外での作業となるため疲労の蓄積も大きかった。補助員は一泊二日程度で交代してもらうのが良いと考える。

選手の健康管理は設営本部・救護所での重要事項である。看護師、医師が常駐し丁寧に対応することで、病院へ診察に向かった選手はいたが、救急搬送に至る選手はいなかった。慌ただしい設営本部の中で、救護所の状態を把握し報告する担当がいなかったため、医療引継会や総務の本部との情報交換が煩雑になっていた。設営隊員に救護所担当を設け、救護の情報を統括し、看護師・医師と運営役員との情報交換を円滑に行えるようにする必要があるだろう。今回は設営隊長、副隊長でその任をまかなえると考えていたが、実際には難しかった。

設営地の周りは夜間は真っ暗になる。掲示板やゴミ箱付近には簡易な照明をつけるのがよい。

設営本部全体が狭かったため、役員には不便をかけた。設営本部には体重計を設置し、たくさんの選手が体重を測りに訪れた。狭いゆえにザックの搬入などでも設営本部建屋全体に選手が通過せずをえない配置となっており、設営本部には常に選手の出入りがあった。パソコン等の本部機器も本来は選手からは見えない場所に設置することが望ましいができなかった。画面

の表示内容には注意を要した。救護所は夜間も選手が訪れるため、役員の宿所には不向きである。男女別でしっかり休憩できる部屋を用意すべきだろう。

事前の視察で、芝生に熱い食器等置くと、その部分の芝生が枯れることを聞いていた。参加チームにも連絡し、概ね守られていたようだが、数カ所コップの形に芝生が枯れている所があった。

4 おわりに

この数年間、インターハイ準備のために各開催県へと視察に赴いた。近県役員として実際に運営に携わることもできた。しかしながら、実際に自分の県で開催するとなると考えなければならぬことがたくさんあった。一人でできることは少ない。大きな大会の運営など、早い段階でそれぞれの仕事を分担し、行き詰まったら

お互い相談することが大切だと改めて感じた。

設営隊の皆様には本当にお世話になった。少ない情報でも現場の判断で、大会の運営がスムーズに進むよう工夫を凝らしてくれた。設営補助員の皆様も疲労が蓄積しているのは明らかであったが、最後まで文句一つ言わずに役割をこなしてくれた。また、大会準備から運営まで菰野町教育委員会の内田さん、黒田さんにも大変お世話になった。改めて感謝を申し上げたい。

今更であるが設営隊長として、ああすればよかった、こうすればよかったということがたくさんある。来年、同じ場所で同じ大会があればもっと上手くやれるのに、と思っても後の祭りだ。今回は来年度開催の宮崎県と再来年度開催の群馬県より視察が来ており、設営会場で少なからずお力添えもいただいた。今大会の活動が来年度からの礎の一部にでもなれば幸いです。



13 気象記録

一般社団法人 日本気象予報士会 東海支部

気象情報の提供

本会参加者6名のうち気象情報担当の2名で大会山域を対象に気象予報の作成を行った。

大会期間中は、幕営地三重県民の森及び各日の登山コースの気象監視を行った。また朝8時頃と16時頃に開催される中央総務会議に出席し、当日及び翌日の予報を競技役員に説明した。その他の時間に中央総務会議より要請があった場合には、適宜予報を作成、説明した。

気象情報の収集・監視は主に以下の気象情報サイトを利用したほか、津地方気象台に電話で問い合わせをした。

気象情報（気象庁ホームページ）

<http://www.jma.go.jp/>

雷情報（中部電力雷情報）

<https://www.chuden.co.jp/kisyo/>

地球気（専門気象情報）

<https://n-kishou.com/ee/index.html>

国土交通省 防災情報提供センター

<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>

環境省 暑さ指数（WBGT）

<http://www.wbgt.env.go.jp/sp/>

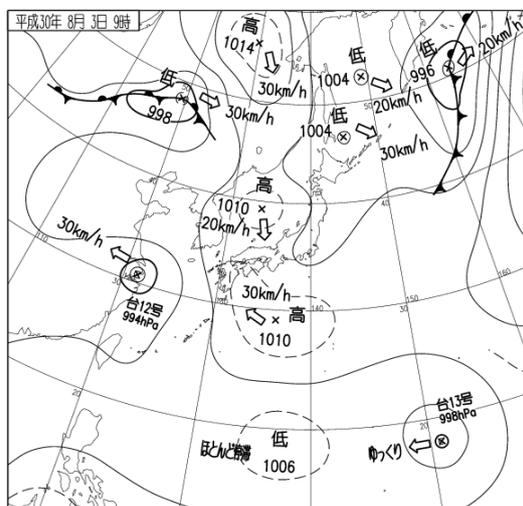
三重県大気環境情報（御在所山頂の気象）

<http://taiki-kanshi.eco.pref.mie.lg.jp/realtime/>

大会期間中の気象概況

期間中は概ね西日本に中心を持つ夏の高気圧に覆われ、安定した晴天になり、大会山域での降水はありませんでした。一方東海地方を含めたほぼ日本全域で異常な暑さとなり熱中症が心配された。

◇ 8月3日（金） 開会式

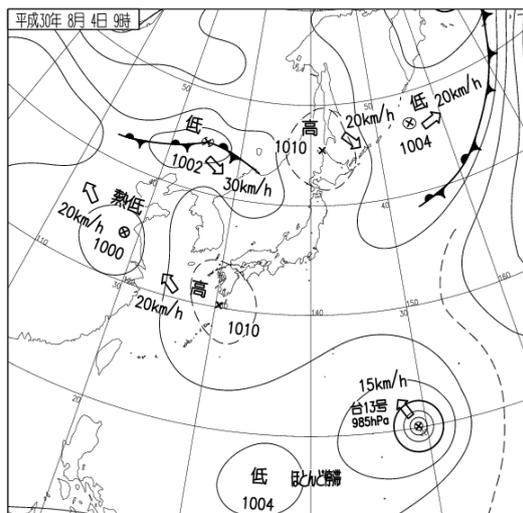


日本の南海上に中心を持つ夏の高気圧に覆われほとんど雲のない晴天になった。

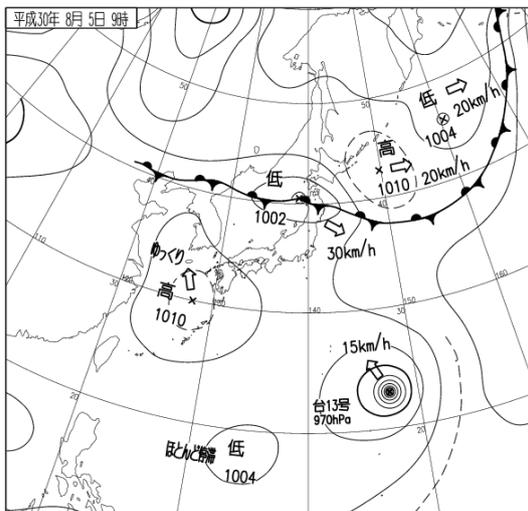
また東海地方を中心に猛暑日となり、名古屋では観測史上初の40℃超えとなった。

◇ 8月4日（土）三池岳コース

高気圧の中心は九州付近に移動し、大会山域はほとんど雲のない晴天になり、降水もなかった。西側山麓ではフェーン現象も重なり異常な暑さとなった。

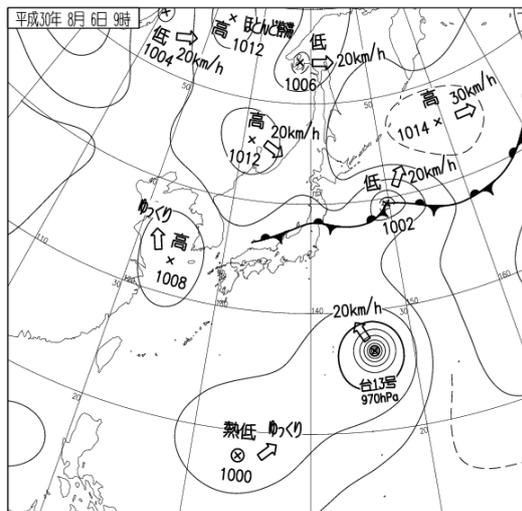


◇8月5日（日） ブナ清水コース



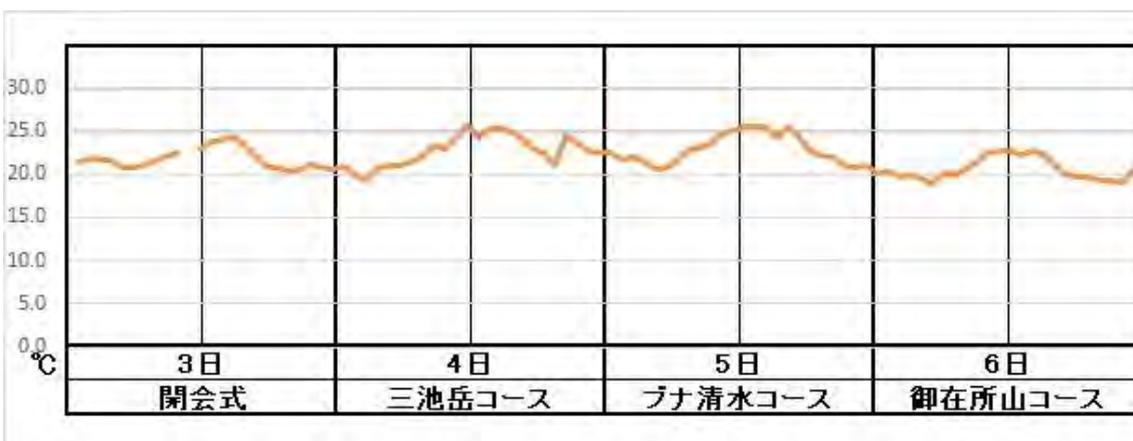
気圧配置は前日とほぼ同じで、ほとんど雲のない晴天になった。山域の降水もなく稜線付近の視界も良好であった。日中の気温も前日同様まで上がり、厳しい暑さになった。

◇8月6日（月） 御在所山コース



日本海の前線が北陸地方まで下がり、前日までよりやや雲の多い日になった。また、御在所山頂の気温は明け方には20℃を下回り、正午の気温は22.7℃でやや過ごしやすい日になった。山域での降水は引き続きなかった。

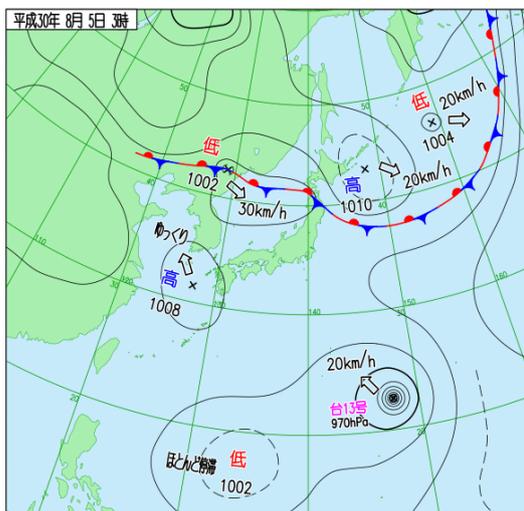
大会期間中の御在所山頂付近の気温変化グラフ（標高 1200m地点）



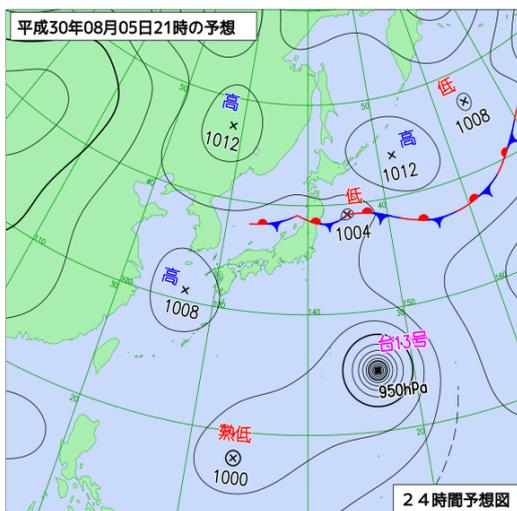
気象情報提供内容（抜粋）

8月5日8時00分 大会本部気象担当発表

実況天気図（5日3時）



明日（5日21時）の予想天気図



御在所岳山頂の気温（07時）21.7℃ 北西 2.1m/s 湿度 72.4%

四日市 〃 27.6℃ 北北西 1.2m/s 湿度 83% 予想最高気温 35℃

本日の予報解説

5日の大会山域（御在所岳）は、西日本に中心を持つ夏の高気圧に覆われ、日差しの強い1日となりそうです。朝は西寄りの風、のち東風となり、朝9時ごろの四日市の気温は30～31℃、正午前後の御在所岳山頂付近は25℃前後、午後もし日差しが強く四日市の15時の気温は34℃前後の見込みです。なお、三重県には高温注意情報が発表されており、環境省によると、四日市では正午から15時にかけて、暑さ指数が31～32℃【危険】の予想となっています。

明日の予報解説

明日（6日）も九州の西にある高気圧に覆われ、三重県北中部では北西の風で晴れて暑さが厳しく、四日市で最高気温は36℃の予想です。環境省の暑さ指数によると四日市で12～15時に34℃【危険】の予想です。

週間天気予報について

向こう一週間は、期間のはじめは高気圧に覆われておおむね晴れますが、中頃からは湿った空気や台風第13号の影響で曇りや雨となる見込みです。特に8日から9日頃にかけては台風第13号の進路によっては天候が大きく変わる可能性があるため、新しい情報に注意してください。

8月4日17時 三重県の週間天気予報

日付	5日	6月	7火	8水	9木	10金	11土	
三重県	晴	晴時々曇	曇時々晴	曇	曇一時雨	曇	曇	
府県天気予報へ								
降水確率(%)	10/0/0/0	10	30	40	60	40	40	
信頼度	/	/	B	C	C	C	C	
津	最高(℃)	35	37 (34~38)	33 (31~34)	31 (29~36)	30 (28~35)	31 (30~35)	32 (29~35)
	最低(℃)	26	28 (26~29)	27 (26~29)	27 (26~28)	26 (24~28)	25 (24~28)	26 (24~28)
平年値	降水量の合計		最高最低気温					
津	平年並 3 - 27mm		最低気温		最高気温			
			24.7℃		31.5℃			

14 通信記録

A隊付き通信 赤塚 正則
三重県立津工業高等学校

1 通信記録の目的

- 本部が大会の進行状況を正確に把握し、大会運営の改善や問題解決を行うための通信業務。
- 事故や想定外のトラブル、体調不良の選手が出た場合に、本部が迅速に適切な指示を出し、対応を行っていくための通信業務。
- 審査員団が各チームの行動を把握し、正確な審査を行うための通信業務及び記録。
- 今回の大会での通信記録を今後の大会に活用していただくための資料とする。

2 通信機器について

インターハイの運営は業務の一種でありアマチュア無線は使用せず、レンタルのデジタル簡易無線のハンディ機 130 台を使用し、本部と主中継局の菰野町役場は、卓上機とGPタイプのアンテナを各2本設置した。特小無線も使用し、レンタルの携帯電話も本部に用意した。

通信チャンネルは、A隊、B隊を別チャンネルとし審査員団にも他のチャンネルを使用してもらった。互いの隊の状況を把握するため各隊の通信係は無線機を2台持つことにした。特小無線機は、班内の班長・副班長間の連絡に使用し隊行動では有効に機能した。

下見で使用した通信機とレンタルの通信機・アンテナに性能の差があり、急遽アンテナを設置する必要が生じたことがあり、実際に使用する無線機で確認する必要があると感じた。

通信機器の管理する役を設けるべきである。通信機の管理に関するトラブルもあり総務委員長に負担を掛ける結果になった。また、設置な

どに関しても人員と時間の確保が必要である。

携帯電話は、ほぼ使用しなかったが、事前に通話可能な地点を山岳部OBが自主的に調査かれてあり、緊急時など長い通信が必要なときには可能であれば携帯電話を積極的に使用するべきだと感じた。

3 通信ルートについて

通信ルートに関して今大会では、地形や距離の影響で直接本部と競技地点の通信が困難な箇所が多くあった。このため、行動隊は必ず菰野町役場の中継を通し本部と連絡することにした。それでも通信できない場所は、各コースでもう1カ所中継を挟む形で通信網を確保した。通信に時間がかかる恐れもあったが、今大会では大幅なコースの短縮やエスケープルートを使用したコース変更があり、中継場所を活用することで急な対応が可能になった。

デジタル簡易無線のチャンネルについては、どのチャンネルを使用するか事前に時間を掛けた調査が必要である。今大会では、事前の調査にもかかわらず混信により通信が繋がりにくいところもあったが、なんとか支障が無い程度に運営できた。

4 通信業務の範囲

通信係の業務の範囲は、行動隊と本部との通信・記録業務に限定した。輸送関係、設営隊、式典等で無線機を使用した。これについては各係で対応してもらった。ただし、無線機については共通でレンタルしており、管理に関しては問題を残したと思われる。

15 救護記録

8月3日 開会式	No	時刻	参加区分	性別	症状・処置等
	1	17:18-17:22	役員	男	ハチ刺され イソジン、オイラックス塗布
	2	17:30-17:38	監督	女	擦過傷 イソジン、ゲンタシン 塗布。頭痛 ロキソニン処方
	3	?(夜間)	選手	女	嘔吐

8月4日 三池岳 コース	No	時刻	参加区分	性別	症状・処置等
	4	3:22-3:35	選手	女	とげが刺さる。安全ピンでとげ除去、絆創膏を貼る
	5	4:10-4:15	選手	女	嘔吐(夜間、明け方 2回) 朝食欠食 ナウゼリン処方(3と同じ)
	6		選手	男	健康チェックカードより 腹痛 参加
	7		選手	女	健康チェックカードより 頭痛 のどの痛み 参加
	8		選手	女	健康チェックカードより 腹痛 参加
	9	8:00	選手	女	お菊池手前にて、体調不良(熱疲労) 医師により診断、点滴等の処置 看護師(1人)、自衛隊員(2人)、支援隊員(1人)同行し、自力歩行下山 10:45下山、輸送係の車両で県民の森へ移動(11:04到着) 救護所で処置を受ける
	10	8:16	選手	女	お菊池手前にて、体調不良(脱水症) 医師により診断 脈拍が100を超えている 10分以上、観察したが回復の見込みがなかったため、 自衛隊員(2人)、支援隊員(1人)が同行し、自力歩行下山 10:45下山、輸送係の車両で県民の森へ移動(11:04到着) 救護所で処置を受ける
	11	13:30	選手	男	体調不良(熱疲労) および 嘔吐による脱水 血圧 122/73、脈拍 67、体温 36.9℃ 点滴を行う
	12	13:40	選手	女	鼻血 圧迫止血、クーリングを行う
	13	15:40-15:45	選手	女	捻挫 クーリング、ロキソニンテープ処方
	14	16:10-16:15	監督	女	擦過傷 リンデロンVG塗布。(2と同じ)
	15	16:05-16:20	選手	女	右膝 関節痛 クーリング、ロキソニンテープ処方
	16	16:35-16:45	選手	女	頭痛、吐き気(熱中症?) 体温36.8℃ 脈拍69 血圧107/69 ケトン(-)
	17	17:50-19:20	選手	女	脱水傾向(熱中症?) 体温36.4℃ 脈拍66 血圧118/73 ケトン(+) 飲水
	18	19:00-19:02	選手	女	右足首 左足首 小発赤疹かぶれ リンデロンVG塗布
	19	19:20	選手	女	頭痛 体温36.9℃ 脈拍75 血圧108/64 生理中 排尿できず
	20	19:20	選手	女	風邪 体温35.2℃ 脈拍104 血圧126/87 SpO2 98% 風邪薬処方
	21	19:00-19:55	選手	女	鼻血 圧迫止血、クーリングを行う。(12と同じ)
	22	21:10	選手	女	頭痛 体温36.3℃ 脈拍75 血圧113/50 (19と同じ)
	23	21:10	選手	女	咳・嘔吐 体温36.7℃ 脈拍96 血圧107/66 (20と同じ)

8月5日 ブナ清水 往復コース	No	時刻	参加区分	性別	症状・処置等
	24	4:00-4:30	選手	女	頭痛 体温36.3℃ 脈拍75 血圧113/50 頭痛解消(19,22と同じ)
	25	4:00-4:30	選手	女	咳・嘔吐 体温34.7℃ 脈拍96 血圧107/66 頭痛、咽頭痛は軽減傾向 (20,23と同じ)
	26	4:20-4:30	選手	女	昨日 脱水傾向で来所(17) 体温36.0℃ 脈拍76 血圧106/63 SpO2 98%
	27	4:30-4:45	選手	女	前日 右膝 関節痛にて来所(15) テーピング施術 疼痛軽減
	28	4:30-4:45	選手	女	前日 右足首捻挫にて来所(13) テーピング施術 疼痛軽減
	29	4:20	選手	女	健康チェックにて頭痛 体温36.6℃ 脈拍85 血圧132/92 前日より食事摂取不良 救護所にて安静中
	30	13:20-13:22	選手	女	右足首 左足首 小発赤疹かぶれ リンデロンVG塗布(18と同じ)
	31	13:00-13:25	選手	女	左足首捻挫
	32	15:12	選手	男	右耳介部発疹・腫脹 水泡形成 リンデロンVG塗布
	33	15:20	選手	女	生理(生理用品を渡す)(12,21と同じ)
	34	16:35-16:40	選手	女	靴擦れ
	35	16:40-16:43	選手	女	右足第4指・第5指管に膨疹 保護のみ 帰宅後受診を進める
	36	17:40	選手	女	右足首捻挫 クーリング(13・28と同じ)
	37	17:40	選手	女	右手第2指 膨脹 医師の申し送りあり オイラックス塗布
	38	16:50-16:54	選手	男	本人が塗布したムヒ右下腿外側に5cm大のかぶれ 包帯保護
	39	17:40-17:45	選手	女	左足 靴下のかぶれ→オイラックス塗布 左足 虫さされ→ムヒ塗布
	40	18:12-18:14	選手	男	股ずれ オイラックス塗布
	41	18:45-18:50	選手	女	右足首捻挫 クーリング(13・28・36と同じ)
	42	18:56-19:30	選手	男	11:00頃より蕁麻疹 医師が診察し、病院受診を勧める 19:38 いなべ総合病院へ輸送し、受診、内服薬処方 21:05 幕営地に帰着 テントにて就寝
	43	18:54-18:57	選手	女	右足関節かぶれ オイラックス塗布(18,30と同じ)
	44	19:05-19:10	選手	女	前日 前々日 右膝 関節痛にて来所(15,27と同じ) ロキソニンテープ処方
	45	19:25-19:30	選手	女	右耳 右足 リンデロンVG塗布
	46	19:33-19:50	選手	男	胃腸が周期的に痛む 下痢・嘔吐は無し 経過観察 異常あれば救護所に来るよう指示

8月6日 御在所山 コース	No	時刻	参加区分	性別	症状・処置等
	47	3:35-3:40	選手	男	右耳介部発疹・腫脹 水泡形成(32と同じ) 昨日より改善傾向 再度リンデロンVG塗布
	48	4:00-4:05	補助員	男	右眼瞼 虫刺され 腫脹 オイラックス塗布
	49	4:05	選手	女	左足首捻挫 ロキソニンテープ 弾性包帯まき直し(31と同じ)
	50	4:05-4:20	選手	女	右足 第2指 膨疹 オイラックス塗布(39と同じ)
	51	4:27	選手	女	右足首捻挫 テーピング(13・28・36・41と同じ)
	52	4:20-4:30	選手	女	腹痛 医師による診断→異常なし
	53	4:30	選手	男	8月4日体調不良(熱疲労)により受診・点滴(11と同じ)→テントで就寝。8月5日行動せず 医師による診断→登山行動に参加

16 式典記録

総務（式典担当） 廣田 育男
三重県立四日市南高等学校

1 準備段階

（1）会場

盛夏時のため、空調設備のある、地元菰野町の町民センターホールを開閉会式の会場とした。

審査会場の菰野高校まで徒歩で移動する必要はあるものの、音響や照明の設備、複数の研修室や会議室があり、式典や諸会議の運営に便がよいことも考慮された。

また、選手監督 470 名に対し、座席数 483 席のホールであるため、菰野町には研修室 1・2 とロビーに観覧用のモニターを設置するという対応をとっていただいた。

ただ、昨年、選手団紹介に続き、「ご起立下さい」とのアナウンスで行われた行動隊・設営隊・旗手の紹介、支援に当たっていただく自衛隊の方々の紹介ができなかったことについては、担当者として申し訳なく、悔いが残った。

（2）式次第

昨年度開会式の「国旗掲揚」「諸旗掲揚」という表現を、総合開会式の式次第も考慮し「国旗儀礼」「諸旗儀礼」、それに合わせて閉会式の「諸旗降納」についても、「国旗儀礼」とした。どのような表現が望ましいのか、次年度以降、さらなる検討をお願い申し上げたい。

（3）音楽

式典音楽については、「高体連の歌」や「君が代」を含め、平成 30 年度全国高等学校総合体育大会三重県実行委員会企画・製作の CD 「平成 30 年度全国高等学校総合体育大会式典音楽使用曲集」を使用した。

（4）補助員

式典放送係・アシスタント係については、いなべ総合学園放送部に補助員をお願いした。

顧問の先生の指導のもと、前向きに練習に取り組む彼らの姿勢は、今回の式典が無事終了した大きな要因であった。

また、開会式については、菰野高校吹奏楽部員からも 2 名の応援をいただいた。

2 開会式

（1）リハーサル

9 時～ 菰野高校吹奏楽部のリハに併行して、菰野高校卓球部員による都道府県名の貼紙。またいなべ総合学園高校放送部員は、研修室で昨年度山形大会の開会式ビデオを視聴した。

10 時 15 分～ いなべ総合学園放送部員がホールに移動し、リハに入った。始めにマニュアルを見ながら動きを確認、昼食をはさんで、午後から 2 回、選手宣誓と優勝杯返還の場面を中心に、練習を行った。

16 時 30 分～ 監督・リーダー会議終了後、三重県山岳連盟の加藤理事長を中心に、足場を組んで、各県高体連旗の掲示作業が行われた。

（2）開会式当日

● 8：00～ 式典関係役員・補助員集合、菰野高校吹奏楽部リハーサル

● 9：00～ 開場

● 9：30～ アトラクション
菰野高校吹奏楽部の演奏



● 9 : 45 アトラクション終了

開会式に先立ち、「平成30年7月豪雨」で亡くなられた方々に哀悼の意を表し、1分間の黙祷を捧げた。

● 10 : 00～ 開式通告、選手団紹介

● 10 : 20～ 開会宣言、国旗儀礼、諸旗儀礼、優勝杯返還・レプリカ授与、あいさつ、歓迎の言葉



● 11 : 00～ 選手宣誓



● 11 : 04～ 閉式通告、登山隊編成

3 閉会式

(1) リハーサル

9時～ 研修室で昨年度山形大会の閉会式ビデオを視聴した。

10時20分～ ホールに移動し、始めにマニュアルを見ながら動きを確認、昼食をはさんで午後からは、特に動きが複雑で難しい、表彰と諸旗引継を中心に、練習を行った。

また、午後からの練習には、日山協の八木原会長を始め、全国高体連登山専門部の松本

部長、三重県高体連登山専門部の河北部長、中央総務の前田委員長などにもご参加いただき、本番そのままの動きを確認することができた。

(2) 閉会式当日

● 8 : 00～ 式典関係役員・補助員集合

● 8 : 50～ 雨が降り始めたため、予定より早く開場した。

● 10 : 00～ 開式通告の後、成績発表



● 10 : 20～ 表彰



● 10 : 40～ あいさつ、国旗儀礼、諸旗引継、次期開催県挨拶

● 11 : 08～ 閉式通告、感謝状贈呈

● 11 : 40～ 後片付けの後、解散。

4 最後に

最後に、今回の式典に際し、お世話になりました多くの皆様方に、この場をお借りし、あらためて感謝を申し上げます。どうもありがとうございました。

17 総務記録

総務委員長 松尾 浩志
三重県立稲生高等学校

1. はじめに

平成 24 年より、三重県高体連登山専門部の委員長を拝命した。すでに平成 23 年 5 月には全国高体連理事会において平成 30 年全国高校総体を東海ブロックで開催することが決定されていた。前委員長の時代から各競技専門部では開催地の検討が進められ、同時に三重県高体連事務局より、県内開催が決まった場合の会場地候補の選定、県競技団体への協力体制が取れるかの打診を行い、開催の可能性を調査していた時期である。そのような時期に委員長を拝命し、その後の準備から大会運営へと突入していった。

委員長になった一年目から、具体的な会場地候補の選定が本格的に始まった。時を同じくして、2021 年に三重県で国民体育大会の開催が内定し、同時並行で会場地の交渉を行うこととなった。過去の東海地区での全国高校総体の開催地を考えると、三重県での可能性が高く、前回(昭和 48 年)吉野熊野国立公園 台高山系で開催されたことから、三重県北部に位置する鈴鹿山脈での開催を検討した。鈴鹿山脈は名古屋圏にも近く、鉄道や高速道路でのアクセスも容易、湯の山温泉の宿泊施設が充実していることなどからその中心地である三重郡菰野町での開催を中心に考え、当初は菰野町近隣のいなべ市、四日市市、鈴鹿市を含めた範囲での開催を検討し、平成 26 年よりいなべ市を含む山域でコース調査を進めた。会場地として菰野町が内定し、交渉を進める中で、他市町での開催は様々な課題があることから、菰野町一町での開催となり、登山コースの選定、コースの整備等を三重県山岳連盟の協力を仰ぎながら計画を進めた。

開催までの間は神奈川大会(平成 26 年)、滋賀大会(平成 27 年)、岡山大会(平成 28 年)、山形大会(平成 29 年)の視察を行い、特に滋賀大会では近隣であったため、役員として 8 人が参加し、

大会運営の参考にさせていただいた。準備作業のために、何回か菰野町、関係機関との交渉、三重県高体連登山部内での準備会議、コース調査を行った。経費については一部、三重県準備委員会に旅費の補助をしていただいた。

2. 準備について

予算作成について

前々年度(平成 28 年)4月 第 1 回競技種目別大会運営費試算提出 約 4,165 万円 役員・補助員配置、購入物品等は滋賀大会の実績をもとに算出。旅費については県が示した概算額で算出した。

前々年度(平成 29 年)1月 第 2 回競技種目別大会運営費試算提出 約 4,165 万円→約 3,300 万円 全国高体連の示したシーリング額(3,100 万円)に近づけるよう指示があり、行動役員宿舎を変更、大会プログラム印刷費などを県の提示した基準額で積算、開会式会場の変更等で減額となった。

前年度(平成 29 年)7月～9月 第 3 回競技種目別大会運営費試算提出 約 3,147 万円 役員旅費、食料費の精査、レンタル物品、消耗品等を精査することで補助対象経費をこの金額まで減額。三重県実行委員会とヒアリングを繰り返し、平成 28 年岡山大会で行動中の傷病者が多く、役員が対応に追われたことから、このような事態にならないよう安全な大会運営のための予算配分を要求した。

ここまで、精査を行い、シーリング額以下に落とすにもかかわらず、12 月に提示された運営費は 2,398 万円とシーリング額の 8 割ときわ

めて不本意な金額であった。削減された項目には医療スタッフの減員があった。前年までの実績から判断されたが、前年までの大会で深刻なまでに医療スタッフが少なかったことと、安全な大会運営に不可欠であることを要望し、平成30年3月に大会収支予算書を作成し提出した。

実際の予算執行にあたっては再度、消耗品の購入の見直しを行った。無線機、役員輸送バス、パソコン等のレンタルは当初の設計金額より安く契約を結ぶことができ、予算に若干の余裕ができたように思う。一方、予算計上の時点で算出した旅費の条件と、実際に請求された交通費に差があり、事後の修正に労力を要したことが反省点として挙げられる。

登山シャツ(長袖)は三重県実行委員会の大会運営費補助基準では対象経費に含まれず、計画当初より、登山大会服装規定により、登山行動を行う役員もこれに準じることを伝えて、補助対象とするよう交渉したが、認められなかった。補助基準では大会役員は半袖ポロシャツ2枚となっており、そのうち1枚分の経費を登山シャツ購入の経費に充て、超過額は対象外経費として支出した。対象外経費をできるだけ削減するため、一般的な登山シャツでなく、長袖のポロシャツに、独自のデザインプリントの仕様とし、見積合わせで業者決定、作成した。

協賛金

菰野町商工会の会員、菰野町の登録業者をリストアップし、メインスポンサーの確認をいただいた後、協賛依頼を行った。一部の業者はおもてなしの物品提供の協賛をしていただき、選手からは好評であった。25事業所より協賛いただき、大会運営の大きな支えとなった。

ポスター原画

三重県実行委員会より開催自治体に設置されている高校より公募する指示があったため、

菰野町と作成依頼について検討し、町内にある菰野高校美術部に直接依頼し、部員が共同で作成いただいた。原画作成に当たっては美術部顧問と山岳部顧問が様々なアドバイスをしていただき、素晴らしい作品が出来上がった。このデザインをポスターはじめ、歓迎ののぼりや、大会プログラム、優勝盾レプリカ等に使用した。町の方々や参加者にも好評で、閉会式後には参加者にポスター、のぼりを配布したところ、瞬間に無くなったことを嬉しく思う。

宿舎

基本的には配宿センターが手配を進めていただいた。開催地の菰野町には「湯の山温泉」があり、今年「開湯1300年」を迎え、町内でも記念イベントを行っている。配宿センターには菰野町の行事であることから、湯の山温泉での宿泊を要望し、結果的にすべての選手監督が湯の山温泉での宿泊を確保していただいた。宿舎の対応も大変協力的で参加者には好評であった。

本部宿舎については地元のホテルが早くから協力していただき、直接交渉し計画を進めた。大会の協賛企業である配宿センターが立ち上がった後は配宿センターを通じての交渉となったが、様々な制約があり、当初行った宿舎との交渉内容と変わり、対応に苦慮したこともあった。

行動役員の宿舎も当初は本部と同じ宿泊施設で計画を進めたが、予算削減のため、隣接する四日市市の公営施設である「四日市少年自然の家」となった。この施設は以前より、三重県高体連登山部の大会や、三重県山岳連盟の行事でお世話になっている施設であり、その利用には献身的に対応していただき、大変助かった。

3回の安全対策会議、拡大事務局会議も同じ施設で行った。

クリーニング

町内のクリーニング業者に打診したところ、

登山行動終了日の夕方に回収、翌朝配達という厳しい条件であったにもかかわらず受諾いただいた。宿舎には回収、配達の業務をお願いし、これも快諾いただき、関係者の協力で円滑に進んだと感謝申し上げる。

幕営地

100 張の幕営エリアと、荒天時の避難施設、入浴施設への移動、計画輸送バスの待機場所を条件として選考を行った。当初は町内にあるグラウンドと、体育館、プールを有する体育施設を検討したが、市街地近くにあり、夜間の気温が高いことが予想されたため、少しでも標高が高く、緑の多い「三重県民の森」に決定した。三重県民の森「つどいの広場」は広い芝生の広場で、十分な幕営エリアを確保でき、隣接する「ふれあいの館」に幕営地本部、救護室を設けた。幕営エリア東に隣接する地区の所有地を整備し、監督用幕営地とした。荒天時に避難できる施設が徒歩圏内になく、約 3.6 km離れた小学校を避難施設として設定し緊急時のために、輸送バスを確保しておいた。入浴施設は「菰野町保健福祉センターけやき」の浴場をお借りし、計画輸送バスの一部を往復させ、選手監督の入浴を行った。これらの幕営地整備には地区の方々をはじめ、菰野町体育協会、菰野町役場の方々に草刈りや歓迎のぼり設置などご協力いただき、感謝申し上げます。

なお、設営補助員の宿泊は知識審査会場となった菰野高校をお借りして対応した。

計画輸送

全国高体連の全国大会経理組織規程、菰野町の規定、三重県実行委員会の指示により、実施設計金額が 100 万円を超えるため、指名競争入札により、業者を決定した。登山コース決定後、前年秋より、輸送担当者を中心に輸送計画を作成し、それをもとに仕様書を作成した。大会当日にスケジュールやコースの変更も大いにあり得ることから、仕様書にはそのような場合も対

応できるような内容にした。業者決定後、打合せを行い、想定される送迎時刻、乗降場所を提示し、余裕のある運行計画を依頼した。実際に登山行動 3 日間共にコース変更となり、直前の変更を伝えたにもかかわらず、柔軟に対応していただき、選手監督の皆さんに大きな影響もなく輸送を終えられたことに感謝を申し上げます。

役員輸送は選手輸送と同様の借り上げバスでの輸送がメインであったが、審査員や一部の別動隊の役員はレンタカーでの輸送で対応した。緊急時の輸送や一部の役員輸送には役員の自家用車を使用したこともあった。大会本部に輸送役員のスペースを設け、当日の行動予定に加え、実際の状況を把握しながら、綿密な輸送計画を立て、臨機応変に対応できる体制をとったことは多いに有意義であった。

御在所ロープウェイ

大会 4 日目には御在所ロープウェイの乗車を当初より計画し、協力依頼を行った。御在所山はロープウェイを利用した観光登山にも力を入れており、今年 6 月より大規模改修が行われ、7 月にリニューアルオープンしたばかりであった。真新しいゴンドラに乗り、自分たちがたどってきた登山コースを最後に確認できたことだろう。また、ロープウェイの乗車だけでなく、解団式の会場や事前のコース調査などにもご協力いただき感謝申し上げます。

道路使用

開会式会場から知識審査会場への往復、大会 3 日目、4 日目にはコースの一部に一般道を使用することから、管轄する四日市西警察署と事前に協力依頼を行い、下記の対応を行った。

8 月 3 日 開会式会場(菰野町町民センター)横の道路横断：警察署員が立ち会い、参加者を安全に横断できるよう横断用信号を手動操作していただいた。

8 月 5 日、6 日 湯の山温泉街の一般道の通行に際し、次のことを行った。

- ・大会の周知、注意喚起のため、事前告知看板を設置した。
- ・道路上に役員を配置し、注意喚起を行った。
- ・8月5日 国道477号（鈴鹿スカイライン）の横断地点では、大会役員と、警備会社に委託した交通誘導員2人を配置し、自動車を安全に停車したことを確認してから選手を横断させる対応を行った。
- ・道路使用許可を四日市西警察署に申請した。
- ・四日市建設事務所に告知看板設置の為、道路占用許可申請を行った。

医療

医師を探していたところ、今回お願いした三浦先生が三重県山岳連盟の前理事長と御在所山でお会いし、協力を打診。その後、国際山岳医、国際山岳看護師の方々に参加いただき、山中での救護体制は万全になったと思われる。また、事前に熱中症対策の文書を予報に掲載し注意喚起を行う、行動役員の訓練に講師として参加いただくなど、きわめて献身的にかかわっていただき安全な登山大会運営に貢献していただいた。

幕営地の看護には地元 菰野厚生病院といなべ総合病院より3日間にわたり2人派遣いただき、幕営地での対応にあたっていただいた。幕営地では、多くの参加者の対応にご尽力いただき、多忙であった一方、参加者は手厚い救護体制でその後の行動に安心を感じたことと思われる。

開閉会式では養護教諭2人が待機していたが、急を要する事案はほぼ無く、無事に終えられたことを嬉しく思う。

安全対策会議

3回行ったが、すべて、大会当日の行動役員宿舎となった四日市少年自然の家を本部として実施した。

第1回 平成29年10月21日～22日

台風襲来の為、21日に登山コースの一部の視察を行ったが、22日は施設内で救急対応の講習

を短時間行い、午前中に解散とした。

第1回は前年度のため、大会運営費の対象外であり、菰野町と交渉し、平成29年度予算として確保していただき実施した。

第2回、第3回は当該年度の実施であるため、大会運営費として予算化を行い実施した。役員の輸送のバスやレンタカーの借り上げを予算化することができず、総務役員の自家用車での輸送を行い、かなりの負担をかけたことを心苦しく思う。

開閉会式会場

選手監督、大会役員を収容できる700人規模の会場を検討したが、収容できる施設は菰野町内では体育館しか該当するところはなく、仮設の冷房での対応を検討したが、予算的にかなり高額となり、断念した。会場となった菰野町町民センターは座席数が483席で、選手監督だけでほぼ満席であった。行動役員、補助員は別室やロビーに映像モニターで式典映像を中継し対応した。

知識審査会場

開閉会式会場ではすべての知識審査を行える部屋が確保できなかったため、会場より徒歩5分程度の菰野高校の教室等を会場として実施した。

大会地図・審査地図

先催県からの申し送りもあり、国土地理院に依頼し大会山域の地形図の修正を行った。平成28年12月に依頼を行い、調査手順の確認とGPS機器をお借りした。この年の冬は積雪が多く、コースの正確な位置情報を集めるためには雪解けを待ち、春以降の調査となった。

この修正作業では、コースデータを送付し、そのデータに基づく再確認の調査を行った後、修正が行われた。実際の地図作成にあたっては地図作成の仕様書を作成、三重県内の地図作成業者を選定し、作成作業を行った。

仕様書では大会地図の印刷以外に、地図データの作成、審査地図のデータ作成・提供を地図データの編集可能な条件を付けて記載した。数回の校正作業を経て、地図は完成した。

大会地図印刷は納品・配布の時期を考えると前年度予算での執行となる。三重県実行委員会に事前より交渉を行い、平成 29 年度予算に計上していただき、平成 30 年 3 月納品となった。

審査地図は平成 30 年 3 月に完成したデータをもとに、最終的な確認を経て印刷を依頼した。コースはスタート位置の修正、自治体の境界線を印刷しない等の変更があったため、6 月末に最終校正を行い、印刷・納品となった。

参加申込書

自分のエクセル操作がおぼつかないことが一番の要因であるが、できるだけシンプルな申込書を目指した。昨年まで使われていたファイルは何年か前に作られたものを引き継がれていたものである。今まではマクロ操作により、実行委員会送付ファイルが作成され、そのファイルで申し込み事務作業を行っていたが、過去の担当者に確認したところ、活用されていない部分も多くあるとのことから、思い切ってシンプルに作成し、データを吸い出す部分をまとめて、その後の事務作業の効率化を図った。

公開した当初はこちらで設定した関数の間違いもあり、迷惑をおかけしたが、その後はファイル自体の不具合はほとんどなかったように思う。

ただ、昨年までとファイルの提出方法が異なったため、従来のやり方がないとの問い合わせや、指定以外の方法で送付する監督がいて、一部混乱した。また、エクセルのバージョンに影響されにくいよう、できるだけシンプルに作成したが、作成者のパソコン環境によってはファイル自体が変わり、こちらで作業できない事例も何件か発生した。

予報の編集～大会プログラム作成

平成 28 年夏ごろより、執筆予定者に打診を行い、事前調査を始めた。平成 28 年 9 月の三重県高体連登山部実行委員会で執筆予定者候補を挙げ、執筆をお願いした。多方面の方々に執筆をお願いしたが、表記の統一に苦勞し、数回の予報編集委員会で統一し、最終的な校正作業まで、その苦勞は絶えなかった。

予報 2 号は、実際の参加者の情報と、大会運営が中心的な内容となるため、参加校や宿舍等が決まらなると編集できない部分が多く、申し込み締め切り以降の短期間での編集となり、多忙を極めた。さらに宿舍決定が大会直前のため、それに伴う計画輸送バスの配車がそれ以降でないと不可能で、予報 2 号と大会プログラムにその情報を掲載することが不可能であった。

大会プログラムについてはその内容は予報 1 号、2 号と重複する部分が多く、先催県のプログラムを参考にしながら、予報 2 号と並行して作業を進めた。

専門委員長隊

専門委員長隊の経験が長い近隣の専門委員長の先生にほぼすべての対応をお願いし、運営していただいた。宿泊施設は配宿センターとの交渉で、専門委員長隊の例年の規模を伝え、ちょうどそれに見合う格好の宿泊施設を確保することができた。輸送について、過去はバスの手配をしていた時期もあったが、最近では参加者の自家用車乗合で移動を行っており、今年もそれになった。大会運営としては、委員長隊の手配も含めた運営を行うのが理想と思われるが、その余裕もなく、担当の役員、参加いただいた専門委員長の皆様の協力に感謝申し上げます。

受付(歓迎袋)

受付係は配布物の整理(歓迎袋へ封入作業)、受付会場の設営、受付業務と大変な仕事をお願いした。高体連登山部の顧問と地元菰野高校の教員+補助員の皆さんの献身的なご協力で大過

なく終えることができた。参加者がまず訪れるところのため、多岐にわたる参加者の対応、とりわけ参加者や報道機関からの問い合わせにはずいぶんお骨折りいただいたことと感謝申し上げます。

レプリカ

先催県の前例を参考にし、地元特産品でのレプリカ作成を検討した。菰野町、四日市市では古くより陶器（ばんこ焼）が特産品となっており、菰野町内にある陶器業者を紹介いただき、作成を依頼した。約30cm角の皿に大会ポスターの原画をデザインし作成した。三重県から作成金額が設定されており、この金額を提示し、作成したが、後から考えると、ずいぶん無理を聞いていただいたようであった。

ID

参加者の区分により、色を設定し、名前等が入っていない台紙を印刷し、その後、差し込み印刷で名前、所属を印刷した。昨年度の申し送りから、台紙を多めに用意し、開会式会場にプリンターとパソコンを持ち込み、修正や変更に対応できる体制をとった。

歓迎のぼり

町内の小学校、中学校に菰野町教育委員会を通じて歓迎のぼりの作成を依頼した。小学4年生から中学3年生までのクラスに2枚ずつ割り当てを行い、歓迎の内容を絵や文字で表現し、幕営地に設置した。どれも子供たちの創意工夫が素晴らしく、参加校を調べ、その地域や学校の特徴を盛り込んだものであった。参加校にも好評であり、閉会式の後で配布したが、そののぼりに感激している参加校もあった。

おもてなし

菰野町内の食品業者の協賛により、8月4日に地元の特産品である「まこも」を原料とした麺類、8月5日は「草もち」を登山行動後に提

供した。また、昭和48年に三重で高校総体登山大会が行われた際に優秀校をとった桑名高等学校山岳部OBから「アイスクャンディー」の差し入れもいただいた。暑い中、冷たい麺類やアイスクャンディーは参加者に大変好評であった。また、このおもてなしには菰野町の方々が献身的に協力していただいた上に、協力していただいた方々も参加者との触れ合いがとても良い体験であったと伝えられ、とても嬉しく思う。

3. 最後に

7年前に自分が専門委員長を拝命した際、すでに、自分の仕事として、この全国高校総体の運営について逃げようのない状況であったはずである。決して安易に受けたつもりではなかったが、人を集め、大きなイベントを運営することがこれほどまでに難しいとは思っていなかった。元来、行き当たりばったり、その場しのぎで生きてきた自分には入念な計画から、危機管理、役員への指示などとても十分できたと言えない。参加者をはじめ、役員、関係機関や業者、大会に係るすべての方々に多大なるご迷惑をおかけしていることは準備段階からひしひしと感じていた。大会が終わった今でさえ、その反省が自分の気持ちの中に強く残っている。

大会は献身的な方々のご協力で、自分が不十分だったところを十二分にこなしていただいた。何もないところから、それぞれの役員の方々が機転を利かせ、うまく大会運営をしていただいたことはただただ感謝でしかない。

混乱が生じ、ご迷惑をおかけしたことは自分の責任であり、お詫び申し上げます。ただ、大会を大過なく終了することができましたことは大会にかかわった方々のお蔭と心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

18 専門委員長記録

専門委員長対応 中村 訓
三重県立久居農林高等学校

1、日程及び内容

● 8月2日(木) 12:30～15:00

全国高体連登山専門部専門委員長会議

(菰野町町民センター)

15:30 監督・リーダー会議

18:00 結団式

● 8月3日(金) 10:00～12:00

開会式を菰野町町民センター2階研修室で見学

登山隊編成、知識審査、

コース隊編成などを視察。

14:00～15:30 委員長シンポジウム①

15:30～17:00 幕営地へ移動し、遠くからテント設営、生活技術などを視察する。

※栃木の事故に関して、中央総務委員長の大西先生から自分の意見を交え、総括に近い報告がありました。事故の原因等の現象面だけを捉えるだけでなく、その背景を通じ、今後の活動の在り方などが話し合われました。先生達の熱い気持ちが伝わるシンポジウムであった。

● 8月4日(土)

三池岳・八風峠 コース視察

宿舎 5:30===3台に分乗して移動

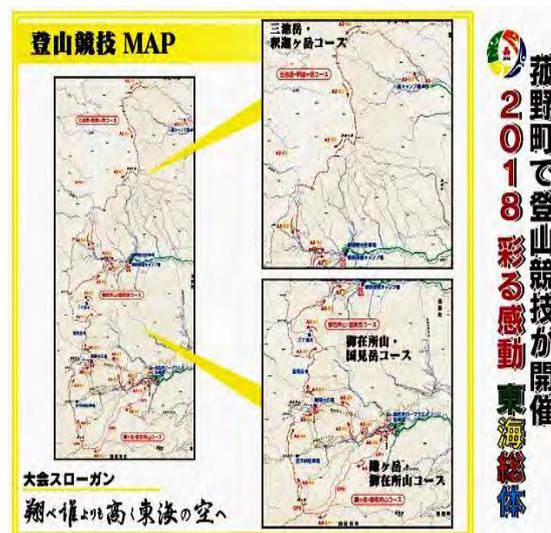
6:10 八風キャンプ場～八風谷～8:00～12:00

八風峠(選手激励と昼食)～三池岳～

～八風尾根～14:00 八風キャンプ場==

15:00～16:30 専門委員長シンポジウム②

※昨日のシンポジウムに引き続き、高校山岳部の活動を今後どのように発展させていくべきかが話し合われました。特に、全国的に顧問の高齢化が顕著の中、若い顧問の先生をどのように増やし、登山技術、経験などを引き継いでいくのか、議論されました。今、登山活動を通じて若い顧問の先生達に引き継いでいくことが重要であることがわかった。



御在所山



八風峠にて

● 8月5日(日) ブナ清水往復 コース視察
 宿舎 8:00===3台に分乗して移動
 9:00～ 朝明茶屋～伊勢谷小屋(選手激励)
 終了後 宿舎にてフリー 周辺散策

※宿泊のホテルが、丁度ベランダ付きの50畳ぐらいの広さのある居間を自由に使えたので、皆で酒を持ち寄り、小宴会を毎晩行えました。

普段表に出せない、各県の高校山岳部の置かれている状況や諸問題等、貴重な情報交換の場となり有意義な時間を過ごせた。



国見峠(集合写真)

● 8月6日(月) 中道・国見峠道 コース視察
 宿舎 5:00===徒歩で裏道へ
 裏道～国見峠～御在所山 朝陽台で選手激励
 朝陽台から御在所山頂往復見学
 ロープウェイで湯ノ山温泉へ下山
 駐車場にてA, B隊解散式視察
 宿舎へ移動
 宿舎 ホテル金花水月 別館三鈴荘
 (三重県三重郡菟野町大字菟野 8625)



朝陽台にて(集合写真)

2、委員長隊の運営に当たって

今年度の大会は、三重の中村、愛知の渡辺、2名で担当しました。特に、三重の中村が未経験でしたので愛知の渡辺さんには負担をかけました。

2人でコースや宿舎の下見、事前打ち合わせ等も行いましたが、当日はいろいろ不測の事態も生じ、臨機応変対応をせざるを得ず、苦労もありました。大会本部や運営役員との密な連携の重要性も改めて痛感した次第です。



御在所ロープウェイ

19 開催までの経緯

年	月	日	内容
15	12	5	全国高体連理事会において平成23年度以降の全国高等学校総合体育大会をブロック開催することが決定
23	5	24	全国高体連理事会において、平成40年度までの開催ブロック(案)が決定され、平成30年度が、東海ブロック開催となる
		24	全国高等学校体育連盟理事会で、平成30年度全国高等学校総合体育大会の東海ブロック開催が決定
26	4	21	全国高等学校体育連盟から平成30年度全国高等学校総合体育大会の開催について正式依頼
	5	16	三重県内市町へ平成30年度全国高等学校総合体育大会について説明
			三重県内競技団体へ平成30年度全国高等学校総合体育大会について説明
	6	21	第4回東海4県準備委員会において、平成30年度全国高等学校総合体育大会の開催承諾書を作成
	8	6 ~ 12	第58回全国高校総体登山大会(神奈川県・箱根町)視察
		28	全国高等学校体育連盟へ東海4県の開催承諾書を取りまとめ提出
27	3	11	平成30年度全国高等学校総合体育大会の三重県内で会場となる市町を内定
	4	1	三重県教育委員会事務局保健体育課内に全国高校総体準備班を設置
	5	15	全国高等学校総合体育大会三重県準備委員会設立 第1回三重県準備委員会
	6	26	三重県準備委員会第1回競技専門委員会
		27	三重県高体連登山専門部 第1回登山コース検討(鈴北岳、御池岳、藤原岳)
	8	5 ~ 11	第59回全国高校総体登山大会(滋賀県・高島市)視察
	10	10	三重県高体連登山専門部 第2回登山コース検討(鈴北岳、御池岳、藤原岳)
		11	三重県高体連登山専門部 第3回登山コース検討(鈴北岳、御池岳、藤原岳)
		23	三重県準備委員会第2回競技専門委員会
	11	20	第2回三重県準備委員会
		21	三重県高体連登山専門部 第4回登山コース検討(三池岳、釈迦ヶ岳)
	12	2	全国高体連会長が大会愛称、スローガン、シンボルマーク及び総合ポスターを承認
		25	大会愛称、スローガン、シンボルマーク及び総合ポスター図案最優秀賞受賞者表彰式
28	1	15	三重県準備委員会 第3回競技専門委員会
		25	平成30年度全国高等学校総合体育大会三重県実行委員会を設立 第1回三重県実行委員会
	2	6	三重県高体連登山専門部 第1回実行委員会(日程案の確認、コース・幕営地の決定、役員配置案の検討 他)
		22	三重県高体連登山専門部 実行委員会・菟野町打合せ(登山コース、輸送、関係諸機関への協力依頼 他)
	3	8	三重県高体連登山専門部 第2回実行委員会(日程案、コース、幕営地の確認、使用施設、役員配置等の検討 他)
		20	開閉会式会場打合せ(菟野町町民センター 施設設備の確認 他)
		30	三重県高体連登山専門部 実行委員会・菟野町打合せ(幕営地、開閉会式会場、本部宿舎、登山コースについて 他)
	4	1	三重県教育委員会事務局に全国高校総体推進課を設置
		15	競技種目別大会運営費試算第1回資料提出
		29	三重県高体連登山専門部 第5回登山コース検討(雲母峰、鎌ヶ岳、御在所山)
	5	6	三重県高体連登山専門部 実行委員会・菟野町打合せ(幕営地、開閉会式会場、登山コース、関係機関への協力依頼 他)
		15	三重県高体連登山専門部 第6回登山コース検討(三池岳、釈迦ヶ岳)
		18	三重県高体連登山専門部 第3回実行委員会(役員配置案、コース検討日程案、関係諸機関への協力依頼 他)
		30	三重県高体連登山専門部 実行委員会・菟野町打合せ(幕営地、開閉会式会場、登山コース、関係機関への協力依頼 他)
	6	11	三重県高体連登山専門部 第7回登山コース検討(馬の背尾根、鎌ヶ岳、武平峠)
		25	三重県高体連登山専門部 第8回登山コース検討(御在所山(中道コース)、朝明溪谷)
		27	三重県高体連登山専門部 実行委員会・菟野町打合せ(作業進捗状況の確認 他)
		30	三重県実行委員会 第1回競技専門部会
	7	9	三重県高体連登山専門部 第9回登山コース検討(御在所山(中道コース、裏道コース))
	8	4 ~ 10	第60回全国高校総体登山大会(岡山県真庭市、新庄村)視察
	9	10	三重県高体連登山専門部 第10回登山コース検討(御在所山(中道コース)、朝明溪谷)
		23	三重県高体連登山専門部 第4回実行委員会(岡山大会視察報告、全国高体連視察、登山コース・幕営地・予報について 他)
		24	三重県高体連登山専門部 第11回登山コース検討(三池岳、釈迦ヶ岳)
		25	三重県高体連登山専門部 第12回登山コース検討(馬の背尾根、鎌ヶ岳、武平峠)
	10	3	三重県高体連登山専門部 実行委員会・菟野町打合せ(岡山大会視察報告、コース・幕営地・予報について 他)
		11	三重県高体連登山専門部 実行委員会・菟野町打合せ(全国高体連登山部会場地視察について)
		21	三重県実行委員会 第2回競技専門部会
		28	三重県高体連登山専門部 第5回実行委員会(全国高体連登山部会場地視察、登山コース、輸送計画、使用施設について 他)
11	4 ~ 6		全国高等学校体育連盟登山専門部による会場地視察
		22	三重県高体連登山専門部 実行委員会・菟野町長と面談
12	7		平成30年度全国高等学校総合体育大会登山大会菟野町準備委員会設立総会・第1回総会
		12	三重県高体連登山専門部 実行委員会・国土地理院中部地方測量部 協力依頼
		28	三重県高体連登山専門部 第6回実行委員会(全国高体連登山部会場地視察報告、役員配置案、役員宿舎 他)
29	1	13	競技種目別大会運営費試算第2回資料提出
		25	三重県高体連登山専門部 実行委員会・菟野町打合せ
	2	26	三重県高体連登山専門部 実行委員会・菟野町・菟野町商工会議所会長協賛依頼
		21	三重県実行委員会 第3回競技専門部会
	3	6	三重県高体連登山専門部 実行委員会・菟野町打合せ(関係機関との交渉、使用施設、登山コース 他)
		6	三重県高体連登山専門部 実行委員会・菟野町・自衛隊 協力依頼
		21	第2回三重県実行委員会
		29	三重県高体連登山専門部 第7回実行委員会(救援体制(医師・自衛隊)、予算、大会地図作成、東海大会について 他)
	4	9	三重県高体連登山専門部 第13回登山コース検討(馬の背尾根、鎌ヶ岳、武平峠)
		11	三重県高体連登山専門部 実行委員会・菟野町・名古屋市立大学 三浦裕氏 協力依頼
		28	三重県実行委員会 第1回競技担当教員・会場担当職員等合同会議
	6	2	平成30年度全国高等学校総合体育大会 菟野町実行委員会設立総会、第1回総会
		3	けやきフェスタにて全国高校総体登山大会のPR
		28	三重県高体連登山専門部 実行委員会・菟野町打合せ
		30	三重県実行委員会 第4回競技専門部会

年	月	日	内容	
29	7	3	競技種目別大会運営費試算最終資料提出	
		3	菰野厚生病院打ち合わせ	
	8	28 ~ 8/3	第61回全国高校総体登山大会（山形県山形市、西川町）視察	
		19	燈火まつりにて全国高校総体登山大会のPR	
	10	21	三重県高体連登山専門部 第8回実行委員会(山形大会視察報告、大会コース、式典計画、予算案 他)	
		22	名古屋市立大学 三浦裕氏（医師） 打ち合わせ	
		25	三重県実行委員会 第2回競技担当教員・会場地担当職員等合同会議	
		8	三重県民の森 全国総体登山大会PRイベント(クライミング体験会)	
		15	カモンカハーフマラソン 全国総体登山大会PRイベント(クライミング体験会)	
		20	三重県実行委員会 第5回競技専門部会開催	
		21 ~ 22	第1回安全対策会議 台風襲来により計画大幅変更	
	12	19	三重県実行委員会 第3回競技担当教員・会場地担当職員等合同会議	
30	1	4	三重県高体連登山専門部 予報編集委員会	
		5	輸送打ち合わせ(桑名高校 西田先生)	
		19	名古屋市立大学 三浦裕氏 打ち合わせ	
	2	30	配宿センター (JTB) 打ち合わせ	
		2	三重県高体連登山専門部 第9回実行委員会(予報、大会地図、役員配置 他)	
		6	自衛隊打ち合わせ(派遣隊員の構成、コース視察について 他)	
	3	13	大会地図 打ち合わせ	
		16	三重県実行委員会 第4回競技担当教員・会場地担当職員等合同会議	
		23	協賛企業説明会	
		23	三重県高体連登山専門部 実行委員会・菰野町打合せ	
		26	大会地図 打ち合わせ	
		6	三重県実行委員会 第6回競技専門部会開催	
		31	登山道整備(鎌ヶ岳コース登山口付近)	
		4	1	自衛隊 コース視察
			4	三重県高体連登山専門部 予報編集委員会
		5	7	至学館大学 三浦裕氏 打ち合わせ
	10		菰野消防打ち合わせ(救急時対応について)	
	20		三重県高体連登山専門部 第10回実行委員会(役員配置案、輸送計画、救助訓練、今後の準備日程 他)	
	22		菰野町イベント(こもガク)にて全国高校総体登山大会のPR(クライミング体験)	
	25		四日市西警察署交通課打ち合わせ(道路使用許可、交通整理について他)	
	26		三重県実行委員会 第5回競技担当教員・会場地担当職員等合同会議	
	26		菰野町実行委員会 第2回総会	
	28 ~ 30		第2回安全対策会議	
	6		三重県民の森 全国総体登山大会PRイベント(クライミング体験会)	
	9		大会参加申込書三重県実行委員会へ提出	
	12	全国総体登山大会PRイベント(武平峠~御在所山登山)		
	14	大会参加申込書三重県実行委員会ホームページに掲載		
	15	菰野厚生病院打ち合わせ		
	15	服飾 発注		
	21	三重県民の森 幕营地確認		
	23	協賛企業 会場地視察		
	31	大会地図発送		
	6	1	三重県高体連登山専門部 第11回実行委員会(行動形態、通信、役員・補助員配置、輸送計画 について 他)	
		2	菰野消防署 救急・搬送訓練	
		6	三重県実行委員会・自衛隊 調印式	
		7	菰野商工会 会長挨拶(協賛依頼)	
		8	三重県高体連登山専門部 第12回実行委員会(行動形態、通信、役員・補助員配置、輸送計画 について 他)	
		12	予報第1号 三重県実行委員会ホームページに掲載	
		19	三重県実行委員会 第6回競技担当教員・会場地担当職員等合同会議	
		22 ~ 24	拡大事務局会議	
		29	大会参加申し込み締め切り	
		30	三重県民の森 全国総体登山大会PRイベント(ナイフの使い方講座)	
	7	14 ~ 16	第3回安全対策会議	
		16	防災航空隊、菰野消防署 合同搬出訓練	
		20	予報第2号 三重県実行委員会ホームページに掲載	
		31	大会本部設営	
		8	1	全国高体連登山専門部 常任委員会 他
	2		全国高体連登山専門部 専門委員長会議	
	2		大会受付	
	2		監督リーダー会議	
3	開会式、審査			
4	登山行動(三池岳コース)			
5	登山行動(ブナ清水コース)			
6	登山行動(御在所山コース)			
7	閉会式			
27	三重県高体連登山専門部 第13回実行委員会(大会総括、次年度部報、大会報告書について 他)			
30	三重県実行委員会 自衛隊訪問(お礼)			
31	三重県実行委員会 第7回競技専門部会			
9	13		三重県実行委員会 第7回競技担当教員・会場地担当職員等合同会議	
	28	後催県との引継会議		

大会感想文

【A隊 班編成表】

		都道府県名	学校名
1 班		青森県	青森県立八戸高等学校
		山形県	山形県立村山産業高等学校
		神奈川県	神奈川県立麻溝台高等学校
		岐阜県	岐阜県立飛騨神岡高等学校
		大阪府	大阪府立北野高等学校
		徳島県	徳島県立城ノ内高等学校
		高知県	土佐高等学校
		福岡県	福岡県立福岡高等学校

		都道府県名	学校名
4 班		秋田県	秋田県立秋田南高等学校
		埼玉県	埼玉県立和光国際高等学校
		千葉県	千葉県立千葉東高等学校
		山梨県	山梨県立北杜高等学校
		静岡県	静岡県立富士高等学校
		岡山県	岡山県立岡山工業高等学校
		佐賀県	佐賀県立佐賀工業高等学校
		長崎県	長崎県立長崎北陽台高等学校

		都道府県名	学校名
2 班		北海道	北海道旭川東高等学校
		岩手県	岩手高等学校
		福島県	福島県立福島東高等学校
		三重県	三重県立四日市工業高等学校
		京都府	京都府立桃山高等学校
		島根県	島根県立松江工業高等学校
		香川県	香川県立丸亀高等学校
		大分県	大分県立竹田高等学校

		都道府県名	学校名
5 班		新潟県	新潟県立長岡工業高等学校
		長野県	長野県大町岳陽高等学校
		愛知県	愛知県立旭丘高等学校
		滋賀県	滋賀県立守山高等学校
		鳥取県	鳥取県立境港総合技術高等学校
		広島県	修道高等学校
		山口県	山口県立下松工業高等学校
		鹿児島県	鹿児島県立鶴丸高等学校

		都道府県名	学校名
3 班		宮城県	宮城県多賀城高等学校
		茨城県	茨城県立日立工業高等学校
		東京都	早稲田大学系属早稲田実業学校高等部
		石川県	石川県立金沢泉丘高等学校
		三重県	三重県立神戸高等学校
		和歌山県	和歌山県立橋本高等学校
		愛媛県	愛媛県立松山中央高等学校
		熊本県	熊本県立人吉高等学校

		都道府県名	学校名
6 班		栃木県	栃木県立矢板東高等学校
		群馬県	群馬県立前橋高等学校
		富山県	富山県立富山高等学校
		福井県	福井県立敦賀高等学校
		兵庫県	兵庫県立神戸高等学校
		奈良県	奈良県立郡山高等学校
		宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校

A 隊（男子）選手感想文

〈1 班〉

青森県 八戸高等学校

登ったぞ。登頂者、八高山岳部員。8月6日17時14分22秒。先日の8月3日より、いつものチームメイト3人と監督とわしの5人で三重県の鈴鹿山系にある御在所山を登ったぜ。今回は四泊五日の長丁場なんで、イオン・ザ・BIGでOS1と行動食を買ってから、結構日差しが強いところなんで、そこでしこたまサンプリングのポカ리를飲んでから出発したんだ。4人で塩分チャージタブレットを分け合いながら登山服だけになり、持ってきた地図と記録書を3回ずつ確認しあった。しばらくすると汗腺がひくひくしてくるし、食欲が昼飯を求めて腹のなかでぐるぐるしてくる。装備審査員のお兄さんを待たせながら、音の出ないラジオをしばいていると音がスピーカーからドバーッと出てきたそれと同時にわしもチーム名ともマッチを出せた。もう顔中冷や汗まみれじゃ。4人で汗を拭いながら、汗まみれの服を絞り合い、お互いの傷を舐め合ってブナ清水で乾杯したりした。あたまらねえぜ。しばらく登りまくってから2日ぶりの風呂に入るともう気が狂うほど気持ちええんじゃ。メンバーと監督がカップルと一つのゴンドラにいたら、高所のせいもあり空気がずるずるして気持ちが悪い。宿に戻るともうめちゃくちゃに興奮し、夕食は2回もおかわりした。もう一度行きたいぜ。やはり大勢で登山すると最高だぜ。こんな変人部員と山登りしないか。ああ早く歓喜にむせようぜ。本州の北端で会える奴なら最高だな。八甲田大岳は1,584m、岩木山は1,624mだ。青森の山を登りたい奴。至急来てくれや。登山服姿のまま登頂して、思いっきり楽しもうや。

八高男子山岳部はインターハイ出場を果たし、地区大会にはない良い経験を得ることができた。そこに歓喜すると同時に。全国の強豪が

彼らの徹底することを学ばせてもらったことや運営陣の猛暑への対応、そして鈴鹿の山々へ非常に感謝している。



写真提供 P&P 浜松

山形県 村山産業高等学校

今回私は、自然観察と読図を担当しました。自然観察のテストでは、事前に学習したおかげで解くことができよかったです。読図では、下見の時に確認した地点が出て改めて下見の大事さを知りました。下見ではCP2までしか行かなかったの、大会で鎌ヶ岳に登れなかったのが心残りです。機会があったらこの鈴鹿の土地にまた訪れ、鎌ヶ岳に挑戦したいです。山行が短縮され、本来のコースが変更されましたが、楽しい大会になって良かったです。

（3年生 安藤 海里）



私は救急課題テストと記録をしました。救急のテストは去年の冬から勉強しており、東北大会でもテストをしました。東北大会のテストではあまり良い結果が残せず悔しかったので、めちゃくちゃ勉強と模試をしました。そのおかげで今回のテストでは良い結果が出せました。記録では下見の時に書いたコースの記録と同じで良かったです。今大会は楽しかったので、来年も出てみたいです。（2年生 木村 虎成）



今回の三重インターハイでは私は、気象と読図を担当しました。気象のテストと共通のテストでは、1.9と納得のいく結果ではなく、悔いの残る内容だったので、次は絶対に勉強漏れがないようにして気象、共通ともに満点を取れるよ

うにしたいと思います。また来年の宮崎インターハイでは今回学んだことを活かしていきたいです。

(2年生 赤塚 亮太)



今回私は、天気図を担当しました。1年生ながらインターハイに出られたのはとてもうれしかったです。テストは3.6点と目標としていた点数よりも0.6点高かったのでうれしいです。次の大会では天気図だけでなく、他のことでも活躍できるようになりたいです。

(1年生 高橋 朱利)

神奈川県 麻溝台高等学校

私たち神奈川県立麻溝台高校は、昨年、全国大会出場を逃してしまい、今年こそはという思いで予選に臨み、見事全国大会出場を決めたときはとても嬉しかったです。しかし、メンバーが全員3年生ということもあり、皆忙しく思い通りに練習することができませんでした。そんな中でも放課後やすきま時間を活用し、何とか本番までに間に合わせることができました。



鈴鹿山脈では、ほとんどの山は標高が1,000m位なのにまるで3,000m位の山の稜線を歩いているような感じで、神奈川の山にはない別の山を登ることができてとても楽しかったです。特に印象に残っているのは、大会最終日の国見岳から見た御在所山の景色です。その景色は木の葉の緑色だけでなく、クライミングで有名な藤内壁の白い岸壁、そして全好山日とともえる晴天の空、どれもがそれぞれの景色を高めあって本当に美しく、山岳部に入ってよかったなと感じました。



審査の方では全員全国大会が初経験ということもあり、何個かミスをしてしまい、少し悔いの残るものになってしまいましたが、それを先輩たちに引き継いでいき、来年もまたこの麻溝台が神奈川県の代表として出場してられることをチーム一同願っています。



今回の全国大会では素晴らしい鈴鹿山脈の山々を登ることができ、とてもいい経験をすることができました。この経験は私たちの一生の誇りです。開催していただき本当にありがとうございました。



写真提供 P&P 浜松

岐阜県 飛騨神岡高等学校

まず、この大会を無事に終えてホッとしています。登山というのは死と隣り合わせの競技なので強くそれを感じます。こういうふうに見えるのは大会を円滑に進めてくださった役員ならびに関係者の皆様のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。当初の予定より変更が多々あった中、選手たちをまとめてこの大会を運営してくださったことに我々一同感謝しています。私は今年、3年生として最後のインターハイでした。今このようにして振り返ってみると、3年間というのは短いものだと感じます。私が1年生のとき、部活動を何にしようかと考えたときに、心の中で「今の自分を変えたい」と思っていました。そして、登山部という経験のない部活に入りました。1年生の時の大会では筆記の点数が悪く、また、私は足の状態がいつも良くないので、先輩や同級生の仲間のペースにもついていけず、とても迷惑をかけたのを覚えています。こんな自分が登山部という毎年全国大会に行く部活にいていいのか何度も考えたし、ひどいときには辞めることまで考えていました。しかし、もしここで仮に辞めたら自分は何も変わっていないなと感じ、自分で決めた以上最後までやり通そうと思い今日ま

でやってきました。2年生の時には自分の役割も色々増え、やるが多くなった中で、ミスをしてしまい悔しい思いをしたのを覚えています。そして、この最後の大会、自分は登山行動の面、そして筆記の面でもベストを尽くしたと思っています。しかし、ミスも多々あり目標の点数に行かなかったことを反省すると同時に、一緒に最後の大会を共にしてくれた仲間たちに申し訳ないという気持ちもあります。登山部の活動を通して3年間で培ったものは部活動を引退しても、今後、登山をする機会に生かしていきたいです。最後になりますが、この大会を運営、サポートしてくれた役員の方や自衛隊の方や顧問の先生方、そして何より3年間支えてくださった家族に感謝しています。ありがとうございました。



写真提供 P&P 浜松

大阪府 北野高等学校

閉会式。1～6位の高校を讃えつつ、インハイで過ごした4日間を振り返っていた。この4日間私達の力を全て出し切れたかと問われたらそうではない。もっとテント設営練習をしとけばよかった、もっと事前に装備確認を全員で集まって行えばよかった、もっと調理の練習をしておくべきだった、言い出すとキリが無い。後悔が沢山残る大会だった。閉会式後「タラレバ」で最大何点まで取れたかという意味の無い事もした。全力を尽くしてこの結果ならば受け入れられたらと思うが、大阪府大会でもしなかった有り得ないミスを連発してしまっていつも通りの力を出せない部分があった。ただそういうミスも含めて私達の今の実力なんだと感じた。た

だ閉会式後点数が返ってきて少し驚いたことがある。点数が90.1点だったことだ。順位が41位だったのはある程度想像していたが、9割も取れているとは思わなかった。驚きとともに少し嬉しかった。1位だった広島県の修道高校が満点だったので、その差は10点も無かったのである。今大会は高温によるコース短縮が行われたためかリタイアする高校が1校も無く、全体的に点数が高くなりあまり差がつかないからだと考えられる。ただその10点差もない接戦を勝ち抜くために1年生の時から厳しい練習を積み重ねている高校もある。だから10点差といっても数字以上の実力差があるはずだ。さらに私達はインハイ出場が決まってからも夏季講習等で全員が集合できる日が減多になかった。そのことを考えるとよく頑張ったなと自分達を褒めたいと思う。また勝敗関係なく全国の高校が一堂に会して4日間行動を共にしたことは、私達の今後の人生において非常に貴重な経験となった。班毎に交流会があり他校の選手と喋って色々なことを聞いたりとても密度の濃い有意義な時間だったと思う。悔しさも残るがこの大会に出場できて良かったと感じた4日間だった。



写真提供 P&P 浜松

徳島県 城ノ内高等学校

僕がこの5日間で感じたことは、御在所山を始めとするこの大会山城の山々が地元の人々に愛されていることです。特に御在所山では多くの人々が山頂に足を運び自然を満喫していることが印象的でした。このように地元の人々に愛される山だと、その地域に住む人々にとって大

切な存在になると同時に、その山が大切にされるきっかけとなり、人間と自然とが共生する環境が生まれるのだと思いました。

(3年生 武市 悠)



私は幸いにもこれが2度目のインターハイ出場となった。個性豊かな素晴らしいメンバーに恵まれ、ここまでこれたと思う次第だ。今回の大会の最大のキーポイントは如何に寝るかという点に尽きると思われる。暑いテントの中でじめじめするユニフォームには嫌気がさした。しかし改めてクーラーと布団のある環境で眠れることへの幸せを今、旅館で感じている。登山からは当然の幸せを強く感じさせてくれるとインターハイで気づけた。

(3年生 北野 優)



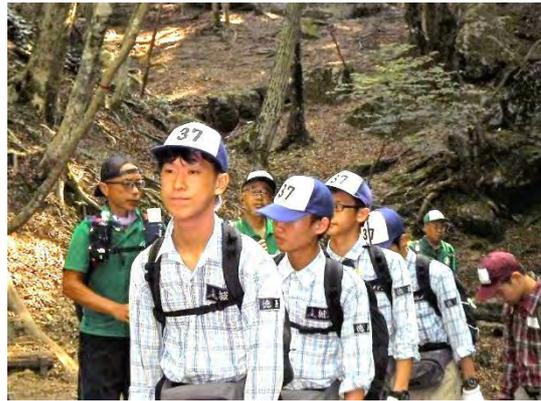
最初で最後のインターハイ出場はとても刺激的でした。御在所の美しい山景はもちろん、3日間のコース短縮や暑さで眠れなかったテントなど後世に語り継ぎたいものばかりでした。城ノ内高校の売りである交流会でのハリーポッターネタがややうけし、今回の調子の良さがうかがえた。交流会に命をかける我々メンバーはみな個性的で3年間一緒に登山してきてとても良かったと思います。

(内藤 勇魚)



3年生で念願のインターハイ出場を果たすことができた僕にとって、今回の東海総体は3年間の部活を締めくくるとても印象的な大会となった。連日の猛暑のせいでコースを短縮になったりして、体力的には余裕のあるものだったが、5日間という期間の長さはかなり苦しいものがあった。しかしインターハイ出場という人生においても最も印象深い思い出は、きっと忘れることのできないものになると思う。

(國重 俊輔)



高知県 土佐高等学校

高校生活最後の登山行動であろうインターハイを終えて感じたことは、山というものの楽しさとやり切ったという達成感です。

今回のインターハイでは県体や四国の何倍もの数のチームが来ていて驚きましたが、それ以上に「山」というもので、これほどの人とつながることができるのか、と一種の喜びを感じました。

最後になりましたが、登山部の活動にて色々な人と交流ができて本当に良かったです。

(3年生 CL 岡 竜生)



中学1年生の頃から6年間、登山部で良かったと思えました。最後は少し後悔の残る結果となってしまいましたが、それでもこのチーム4人で登れたことをとても嬉しく思います。来年は後輩に託して受験勉強を頑張ります!!

(サブリーダー 松本)



僕は中学3年生の時、他の部活から転部をして、今、この登山部に所属しています。その転部した理由は、チームプレー、仲間と協力することを何よりも重要とする登山部の姿に憧れたからでした。時に互いを責め合い、時に互いを励まし合う、そのようなチームでインターハイに出場し、戦うことのできたこと、とても嬉しく感じます。最後に今まで支えてくださった顧問、副顧問の先生、その他の人々、そしてチームのメンバー、本当に今までありがとうございました。(3年生 宮下)

◆
僕は去年に続いて2回目のインターハイ出場となりました。この競技は、100点を取ると無条件に優勝できる珍しい競技です。つまり、ミスをせずに普通にやれば優勝できるということです。ただ、普通通りにこなすことはとても難



写真提供 P&P 浜松

しく、多くは終わってから「ああしとけばよかった」と思います。今の僕達もその状態ですが、メンバーの中で唯一の2年生の僕には次があります。今回の悔しさを忘れず、来年この舞台に戻ってきます。(中野)

◆
長年の準備、そして大会運営をありがとうございました。選手の命を第一に考えてくださり感謝しております。

設営隊の高校生の皆さんも、こちらが水分補給を促すほどサポートしてくださった姿に心を打たれました。監督は釈迦ヶ岳と鎌ヶ岳には登れませんでした。ある本の一節のように「それはそこにある。それだけでいい。」そのような鈴鹿の山々でした。本当にありがとうございました。(利岡(監督))

福岡県 福岡高等学校

僕達にとってインターハイが最後の大会になりました。今まで数々の大会に参加してきましたが、インターハイはどの大会とも違ったもののように感じました。大会までの間、準備に追われ、このままで大丈夫なのか、という大きな不安が幾度となく襲ってきました。しかし同じ目標を持ち、それを達成するためにチームメイトと支え合って乗り越えることができました。

県大会の時よりも団結力が増し、お互いを信頼し合えるチームメイトはとても心強く、そのおかげで大会中も余裕を持って楽しむことができました。本当に感謝しています。

また、今大会はとても暑い中で開催されました。僕達の想像をはるかに超えた暑さでした。そのために三日間全て短縮コースとなりましたが、様々な姿を見せる鈴鹿の山は歩いていても楽しかったです。

このインターハイでは他では味わうことができない経験をさせていただき、大会全体を通して肉体的にも精神的にも大きく成長することができたと感じています。これまで一生懸命に活動してきて本当によかったです。この大会を支えてくださった方々や先生、他の部員、僕達を応援してくださった全ての方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

(3年 堤 優佑)



<2班>

北海道 旭川東高等学校

私は今回が最初で最後のインターハイでした。大会に向けて準備をしてきましたが、慣れない暑さに熱中症にかかり、3日目の登山行動は離脱となってしまいました。振り返ってみると2日ほど前から食欲がなくなるなどの兆候があり、事前に対処できたのではないかと悔しい思いでいっぱいです。今回のことで自分の体調と熱中症との関係がわかったので、今後の熱中症対策

に役立てたいです。

救護所の先生方や看護師さんにはとてもお世話になりました。落ち込んでいる私を励ましてくれたり、体調を気遣ってくれたり、とても魅力的な山の話聞かせてくれたりしました。そのおかげで翌日の登山行動には参加することができ、体力的にも精神的にも元気に登ることができました。今回のインターハイは辛い思いもりましたが、非常に貴重な経験ができて、本当に来れて良かったなと思いました。

(小田 拓諒)



暑さの中登る。これがどれだけ大変なことか痛感した。北海道の最高気温はたった33度。こちらの38.9度は異次元の世界。現に私のチームも体調不良者を出した。登りたくても登れない辛さも味わった。しかし最終日には晴れた御在所山に登れた。この1日は最高の日だった。眺めも時々吹く風も最高だった。(高田 権)



今回このインターハイ登山競技に参加して貴重な経験ができたと心から思う。正直、結果は満足いくようなものではなく、最初から最後まで楽しんで登ることができたのかと言われるれば肯定しがたい。それでも4人で無事に閉会式を迎えられて良かった。(高田 柊)



今回、47チーム×4人という大人数で登山したり、酷暑の下、3日間自然の中で過ごしたりするなど、インターハイならではの経験ができてとても嬉しいです。特に夜、明かりがついたたくさんのテントが並んでいる光景や、周りから多くの笑い声や話し声が聞こえる中での登山は、とても良い思い出となりました。

(加賀谷 勇太)



写真提供 P&P 浜松

岩手県 岩手高等学校

県高校総体から2ヶ月、東北大会での失敗を乗り越え、やってきた東海総体の地、三重。練習中ずっと言われ続けた「チーム力」。このチーム力がなければ大会4日間は乗り越えられないということは大会を通して感じました。課題テスト、天気図は個々の力かもしれませんが、山に入った時、設営や読図、記録など、1人ではできないし、チーム力でそれぞれ分担し、コミュニケーションが大切だなと思いました。また今大会では暑さによる変更がたくさんあり、その時その時の対応力も大切だったなと思いました。

ここからは大会中のことを1日ずつ振り返ります。

大会1日目、この日は、課題テスト、天気図、設営、炊事の審査があり、課題テストでは4人中2人が自信があり、2人が自信なしでした。設営では風にやられギリギリ、炊事はいつも通り落ち着いてできました。

大会2日目、この日は八風キャンプ場→お菊池→三池岳→八風峠→八風キャンプ場という短縮コースでしたが、読図、記録ともに満点。体力も歩行も自分の中ではよくできたと思いました。

大会3日目、この日は朝明茶屋キャンプ場→ブナ清水→朝明茶屋キャンプ場のコースで、コース短縮になりましたが、大好きなブナ清水まで行くことができてよかったです。

大会4日目、楽しみにしていたチーム行動がなくなり、御在所ロープウェイ駅→中道→朝陽

台→国見峠→国見岩→国見峠→朝陽台（ここからパーティー行動）でした。

2年生だけでの4年ぶりの出場。初めて感じた全国のプレッシャー。色々なことを学ぶことができ、とても良い体験となり、いい思い出になりました。来年の宮崎に向けて今から準備を進めていきます。色々な人にお世話になりました。本当にありがとうございました。



福島県 福島東高等学校

県大会が終わり、全国行きが決まった僕たち東高山岳部は行けることへの喜びと、失敗などへの不安でこの全国大会までの一か月を過ごしました。

そして下見のため7月28日から福島を出て、はるばる三重に行ってきた。ここから僕たちの11日間の長い戦いが始まったのだ。

下見が終わり、いざ大会。4人全員が未だ持つ不安と期待に胸を膨らませ夜を過ごした。いや、期待よりも不安の方が多かったかもしれない。なにせメンバーの中に誰も全国大会を経験したことがあるものがいなかったからだ。

そして開会式が終わり、第一の難所であるテスト、天気図が始まった。僕たちは全力を尽くした。少し安心したのも束の間、その後もテント設営、炊事審査が待ち受けていた。

テント設営は何度も練習してきたので、練習通りにやれば大丈夫、きつとうまくいく。誰もがそう思っていたが事件は起こった。張り綱がうまく解けなかったのだ。しかし落ち着いて迅速に対応し、時間内に終えることができた。

次の日は待ちに待った山行。が、高温のため

すべての山行が短縮された。これは嬉しいことであった。確かにこの暑さの中、山行をしたら確実に何人も熱中症で倒れると思った。

3年生の2人は最終日の山行が高校山岳部としての最後の山行になるので感慨深い参考になった。

色々あったがこの全国大会は一生に一度しか経験することのできないことであり、年を取った後でも記憶に必ず残る大切な思い出となった。後輩たちには是非来年の全国大会にも参加して、全国の様々な人たちと交流してもらいたいと思うところである。



写真提供 P&P 浜松

三重県 四日市工業高等学校

今回の大会は地元で行われるということもあり、たくさん練習や勉強を積み、1位を目標に取り組んできました。大会は暑さのせいもあり、コース短縮がありました。私はこの大会を最後に山を引退するので、最後に色々な三重のコースを歩きたかったので少し残念でしたが、御在所山に登って、ロープウエーで下ることができたのが嬉しかったです。

班内で行われた交流会では、他の県のチームの特色や、その県ならではの魅力を聞くことができたので嬉しかったです。

今回の大会は1位を取ることが目標プラス他の県の子とも友達になるというのが目標だったので、それを達成することができたし、最後にはA隊のみんなで隊長さんを胴上げすることができて良かったなと思いました。

大会が終わった後のホテルでも、他の県の方々と花火をして楽しみました。その時に今回

の大会について色々な話を聞かせてもらうことができて、インターハイの厳しさやインターハイを勝つコツを聞くことができて、やっぱりこの競技はとても難しい競技ということを痛感しました。

地元の山を他の県の方々に知ってもらえたのはとても嬉しいことだし、インターハイという大きな大会が地元で行われたというのもとても嬉しいことだと思っています。

今の段階では今大会の結果はわかっていませんが、とても思い出に残る大会になったし、自分がとても成長することができたと思います。同じような経験を自分の後輩たちにも知ってもらいたいので、後輩たちもどんどんインターハイという大きな舞台で戦ってくれること、そして1位を取ってくれることを願っています。



京都府 桃山高等学校

桃山高校は3年前から3年連続で出場していて、僕個人としては2回目です。去年とは違って暑すぎでした。班長の方もおっしゃっていましたが、ここまでの大会は初めてとのことなので、色々な意味で人生の経験になったように思います。自分の人生の中でインターハイという大舞台に立てたことは誇りになると思いますし、登山というスポーツに関われたことは幸せなことです。一生できるものだし実際にそうするつもりです。来年は参加できませんが、涼しく過ごせるように願っています。ありがとうございました。



僕は2回目のインターハイでしたが、とても

良い経験ができたと思っています。行動内容が大きく変わったり待機時間が長かったりして予定通りに進まないこともあったと思いますが、役員の方々のおかげで無事に大会を終えることができてよかったです。ありがとうございました。登山は順位を争うことも大切ですが、仲間と協力することや登山を通して他県の人と交流を深めることもとても大切だと思いました。来年も大変暑い大会となりそうですが頑張りたいと思います。



僕は今年2年生で、インターハイは初めてでした。また僕以外の3人は皆3年生で、京都府予選の時は話すことさえしづらかったのですが、インターハイで6日間も一緒に辛いことや楽しい時間を過ごして、2年目にしてついに先輩と気軽に楽しく話せるようになった気がします。大会は普段味わえないような新鮮さや、山に登ることの楽しさ、また辛さも感じさせてくれました。もしも来年も予選を勝ち抜いたら、今度は同学年の仲間と南九州を満喫したいと思います。そして今度は全国にたくさんの友達を作って京都に帰りたいです。



僕はこのインターハイ中、早く終わって欲しいとか思うこともあったけど、楽しいことも多くあり、僕は3年生なのでもうこれで最後なんだと寂しいです。



写真提供 P&P 浜松

香川県 丸亀高等学校

今日、我々の3年間は最後を迎えた。解団式を終えて宿に戻るとき、重い足取りと荷物を支

えながら我々の歴史を思い返した。

入部当時のこと。丸高ワングル部は正に斜陽だった。2年生の先輩はいなかった。予算を削られていた。同学年の男子は4人。ギリギリだった。起死回生をかけて挑んだ2年目の夏を勝ち抜き、後輩を増やした。そしてこの8月、再び陽のあたる場所へ帰った。ここに至るまでに多くの苦難があった。辛い練習も怪我に倒れた友人もあった。それに報いるだけの成果を残せたかは分からない。しかし人事は尽くしたのだ。

(CL 西村 航成)



確かにこの先10年もすれば、この大会のことも過去の思い出の一つに過ぎなくなるのだろう。どうせ昔のことと思い出そうともしないかもしれない。しかし、私がこの5日間の短い期間を全て忘れ去ってしまうことなどありはしないのだと思う。あの熱に焦げたアスファルトを、急登に苦しみ抜いた心音の激しさを、溜まった疲れを忘れさせる藤内壁の雄々しさを、ある日の夜半の床の中で、夢に見、心に描くのだ。きっといつの日か。

(岩崎 善彦)



登山をして何が良いのか？とよく聞かれるが、当然答えはひとつではないと思う。チームの仲が良くなったり、自分たちで作ったご飯に一喜一憂したり、ご飯・温泉・ロープウエーを楽しむに乗ることだって良いことだろうと思う。これを相手に伝えようとしても伝わらないのが登山なのかなといつも思う。だから自分達が楽しく登り、景色に感動していることを、良さを知らない人に伝えることが大事で、1人でも多く山へ来て見るように促していきたいと今回のインターハイを通して思った。

(自然観察 細川 新太)



自分がこの大会に出られたことを本当に幸せに思っている。私はただ1人の2年生で今大会、先輩たちに迷惑をたくさんかけたかもしれない。しかし、先輩や他の学校の人と過ごしたこの5日間は一生の宝物になると思う。

(山口)

大分県 竹田高等学校

最初で最後のインターハイは充実していた日々でした。天気図担当の私は得点でチームに貢献できず、申し訳なく思っています。朝明茶屋キャンプ場の奥井さんご夫婦には直前下見の際にととても親切にいただき竹田高校一同感謝しています。菰野高校の皆さんもとてもがんばっていて見ていて気持ちがよかったです。三重県で楽しい日々を過ごせたことは一生忘れません。けやきの湯、最高でした。鈴鹿山脈の花崗岩の美しさも忘れません。

(3年生 佐々木 裕杜)



順位はふるいませんでしたが、思い出に残るいい大会になりました。宿舎から閉会式に向かうバスが、私たちのために出発が遅れて申し訳ありませんでした。この場を借りて改めて4号車の皆様にお詫び申し上げます。もちもち草もちとガリガリ君と冷たいお茶、最高でした。菰野町の皆さんのやさしさがうれしかったです。

(3年生 森下 太雅)



幕営地で就寝時間が過ぎても騒ぐパーティーがいたことには驚きました。マナー点での減点もなかったようですが、本当に予選を勝ち抜いて全国大会に出てきたのかなと首をかしげたくなるようなこともあり、勉強になりました。ある女子選手が「この暑さの中で大会やるなんてバカだよね～」と大きな声で話していたのには本当にかっかりしました。大会を通じて思ったことは、3泊4日の登山行動には自分たちの日頃が出てしまうということでした。僕たちのパーティーもそうです。こうした反省点をいかして来年の祖母山系では悔いのない大会にしたいと思います。三重県は直前下見も含めて10日間ほど過ごしました。羽鳥峰の美しさと奇岩が作り出す光景には心を奪われました。大会を支えてくれたすべての皆様に感謝します。ありがとうございました。またいつか鈴鹿の山々を訪れます。

(2年生 高橋 健太)

◆

男子の優勝校が100点満点ということに驚きました。インターハイは本当に0.1点刻みの争いなのだなど実感しました。自分自身のペーパーの失点がいかにパーティーに影響を及ぼすのかを痛感させられた大会でした。本番ではすべてのコースが短縮されましたが、下見で歩いた3つのコースはどれもいいコースでした。大会後の北アルプス合宿も含めると14日間の旅でした。選手8人（女子も出場していたので）と先生2人の10人での珍道中は決して忘れることはないでしょう。大会で全力を出せたのは、支えてくれた全てのスタッフのおかげです。三重県の皆さんにお礼を言わせてください。ありがとうございました。

（2年生 倉田 拓真）

◆

夢だった「一人息子と臨むインターハイ」は最高でした。結果こそほろ苦いものでしたが、一緒に歩いた監督団との他愛のないお喋りは本当に楽しい時間でした。監督の幕営地のそばに川があることを教えて頂いたS先生、ありがとうございます。この川での水浴びが私に生きる力を与えてくれました。連日の暑さにあらがうために私は教えの通りに水分を摂取し、毎日よく食べました。おかげで熱中症になることもなく無事に監督の業務を遂行できました。「排尿で疲れも一緒に出してしまう」という発想は新鮮でした。

菰野高校の生徒さんをはじめ、菰野町の皆さん、大会関係者の皆さん、お疲れさまでした。そしてありがとうございました。

追伸：四日市工業高校の野村先生、あなたのホスピタリティあふれる軽妙な話で毎日楽しく登れました。奥様も班長さん、お疲れさまでした。朝明茶屋の奥井さんご夫婦にも感謝申し上げます。

（監督 高橋 憲一）



〈3班〉

宮城県 多賀城高等学校

平成最後のインターハイとなった今回の大会は色々な意味で天候に恵まれ過ぎた、と私は位置づけます。

例年より勢力の強い太平洋高気圧の影響で各地の最高気温を更新しまくりの平成最後の今年の夏は、下見登山の段階で環境省からの熱中症警報が連日出ていました。このような状況で自分たちは4日間の大会を戦い抜けるのかと心配していたので、コース変更の指示を聞いた時は内心ホッとしていました。鎌ヶ岳に登れなかったのは残念でしたが行動最終日の中道の稜線を抜ける風はとても心地よかったですし、ロープウェイから見る今まで歩いてきた花崗岩の白い登山道や奇岩たちも美しかったです。

温暖化や異常気象の影響で今後も今回のような措置を取らざるを得ないことが発生することが予想されます。

そのようなわけで私は開催地を北海道に固定することを提案します。根拠としては本州に比べて冷涼なことと、台風がめったやたらに来ないことです。

私は高校に合格してから多高に山岳部があることを知りこの部活に入りました。私が入ったばかりの時はインターハイに出るほどの強豪校というわけではなく、至って普通のチームでした。そして私が入部したその年に先輩方が宮城を制し岡山大会に出場しました。その流れを汲み去年卒業された先輩たち、そして我々の代とバトンをつなげここまで来ることができました。

入学当初の私からしたら自分がインターハイ選手になるとは思ってもいませんでした。これもひとえに顧問の慈愛と情熱に満ちた指導、頼りになる先輩後輩あってのものです。山岳部という特殊な運動部との出会いは私の人生に大きな影響を及ぼすと思います。

最後にインハイ TV のカメラが山岳にも来ていることに少し驚きましたが、こんなにほのぼのとしていて山なのに山場のない中継していてどんな人たちが見ているのか気になりました。



写真提供 P&P 浜松

茨城県 日立工業高等学校

今回初めてインターハイに参加させていただき、多くの経験をさせていただきました。なかなか行くことのできない、三重県の山々に登ることができて、また、他県の山岳部の生徒とも交流ができて、本当に素晴らしい思い出ができたと思っています。閉会式後に見た大会結果は、少し残念で、まだまだ努力が足りなかった事を実感しました。来年のインターハイに向けて、これからできるだけ事はしたいと思っています。

大会ではすべてのコースを歩くことができませんでしたが、登山行動1日目の釈迦ヶ岳では、ブナやシロヤシオなど様々な植物を見ることができ、尾根から見る木々の緑が特に綺麗でした。2日目の国見岳コースでは、ブナ清水から歩いた沢沿いの道が特に心に残りました。最終日は御在所山の頂上まで行くことができました。仲間と一緒に御在所山から見た景色は青空、緑の山、黄色の巨岩、ふもとに広がる町が一体になって本当に綺麗でした。

そしてなにより、大会の下見で全てのコースをまわることができ、鈴鹿山脈から見下ろせる伊勢湾の風景が、登った仲間たちの顔とともにいつまでも忘れない思い出になったと思います。

最後に、大会を通して周りの方々が僕たちをサポートし続けてくれたことに感謝を伝えたいです。役員の方々は、その日の天候によってスケジュールや登山コースを決めてくださり、僕たちが安全に登山できるよう力をつくしてくれました。又、家族や先生方、菟野高校のサポート隊の方々、自衛隊の方々にも感謝を伝えたいです。本当にありがとうございました。



写真提供 P&P 浜松

東京都 早稲田大学系属早稲田実業学校高等部

今回、インターハイに参加して普段東京にいてもできないことをたくさん経験し、吸収させていただきました。

私たちは、昨年の南東北総体に続き2年連続3回目となる本大会に参加しました。昨年度、39年ぶりとなるインターハイに出場しましたが、惨敗しました。今年は基礎から1年間かけてじっくり教えていただき、再び臨みました。その努力が実り昨年度より12点ほど点数を上げることができましたが、まだまだ全国の壁は高く、40位と残念な結果に終わりました。しかし、ここまで来れたのは基礎から丁寧に教えていただいた顧問の先生や、普段の生活を支えていただいている両親やクラスメート、担任など…皆の力のお蔭です。もしお力添えが無ければここまで来ることができなかつたと感じています。また、本大会で支えてくださいました役員の皆さん、補助員の皆さんに本当に感謝して

います。特にサンプリング担当の大河内さんにはお世話になりました。ありがとうございました。

ところで私達の目標はインターハイでいい順位を取ることではありません。部活全体のレベルアップです。そのため今大会の経験や培った技術を共有することが後輩、同輩たちの成長の道しるべとなり、彼らが成長してくれると信じています。私達皆が成長する機会を与えてくれたのはインターハイです。そこに参加した全国の仲間たちです。皆さんには、多くの刺激を受けました。ありがとうございました。また1年間しっかり力をつけパワーアップした私達を見ていただくためにも、私達は宮崎に行きたいです。いや、行きます。なので来年も宮崎でお会いしましょう。ありがとうございました。



今回の東海インターハイでは、今までにない経験をさせて頂きました。大会の結果としては全国の壁というものを感じました。自分の実力不足による失点が多く、悔しいです。また来年リベンジする為努力していきます。また、僕は初めてインターハイメンバーとしてこの大会に臨み、東京にはない三重の雄大な自然、普段はできない他県の方々との交流などを通して、楽しい3日間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。



今回のインターハイを通してたくさんのごことを学ぶことができたが、自分は現在高3で来年は大学生となりインターハイに出ることはできないので、インターハイで学んだことを後輩達に伝え、来年後輩達に1つでも順位を上げてもらいたい。



今回は僕にとって初のインターハイであり、全国のハイレベルな仲間とともに山で過ごせるのは、とても貴重な経験でした。至らぬ点も多く、全国のレベルの高さを知る結果となりましたが、今回見つけた反省点を生かし、最終学年である

来年ぜひインターハイに出場し、悔いの残らない結果を残せたらと思います。

石川県 金沢泉丘高等学校

今回の大会は、今までの大会の中で最高の大会でした。県大会での3連覇、全国総体も3年連続の出場で、だんだんと戦い方がわかってきました。工夫を重ね、設営や炊事、読図に記録まで、すべて安心してこなすことができました。しかし、細かなところで不十分なところがあるので、来年には完璧と言えるほどにしたいです。今年三重での大会ということで、下見に来ることができ、乾燥野菜を作るなど新しいことにも挑戦したおかげで、準備は万全の状態で臨むことができたので、安心してひとつひとつの審査に集中することができました。しかし、大変暑い中での大会だったため、度重なるコース変更があり、先のことを読みきれない緊迫感の中での大会となりました。そんなプレッシャーにも負けず、読図、記録を正確に行えたことは、今後の自信に繋がると思います。最後になりますが、大変暑い中、大会を運営して下さった方々や、支援して下さった三重県の方々に感謝申し上げます。

(3年生 SL 岸 海都)



インターハイ出場という2年越しの夢を叶えることができ、僕は今幸せです。険しい孤野の山々の姿を見ることができ、私はインターハイに来れて本当に良かったと思いました。全国大会の醍醐味は普段の山行では訪れることができない他県の地元で愛される山に登れることです。ここでしかできない貴重な経験ができました。また、審査に関しては、自分たちがこれまで培ってきた力を最大限発揮し、悔いなく終わったので本当に良かったです。特に読図は私が過去の大会で得点しきれなかったところでもあるので、満点を取り、自分の成長を実感できたことが良かったです。猛暑が心配されましたが大会運営の方々のおかげで全員が無事総体を過ごすこと

ができて一生の思い出となりました。本当にありがとうございます。(CL 新濃 慶弥)



三重県 神戸高等学校

今回初めてのインターハイに出場させていただき、また地元開催ということでプレッシャーもありましたが、この大会を楽しめて良かったと思います。知識の審査では地の利を生かして満点が取れました。このメンバーでこの大会を終えられたことをとても嬉しく思います。来年は最高学年として登山競技を頑張ろうと思っています。そのためにも今大会で学んだ技術、知識で山をより楽しめるようにしたいと思います。(2年生 吉見 峻河)

自分も今回初めてのインターハイに出場させていただきました。三重で開催することもあり、県大会が終わってすぐにインターハイの下見に入ることができ、本番に備え読図などを中心に努力してきましたが、暑さの影響でたくさん下見をしてきたコースが短縮されたのが少し残念でした。しかし、メンバー全員で頑張った甲斐があり、十分満足のできる結果が出せたと思います。今大会の教訓を生かし、来年に繋げていけるよう努力したいと思います。

(2年生 毛塚 颯太)

今回私も2年生ながら初めてインターハイに出場させていただきました。交流会で他県のメンバーからたくさんの豆知識や情報、面白い話を聞いてとても楽しかったです。しかし気温は

とても高く湿度も高かったので、就寝時や登山行動中は地獄のような時間でした。でも国見岳付近で休憩中に見た藤内壁はとても印象に残る素晴らしい景色でした。来年もインターハイに出場できるように努力していきたいです。

(2年生 藤田 和真)

今年のインターハイは暑さによりコース短縮が毎日行われましたが、気の知れた仲間と御在所山の雄大な景色やブナ清水の清らかさを堪能できました。僕は3年生なのでこれで引退になりますが、最後を締めくくるにふさわしい山行でした。受験も終わり落ち着いたらまた山に行きたいです。最後に余談ですが、足だけで十箇所以上、蚊に刺されてしまいました。痒いです。

(3年生 田中 伸玖)



写真提供 P&P 浜松

熊本県 人吉高等学校

今回、「2018 彩る感動 東海総体」登山競技大会に参加して、感じたことは、参加校への行き渡った配慮である。37度近い猛暑で心配される中、3日間の登山行動のうち最初の2日はコース短縮、最後の1日はコース変更という処置が施され、結果として大きなトラブルもなく大会が終わった。また、登山行動の距離は短くなったものの、鈴鹿の山の見どころがコース上に現れるような短縮コース設定であったために、景色を楽しみながら登山することができた。大塚製菓のサンプリングと、幕営地でのテント入口の解放状態での就寝の許可が相まって、就寝時でも虫の害を除けば、終始快適であった。さまざまな熱中症対策の指示は我ら選手たちに効果

的であった。この大会を無事に終えることができ、本当に感謝している。

しかしながら、これはどうかというものがあつたので紹介させてもらう。3日目のコース中道登山道の御在所岳8合目の足場の狭い鎖場(岩に鎖が取り付けられた降りるところ)でのことである。そこは足場がないに等しく、一時、鎖を使わないといけないような危険なところであるが、そこに大会役員が2名ほど居り、「はい、どんどん行って」と、鎖場で行動を急かされた。結果、安全面でおろそかになり、岩に右ひざをぶつけてしまったのである。幸い、10分ほどで痛みが引いたものの、他の選手が怪我をしていてもおかしくなかった。行動時間が押している、急かすべきだ、というのは納得できるのだが、このような危険を伴う場所においてこのような処置が正しかったのかどうか疑問に思っている。

また、登山行動中に前を歩く他県のチームがいきなり走りだし、それによって、いきなり間をあけられてそこで丁度、歩行審査が入るということもあった。

熱中症に対する対策は十分とられていただけに、安全面に対して不安を覚えたのは残念に感じた。(CL 越替 大貴)



〈4班〉

秋田県 秋田南高等学校

まず最初に今回の大会に関わってくださった、役員、補助員、審査員、その他運営のみなさん、そして共に山に登り、喜びを分かち合った選手

のみなさん、ありがとうございました。

私達、秋田南高校山岳部はインターハイ出場を主目的として僕たちの代、活動してきました。昨年度の全県総体(インターハイ予選)において、4位という不甲斐ない結果に終わってしまった僕たちは、この一年、それなりの努力をしました。それなりの努力の結果として、非常によろしくない点数でのインターハイ出場と相成りました。

しかしながらせつかく出場権を得ることができたのですから、下見、事前準備では我々にできるほぼ最善を尽くしました。

下見で泊まった宿舎や、移動中の車内に於いて出来る限りの知識を詰め、分かる限りの読図を大会ルートでの下見でしました。その結果、自分たちに今、出せる最良の結果を出すことができました。

私がこの文章を眠い目をこすりながら書いているのは8月6日10時のことであるので、大会の結果はまだ分かりませんが、良い結果であると信じています。

もう一度最後になりますが、この大会に関わってくださった運営の皆様、ともに歩いてもらった選手の方々、そして最高の3名の仲間、支えてくださった監督、家族、その他大勢の方々に感謝を。

ありがとうございました。



埼玉県 和光国際高等学校

僕たち和光国際高校ワンダーフォーゲル部は今回が初のインターハイ出場でした。準備の段階から、他の地域のトップレベルの選手と同じフィールドで競技を行うことにはかなりの不安がありました。読図や植生、天気図の作成などの学習をはじめ、テントの設営審査、炊事の手際の良さまでもが見られてしまうことは経験したことがなく、プレッシャーを感じていたこともありました。

そこで僕たちはこの大会を楽しむことに重点を置いて臨むことを考えました。埼玉に住んでいる自分たちが三重と言う離れた土地の山に登れるという機会には、今年のインターハイに出場しない限り恵まれなかったことでしょう。また全国の都道府県から一箇所の地に代表が集まるところに自分達もその一員として参加できることもなかなかありません。あちこちから違った方言が聞こえてくる環境、ハイレベルな活動を行っている仲間からは自分たちの今後の活動で改善していかなければならないことを発見すること、何よりも4人で失敗した時でも笑えたこと、全てがとにかく楽しかったです。

この大会ではとても前から準備を重ね、登山の競技だけを見ても、本当に大勢の方々が協力して成り立っていたことがとても印象に残っています。特に同年代の高校生からの支援は非常に嬉しいものでした。幕営地での最後の日、午前3時過ぎに集合していた設営隊、サンプリング会場で飲み物を笑顔で配ってくれた姿は特に印象的です。僕たちもその嬉しさを感じ、今度は自分たちが頑張る人の助けになりたいと思います。オリンピックをはじめ、自らが暑い夏に受けた多くの人の優しさという経験を生かせる機会を持ちたいです。インターハイは競技自体を、自分達なら登山をすることだけでなく、周りの仲間の意識、感じられる楽しさ、周りの人々の支えなどあらゆることを含めて特別な大会なのだと思います。特別な経験ができたことを一生の宝物にしたいです。



写真提供 P&P 浜松

千葉県 千葉東高等学校

私がインターハイに初めて出場して分かったことは、登山競技のインターハイは、他校との交流の場でもあり、とてもいい経験になるということです。様々な県の山岳部を知ることができ、貴重な機会になりました。大会を振り返ってみると、初日のペーパーテストでは、担当だった救急で自信を持って解答することが出来ましたが、リザルトを見ると3分の1が満点を取っており、全国のレベルの高さを実感しました。2日目以降の行動では、チーム内だけでなく、他校との距離にも細心の注意を払って登山を行いました。記録では、コースの概況を注意深く記入していきましたが、コースの概況としてあまり重視していなかった鳥居を記入していなかったため減点になってしまいました。結果としては4位入賞で、全国制覇を目指していたわたしたちにとって、とても悔しい結果となりました。来年は新たな後輩2人と共に、全国制覇目指して頑張りたいです。(越川 竜)



2018 彩る感動をテーマに行われた今大会、三重の山では様々な景色を楽しむ事が出来ました。遠くに望む伊勢湾、迫力あるキレット、地蔵岩など地元では見られない風景でした。そんな山を全国の岳人とともに登れた事はとても意味のあることだと思います。また今回のインターハイは非常に暑く、苦しい大会でした。登山行動中に止まらない汗、なかなか寝付けぬ夜と困難な状況が続きましたが先生方や先輩、仲間に支えられ乗り越える事が出来ました。私たち千

葉東A隊は4位という結果でした。自分たちとしてはまだ上を目指せると感じています。先輩達から引き継いだ思いを忘れずにまた来年、宮崎の山に挑もうと思います。最後になりますが、私たちを支えてくださったスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。最高の山行をおくることが出来たのも皆さんのおかげです。感謝しています。(稲生 悠佑)



山梨県 北杜高等学校

今回が2回目のインターハイはCLとして出場した。去年は初出場で緊張したが、今年は、CLとしてやっていけるのかという不安で緊張していた。大会はA2~A4ともコース短縮が行われ、びっくりと少し残念な気持ちの山行となったが、チームのみんな、また、4班のみんなとコミュニケーションをとりながら、鈴鹿の山をたくさん楽しめたと思う。インターハイは今年で終わり、来年は大会がなくなり一人や仲間との登山が増えていくと思うが、今回の大会で得た知識を活かし、これからも山を存分に楽しみたい。(CL 長嶺 武)



今回は2回目の出場だったが、学科はすごい緊張しながらやった。去年は学科はそんな緊張していなかった気がする。今回の大会はSLで出た。CLのサポートや、行動中後ろからの気配りなど、常に気を向けながらの山行だった。去年はただただ集中して歩いてだけ、今年SLをやってみて、リーダーの難しさや大変さがわかつ

た大会だった。また今回は、短縮コースで予定されていた行程と違ったけど、それも楽しみながら登れた。でも、三池岳・釈迦ヶ岳をメインで登れなかったこと、鎌ヶ岳に行けなかったことは寂しく思った。(SL 山之上 陽)



3年生である私にとっては最後のインターハイ出場となった。1日目の学校はとても緊張した。私は気象を担当したが共通課題とも満点が取れてよかった。A2~A4のコースは予定通りにいかずコースが短い気もしたが、行動中は緊張感を持って挑んだ。山を緊張しながら登るのはインターハイだけだと思う。設営、炊事、その他も気を配りながら頑張った。4班のみんなとも話をしてとても楽しく山を登れた。ただチーム行動が1日もなかったのは寂しく思う。最後のインターハイとてもいい思い出となった。

(小泉 偉史)



写真提供 P&P 浜松

静岡県 富士高等学校

インハイは全国の高校生たちと交流できた素晴らしい舞台でした。私たちは初出場でしたがどのチームもとても雰囲気良く、多くの山の仲間ができました。「山は人だ」という言葉を改めて実感しました。ここまで来られたのも私たちを支えてくれた家族、先生方、部員のみんな、県予選のライバルたち、そして大会運営をして頂いた皆さんのおかげです。ありがとうございました。今大会での出会いを大切に山をやりたいと思います。



初めてのインハイ、とても楽しかったです。菰野町の皆さんが何年も前から準備してくださったおかげです。私は昨年の東海大会にも出場しました。その時にもまた鈴鹿の山に来たいと思いました。その後念願かなって全国大会に出場できたのですが、改めて鈴鹿の山は良い山だと感じました。班内でのほかのチームとの交流、おいしかった振る舞い、やさしかった班長副班長の皆さん、4人で戦った4日間は一生の財産になりました。本当にありがとうございました。



大会運営に携わってくださった皆さん、準備から暑い中本当にありがとうございました。今年の全国大会は暑い中で、3日間とも予定したコースを登れなかったのは残念でしたが、皆さんの力のおかげで無事大会が終わったのはよかったです。この経験を部活に持ち帰って減点されたところを研究、推測し今後の山行に役立てていきたいです。また来年も全国大会に出られるように頑張ります。



大会役員、補助員、そのほか大会に携わった皆さん、本当にありがとうございました。今回の大会は鈴鹿の山の楽しさを満喫できた大会でした。他校との交流も多く、山岳部に入ってよかったですと感じました。ぜひ来年は女子と一緒に全国大会に出場したいです。



岡山県 岡山工業高等学校

この大会は私にとって最後となるもので、下見の段階からいつも以上に力を入れて準備をしてきました。結果は前年度を上回るものでしたが、上位入賞という目標は果たす事ができませんでした。悔しい気持ちもありますが、それでも自分達の持っている力を出し切る事ができ、他のチームとの交流などでたくさんの思い出を作る事もできたので本当に良かったです。最後になりましたが、猛暑の中安全を第一に大会を運営して下さった関係者の方々、ありがとうございました。(CL 松本 征磨)



私は今回が初めてのインターハイで、普段の大会とは違い全く知らない山で競うというのは緊張感がありながらも新鮮で楽しいものでした。今回は暑いという理由からコースの短縮で、釈迦ヶ岳や鎌ヶ岳の頂を踏むことが出来なかったのが少し残念ではありましたが、時には勇気ある撤退も必要だということ学びました。

また、大会役員の方々、山中や幕営地でサポートしていただいた方々など、様々な方にお世話になりました。本当にありがとうございました。(SL 古田 勝也)



僕が一番思い出に残ったことは天気図で3.1点を取ったことです。この3.1点を取ったことで入賞出来なかったのは悔しいです。この経験を期に後輩に天気図をしっかりと教えるのとともに、僕自身が慢心してしまっていたので万全の状態であってあげると今になって後悔しているので、改めないといけないなと思っています。しかし、悪いことばかりじゃありませんでした。部長と一緒にしていた読図はすべて満点を取り、サブ行動ではありましたが体力・歩行も満点をとれたことは良かったと思います。インターハイでしか出来ないほかの県との交流があまり出来なかったことが心残りです。

(吉井 雄馬)



今回のインターハイでは、全国のレベルの高さを感じました。小さなミスが重なって順位が大きく下がり、上位入賞を逃してしまいとても悔しかったです。私はメンバーの中で唯一の二年生で、先輩方と共に出場できる喜びと、緊張感を持ってこの大会に臨みました。迷惑をかけてしまったこともありましたが、最後まで戦い抜くことが出来たので良かったです。今回の大会は、先生方、チームメイト、開催地域の方々の支えのおかげで、無事に終えることが出来ました。本当にありがとうございました。これからも、感謝の気持ちを忘れず頑張っていきたいと思えます。(中野 立基)



佐賀県 佐賀工業高等学校

今回の大会はとても暑い中開催されて、体調などに十分注意しながら参加しました。水だけで不安でしたが大塚製薬様のサンプリングのおかげもあって暑中、比較的楽に大会に参加することができました。自分たちの健康のことを考えてコース変更など、色々なことをしていただいた大会運営の皆様には感謝しています。

今回の全国大会において自分達は 10 位以内に入るという目標を持っていました。結果は 14 位でした。自分たちの点数は過去に先輩方が取った点数の中でも最高の点数でした。その点でいえばとても喜ばしいことですが、小さなミスがなければ、と悔しい思いもあります。しかし見たことない植物、山、川など豊かな自然を見ながら歩くのはとても楽しく、他校との交流も

あって勝ち負け以上に楽しい登山ができました。

この大会で経験したことは一生忘れません。お疲れ様でした。



写真提供 P&P 浜松

長崎県 長崎北陽台高等学校

今回気になったのは、行動 1、3 日目の隊行動の渋滞後のチーム間の距離です。渋滞後に班の前後で差がかなり開いていたので、できればペースを考えてほしかったと思います。しかし、今大会で登山予定であった山はどれも素晴らしく、コースも楽しめるポイントが多くて、とても良かった。幕営地も水分補給やサンプリングが豊富で水分に困ることなく行動できました。ありがとうございました。

(CL 宮原 昂大郎)



大変な暑さの中で行われた三重インターハイ。全コース歩ききれなかった事は非常に残念です。しかし、役員のみなさんのサポートのお陰で思い出に残る大会となりました。この思いは全チームが感じる事かと思えます。また、大会運営上仕方のないことですが、できれば 8 月 6 日という日の登山行動は、8 時 15 分の祈りの時間をとっていただきたいと思いました。

(SL 鬼塚 雄人)



インターハイを通じて鈴鹿の山が好きになりました。開けた稜線から景色を楽しみながら登ることができ、本当に良かったです。大会期間中、大会のサポートも厚く、安心して登山を楽しめました。今回の大会で沢山の課題が見つかりました。

り、いい経験をさせていただきました。来年の宮崎インターハイに出場し、優勝できるよう、今回の課題を生かした練習をしていきます。5日間本当にありがとうございました。

(M1 菊地 鴻太)



酷暑のため全日程サブザック行動、コース短縮で行われた今大会、釈迦ヶ岳や鎌ヶ岳に登れず、少し物足りなく残念でした。しかし、苦渋の決断であったでしょうが、その判断あって無事に大きな事故などなく終えることができたと思います。今大会で改めて自分たちが未熟であることに気づかされました。来年に向けての課題が明確になり、また他のチームのスタイルを知ることができ、いい経験になりました。

(M2 鶴長 大輝)



〈5班〉

新潟県 長岡工業高等学校

今回の全国高校総体登山大会は、猛暑日が続くテント内が高温で十分な睡眠時間が取れないことや行動中も常に熱中症の危険にさらされるなど厳しい状況での大会となったが、長岡工業高校チームは大きな怪我やトラブルもなく全員無事に登山行動を終えることができ本当によかったと思う。何よりも朝3時起床が辛かった。熱中症対策として早い時間帯に行動を終え幕営地に戻る計画なのだが、テント内の暑さと高い湿度のためなかなか眠れず、朝になってもその状況が続き、寝不足による疲労が重なっていった。しかし、この環境はどのチームも同じであ

り、多くの選手が頑張っている姿に力をももらい、大会を乗り切ることができたのだと思う。辛い環境ではあったが今大会で得たものは大きかった。単に登山の知識や技術だけでなく、開催地菰野町の人達や他県チームのメンバー、班を率いていただいた班長や副班長の先生達との交流を重ねることにより、この登山大会の意義が理解できたと感じている。時間を掛け多くの準備を積み重ねてきたつもりだったが、今回の結果は27位と3年前の滋賀大会とほぼ同じであった。それだけ全国大会はレベルが高いということだろうが、結果はともかく事前踏査から大会本番まで多くのことを学び体験することができ本当に有意義だった。これらの知識や経験と全国大会の素晴らしさをぜひ後輩達に伝えていきたいと思う。

私自身は登山を生涯続けていきたいと思っており、辛く苦しいときには今回の朝陽台から見える広大な菰野町の町並み、御在所ロープウェイから望むキレットや負ばれ岩などの風景、またブナ清水で吹いていた心地よい風と冷たい沢水を思い出し、山の自然や状況を楽しむことを忘れないようにしたい。できれば再び御在所山を訪れ春や秋など異なる山の表情を見てみたいと思う。

最後に今回お世話になった菰野町の皆様、主催者および関係者の皆様はもちろんのこと、壮行会で気持ちよく送り出してもらった長岡工業高校の皆さんに深く感謝します。ありがとうございました。(大橋 礼旺)



長野県 大町岳陽高等学校

初日からとても暑い日だった。受付を済ませ、開会式に臨んだ。開会式では、その後控えているペーパーテストの緊張を、地元の吹奏楽部の素晴らしい演奏で少し緩めることができた。ペーパーテストでは、今まで自分たちがやってきた事を、存分に発揮できたと思われる。初日の設営審査も、普段通り上手くやることができた。炊事審査では、安全面、衛生面をしっかりと考えて炊事ができた。消灯時間になり、寝ようと思いき横になるが、暑くて寝れない。長野県とは全然違う暑さで、寝ることもままならなかった。

2日目は、暑さのためサブ行動になりコースが短縮された。急登を登りきりお菊池に着いたが、池が干上がっていた。この急登も暑さで苦しく、皆音を上げていた。八風峠からの下りは下見で通らなかったの、慎重に進んだ。この後時間がかかり余り、交流会をした。どの高校も個性的で、その地元でしか分からないことが聞けたので非常にためになった。そこで披露してくれた芸を全国に広めていきたい。(笑) この日はA隊の入浴で、汗をさっぱり流すことができ、皆気持ち良さそうだった。が、暑さですぐに汗をかいた。(笑)

3日目もコース短縮により、ブナ清水までの往復になった。日陰の沢沿いを登って行ったので、そこまで暑くはなかった。綺麗なブナ林と



清水が、疲れた皆の心を癒してくれた。ブナ清水はとても涼しく、ずっとそこに居たいと思った。

4日目は、中道から御在所岳、国見岳に登った。下見の時は景色が見えなかったが、国見岳から

見た藤内壁には圧巻だった。パーティー行動に移り、山頂、展望台に監督の先生と一緒にいき、インターハイ最後の山を楽しんだ。帰りはロープウエーで下山したが景色は素晴らしいものだった。解団式を終えると、気が楽になった。この日は涼しい宿で気持ちよく寝ることができた。

最終日は閉会式だった。結果は10位。装備審査、天気図で点を結構落としてしまったが、自分たちは納得のいく結果だったのでよかった。インターハイでは、いろいろなことが学べた。ここで学んだ事を来年の県大会、インターハイで活かせるように、後輩に伝えていきたい。

ここまでサポートしてくれた全ての人に感謝したい。

鳥取県 境港総合技術高等学校

僕は3年生で初めてインターハイに出場して思ったことは、県総体と比べて審査のレベルがとても高く、ちょっとしたミスがたくさんあったことです。もっとしっかりと確認をしておけばよかったなと思ったので、あとは後輩に託したいと思います。あと自分たちの班がとてもいい班だったのでとても良い大会になりました。面白い高校の人たちもたくさんいたし、班長さん達もとてもいい人だったので良い思い出になりました。今回の大会はとても暑く、ボランティアの方々にはとても感謝しています。とくにサンプリングやおもてなしはとても助かりました。暑い中本当にありがとうございました。僕は来年から社会人になるので、このとても貴重な経験をしっかりと活かして頑張りたいと思います。(森本)



今回のインターハイは僕にとって最初で最後のインターハイでした。僕は3年生で1、2年の時は先輩方が出場していました。今回の大会が僕が初めて出場するインターハイで、インターハイの出場が決まった時、嬉しかった反面不安でもありました。けどパーティーメンバーがとてもいい人ばかりで、本番の時もあまりピリ

ピリしたり緊張したりせずに最後までいい雰囲気
で出来たので良かったです。(荒木)



今回僕は3年生になって初めてインターハイ
に参加しました。僕はこの大会を経験して、イン
ターハイは多くの人たちの協力があって成り
立っているのだなと感じました。今回の三重県
の山域はとても暑く、熱中症になりやすい環境
でした。そのため、行動中は緊急時に備え、多
くの自衛隊の方々や医師、看護師の方々も同行
して登山行動を行っていました。大会中とても
頼もしいと感じていたことをよく覚えています。
また、行動が終わったあとは学校のボランティ
アの方々や県民の方々によるサンプリングやそ
うめんなどの振る舞いがありました。暑い中選
手の人たちに一生懸命動いて振る舞う姿はとて
もありがたく、元気をもらえました。他にも大
会関係者の方々は3日間の山を僕たちが安全に
登山できるように調節して下さいました。自分
たちの目の届くところや届かないところでいろ
んな人たちのサポートがあったから大きな事故
もなくインターハイを終えることができたと思
います。改めて感謝します。ありがとうございました。
(齋藤)



僕は2年生で初めてインターハイに出場して、
県総体と比べて審査厳しいことや、他の高校の
歩行技術などが上手かったりしてとても勉強に
なる大会でした。また、ボランティアの方々や、
関係者の方々にサンプリングや応援してもらい
すごい励みになりました。ありがとうございました。
この大会の経験を後輩や同級生に伝え、
改善する所は改善し、来年も県総体を勝ち上が
りインターハイに出場したいです。(門脇)



三重県を始めとする大会関係者の皆さん、あ
りがとうございました。猛暑が続く急なコース
変更が続きましたが、とても円滑な運営でした。
山は「どこを登ったか」も大切ですが、「誰と登
ったか」で印象が変わります。本校が属した5

班は、とても明るく、社交的な皆さんでした。
本校生徒達も5班の皆様と一体になり行動し、
積極的に交流をしていました。生徒達がインター
ハイを通じて成長した姿を見ることが出来、
とても素晴らしいインターハイになりました。

(監督 深田)



広島県 修道高等学校

山田「みんな今回の大会はどうだった？」

窪田「暑かったですね。」

御手洗「暑い中で大会運営してくださった役員

や審査員の皆様には本当に感謝しないとけ
ないね。そういえば窪田君は4日間、ずっと
観天望気を実践していたね！」

窪田「気象知識担当なので当然ですよ！先輩も
大会前は天気図たくさん書いてましたよ
ね？」

御手洗「天気図大好きだからね！もっと多くの
高校生が気象に興味を持ってくれると嬉しい
な！」

山田「それじゃあ、三重に行ってみて良かった所
を教えてくれるかな。」

窪田「大会では行かなかったけどやっぱり羽鳥
峰(823m)です！いろんなことをしましたよね。
思い出の地です。」

白根「藤内壁は美しかったなあ。」

御手洗「旅館寿亭かな。」

白根「確かに。すごく良かったよね。」

御手洗「温泉が気持ちよかったし部屋も広かっ
たからね。マッサージチェアも完備されてい
てずっと使っていたよ。」

白根「朝食がバイキングでいろいろ食べれたよね。」

御手洗「布団もふかふかで寝やすかったなあ。」

白根「なんと言っても、従業員の方々が本当に優しかったね！みんなで花火をしたいんですけどって言ったら快くOKしてくれて必要なものを貸してくれたよね。本当に感謝しないかね！」

御手洗「花火楽しかったな！」

白根「四季によって旅館の雰囲気が変わるらしいよ！冬なんかに行ってみたいな！」

窪田「他に何か印象に残ってることはありますか？」

御手洗「そういえば、コモシカくん可愛かったよね。」

白根「菰野町観光PR隊長らしいね。」

山田「コモシカくんの頭にはマコモタケの角(完全無農薬)があるんだって。食べれるのかな？」

御手洗「非常食として使ってるんじゃないの？」

白根「生態は動く・跳ぶ・寝ころぶらしいよ！足は短いけど運動神経は抜群なんだって！」

御手洗「山で跳ぶのは危険だから気をつけて欲しいな。」

窪田「コモシカくんも体重や体温を定期的に測定して熱中症に注意して欲しいですね！」

山田「サンプリングもおいしかったね！」

御手洗「大会前はスーパーとかにも全くスポーツ飲料が売られてなかったからね。」

窪田「大塚製薬さんに感謝です。」

山田「今年のインターハイは終わったけど後輩には来年もインターハイに出場して欲しいなあ」

窪田「頑張ります！」

～最後に～

大会運営してくださった役員の皆様、厳正に審査をしてくださった審査員の皆様、本当にありがとうございました。そして、無邪気で騒がしい修道生と仲良くしてくれた全国のみんな、ありがとう。とてもとても楽しい大会でした。

そして大会開催地の菰野町さん、ありがとうございました。

そして史上初のインターハイ3連覇へ向けてまずは来年も優勝します。



山口県 下松工業高等学校

今回の大会は、コースが短くなって全コースを歩くことができなかったけど、楽しく登山行動をすることができたのでよかったです。

突然のコース変更で記録など、どのように書けばよいか最初は戸惑いましたが、チームのみんなと協力して、乗り越えることができたので、チームの信頼関係も深まりよい大会になりました。

次に、交流会では他の都道府県のチームとの親睦を深めることができたのでよかったです。修道高校からは「針葉樹林」や「広葉樹林」などの登山部ならではの一言芸を教えていただいたので、後輩たちに伝えてこれからの交流会で、盛り上がるようにしていきたいと思いました。

また、ポカリスエットやガリガリ君、草もちなどたくさんのご支援をいただき、応援もしてもらったのでとても元気が湧いてきました。私たちが無事に大会を終えることができたのは自衛隊の方々やサンプリングなどのご支援をくださった方がいたからだと思うので、感謝の気持ちを忘れずに、私たちもイベントがあるときは支援などをしていきたいなと思います。

また補助員や登山客の方々がたくさん応援をくださったおかげで登山行動中は疲れを感じず景色などを楽しむことができました。私たち

は今まで応援なんて力にならないと正直思っていました。これから生活していく中で様々な人と出会うと思います。そんなときは少し勇気を出してこちらから声をかけていきたいと思えます。

今回、天気図やペーパーテストでケアレスミスをしてしまい、0.1点足りずメダルを逃してしまいました。そのことから0.1点の重さやペーパーテストの重要さを再確認しました。私たちは3年生なので、次の大会はもうないですが、これらのことを後輩たちに伝え、0.1点にこだわり、一つ一つのことを大切にして試合に臨んでもらいたいです。また後輩たちには私たちが達成できなかった、全国制覇を目指してもらいたいです。



鹿児島県 鶴丸高等学校

「どのくらい能力を高めたら、一人で生きられるのだろうか。」それが僕が生まれてこの方の人生のテーマでした。一人でなんでもできるようになれば、様々なしがらみから逃れられ、二度と馬鹿にされないだろうと。

しかしその考えは間違っているのだと、突然悟りました。この大会で、僕自身が様々な人に支えられていることを強く実感したからです。

今回の大会は、例年にない猛暑の中で行われました。熱中症になっていてもおかしくなかったでしょう。それでも再び宿に戻ってこの感想文を書いているのは、サンプリングをしてくれた高校生、ガリガリ君を振る舞ってくれた地域の方々、みんなが無事に帰れつつも楽しめるよ



うにコースを変更してくれた運営のみなさんのおかげです。ありがとうございました。

そして僕は鶴丸高校のパーティーの一員であることに劣等感を感じていました。

先輩方の都合によって4人中2人が自然観察として育てられ、先輩方のパーティーから戻ってきた優秀なもう1人の自然観察によって僕の山行中の仕事は1年前に消滅し、読図は生来の方向オンチが災いして全く身につかず、その上、雑な本性が次々と露わになって失敗を繰り返し、「なんて迷惑な存在なのだ。」と思っは、何も変わらない自分に苛立ちを感じていました。

しかし3人はこんな僕のことを受け入れ、最後まで共に山登りしてくれました。内心では僕の事を役立たずだと思っていたかもしれませんが、表には出さず、楽しく部活をやってくれたことは本当にありがたいことです。

人には様々な得意、不得意があります。今、僕にできないことは人の力を借りるしかありません。だから、これから今までお世話になってきた人に恩返ししたい。人との繋がりには面倒な分、楽しく、温かい。人と人との間に、自分の意義を見つけたい。そう思った大会でした。

〈6班〉

群馬県 群馬県立前橋高校

僕は今回が2回目のインターハイでした。去年は思うような結果にならずその悔しさをばねに1年間優勝目指して努力してきました。しかし、優勝にはあとちょっと届かず少し悔しいです。でも今まで努力していくなかで多くのこと

を学び、本番では自分たちのベストを尽くすことができたのでとても大きな達成感を得ることができました。このインターハイを通して自分を大きく成長させることができとてもよかったです。(CL 三田 修平)



私は、今回で2回目のインターハイ出場となりました。昨年度の反省を活かし、万全の準備を整えて、優勝という目標に向けて頑張りましたが、3位という結果になり多少の悔しさが残りました。しかし、自分達のベストを尽くすことができ、また、多くの方々に支えられて得ることの出来た3位という結果はかけがえのないものだとも思っています。このような貴重な経験をすることができ、本当によかったです。ありがとうございました。

(SL 内山 晃良)



今年のインターハイはコース変更が重なり少々驚きました。しかし、楽しむことを念頭に臨んだため、人生初の全国の舞台でしたが落ち着いて参加することができました。入部以来ここに来るために努力してきた甲斐があり、自分の担当ではしっかり満点を取ることができました。来年更なる目標に向けここをスタートとして精進していきたいと思えます。最後に、大会関係者の方々をはじめ、支えてくださったすべての皆様、有難うございました。

(狩野 律斗)



僕自身、今回のインターハイを振り返り、自分なりに出せる力は出せたかなと思えました。猛暑によるコース短縮などイレギュラーな展開などもありましたがとても充実して大会で競い合い、楽しむことができました。結果は3位で入賞ということもあり嬉しく思えた反面悔しさの残るものでした。ただ自分にはまだ宮崎での舞台が残されているので来年は、今回得た知識や情報を生かして優勝を目指したいと思えます。

(佐藤 勇斗)



写真提供 P&P 浜松

富山県 富山高等学校

この大会に私は3年生の先輩2人と同学年の部員とともに出場した。富山の県予選ではこのインターハイという場に立ちたくて、一生懸命先輩の後を歩いた。しかし、いざインターハイ出場となると、県の代表という重圧があり、また下見登山で足を痛めてしまったこともあり、大会前はとても不安な気持ちでいっぱいだった。大会当日は多くの地元の人々の協力があったので今大会が成り立っていることにとても驚きを覚えた。他県の代表ほどの高校も強そうでさらに不安が増したが、チームのみんなの笑顔や監督の先生のおかげで少し気持ちも和らいだ。登山行動1日目はメイン行動からサブ行動に、またコースの大幅な短縮もあり、少し安堵の気持ちがある反面、下見登山でも登ることが出来なかった釈迦ヶ岳に大会本番でも登れず残念な気持ちもあった。登山行動2日目は、本来のゴール地点の朝明茶屋キャンプ場からブナ清水までしか行くことができずとても残念に感じた。しかし、栃木県代表の矢板東高校の選手と話す時間があり、彼らの2年生だけでのインターハイ出場の裏話や栃木県のことについて話を聞きくことができ嬉しかった。このように県外の人と話す機会は少ないのでとても貴重な時間となった。登山行動最終日もコースの短縮があり、鎌ヶ岳に登れなかったのは残念だったが、国見岳山頂近くからの素晴らしい絶景を拝むことができ良かったと思う。

今大会で私がとても感じたのは、大会に関わる方々の優しさです。本当に沢山の方が僕たち

の安全と健康のために懸命に働いて頂いたことにとっても感謝しています。また、チームメイトや監督の先生方、B隊で出場した先輩方、富山で応援してくれている家族や富山高校山岳部員のみんが自分にとってとても大切な存在であることを改めて感じる事ができた。私はまだ2年生なので、今大会で学んだことを今後の部活動に活かし、来年のインターハイ宮崎県大会に出場できるように頑張りたい。



福井県 敦賀高等学校

僕たち敦賀高校は、メンバー全員が2年生での出場でした。大会中はメンバー一人一人が自分たちのやるべきことをしっかりやり遂げ、チームの他のメンバーにも気を配ることができていたので良かったです。まず僕たちはこの大会に参加するにあたって、合宿を2回行い、三つのコースをすべて登りました。本番では天候により、大きなコース短縮がされ、当初予定されていたコースを最後まで歩き通すということではできませんでしたが、合宿では登らなかったコースも、班長副班長の指示に従い丁寧に歩行することができました。

知識審査ではそれぞれが勉強した成果を発揮できましたが、インターハイは各チームのレベルが高く、勉強不足を実感したメンバーもいました。炊事審査は風が強かったので防風板を使い、軍手などの道具を適切に使うことができました。設営審査は、周りのチームの設営のスピードに圧倒されつつも、声かけや役割分担をして丁寧にテント設営ができました。2回の設営

審査で1回目の反省を2回目に活かしより良い設営ができたことも良かったです。装備審査は忘れ物をしてしまったり、装備の保管の仕方が悪く減点されてしまうことがあったので、自分だけでなくメンバーが互いに持ち物の確認を行うと思いました。

また僕たちは今回のインターハイを通して良かった点と悪かった点の両方を見つけることができました。県大会、北信越大会以上にインターハイはレベルが高く、また期間も長かったため、普段は発生しない問題も起こりました。歩行でもスリップがあり、装備の不備があったりと全体的に詰めが甘いところが多かったです。しかし、このメンバーで過ごしたことで互いの良さを再確認し、またチームの絆を深めることができました。インターハイで学んだ多くのことを敦賀に帰ってからも存分に生かし、日頃の部活をさらにより良いものにしていきます。今回の東海総体に参加できてとても成長できました。



兵庫県 神戸高等学校



今年は去年と比べて余裕を持って楽しめた部分が多かった。知識審査でも手が震えることなくいつも通りできたことは、去年先輩の後ろをついていだけで精一杯だった自分から少し成長出来たのかなと思う。まさしく山岳漬けの日々であった高校生活を締めくくるにふさわしい記憶に残る大会になった。今回の経験はしっかり後輩に伝えてまだ始まったばかりの山岳部の糧にしていきたいと思う。(大島 隆之介)



僕がこの大会で知ったことは応援の力強さだ。2年連続出場ということもあり、多くの人に温かい応援を頂いた。本番では、本当に背中を押してもらっている気がして、集中して普段通りの力を発揮でき、「2位」というメダル付きの良い結果を持って帰る事ができた。支えてくれたすべての人に感謝したい。また、いつか自分が誰かを応援する立場になったら、心から「がんばれ」と言いたいと思う。(横田 蓮)



準優勝という結果を残すことができたのは、支えてくれた部員、顧問の先生、そして熱意のある3人の仲間がいてくれたからです。彼らに感化され、僕も、この大会で優勝したいと強く思うことができました。装備や歩行などの些細なミスが順位を決める難しい競技でしたが、仲間同士で気を引き締め合って、乗り切ることができました。ありがとう。メダル、大切にします。(三尾 浩輔)



「これで引退なんやで。」気の狂うような暑さの中で何度も自分に言い聞かせた言葉。インターハイに出場して様々な方言が飛び交う中で、隊行動で列になって歩みを進める中で、僕が感じたのは、皆本当に山が好きだということだ。これを読んでいる現役生諸君、是非、インターハイの風を受けて欲しいと思う。その経験はきっとかけがえのない宝物になるだろう。(大久保琉登)



こうべ かんべ
神戸高校と神戸高校

奈良県 郡山高等学校

今回の全国高等学校体育大会登山大会は、気持ちがいいほど晴れ、毎日元気に山行をし、景色を楽しむことができました。しかし、その反面気温がとても高くなり、熱中症の危険性が高まったことでコースが変更、短縮になってしまったことは残念でした。そのような過酷な環境の中でも最後まで闘い抜くことができたのは、大塚製薬さん、菰野町の方々や三重県山岳部員の皆さん、見守り、支えてくださった自衛隊の皆さん、そして大会本部の方々のおかげだと思います。本当に感謝の気持ちしかありません。ありがとうございました。

(CL 気象 天正 知樹)



今回のインターハイで得たものは35位という結果による悔しさです。敗因も、油断も、足りないモノもたくさんあったのだと思います。そのことがわかっている、今はただ悔しい気持ちです。誰かのせいにしたくなる自分を醜いと思うし、結果が出なかったことが情けない気持ちもありますが、そこで立ち上がれないチームではないので、また来年の2019年、僕にとっては最後のインターハイで、また「奈良郡山」は帰ってきます。今回の敗因を生かして、また来年に向けて頑張ります。今回はたくさんの方々を支えられました。全ての人に感謝しています。ありがとうございました。

(SL 救急、記録 結崎 江雪)



今回はじめてインターハイという全国の山好きの高校生が集う大会に参加して驚いたことがいくつかあった。一つ目は、全国には山が好きで高校生がたくさんいるということだ。そして彼らと互いに登山に関する能力を高め合うことができ、自分にとってとてもいい経験になったと思う。二つ目は、インターハイという大舞台では、大会に関わる人々によって選手達はとても手厚いサポートを受けていたということでした。そのサポートによって自分達が最後まで競技を続けられたということを忘れずに感謝しながらこれからも山に登りたい。

(読図、天気図 西田 耕己)



今回、インターハイという大きな舞台に立つことができ、今までの山行では得ることができなかったような貴重な経験をすることができました。非常に高い気温によるコース変更については、大会が軽くなったのはとてもうれしいことでしたが、練習してきたことや下見に行ったことがムダになると思うと、少し残念な気持ちが残りました。それでも、大きな大会であったことは確かなので、それを誇りに思っこれからも山をやりたいです。

(自然観察 泥谷 拓真)



写真提供 P&P 浜松

宮崎県 宮崎西高等学校

私は現在高校2年生で、インターハイ出場は初めての大会だった。次年度開催県としての参加でもあり、学業との兼ね合いもあるので、参加できるかどうかはまだ分からないが、来年の

大会に向けての気持ちを新たにすることが出来た。準備の段階から、要項等で暑さ対策をするようにとの指示があり、しっかりと意識することができた。特に、排尿が体調管理に役立つという認識は全くなかったため、今後の山行でもしっかりと意識していきたい。また、3日間の山行すべてでサブザックでの班行動、コース短縮という対応を取ったことについては、正直なところ物足りなさも感じたが、熱中症の危険を考えれば、妥当な判断だったと思った。今回登ることができなかった釈迦ヶ岳、鎌ヶ岳には、いつか機会があれば、チームのメンバー、部活の仲間とぜひ登頂したいと感じた。

大会期間中はボランティアの人たちからのポカリスウェットやアイス、草もちの配給があり、非常にありがたかった。特にポカリスウェットについては、水分、塩分等の補給の助けとなり、大いに役立った。加えて、山行1日目だけだったが、温泉に入れたことは心身のリフレッシュになった。幕営地では、先程述べたポカリスウェットの配布に加え、自衛隊の方々による給水車の用意や、簡易トイレの準備で、快適でスムーズに自分たちの炊事に取り組むことが出来た。

ところで、来年の宮崎での大会のことを考えると、開催予定地である高千穂町にも温泉があるので、選手が入れるようにできるといいと思う。また、宮崎には美味しいものも多くあるので、全国の選手にはぜひ食べて欲しいと思う。さらに大会中は、競技に集中できるように、スムーズな大会運営を期待したい。

(吉田 智皓)



【B隊 班編成表】

	都道府県名	学校名
1 班	青森県	青森県立八戸高等学校
	岩手県	岩手県立盛岡第一高等学校
	千葉県	千葉県立千葉東高等学校
	新潟県	新潟県立長岡高等学校
	福井県	福井県立武生高等学校
	奈良県	奈良県立畝傍高等学校
	愛媛県	愛媛県立松山南高等学校
	鹿児島県	鹿児島県立加治木高等学校

	都道府県名	学校名
4 班	宮城県	宮城県多賀城高等学校
	秋田県	秋田県立横手高等学校
	三重県	三重県立神戸高等学校
	滋賀県	滋賀県立守山高等学校
	京都府	京都府立嵯峨野高等学校
	高知県	高知県立高知追手前高等学校
	熊本県	熊本県立人吉高等学校
	宮崎県	宮崎県立宮崎大宮高等学校

	都道府県名	学校名
2 班	福島県	福島県立安積黎明高等学校
	埼玉県	埼玉県立浦和第一女子高等学校
	東京都	東京都立工芸高等学校
	山梨県	山梨県立甲府第一高等学校
	愛知県	愛知県立西尾高等学校
	兵庫県	兵庫県立長田高等学校
	和歌山県	和歌山県立田辺高等学校
	広島県	広島市立基町高等学校

	都道府県名	学校名
5 班	栃木県	栃木県立矢板東高等学校
	群馬県	群馬県立高崎女子高等学校
	富山県	富山県立富山高等学校
	岐阜県	岐阜県立飛騨神岡高等学校
	岡山県	就実高等学校
	山口県	山口県立防府高等学校
	福岡県	福岡県立修猷館高等学校
	大分県	大分県立竹田高等学校

	都道府県名	学校名
3 班	山形県	山形県立山形西高等学校
	茨城県	茨城県立水戸第三高等学校
	神奈川県	神奈川県立生田高等学校
	石川県	石川県立金沢二水高等学校
	静岡県	静岡県立藤枝東高等学校
	鳥根県	鳥根県立松江北高等学校
	香川県	香川県立善通寺第一高等学校
	長崎県	長崎県立長崎北陽台高等学校

	都道府県名	学校名
6 班	北海道	北海道釧路湖陵高等学校
	長野県	長野県松本県ヶ丘高等学校
	三重県	三重県立いなべ総合学園高等学校
	大阪府	大阪府立高津高等学校
	鳥取県	鳥取県立境港総合技術高等学校
	徳島県	徳島県立城ノ内高等学校
	佐賀県	佐賀県立唐津東高等学校

B隊（女子）選手感想文

〈1班〉

青森県 八戸高等学校

今年のインターハイは、今までにない程日程の変更があり、厚さが厳しかったです。そんな中、初めてで分からない事も多かったらう1年生も、暑さが苦手な2年生も、皆で踏破できて良かったです。1、2年生は、この経験を活かして、また来年の大会につなげて欲しいです。頑張れ。後輩も、一緒に出てくれた仲間も、先生にも、大会に関わった全ての方々、本当にありがとうございました。またいつか、どこかの山で会いましょう。



今回のインターハイは、私にとっては2度目のインターハイでした。昨年は山形で涼しく、登山に適した気温でしたが、今年はとても暑く、青森暮らしの私達にとっては苦勞の多い大会となりました。また、今回の大会で3年生の引退になります。今までずっとお世話になった先輩方と、この大会で、最後まで一緒に頑張ることができ、とてもいい思い出になりました。この4人でこの大会に出ることができて良かったです。先生方、保護者の皆さん、チームの皆さんに感謝しています。



今年は初のインターハイで、三重で暑い中どうしようと思って少し不安でした。案の定暑く、夜は先輩がなかなか寝られず、大変な3日間でしたが、無事終わられたのはよかったです。今回、他県の行動を見て、すごく場馴れしていたし、余裕があるように見えました。来年は今回の体験を生かし、今回よりもよい点数をとり、良い行動ができるよう、日頃の部活を頑張りたいです。



今大会では暑すぎて青森県民には少しつらかったです。しかし、体力的には余裕があったので、コース短縮はもの足りなさがありました。

チーム行動でガンガン進むのが好きだったので、隊行動は逆に大変でした。インターハイは、他県の高校と関われるので、楽しいです。昨年に引き続き出場した人と、良く話せたのでうれしかったです。高校生活最後の大会、とても楽しく、気持ちよく過ごすことができました。



岩手県 盛岡第一高等学校

今回このような素晴らしい大会に出来た事を心より嬉しく思います。インターハイという大きな登山大会で、私が最も楽しみにしている事は他県の方々との交流です。勿論素晴らしい山々に登れることもワクワクするのですが、ここでしか会えない同じような年齢で同じように山に登る人たちと交流出来ることは何より楽しいです。登山競技は誰かと戦う訳では無いと言いますが、今回は本当に沢山のひとと一体になって登っている様でした。いい経験になりました。
(山下 ちひろ)



今回初めてインターハイに参加させていただき、一番印象に残ったのは、大会の雰囲気良さです。各県を代表した選手同士の大会だととても緊張していましたが、班の先生方や選手のみなさんは誰も気さくでおもしろい方ばかりで、大会の合間に地元の話などをして楽しみながら山に登ることができました。三重の山は景色もきれいで、山の楽しさを改めて実感できた大会になりました。ありがとうございました。

(鈴木 伶依)



2回目ながら最後のインターハイを三重の

山々で迎えられたことを大変嬉しく思います。暑さのためコースが大幅に短縮されてしまったのは残念でしたが、下見も含めて鈴鹿山系の変化に富んだ魅力的な山々を楽しむことができ、最高の思い出になりました。予想以上に夜が涼しく快適に過ごせました。ただ大会という観点からはもう少し厳しくしてほしいです。運営に携わって下さった方々、本当にありがとうございました。(西森 優)



◆
1年生で初めてのインターハイで緊張や不安が多くあったけど下見を含めて鈴鹿の山々をととても楽しく登ることができてとても良い経験となりました。暑さで予定通りにはいきませんが、他県の方と交流でき多くのことを学び吸収できたと思います。また、三重の山は読図をマスターするのに適したとても良い山だと感じました。来年またインターハイに出場し良い結果を残せるよう日々の部活を頑張っていこうと思いました。(佐藤 百恵)

◆
私は今回が初めてのインターハイでした。初めて選手になって分からないことだらけで、不安なことがたくさんありました。でも、去年のインターハイに出場した仲間から勉強の仕方を教わったり、一緒に体力づくりをしてもらったりして、不安な気持ちは少しずつ自信になっていきました。また、同じ初出場の仲間が頑張っている姿を見て、私も頑張らなきゃと思い、勇気をもらえました。このメンバーでインターハイに出られて良かったです。(瀧澤 日菜)



◆
私は今回インターハイに3年生になってから初めてで、不安なことだらけでした。でも去年インターハイに出ていた3年の同じ仲間いろいろな教えてもらったりして困難も乗り越えてきたのでとてもよい経験になりました。特に大きな怪我もなく暑い中、熱中症にもならず無事にインターハイを終えられたことがとても嬉しいです。来年は出られないけれど、この経験を1、2年生に伝えていき、この先も伝統を引き継いでいってほしいです。(石原 里紅乃)

千葉県 千葉東高等学校

◆
私は去年の山形インターハイの反省を振り返って、今年はずっとこうしようなどと考えていたのですが、気づけばインターハイであつという間に終わってしまいました。とても短く感じたのはきっと、それほど充実していたからだと思います。他県の子や班長方と触れ合えたこと、みんなで団結して登りきれたこと、すべてが自分の財産になりました。私はこの最高の仲間と過ごせた5日間を決して無駄にはせずに、自分の糧にしていきたいです。(CL 丸山晏奈)

◆
私は昨年のインターハイを終えてから今まで、ひたすらに今年のインターハイを目指して頑張ってきました。やる気が高まるのに比例して、知識審査や読図で1問も間違えられない恐怖なども増していき、プレッシャーに押しつぶされそうでした。しかし、仲間と支え合って無事にすべての審査を乗り越えることができ、素敵な思い出もたくさんできました。全国大会という大舞台に再び立つことができ幸せでした。感謝

の気持ちで一杯です。 (SL 箕西 あかり)



新潟県 長岡高等学校

私達長岡高校は、昨年インターハイに出場した選手2名、初出場の選手2名の出場だった。離脱をせず、昨年よりも上位になることを目標として準備や練習をしてきた。

三重県の山は新潟県の山とは違って、急登が多く、土壌も花崗岩やそれが風化したマサだった。2日目、4日目のコースを事前登山で登ったが、慣れない土地での、登山である上に、毎日35℃を超える高温だったので、本番熱中症になって離脱をしてしまうのではないかとずっと心配していた。当日は全日程でサブザック行動となり、コース短縮が行われた。ペースもゆっくりだったため、私達は全日程を歩き切ることができた。

私たちが所属していた1班には、インターハイ常連校や毎年入賞しているような学校が多いように感じられた。そうした学校を見ていると、読図や記録書の記入を4人で協力していた。私達は4人で悩んで読図や記録書を記入した時もあれば、一部の人が記入している時もあった。それが原因で、読図を落としてしまうこともあった。振り返ってみると、昨年インターハイに出場した時も、チーフリーダーの3年生に読図や記録書を任せてばかりいた。昨年出場している人が2人もいるのにもかかわらず、昨年と同じ失敗をしたことが今回の一番の反省だ。今回一緒に登ったメンバーは全員3年生で、今回の登山で引退となる。1年生から辛い時も楽しい

時も一緒に過ごしてきた4人で県総体を優勝をし、インターハイに出場することができて本当に良かった。長岡高校は今回で2回目の出場となったが、ここで途絶えるのではなく、この先ずっと続いて行ってほしい。そのために、今回の経験や反省が後輩に伝わるようにしていきたい。また、今回のインターハイ出場をきっかけに、登山に興味を持ったり、登山部に入りたいと思う人が増えればいいと思う。



福井県 武生高等学校

「インターハイ、一緒に行こっさ！」

私たちのチームは、今年の4月の時点で女子山岳部員が3年生3人という状況でしたが、インターハイに行きたいという一心で新入生の勧誘をしました。その勧誘の成果もあってか、即戦力となる一年生が2人入部しました。

4月から、歓迎ムードを出す暇もなく、1年生にスパルタ指導を始め、6月の初旬の県大会に挑みました。結果は、晴れて優勝、そして、インターハイ出場が決定し、1年生は引き続き、大会の準備をし、3年生は、受験勉強と部活の両立に励みました。気が付けば、8月の大会当日。菰野町の暑さに驚き、本当に3日間山を登り切ることができるのか、と心配になりました。

大会は3日間とも短縮されたので、登り切ることができ、福井と異なった自然や気候に触れることができ、とても貴重な体験をできたなと思います。福井の県大会では、登山をすることがメインだったので、2日間の登山後の設営や炊事は肉体的にも精神的にもきつくて、中々したことのない経験でした。暑さも体力的

にダメージを与え、夜中になっても幕営地が涼しくならない日があり、体の回復ができない日もありました。パーティー内のうち2人が、夜中まで寝れなくて泣いていた日もありました。

そんな酷暑極まるインターハイを乗り越えられたことは、すごい経験だったとも思うし、チームメンバーも各々成長できたと思います。そういった意味でも、私たちがインターハイに出場できたのは、本当に良かったです。私は3年生なので、来年はインターハイに行くことはできませんが、今度山登りの機会があったら、また積極的に参加していきたいです。そう思えるような、良いインターハイ、ありがとうございました。

奈良県 畝傍高等学校

正直に言うと、私達は全国大会を目指して登山部に入ったわけではなく、他の県の選手に比べたら体力的、技術的両方が劣っていると思います。たまたま運よく全国大会に行くことができたので、私達がこの場において良いのかという思いが強かったです。だから私達はそういう人達に向けてこの感想文を残したいと思います。

全国大会というだけあって、規模、関係者の多さにまず圧倒されると思います。雰囲気も県大会と比べものにはなりません。テストや登山行動では不安やプレッシャーがつのると思います。実際私達がそういう不安などに押しつぶされそうになりました。

しかし、ある役員の方の言葉が私達の気持ちを楽しませてくれました。それは「登山は楽しんでやっていくものだ。」というものです。登山の全国大会には様々な審査基準があります。強豪校はもちろんすべての高校がその審査基準を気にして、それを越えようとして頑張っていると思います。しかし、登山自体を楽しめず、無理をしてしんどくなってしまっただけではもともともありません。私たちのパーティー内でも1人体調を崩してしまった子がいます。体力的、気温などの環境的問題もありますが、やはり、審査基

準を気にして、登山を楽しめていなかったせいもあるのかなと思います。

勝つことはとても素晴らしいと思うし、全員で目標を達成させるということも良いことだと思います。しかし、それらは楽しんでこそ得られるものだと思います。だから、まずみなさん登山を楽しんでください。結果は皆さんの日々の練習が保証してくれます。登山は勝っても負けても楽しんだ者勝ちです。つらいこと、しんどいこと、諦めそうになることたくさんありましたが、なんだかんだ言って私達も全国大会に参加できてよかったです。みなさん頑張ってください。



鹿児島県 加治木高等学校

まずはこのメンバーでインターハイに出場できたこと、最後まで登りきれたことをとても嬉しく思っています。鈴鹿山脈は鹿児島の山とは違った特徴を多くもった山で登っていてとても面白かったです。山の魅力をまたひとつ知ることができたと思います。また全国の山岳部と交流できたこともよい経験になりました。この大会で得ることができたことを後輩たちにしっかり引継ぎ、来年に活かして欲しいです。

(CL 菅井 美玖)



入部したときから目標だったインターハイ出場。大会への出場が決まった時はとても嬉しかったです。全国レベルのチームと戦った事はもちろん、強豪校の方々と仲良くなり、貴重な話を聞くことができたこともいい経験となりました。結果はあともう少しで入賞という所でした

が、目標点数を越すことができ、満足のいく結果を出すことが出来たと思います。今回の反省を後輩に伝えていき、来年に生かして欲しいと思います。(SL 清藤 未来)



暑さのためのコース短縮や、スポーツドリンクのサンプリング、適度な休憩は選手の体調を気遣うもので、とても有難く感じました。欲を言うならば、アイシング用の氷なども用意して頂ければ尚良いのと思いました。地元の小中学生からの応援メッセージはとても励みになりました。嬉しかったです。また、ロープウエーやキレットはもちろん、ヒル対策も鹿児島ではなかなか体験できない事だったので、貴重な経験ができたと思いました。(M1 加藤 風香)



初めての全国大会は、猛暑の中での大会となりました。暑さにより山行が減ってしまい、少し残念でしたが、川の水のきれいさや鈴鹿山脈の自然に触れることができ、とても実りある山行になりました。また、46都道府県の色んな学校が集まることで、各地域の方言や特徴を知ることができて、良い機会ともなりました。この全国大会で、学んだことを忘れずに、これからも山を楽しみたいです。(M2 倉山 佳奈)



写真提供 P&P 浜松

〈2班〉

福島県 安積黎明高等学校

今回のインターハイではコース短縮が多く、予定していたコースを歩けないこともありましたが、楽しく登山をすることができたと思いま

す。福島県ではあまり見ない植物や虫などもたくさん見ることができて嬉しかったです。気温も高く、テントで寝るときもなかなか寝られない日がありました。ですがそれも慣れて、最終日はとてもすっきり起きることができました。インターハイで新しい経験ができたことが嬉しいです。(滝田 裕美)



鈴鹿山脈を登るのは初めてだったので、事前山行のために7月28日から名古屋に泊まり、2日目、4日目の行程を歩きました。最初は不安しかない、参加したくないと思う時もありました。しかし、鈴鹿山脈の素晴らしい景観や植生とふれあい、登山の楽しさを改めて実感することができ、最終的には、とても楽しく乗ることができました。インターハイに出場するには多くの準備に時間や労力を使いますが、それ以上の良い経験を得られると思います。

(廣戸 美和)



私は今回のインターハイで初めて夏山を経験しました。いつもの登山は春や秋なので夏山の暑さに耐えられるか不安がたくさんありました。大会の期間中もやはり暑く、テントでなかなか寝ることができませんでした。しかし登山行動ではブナ清水のブナや沢の流れなど涼しさを感じることができました。またいつもは見ることのできないヒルなど新しい経験がたくさんできて、鈴鹿山脈そして夏山の楽しさを感じることができました。(小池 真尋)



私は補欠として現地に来ましたが、急遽、大会に出ることになり、はじめは体力や課題テストなどたくさんの不安がありましたが、先輩方や先生、大会役員の方々のおかげで鈴鹿の山を楽しむことができました。酷暑の中で無事にこの大会をやりきれたことは今後の自分にとって大きな自信になると思います。そして2年生と

いう立場としてこの経験を後輩たちに伝え、活かしていきたいです。



埼玉県 浦和第一女子高等学校

普段の登山とは違う、全国大会の雰囲気を知ることができてよかったです。特に、大会役員として多くの菰野高校の生徒の皆さん、ボランティアの方々が協力してくださったことが印象に残りました。登山を通じてたくさんの人の繋がりを感ずることができました。

また、鈴鹿山脈の自然にも注目することができました。花崗岩の岩肌やザレ場は、関東の山脈ではなかなか見られないので、一步一步大事に登りました。

審査の結果に緊張したり、人数の多さに戸惑ったりと、インターハイならではの焦りもありましたが、チームの皆、大会に参加した選手の皆と大会を楽しむことができました。本当にありがとうございました。

(3年生 飯田 萌咲)

普段、あまり遠くへ山行しに行かないので、今回、三重県の山に登れてとても良い経験になりました。正直、審査員が茂みから出てきたときや、審査員の前で、「やばい、今スリップした」と部員の1人が言ってしまった時はとても焦りましたが、今となってはとても楽しい思い出です。本当に楽しい山行をありがとうございました。

(3年生 高橋 恩)

全国大会では普段はないような歩行技術、装備、設営の審査があり、良い経験になりました。

課題テストで、鈴鹿に関する知識を得てから登ることで、中身の濃い山行になったと思います。貴重な経験を今後の山行につなげたいです。本当にありがとうございました。

(2年生 大野 愛奈)

山行前から取り返しのつかない失敗をしてしまっていた私ですが、監督や同じチームのメンバーのサポートで無事に3日間の山行を終えることができました。他のチームと交流することもでき、新しい知識を身につけられたので充実した山行になりました。

(2年生 深田 ひより)



写真提供 P&P 浜松

東京都 工芸高等学校

私は高校から登山を初めました。高尾山などの東京の美しい山から、北岳などの難しい山に登るといった様々な経験を通して、山登りの楽しさだけは分かった気がしていました。

そんな中、インターハイという夢の舞台にたつことになり、山岳計画書や持ち物、自然環境テストなど課題が忙しい合間をぬって事前準備を行いました。この準備をきちんと行ったからこそ、大会当日は一度もリタイアすることなく鈴鹿の山々を登りきれたのだと思います。

しかし、それでも全国の壁は高く、少し努力をただけでは超えられないものがありました。閉会式ではあと一步のところまで表彰を逃したというチームが、自分の座席の前で泣き崩れている姿をみて、こんなに努力している人がいるのに自分は何をしているんだろう、ととても悔しく思いました。

こういった刺激を受けたことで、次の山行では大会前とは違った心持ちで挑めるし、出場する大会は必ず悔いのないように取り組むという目標も生まれました。

また今回の山岳インターハイを終えて、改めて山が好きだと実感しました。全国の高校生がチームで協力し高めあいながら一緒に汗をかいながら山に登る、こんな素晴らしい体験ができてとても光栄に思います。そんな大切な経験をもとにして、今後もさらにたくさんの山に挑戦し、自分をもっと高められたらと思っています。長い人生のなかで高校2年生の今、青春の1ページが三重県の山で彩ることができたことを本当に嬉しく思います、ありがとうございました。
(亀井 優希)

◆
今年のインターハイは天気にも恵まれて、良すぎるくらいに晴れていまい自然の生き生きしさを、いつも以上に感じられたと思います。特に4日目に登った「ブナ清水」では清水から流れる水が太陽に反射し、その源の影が木々に写っている様子はいまでも鮮明に覚えています。

観測史上を上回る暑さによって、途中私は日射病に近い状態に陥ってしまいましたが、そんな私を気づかせてくれて登山中も常に声をかけてくれたり、気を紛らわしてくれたチームメイトや、心配して頂いた監督の先生にも感謝しています。

本来登るべきだった釈迦ヶ岳や鎌ヶ岳に行けずとても残念に思っています。しかし閉会式におっしゃっていたように「山はなくなる」との言葉を聞いて、機会があればまた山紫水明の鈴鹿の山々にチャレンジしたいと思っています!!最後にこのインターハイを支えてくださった大会役員の方々や菰野町の山岳部の生徒さんたち、おいしい地元名物を振る舞って頂いた地域の方々にも感謝しています。「もちもち草もち」とっても美味しかったです。本当にありがとうございました。
(亀谷 あまね)

◆
高校で山岳部に入った私がまさかインターハイに出場することになるとは思わず、最初は戸惑いや不安がありましたが、せっかく行くからには楽しもうと思いました。そのおかげか、隊行動中は普段と変わらずリラックスして登ることができ、三重の山をとっても楽しめました。しかし例年にない酷暑で大会中チームのメンバーが体調を崩す事態が起こり、気を揉む場面がありました。そんななか、他校の選手や監督までもが気遣ってくれ、処置するものをくれたりと、改めて登山は互いに協力し助け合うものだと感じました。今大会はコースが予定より大幅に短縮され登れなかった山があるのが悔やまれますが、何よりも大会中無事に登りきれたこと、たくさんの人と交流できたことが嬉しかったです。
(坂和 佑紀)

◆
今年のインターハイはコースが大幅に短縮される程の酷暑で、とにかく無事に登りきれるのが不安でした。下山しても涼める場所が少なく、体調を崩してしまったメンバーもいましたが、なんとかみんなで協力して最終日までリタイアすることなく、普段の山行のように楽しく登ることができて良かったです。疲れて帰ってきたときに菰野町の山岳部員さんやボランティアの方々から笑顔で配ってくださった冷たいポカリスエットやもちもち草もちやアイスキャンディーやそうめんの味は絶対に忘れないと思います。本当に感謝しています。

しかし反省点もあります。軽い気持ちで都大会に参加して、インターハイの舞台にまで立てることになりすごく嬉しかったけど、インターハイに出場して、他県の代表選手とは練習量も大会にかけてる思いも全然違うということを感じて、準備を始めるのが遅かったこと、大会に対する考えが甘かったことをすごく反省したし、何よりすごく悔しかったです。今後の山行や大会で同じ事を繰り返さないよう、引継ぎを怠ってはいけないと思いました。

最後に、全国の代表選手と、インターハイと

いう勝負の場ではありましたが、地元の話や趣味の話などで盛り上がり、方言を教わってもらったり、たくさんの人と関わることができてとても楽しかったです！今大会は私の人生の中でとても大事な経験、思い出になりました。ありがとうございました！（橋本 彩衣）



山梨県 甲府第一高等学校

今回、8月3日から8月7日に行われた、平成30年度全国高等学校総合体育大会「2018 彩る感動 東海総体」では私たち甲府第一高校は17位という結果に終わりました。

県総体を勝ち抜いた私たちですが、インターハイに向けて選手変更をしたため本格的に4人で練習を始めたのは7月からでした。インターハイまでの時間が少ない中で自分たちに何が足りないのか何ができるのかを考え、協力して練習に励むことができました。

インターハイでは全国から集まった高校生と交流を深めるといった滅多に経験のできないことができました。今回の大会は猛暑の中行われたため、大幅なコース変更などといった対策がとられました。当初予定されていたコースで下見を行っていた私たちにとっては少し残念でしたが、隊での交流を深める時間などがあり良い雰囲気の中大会を行うことができました。

来年も必ず山梨県の代表となり、インターハイに出場したいと強く思います。



愛知県 西尾高等学校

私たちは3年生2人、2年生2人で構成されたチームです。1年ほど前は後輩が1人しかおらず、今年の総体への出場は諦めていました。そのため、4人揃ったこと自体運が良かったことでした。

3年生は、昨年の県総体で全国大会への切符をあと1歩のところまで逃し、東海大会に出場しました。東海大会の舞台は、御在所山、鎌ヶ岳でした。そこで御在所山の楽しさに触れ、もう一度登りたいと思い、やっと手にした今年のインターハイ出場権でした。

インターハイにおいて、私たちは3日間の登山をすべて登りきることを目標に掲げました。そのため特に力を入れたのが熱中症対策です。去年の東海大会で熱中症になったメンバーがいたことから、水で濡らす首タオルや行動食に塩分補給のできるものを導入しました。また、メンバーには朝食に最低500mLのポカリスエットを飲んでもらいました。さらに、食事面からのサポートも行いました。昼食にはすぐエネルギーになるアンパンを、夕食には疲労回復効果を期待できるクエン酸の入ったフルーツやレモネードを入れました。私個人では、シャリバテを防ぐためにカーボローディングを行いました。結果、全員が無事3日間登りきる事ができて良かったです。

昨年もそうでしたが、大会中三重の方々の「山



を楽しむ精神」に何度も助けられました。競技中、忘れがちな山が好きな気持ちを再確認できました。また、山中の木の階段が新しくなっており、見えないところでも多くの

方が動いてくださっていることを日々実感しました。たくさんのご支援、ご協力に感謝の気持ちでいっぱいです。特に班長の林さん、副班長の橋川さんには3日間お世話になりました。山での出会いは一期一会だといつも心得ているのですが、「またどこかで会えたらいいなあ…」と思える出会いの数々でした。

最後に、この4人で御在所山に登れたことは一生の宝物です。

兵庫県 長田高等学校

「来年こそ、インターハイで満足のいく結果を。」と第9位と悔しい結果になった去年の山形インターハイで誓い、むかえた東海総体。籾内壁をもつ御在所岳に、鈴鹿の槍ヶ岳と言われている鎌ヶ岳。さらに、山頂部で伊勢湾が一望できる釈迦ヶ岳。総体の舞台となる鈴鹿山脈の山々はとても魅力的だった。

大会1日目の前日までチームの皆と問題を出し合って対策した知識の審査が終わり、幕営地に行くと菰野町のゆるキャラ「こもしか」の旗がぐるりと広場を取り囲んでおり、各都道府県へのメッセージが書いてあった。県を背負って来ているのだという自覚が再び湧いてきた。

大会2日目。コース変更かもしれないという心配があたり、八風峠までしか登れずとても残念だった。この日は班内交流も行い、他の県の選手を聞いて、「インターハイに来たんだなあ。」と改めて実感した。

大会3日目。猛暑のために再びコース変更となった。この日は朝明茶屋からブナ清水への往復だったので、驚くほど涼しく、快適に歩くことができた。ブナ清水で汲んだ水はひんやりと冷たく私たちの心を癒してくれた。

いよいよ登山行動最終日の4日目。それまでに返却された審査内容を見て、メンバーで落ち込むこともあったけど、とにかく最後まで前を向いてできることをやろうと4人で誓い合って挑んだ。中道を登っている間、終始心地よい風が吹いており、ロープウェイの白い鉄塔や、美しい形をした鎌ヶ岳も望め、とても楽しい登山

行動となった。この4人で登るのも最後だと思おうと寂しくなってきた、一歩ずつ踏みしめるように登った。

こうして振り返ってみると、800字では書ききれないほどの大切な思い出ができた。私はチーム4人で闘い抜いたこの東海総体を絶対に忘れないだろう。今まで頂いた声援やたくさんの人々からの協力により出場できたことを忘れず、これからも日々精進していきたい。



和歌山県 田辺高等学校

〈開会式〉

地元の吹奏楽部の高校生が、西城秀樹さんの「ヤングマン」、ZARDの「負けないで」、山の曲のメドレーを吹いてくれました。山の曲のメドレーは、強弱があつてすごく上手でした。これから山に登ろうという気持ちがわいてきました。

〈筆記試験〉

筆記試験「救急課題テスト」「気象課題テスト」「自然観察課題テスト」「天気図テスト」の4つを受けました。今までは2人が受けたら良いだけだったのですが、4人全員が受けるということで今まで以上に緊張しました。「天気図テスト」の人だけ40分だったのでかなり疲れました。3人の共通課題テストはすごく難しかったです。「天気図テスト」には台風が出ず、前線が長くて大変でした。等圧線も複雑でした。

〈幕営〉

1日目は約6分、2日目は約8分で立てることができました。2日目の方が風の向きも考えて上手にたてられたかなと思います。テントの

熱中症には気を付けた方が良いと思います。夜はととてもとても暑いんです。水分補給をしっかりとするべきだと思います。

〈炊事〉

炊事は日なたではなく日陰ですべきです!! 食材が腐ります。1日目は日なたでやってしまいましたが、2日目からテントの陰でやりました。テントのところが早く陰になるチームと、ならないチームの差をなくしてほしいです。私たちはずっと日なただったので過酷でした。

〈登山行動〉

今回はすべて短縮コース、サブ行動でした。熱中症にならないように気を付けましたが、2日目の行動は断念せざるを得ませんでした。岩場はものすごく楽しかったです。



広島県 基町高等学校

去年からインターハイ出場を目標に着々と準備を進めてきました。私たちの戦いは、県総体から始まりました。広島県の県総体は、タイムレースを主としています。そのため、私たちは、強靱な肉体を作り上げるために日々の苦しいトレーニングに励んできました。その結果、県総体では優勝し、タイムレースでは同校の男子A隊に勝つことができ、無事インターハイへの切符を手に入れました。インターハイ出場時には、笑顔で登山することができ、日々のように楽しむことができ、よかったです。

今大会の一番の心配事であった熱中症には救急の知識を役立て、しっかりと予防することができました。また、大会から配布された霧吹きなどを用いて、予防に努めました。

次に、去年インターハイ出場での悔しい思いを今大会で少しは晴らせたと思います。その理由としては、一番の課題であった読図審査で、去年よりも良い結果を出せたからです。来年こそは、後輩に満点を期待したいと思います。

最後になりましたが、今大会で支えてくださった審査員、役員、補助員などの皆さん本当にありがとうございました。

大変思い出に残る、良い大会だったと思います。3年生にとって、今大会が最後の登山大会になりますが、この経験をこれからの生活に活かしていきたいです。そして、3年生はインターハイで学んだことを後輩に伝え、次の大会に向けて頑張りたいです。



〈3班〉

山形県 山形西高等学校

鈴鹿山脈は白い花崗岩がきれいで、地元の山形とはまた違った魅力のある山でした。暑さのために大幅なコース変更には戸惑ったけど、チームでそれぞれの役割を果たせてよかったです。大会中はハプニングもあり審査のことや明日の行動のことを気にかけてはいたけど、他県のかわいい方言を聞いたり、IHの雰囲気を楽しんだり、チーム・パーティーでとても楽しく過ごせた充実した5日間でした。 (真野 あずさ)



人生で最初で最後のIHはさらに登山と登山を愛する人たちを好きになった素敵な大会となりました。全国各地から同じ志をもつ岳友や大会役員の方々と交流を深めることができ、山を愛する人の多さを改めて実感しました。何より、ここまで一緒にがんばってきたパーティーの三人とご指導して頂いた先生には感謝の気持ち

ちでいっぱいです。IH で得た経験を大切にしてい
これからも登山と関わっていきたいと思いま
す。
(今野 歩)



IH までの準備期間は長いようであってあ
という間でした。本番が始まるとやれることは、
いかに今まで通り行動できるかということだ
と思います。IH という大きな場では緊張と不安
いつも通りにできないことの方が多いと思いま
す。そんな中で私のパーティーは、山を登る楽
しさを忘れずにいつも明るく元気に過ごせた
のは、この4人で苦楽を共にしてこれたからだ
と思います。大会役員、三重の方々、本当にあり
がとうございました。
(鈴木 紀恵)



昨年開催された地元山形でのインターハイで
は補助員として参加しましたが、今回選手とし
て三重に来ることができて本当に嬉しかった
です。早朝の幕営地にたくさんのヘッドランプ
がキラキラと動く景色がとてもきれいで、全
国には登山をしている同世代の仲間がこんな
にもたくさんいるのだと感動しました。きっと
一生忘れることはないと思います。大会役員
の皆様、本当にありがとうございました。

(青山 美凜)



茨城県 水戸第三高等学校

三重県の鈴鹿山脈でインターハイを実施す
るにあたって、役員の方々、審査員の方々、菰
野町の方々、補助員の方々、自衛隊の方々、多
くの人の支えによって私達は大会に元気に望
むことが出来ました。

また、2日目に行われた交流会では多くのチ
ームと話すことができ、山を通して会話が広
がっていくことがとても嬉しかったです。3日間
の登山行動は猛暑の為大きく変更がありまし
たが、楽しく登りきることが出来ました。

(CL 吉澤 紅葉)



私たちの努力の集大成を発揮する場所とし
て、鈴鹿山脈は本当に素晴らしい場所でした。
荘厳な山々や美しい沢など、豊かな自然の中
で過ごした3日間は、どれも鮮やかな色彩を持
って私の脳裏に焼き付いています。こんなにも
素敵な大会を運営して下さった先生方や補助
員の皆様には、感謝してもし切れません。私
の山岳部の最後の青春を、仲間や先生、三重
県の方々と共に彩る事が出来て幸せです。本
当にありがとうございました。
(SL 三浦 句織)



インターハイを経験して得たことがあります。
まず、パーティーのメンバーとより良い結果
を残そうと協力し合って努力した時の達成感
です。個人種目では感じ得ない団結力を体験
することが出来ました。次に、感謝の気持ち
です。応援してくれた家族や部員、指導して
くれた先生。そして、何よりこの大会におい
て準備をしてくれた先生方、会場を整えてく
れた設営隊の皆さんに対する感謝です。今回
は本当にありがとうございました。
(長谷川 佳穂)



まだ寒かった頃から、私たちは努力を積み重ねてきました。そして悲願のインターハイ出場。美しい鈴鹿の山々は、どんなに時が経っても忘れないような素敵な思い出を与えてくれました。そんな経験ができたのも、度重なるコース変更に対応して下さった審査員の皆様、いつも私達の体調を考えて下さった設営隊の皆様、歓迎して下さいました菰野町の皆様、そして何より、支えてくれた仲間や先生方のおかげです。本当に有難うございました。(岡野 珠里)



神奈川県 生田高等学校

私たち神奈川県は3年間熱中症などでゴールできていないと言われていました。私も昨年度先輩3人と全国大会に初めて参加しましたが、最終日に緊張からか過呼吸で倒れてゴールにたどり着くことができませんでした。今年も、初日に熱中症で点滴を打つまでの症状になってしまった子がいました。なので、ゴールができないかなと思ってしまったのですが、最後の日はきちんと登り切ることができて本当に良かったと思いました。最終日のテストはきちんと点数が取れて嬉しかったです。前日までの準備や本番に対しての心構えや体調の確認の仕方など反省するべきところが多い大会だったと思いました。

来年は一緒に参加してくれた後輩たちが今大会での反省を生かし、しっかりとゴールに向かって歩いてくれると嬉しいです。また、それだけではなく次は点数のことなどを踏まえてトレ

ーニングに励んで欲しいです。

2年間参加できたことをとても嬉しく思いますし、結果は残したかったですが、これを後輩たちが見て、改善し、より良い結果になってくれることを祈ります。

石川県 金沢二水高等学校

今回のインターハイは初参加であったとともに、3日間とも険しいコースばかりで、以前からとても心配していました。しかし、大会本番は、暑さで途中棄権してしまったチームもいる中で、3日間ともみんな元気に登り切れたので本当に良かったです。

石川県は女子の山岳部のある高校が少ないので、まず人の多さに驚きました。また、ほとんどのチームが県で選ばれてきているので、やはり意識が高いところがあり、良い刺激になりました。班行動の際は、チーム内で話しながら、本当に楽しそうに登山をしていたし、結束力の強くてすごいなと思いました。だから良いところを全部次につなげていきたいなと思います。

3日間とも暑さが厳しくて、登山行動中は本当に辛いこともありましたが、チームで励まし、協力し合いながら登れたので良かったです。2日目は、以前下見で歩いたことがあるコースだったので、まだ余裕を持って乗れて、改めて下見の大切さを感じました。また、お菊池で長時間の休憩を取った時に、誰かが池に落ちてしまって、見た目はただの沼地なのに実は結構深くてびっくりしました。

3、4日目は全く歩いたことがなかったので、ブナ清水は涼しくて少し一息つけてよかったです。特に、私が一番楽しく登れたのは4日目の中道のコースです。石灰岩を登ったり、大きな負れ岩があったり、途中で絶景を楽しめたりと、変化に富んだコースで面白かったです。目的地に着くと必ず役員の方々が拍手で迎えてくださって、とても嬉しかったです。ありがとうございました。

筆記、審査の面では、勉強や知識不足であまり良くなかったのですが、次はちゃんとできるよう

に知識を増やしていきたいです。体力面でも、今回の大会を踏まえて、足りない部分を発見できたので、日々の練習を大切にしようと思えました。素晴らしい経験ができ良かったです。



静岡県 藤枝東高等学校

私にとって1年生の時からの憧れであった全国大会に出場でき、本当に嬉しい気持ちでいっぱいです。去年の東海大会で鈴鹿に訪れ、この山域の魅力を感じ、また来たいとずっと思っていました。1年ぶりの鈴鹿の山々は変わらず私たちを迎えてくれました。また思い出話をしに何年後かにメンバーで登りたいと思います。大会に関わっていただいた全ての方々、ありがとうございました。(神谷 美里)

◆
昨年の東海大会に続いて、2年連続鈴鹿で行われた大会に出場できて幸せでした。何度も何度も踏査に来て、本番コース短縮というのは残念でしたが、それだけ登山は安全第一だということを再認識させられました。菰野町をあげて多くの方々の支援があったことがわかり、感謝の気持ちでいっぱいです。そして、全国の選ばれし選手たちから学ぶことは多く、とてもいい経験になりました。ありがとうございました。(長谷川 咲希)



◆
今年の大会は異常な暑さの為に全コースが短縮になり頂上を2つ目指せなかったのでもとでも残念でした。ですが、ザレ場から見えた鈴鹿山脈のスカイライン、ブナ清水で見た緑と清流の美しさ、御在所山の三角点で撮った写真、ロープウエーに乗ったことはとても良い体験になりました。初の全国大会出場という中で審査に戸惑うこともありましたが、チーム内で協力し乗り越えることが出来ました。5日間頑張ったと思います。(鈴木 麻友)

◆
振り返ってみると、毎日が貴重な時間で、あっというまの4日間でした。コース変更があったり、チーム行動がなくなったり、予期していなかったこともありましたが、それに早めに切り替えて対応出来たのでよかったです。また、サンプリングや地域の方々からの差し入れが本当にありがたかったです。結果よりも、チーム一丸となって全員が大会に向けて本気の気持ちで臨めたのが何より一番だなと思います。(中越 美結)

香川県 善通寺第一高等学校

私たちは、入部したての頃は6人で活動していました。それから2人退部してしまい、今の4人だけとなりました。誰か一人でも欠けると試合に出られなくなるという状況で、辞めたいと思うぐらい辛い時もあったけど、4人で支え合いながら頑張ってきました。その分、女子の仲はとてもよく、県総体では「もう少し長く4人で山を登りたい」という思いから、インターハイ出場権を勝ち取ることができました。

インターハイ本番では猛暑のため荒天対策で3日間の全コースを登ることはできませんでしたが、下見では天候に恵まれ、涼しい環境の中で鈴鹿山脈を楽しみながら登ることができました。ブナ清水は他の場所より温度が下がり涼しく、湧き水も出ていてとても落ち着く場所でした。太陽に照らされた植物の黄緑色や、岩に生えた苔の深緑色、そこに生えている木々の匂いなど、五感を使って自然を感じることができま

した。下見の時の鎌ヶ岳は最後の岩場が天気も良かったため、とても苦しかったです。頂上に行くとき御在所岳などの山々が一望できてとても素晴らしかったです。

本番中に、各都道府県の選手とも交流ができ、私たちにはとても新鮮で、インターハイならではの経験をさせてもらうことができました。登山行動のときには、地域の方々に応援していただいたり、帰ると大勢の方々の拍手とサンプリングが出迎えてくださいました。おそうめんやアイスやお餅などの美味しい食べ物も振る舞っていただき、疲れきった私たちに元気を与えてくれました。

隊を引っ張っていらした班長さん、副班長さんは気さくで面白い方が多く、試合中でもリラックスして登ることができました。

4人とも大きく成長することもできました。これからは受験という山登りをしっかり登頂できるように頑張ります。本大会に参加させていただいて、本当にありがとうございました。



長崎県 長崎北陽台高等学校

初めてのインターハイで不安なことが沢山ありました。大会中は気温の高さに悩まされる毎日、夜は寝つくのが遅くなってしまったり、途中で目が覚めてしまったりと大変でした。しかし、そんな辛いことも吹き飛ばすような町の方々からの差し入れがあったり、役員の方々からの優しい声掛けがあったりと本当に多くの方に支えられているのだと実感しました。最後の登山を楽しむことができ嬉しかったです。

(CL 蓮子 令佳)



コース変更が3日間全てであり、少し物足りなさを感じるところがありました。もっと登りたかったと思うこともありますが、班で他県の人たちと楽しんで登ることができたので、いい経験になりました。夜はテントの中が予想以上に暑く、寝つけなかったことはきつさを感じました。できるだけ工夫をして耐えることができたことは良かったです。(SL 上野 睦)



暑い中でコース変更、県大会や九州大会ではあまりなかった隊行動など、自分の経験になかったことが多く、満足のいく結果はとれませんでした。しかし、自分がミスをしたと思って落ち込んでいる時に明るく話しかけてくれたり、暑くて眠れない時に扇いでくれたりした仲間のお陰で心の底から楽しいと思える登山ができました。自分を支えてくれる仲間や先生方の大切さを心の底から感じられた大会でした。

(M1 荒川 巴海)



今回のインターハイでは、自信のあった体力でここまで引かれるのかと思い、隊行動の難しさを感じ、悔しさが大きい大会になりました。しかし、チームのみんなで楽しい登山ができたのはよかったです。私が不安になっている時に支えてくれたチームのみんなに感謝の気持ちしかありません。そして、3年間ご指導して下さった監督に対しても本当に感謝しかありません。来年の後輩にこの悔しさを託します。

(M2 鳥山 真鈴)



〈4班〉

宮城県 多賀城高等学校

今回インターハイに出場してみて、全国のレベルの高さと強さを実感しました。下見をしっかりとしたり、よく資料を読み込めば分かる場所など、不意をつかれた点は何箇所もあり、改善すべき点が沢山挙げられました。この経験を後輩に伝え、次の経験に生かしてもらえよう帰った後しっかりと反省したいです。

(柴崎 千尋)



今回1年生で全国という大舞台で46県の人たちと戦った5日間は自分の中でも課題が沢山見つけられました。その課題をしっかりと改善して来年の高校総体でもう一度インターハイに出場できるように頑張っていきたいと思います。なにより、3年生の皆さん短い間ではありましたがお世話になりました。3年間お疲れ様でした！

(佐藤 美咲)



初の全国大会で気づいたことは、下見がどれほど重要なのかということです。私たちは天気に恵まれ、全コースの下見をすることができました。それによって、資料のコース案内では、頭の中でコースを想像しながら読み込むことができ、更に本番でも下見のお蔭でキレットをスムーズに降りることもできました。下見というのは、本番中安全に行動できるだけでなく、知識としても役立つと実感できました。

(高橋 菜月)



1年生の頃から目指していたインターハイに

出場することができてとても嬉しいです。インターハイの予選がある県総体では楽しく登れたものの、反省しなければならぬ点が沢山あり、優勝にはとても驚きました。初めて出場するインターハイでは、下見、大会期間を含めわくわくしながらも緊張していました。この大会までの山岳部員であった2年と5ヵ月間は楽しかったこと、つらかったことすべてを含めて自分を成長させてくれたと思います。

(北條 明香里)



この大会を運営するにあたって、役員やホテルの方々、自衛隊の皆様の尽力に感謝申し上げます。ありがとうございました。お蔭で大会を無事終えることができました。

秋田県 横手高等学校

今回の開催地は三重県ということもあり、秋田県に住む我ら横手高校女子パーティーは、下見登山を含め12泊13日することとなった。私たちにとって初の遠征であったため、インターハイまで精神と体力が持つか正直心配であった。しかし、三重県の方々の優しさに囲まれ無事にインターハイまで身体を保たせることができた。

インターハイ本番では連日報道されていた熱中症が心配であったが、運営側の適切な対処のおかげで私たちのパーティーは全日程を元気に、笑顔で乗り切ることができた。また、班長さん、副班長さんと会話しながら登山することができたため、審査をされるために登山するというよりも、楽しく登山するという事に集中することができた。特に私たちがいた4班の班長、副班長さんはとても気さくで自由な雰囲気、いつもは長く感じる3日間の登山行動も、あっという間に過ぎ去っていった。むしろもっとこの班で登山をしたい！という思いの方が強く、解団式で解散してしまうことがなんだか悲しく寂しい気分になった。班長・副班長さん、そして共に競技をし合いながらも、楽しさや苦しさを分かち合い、充実した3日間を作り上げてくれたB隊の皆さんに感謝！！

暑さと急登で息を切らしながら登った鈴鹿山脈の眼下には、広大な伊勢湾と四日市市が広がり登山の疲れを吹き飛ばしてくれた。時々吹く爽やかな風は思わず声が出るほど心地よく、疲れきった顔に笑顔を取り戻してくれるものであった。来年は宮崎県で開催されるインターハイであるが、今回の大会のように運営側の適切な対応と楽しく登山できるようなコース選択を重視してほしいと思う。それによって、現1・2年生の山岳部員は登山は楽しむものであるということを実感する絶好の機会になると確信している。今回の大会は、安全に楽しく登山するという大切さを身をもって実感できた。

本当にありがとうございました。



三重県 神戸高等学校

私の初めてのインターハイは、地元だったので、余り気負わずに参加することができたので、とても良い思い出になりました。しかし、本来のコースとの量や質がほとんど違ったので、地元民の強味は少なくなってしまう結果になってしまい、少し残念でした。また、今回のコースは、だいぶ短縮されていたので、本当なら3日間余裕でないといけなかったのですが、ホテルについた瞬間に疲れが溜まっていたのだと気付きました。今回の事からさらに体力作りを頑張っていきたいと思います。

(1年 宮部 愛美)



私は、インターハイに出場することが決まった時ほとんど実感が湧いていませんでした。正直、今もあまり実感がありません。今回は、地

元開催だったり、コースが大幅に変更されるということもあり、よくわからないまま大会が終わってしまいました。でも、準備の段階も含めてとても楽しむことが出来ました。

(1年 今村 美月)



今回は私にとって2度目のインターハイでした。去年とは違い、自分が先輩として1年生を引っ張っていかないといけないという責任や、地元勢としてのプレッシャーもあり、始まる前はとても緊張していました。でも、始まってみると、応援してくれている人たちに「山を楽しんで!」と声をかけられ、この大会を精一杯楽しもうと思えました。3日間、この4人で楽しみながら歩いて本当に良かったです。

(2年 坂本 小雪)



3回目のインターハイは良いのか悪いのか三重でした。役員の方々と下見をしたり何年も前から準備をする先生を見て、大勢の人の協力があって大会が成り立っていること、応援してくれる人がたくさんいることを改めて強く感じました。そんな大きな舞台に立つことができ、インターハイは私の一生の思い出です。ありがとうございました。でも地獄の下見を経験した神戸には今回の短縮コースはハイキングでした。(笑)

(3年 田辺 夏子)



写真提供 P&P 浜松

滋賀県 守山高等学校

私たち3年生にとって最初で最後のインターハイ。ずっと憧れだったインターハイ。昨年の県予選では2位という涙をのむ結果に終わって

しまい、この1年は昨年の悔しさを晴らし、マウンテン女にレベルアップすべく、数々のペットボトルと大きな希望をザックに詰め込み練習を重ねてきた。ちなみにマウンテン女とは、世にいう山ガールなどというかわいらしいものではなく、どんな山にも果敢に挑む山を愛し、山に愛された女のことである。そんなこんなでここまでやってくることができたのは、練習をともにしてきた仲間が存在があったからである。努力の甲斐あって今年は男女アベックで優勝することができ夢の舞台への切符を勝ち取った。しかし出発の日、我が校の男子隊に予想外の出来事が起こり棄権を余儀なくされてしまった。

そんな状況にも関わらず、A隊のメンバーは大会中も私たちにエールを送り続けてくれた。そのおかげで、私たちは、大会を乗り切ることができた。大会中はとにかく緊張した。朝から夕方まで誰かに見られている恐怖と、自分たちがしてきたことを出し切れるかどうかの不安でいっぱいであった。ペーパーテストは緊張しすぎて手が震えた。テント審査ではあわててしまいテントをたてる向きを間違えて、そのせいで夜は暑い思いをしながら眠りについた。がんばってがんばって軽くしたメインザックは、熱中症が懸念されコース変更されたために一度も背負うことがなかった。そんな辛い思いをたくさんした4日間だったが、それ以上に仲間の温かさ、先輩の背中大きさ、先生の熱い思いを感じることができた。本当に良いインターハイであった。来年こそ男女ともにインターハイの山を登り切りたい。



京都府 嵯峨野高等学校

大会2日目では初めての登山行動ということもあり、チーム全員少し緊張していました。しかし面白い班長、副班長の先生方や他のチームの方とも交流でき、リラックスして乗ることができました。お菊池までの急登は、本来ならば苦しいはずでしたが、和気藹々と楽しむことができました。八風峠からは初見のルートでしたが、チームみんなで滑らないように、安全に気をつけて下山することができました。

大会3日目はコース変更でブナ清水までのピストンになりました。2日目に続き隊行動で慣れてきて、休憩の時もよく喋っていたりすることが多かったです。登山行動中、日向はとても暑かったのですが、根の平峠を過ぎて川のそばを通り過ぎると涼しくて心地よかったです。ブナ清水に着くとA隊が待機していて人ばかりで賑やかでした。ゴールした後のおもてなしのガリガリ君と草もちとお茶は疲れた身体に染み渡っていました。幕営地に戻ると、幕営と炊事の審査がないことで自由に幕営時間を決められて良かったです。

4日目はおそらく武平峠から御在所山のコースになるだろうと予想していましたが、その予想に反し、中道登山道から登る競技内容となりました。今大会の中で最も苛酷な日になると思っていたのですが、晴れていこそすれ風があったことやベースが遅かったこともあり、思っていたよりも体力的にも精神的にも余裕を持って登頂することができました。パーティー行動になってからは写真をたくさん撮るなどして思い出に残る楽しい登山になったと思います。

本大会は各都道府県で優勝したチームが全国から集まる大会であり、そのレベルの高さを身をもって感じる場面が多くありました。登山中だけでなく幕営や炊事の際の他チームの様子などインターハイ初参加の私たちにとっては勉強になることばかりであり、貴重な経験となりました。この経験を後の世代に活かせるようにしっかりと伝えていきたいです。

最後になりましたが、本大会でお世話になった全ての方々に感謝申し上げます。



高知県 高知追手前高等学校

今年のインターハイは、終わってみればあっという間で、たくさんの学びが得られた大会でした。

私たちは部員が2年生のこの4人だけ、しかも一つ上の学年に女子の先輩はいないため、昨年秋からずっとこのメンバーで、県大会も四国大会も一緒に山に登ってきました。同級生どうし正直に話せるのはもちろん、お互いを気遣い、楽しく登山できるのが私たちの強みだと思います。インターハイも多く不安はありましたが、ヒルにも熱中症にも負けず無事に歩ききることができました。

今大会では、隊行動の難しさを強く感じました。高知県女子はチーム数が非常に少なく、大会での隊行動に慣れていません。前を歩くチームとの間隔があいてしまう時があり、今後の課題として、これまでの行動を見直したいと思います。また、他校選手の歩行技術を見ることができたことで、キレットの通過や急登など、全国の選手の経験の豊富さ、努力によって得た強さを感じました。一方、計画書作成や課題テストへの取り組み等では、頑張った結果が反映されて手ごたえを感じたものの、詰めが甘かった部分もあり、よりよいパフォーマンスを目指して改善に努めていきたいと思いました。

インターハイ期間中は晴れ渡る青空の下で、交流会や空いた時間に他校の皆さんと話げができたこと、遠くに伊勢湾が光って見えて嬉しかったこと、頂いたアイスが冷たくておいしかった

こと、コース短縮ですべての三角点を踏むことはできませんでしたが、それでも思い出に残る大会となりました。

暑い中、サンプリングや大会補助をくださった三重県の高校生の方々、こもしかさん、気さくに話しかけ、笑顔で接して下さった班長さん、副班長さん、大会を支えて下さった役員の皆様に心から感謝申し上げます。

全国で日々練習に励む仲間がいることに気付かされ、来年もまたこの舞台に立ちたいと思った4日間でした。4人で助け合い、更に強くなりたいと思います。



写真提供 P&P 浜松

熊本県 人吉高等学校

大会お疲れ様でした。このような素晴らしい大会を通して私たち4人はたくさんの貴重な経験を得ることができました。これは、今回の大会を運営するにあたって様々な場面で手助けをくださった関係者の方々のおかげです。本当にありがとうございました。

大会1日目の開会式では、菰野高校吹奏楽部の演奏が印象的でした。皆さん精一杯私たち選手を応援してくださっていて、これから頑張るぞという気持ちになりました。菰野高校の皆さんありがとうございました。その後の課題テストでは4人それぞれ、今まで頑張ってきたことを出し切ることができました。

大会2日目は登山行動1日目で、暑さで短縮コースを歩きました。今まで雨天、雷、強風などでの短縮コースは経験していましたが、まさか暑さで短縮になるとは思っていませんでした。これもひとつの貴重な経験となりました。

大会3日目は登山行動2日目で、この日も暑さで短縮コースを歩きました。ブナ清水へのコースは、小川や沢を渡ることが多く、太陽にジリジリと焼かれながらも足元は涼しく不思議な感覚でした。木陰の涼しさも心地よく、ブナ清水付近では風呂に入っていないことを忘れるほどでした。

大会4日目は登山行動3日目で、この日も暑さで短縮コースを歩きました。途中のキレットではどのチームを慎重に岩を降りていたため、一時間半もかかり、待ち時間が長引いてしまいました。しかし、その時間の中で、前後のチームと話す時間ができ、様々なチームと交流することができました。その地の方言、教育など、色々なことを知ることができました。これも登山の魅力のひとつだと思います。

サンプリングのことですが、様々な場面でお世話になりました。冷たいポカリは私たちの疲れきった心と身体を癒してくれました。4日間暑い中私たち選手に冷たいポカリをありがとうございました。大変美味しかったです。

最後に、大会を運営していただいた皆様、応援くださった全国の皆様、三重県の地元の皆様、全ての方に御礼申し上げます。



宮崎県 宮崎大宮高等学校

1日目は開会式でした。駅前の吹奏楽のフィナーレが良かったです。こもしかに会えたことが一番印象に残っておりますので、来年からもご当地キャラを一匹いてくれるととても嬉しいのではないのでしょうか？

開会式内の内容の選手紹介では前の（東北や北海道選手団）人々は九州などの自分より南の選手を見られなさそうなのが、少々かわいそうに思いました。ペーパーテストのトイレ表示が欲しいです。

登山行動が、コース短縮があり、体調面でも精神面でも余裕ができたので、記録書や読図ではそれぞれ担当の人は自分の力を十分に発揮できました。大会下見を行っておらず、今大会の山は初見で不安をすごく感じていましたが、私たちのいつもの部活や大会の時の、私たちのペースを崩さずにいけたので良かったと思います。

今回の大会当日の三重県の気温が、宮崎県でもなかなか体験できないほどの猛暑日だったので驚きました。まさかここまでとは思っていませんでしたが、こまめな水分補給を行うことで熱中症を予防することができ、私たち選手4人とも体調不良にもならず山を登りきったので、とても良い日々を送ることができました。これを機に登山時の熱中症対策に役立てたいです。

特に登山行動1日目は、どのくらいの水分を用意すべきかわかりませんでしたが、多めに用意した水分で足りたので安心しました。ゆっくりとした歩行と多めの休憩のおかげで、登山行動ができたと思います。後半の方は急傾向でしたが、落ち着いた行動ができたのでこれからの登山の参考にします。

登山行動中、班長、副班長さんに多くのことを気にかけていただき、嬉しくとても楽しかったです。今回のメンバーは全員がインターハイ初出場で不安や緊張もあったのですが、みんなで助け合いながら最後まで登りきることができました。インターハイに出場できたことを誇りに思います。ありがとうございました

<5班>

栃木県 矢板東高等学校

昨年3月に発生した那須雪崩事故を受け、活動を自粛していましたが、栃木県選手団として2年ぶりに大会へ参加することが出来ました。期待と不安が渦巻く中、ずっしりと背中に申し掛るメインザックと沢山の仲間の思いを背負っ

て会場となる三重県へ向かいました。

大会の幕開けは、大変華やかなもので開会式前のアトラクションでとてつもなく感動しました。私達にとっては平成最初で最後のインターハイ。当然、監督も選手も初経験で無防備と云っていいほどの状態で競技に臨みました。案の定、初日から全国大会独特の雰囲気や常連校の揃った息遣いに圧倒されてしまいました。

大会2日目から4日目の登山行動では、酷暑によりコース短縮がなされたものの、隊のペースに着いていくのがやっとでした。他のチームが歌ったり笑ったりしているのを見て、へとへとに疲れた私達は、すごいと思わず心の声が漏れてしまいました。道中で出会ったトカゲが唯一の癒しであったのをとてもよく覚えています。初出場であることをどんなに嘆いても仕方ないので、「大丈夫だ、下見してないんだから」という励ましなのか、諦めなのか分からないこの言葉を提唱し、精一杯出来ないなりに戦いました。

また、審査の対象となっている項目はもちろん、コース短縮や医療体制の充実度からインターハイが安全登山のスタンダードである事を実感しました。この大会で得たことを栃木県に持ち帰り、安全登山という言葉の本質を後輩達へ発信していこうと思います。

大会が終わると安堵感と寂しさが混ざった複雑な気持ちになりました。目に焼き付けた鈴鹿の山々の岩や緑の美しさはもちろん、仲間と寝食を共にし、苦楽までも分かちあった思い出はかけがえのない宝物となりました。

大会に出場するにあたって、多くの人の励ましと支えがあってこのような素晴らしい経験を胸に刻むことが出来ました。本当にありがとうございました。(CL 中丸 奏)



群馬県 高崎女子高等学校



まず、今回の大会運営に携わってくださった方々、私たちの力になってくれた周りの方々、本当にありがとうございました。

4人ともインターハイ初出場で、とても貴重な良い経験をさせていただきました。このインターハイに出場できたおかげで他校の雰囲気やレベルを知ることができました。

登山行動では、3日間を通してバテない登山を学びました。急登や下りの後の平らな箇所での前の人との間隔がどうしても空いてしまい、詰めようとしてペースを急にあげてしまいがちだったけれど、前の人に声をかけたりする事でペースの乱れを回避する事ができました。1チーム32人が最後まで無事に切り切る事の大切さも学びました。やはり、自分たち4人だけでなく周りのチームとの協力は競技中であっても大切だと感じました。

私たちの今大会での最大の悔しさはテント設営にあります。県総体で自分たちの納得のいく設営ができず、インターハイではリベンジをかけていました。競技中は自分たちなりによくできたつもりだったのですが、結果は0.7点も減点されていて驚きました。これはインターハイに出なければ分からない事だったので減点されたけれど、次に活かせるものとなりました。テント設営以外にも反省すべき点や改善すべき点が多く見つかったので来年に活かしていきたいです。自分たちの登山の何が通用し、何が通用しないのか、はっきり分かった大会でした。

私たち高女山岳部は常に笑顔で登ることを心

が楽しく登っています。大会中も自分たちらしく元気に登れたので良かったです。私たちが6位を取れたのは周りの人々の支えに加え、自分たちらしく登れたからだと思います。この経験を群馬に持ち帰り、県全体としてもレベルアップができるようにしたいと思います。

富山県 富山高等学校

昨年の山形インターハイではあまり他県の選手と仲良くなれず、ひたすら下を向いて山を登り、疲れた思い出しかなかった。富山県は女子隊が1校しかなく、県内では競い合う相手がないので、インターハイは他県の女子隊と接することができる数少ない大会である。それにも関わらずその機会を無駄にしていた。しかし、今年は全日隊行動となり、昨年よりも他県の高校生との交流をもち、ただ山を登るだけではない視野の広がった楽しい思い出を多くつくることのできた大会となった。

昨年は4人中3人が初出場で、その前年の28位から19位まで順位を上げ、昨年よりも順位を上げたい、上げなければいけないと感じていた。今年は3人が2度目の出場となり、しかも全員3年生と体力と経験のあるチームができ、そのため部長である私は、大会前は一人でピリピリとした雰囲気を作り、チームのみんなにも「楽しんで登る」という一番重要なことを伝えることができていなかったことは反省点だ。

今年で最後のインターハイだったので自分たちの力を出し切って上位を目指したい気持ちもあり、短縮コースとなりペースも遅い山行に少なからず不満もあった。しかし、自分の私情を抜きに、第一に安全登山を考えることを大切にしなければいけないことを改めて考えさせられた大会だった。これからの山行にいかすことができる命あつての登山という大切なルールを学ぶことができたと感じている。

これで競技としての登山は終わったが、役員の方のようにこれからも山を愛し続け、また何らかの形で競技登山に関わることが出来

ば幸いだと思う。酷暑の中、私たちのために何度もコースを下見し、無事に大会を終えられるよう様々な安全対策をとって頂いた隊長を始め運営の先生方には感謝しても感謝し尽くせない。5日間本当にありがとうございました。またどこかの山でお会いできることを楽しみにしています。



岐阜県 飛騨神岡高等学校

私たち飛騨神岡高校の登山部は、岐阜県で1校しかないため、はじめからインターハイの出場が決まっています。そして、女子の部員は3年生が1人、2年生が1人、1年生が4人の計6人で活動してきました。正直厳しい状況だったと思います。インターハイを経験している人も少ないし、3年生1人だったことも例に挙げられます。ですが、こんな状況だったからこそ、より一層努力ができたのではないかと考えています。実際、筆記テストや読図の採点を見ると、全体的に良い点数が取れていたと感じました。今回の大会は、気温の関係ですべてのコースが変更となり、残念でしたが、これも良い経験となりました。コース変更があったからと言って、支障はほとんどありませんでしたが、記録書が考えていたものと違ったりと、まだまだ準備すべきことが多々あったと、後になって後悔することもありました。また、メンバー4人のうち、2人が1年生ということで、体力を少し心配していましたが、普段の厳しい練習であつたり、コース変更で歩く距離が短縮されたりして、離脱することなく、楽しく登山ができ

たと思います。今回の大会では、メンバー全員が自分のすべき役割をきちんと果たしていたし、何より楽しく山を登れたことが良かったなと思います。ですが、一方で、反省点や改善点も出てきたので、1、2年生に今後、つなげてほしいと思います。



岡山県 就実高等学校

今回のインターハイは暑さの為コースが短縮され、審査等では個人的に良い結果が出ずに心残りが多々ある試合でした。しかし山では景色や地形の変化が沢山あったため、飽きがなくとても楽しかったです。また、最終日では班内でお互いに各校を気にしながら歩いていたので、仲間も深まり距離が縮まった気もしました。3年生ですが新しく学べたこともあり、とてもよい経験ができ良かったです。(田中 彩貴)

私はチームの中で一番体力がなくて、何度もチームメイトに励まされこの3日間なんとかやり遂げることが出来ました。今大会ではコース短縮され不完全燃焼、審査などでは悔いが残りましたが他県の方々と触れ合い、また色々なことが学べてとても良い経験になりました。競技として三重県の山を登ることはもうありませんが、御在所山までの奇岩、キレットに登りたいなと思いました。(森川 華帆)

私は、今年も昨年と同じ仲間(4人)で二度目のインターハイに出場できたことが第一に嬉しかったです。最後のインターハイということ

もあり、仲間と共に上位入賞を目標に、日々練習に励み、支え合いながら体力をつけるよう努力しました。本番では、一人一人の注意不足が原因で、何箇所かミスがありましたが、自分の最大限の力を出し切ったと思います。そして、どんな苦しい時でも諦めずに戦い続けた仲間感謝したいです。(石井 彩友美)

この大会に向けて日々練習してきたものの、3年生の勉強が忙しい部分もあり、去年より4人それぞれで大変なことが多かった様に思います。しかしそれでも放課後メンバーと設営の練習に取り組み高校生最後の夏を充実したものにできました。大会では個人的に悔いの残る点がいくつもありました。しかし、結果を受け入れてこの大会で学べたことをこれからの生活や日々の知識に使っていこうと思えた良い大会になりました。(石井 亜美)



山口県 防府高等学校

昨年の山口県総体、全国大会優勝を目指していた先輩方が熱中症でリタイアしてしまいました。悔し涙を流した先輩方の姿を目の前で見ていた私たちは、来年は私達が必ず全国大会に出場し、優勝すると心に決めました。チームメイトや顧問の先生と何度も何度も話し合い、熱中症には特に気をつけました。その結果、なんとか全国大会に出場することができた。

無事に予選を突破すると、すぐに気持ちを全

国総体に切り替えました。予選で明らかになった問題点や改善点について、顧問の先生を交え皆で話し合い、失点を無くするための最善策を考えました。体調管理に関しても、全国総体前の早い段階から徹底し、熱中症対策もメンバー間で確認し合いながら万全に行いました。

そして迎えた大会本番では、時間と手間を十二分にかけて対策を練ったおかげか、あまり緊張せず落ち着いて挑め、大会を楽しめる余裕もありました。しかし、課題テストなどで失点しまったこともあり、入賞もできないだろうなと思っていました。なので、閉会式で優勝校として「山口県、山口県立防府高校！」呼ばれたときは本当に信じられませんでした。「出場するなら優勝しかない！」と練習してきたので、達成できてほっとしています。

このような、人生で二度とないであろう経験ができたのも、周りの方々のサポートのおかげだと思います。山口県に残った同級生4人や顧問の先生、家族、部活の先輩方、後輩達、その他多くの応援し支えてくれた方々に改めて感謝の気持ちを伝えたいです。

ずっと部活を続けてきて、楽しいことよりもキツイことが多くて、辛くてやめなくなったときもありましたが、こうして優勝という最高の形で終わることができました。この感動と感謝をこれからも多くの人に伝えていきたいと思います。本当にありがとうございました！



福岡県 修猷館高等学校

1日目に行われた知識テスト。それぞれ担当の科目の勉強を十分した上で臨みました。しかし、想定外の事態が起きました。なんと共通課題テストがあったのです。私たちはこのことを事前に知りませんでした。ほとんどの問題は事前の準備段階で得た知識で解くことができたものの、ただ一つどうしても解けない問題がありました。それは八風峠を誰が通ったのかというもの。選択肢にあったのは安土城を築いた信長、朝鮮出兵を行ったあの秀吉、江戸幕府を開いた家康…誰もが知っている武将ばかり。私たちは3人とも秀吉を選び、正解なのではないかという根拠のない自信を持ち始めていました。しかし喜んだのも束の間、昼食時に聞いた「まさか信長が出るとはなあ」の声。その瞬間、0.3点を失い優勝はおろか入賞までも遙か遠くに消えていきました。

ただ悪いことばかりではありませんでした。緊張から解き放たれた私たちには笑顔が戻っていたのです。そこからの3日間は楽しいことの連続でした。行動1日目、最も恐れていたメインザック行動がサブザック行動に変更となり、ルートも短縮されました。続いて2日目もルートが大幅に短縮。ブナ清水では思いがけない収穫があったのです。それは下見で顧問がなくなった銀のカップがまだあったこと。まるで私たちの迎えを待っていたかのように…。気分が高揚した私たちは審査員がいるのにも気づかないほど楽しく歌いながら下りました。

そして最終日。B隊全員が朝陽台広場を目指し歩いていきました。なにせ人数が多い故、他班のキレット通過を待つ間、他校と交流を図り、合唱し、楽しい時を過ごしました。

普段は会う機会がない人達と言葉を交わすことができる、これこそインターハイの醍醐味であると私たちは心から思います。私たちだけではこんなに素敵な大会にはなり得ませんでした。安全第一に考え、暑い中支援してくださった方々のおかげです。本当に楽しかったです。

ありがとうございました。



大分県 竹田高等学校

私たち竹田高校は、男子とともにアベック出場です。インターハイに出場しました。個人的には、初めてのインターハイでしたが、先輩との出場だったのでそこまで緊張感はありませんでした。私たちは今回、大会に向けて特にペーパーと読図に力を入れました。ペーパーでは予報1号に乗っているところを真剣に覚えたり、各分野をそれぞれが暗記し、万全な状態で大会に臨めました。

また、天気図の人もラジオを聴いて練習したりしていたので、良い結果が出て本当に良かったです。また、読図は、今までの大会の中でもずっと課題でした。だからこそ、下見の時から全員で地形を読み取れるようにしていました。初日の下見では台風が過ぎ去った日に山に入り、霧が深い中登ったことを覚えています。大会では悩んだところはあったものの、覚えていたところが多く出たこともあり、今までなかった満点を取ることができたので、すごく嬉しく思います。

大会のコースは、暑さの影響もあって3日間ともコース変更になってしまいました。下見では天候が良くなく、釈迦ヶ岳や鎌ヶ岳からの景色を見ることができなかったので、素晴らしい景色を楽しみにしていたのですがそこが残念でした。しかし、行動3日目に御在所ロープウェイに乗れて、鈴鹿山脈の美しい風景を見れたので良い思い出になりました。まだ全体の結果は

分かりませんが、良い結果を出せていただいていたと思います。また、私個人としては来年もあるので、今回良かったペーパー、読図をこれからも点数を出したいです。

登山は団体競技でチームワークも重要になってくると思うので、来年は今の2年全員で県総



体を通して、来年のインターハイでも今回の経験を活かして良い成績を残せるように頑張りたいと思います。たくさんの経験を得た大会になりました。ありがとうございました。

〈6班〉

北海道 釧路湖陵高等学校

私たち釧路湖陵山岳部の女子は初のインターハイ出場です。昨年男子が初インターハイという初心者高校でした。全道大会で出場が決まってから約一ヶ月ぐらいの短い期間での準備となり、とても大変でしたが、三重県に着いていざ大会が始まってみると、北海道の山とは違う気候だったり、景色だったり毎日楽しく、インターハイに出場しないと分からない貴重な体験をたくさんすることができました。熱中症になったり、体調が悪くなったりしなかったことも、今回楽しく山に登ることができた理由の一つだと思っています。正直、計画書作りの最中は低山だと思ってなめていたのですが、実際には下見で御在所岳からロープウェイ駐車場まで下った時に、鎖場やキレットがあったり、岩場があったりと楽しくもきつく、そして何より暑いので、リタイアしてしまうのではないかと不安でしたが、他の県の人と話したり、チーム内で

水をかけあったり、キャーキャー騒いでいたので楽しい思い出にすることができました。2～4日とも、コースが短縮になってしまい、登るはずだった釈迦ヶ岳や鎌ヶ岳、国見岳に登頂できなかったのがすごく残念です。もし、また別の機会があれば鈴鹿山脈の山々はもちろん、台高山脈やセブンマウンテンにチャレンジしてみたいです。今回、このような貴重な体験ができたのも、班長、副班長の導きや、大会役員、自衛隊、医師、看護師のみなさんの支えがあったからです。本当にありがとうございました。今大会で学んだことを普段の山行に活かし、後輩に伝えていきたいと思っています。



長野県 松本県ヶ丘高等学校

「来年の大会は三重です。ヒルがいます。」この言葉から私の2018のインターハイは始まりました。今年のインターハイは、準備の時からイレギュラーだらけでしたが本番も暑さのためコース短縮になったりと、全く自分の想定していたものとは違って大変思い出深いものになりました。歩き足りなくて少しさみしいですが、チーム内でも班内でも熱中症の人がでることなく3日間歩き通すことができ良かったです。

なぜ山で競うのか、という風に聞かれて困ることがありました。私は高校山岳部に入って山を始めたので、山岳競技自体に別に疑問を持っていなかったからです。2年インターハイに出場させていただいて思ったのは、大会を機に山について詳しくなることが多かったし、大会を普段から少しでも意識することで山行一回一回

の質が良くなるなということなので大会の意味は競うというより高校から山を始めた自分みたいな人が効率よく山について知れることにあるのではないかと思いました。そう考えると3年である自分より1年や2年生に出場してもらって、経験を積ませてあげられればよかったです。後輩に、大会までの準備や本番で学んだことをきちんと伝えて、自分が大会に出させてもらったことをムダにはしないようにしたいと思います。

三重の山は長野の山と違うようで、似ているところがあったり、岩も多く登っていてとても楽しかったです。高校を卒業しても、またいつか三重の山に、今度は秋頃にでも大会3日間のコースを歩きたいです。チームの仲間や一緒に行動を共にした班の方々、そして顧問の先生に、大会の準備運営をして下さったたくさんの方々、2018のインターハイをこんなにも楽しくしていただいてありがとうございました。



三重県 いなべ総合学園高等学校

私たちは地元である三重県で開催されたインターハイに初出場しました。昨年開催された三重県予選では、最下位という結果を受け、その悔しさをバネに今年の県予選大会に挑み、2位という結果を残すことができました。先輩のいなかった私たちはわからないことだらけでとても不安でした。インターハイに関わりのあった先生や外部コーチ、監督からのアドバイスや指導のもと、私たちなりの準備を積んできました。準備をするなかで意見がぶつかったり、課題が見つかったりなど大変でした。しかし、何度も

下見を重ねて独自ポイントを確認したり、初めて使うアルファ米を試したりして、不安だった部分を解消していきました。

インターハイの雰囲気は県予選と全然違ったのでとても緊張しました。しかし日頃からお世話になっている方や他県の方とお話をしているうちに、少しだけ緊張がほぐれたので良かったです。テント設営時や炊事、登山行動の際に声かけを心がけました。そのおかげでいつも通りの登山ができました。

3日間ともコースの変更があったので、釈ヶ岳や鎌ヶ岳、御在所岳を最後に登れなくて少し残念です。機会があれば4人で行きたいと思います。大会当日は天気にとっても恵まれていたので、景色がとても綺麗でした。ロープウエーに初めて乗れたので楽しく最後まで過ごせました。長時間の行動なので、熱中症や怪我をしないか心配でしたが、みんな無事に帰って来られたので良かったです。地元の方々や部活動のメンバー、家族、先生などたくさんの方に応援していただき、明るい気持ちで大会を迎えられました。私たちの力だけではインターハイ出場できなかったと思います。周りの方々に支えられてここまで来られたんだと改めて思うことができました。

これまで辛いことの方が多かったですが、仲間がいたからこそ乗り越えられてきました。このメンバーがいてくれて本当によかったと思える大会でした。



大阪府 高津高等学校



インターハイに出場して、色々な経験からたくさんのお話を学ぶことができました。他県の選手たちとの交流はとても新鮮で、お互いの県や部活動の違いについて語り合ったり、方言を可愛いと褒めあったりと、いい関係を築けたかと思っています。このように輪が広がっていくこともまた、山登りの楽しさであると感じました。そして炎天下の中、笑顔でおもてなしして下さった地元の方々を見て、尊敬の気持ちでいっぱいになりました。そうめんやお餅などの差し入れに、地元の小・中学生のイラストが入った旗など、どれも本当に嬉しかったです。

4日間とても暑く、私たちのチームでも2人体調を崩してしまったメンバーがいました。日頃の体力づくりの大切さ、体調管理の大切さを改めて思い知らされました。今後はメンバーの体調が悪くなる前に気づいてあげられるようお互いに意識し合い、体調が悪くなってしまった時の適切な処置についても学んでいきたいです。

他校はライバルであるというのに隊行動の際にはお互いに頭上注意や足場注意の伝達をし合っているのを見て、安全に山を登ることの大切さを感じました。また、大阪の大会とは全然違う、インターハイ独特のピリッとした雰囲気もとても新鮮でした。岩陰などから審査員の方がいつ出現なさるか分からない状況での登山は初めてで、初めはとても緊張しました。景色を見たり周りの人と話したりとリラックスしながら山を楽しんで登ることこそ、登山の醍醐味だなと感じました。

インターハイに出場して、人と人とのつながりの大切さを感じ、新たな知識をたくさん得て、山登りの楽しさを再認識しました。今回学んだことを後輩に伝えてより良い部活動ができるように、かつ自分の今後の人生に活かしていきたいです。本当にありがとうございました！

鳥取県 境港総合技術高等学校

私にとって2回目の出場であり、最後の大会でした。読図、筆記テスト共にミスが多く、悔しさはありましたが読図は去年より良かったと思いました。体力も以前よりついていて、わずかですが3年間の成果が出ていると思いました。この大会でとても良い経験ができたと思います。
(土岐)

私は、今年2回目のインターハイ出場でした。去年と比べて気温がとても高く、コースが短くなったり、すべての行動が隊行動になったりと沢山の変更がありました。でも、担当の行動記録を書くとき、途中の沢山の休憩のおかげで落ち着いて確認しながら書くことができたので良かったです。今回のインターハイを通してメンバーや自分と向き合うことができ、沢山の目標ができました。その目標を達成するために今後の活動や気持ちを整理していきたいと思います。
(松本)

初めてのインターハイ出場でものすごく不安で緊張していて、行きたいって気持ちと少し行きたくないって気持ちがありました。わたしのパーティーにはインハイ経験者が2人もいて心強かったけど、逆にその2人にずっと頼りっぱなしで大会当日ではあまり役に立てなかったし、ペーパーテストでも天気図で県全体の時にはかなり得点が取れていたのにインターハイでは点が取れず全くチームに貢献できてなくて足を引っ張ってばかりでした。それが本当に悔しかったので来年はまたインターハイに出場してリベンジできるように今回の経験を生かして活動していきたいです。
(西山)

私が初めてのインターハイに出てみて思った事は、最初の気象テストで基本的なことを理解してなくて先輩の足を引っ張ってしまったのがいけなかったと思います。行動では、とても辛いということが特になくて滑らずに歩くことが出来たと思います。交流会では他県の高校生と話す事が出来て楽しかったです。菰野町のおもてなしでは、美味しいそうめんを食べることができ良かったです。来年は、必ずみんなでインターハイに出て今回失敗したことを克服したいです。
(古賀)

このパーティーは発展途上のチームであり、今大会は通過点と位置付けています。選手にとって何が必要で、今後どうするべきかを学べ、全国の強豪校との差を肌で感じたと思います。また、こもしかには感謝しています。選手の緊張感を上手にゆるめてくれる最高のゆるキャラでした。暑い中での大会運営は本当に大変なことだったと思います。お世話になりました。
(監督 岩田)



徳島県 城ノ内高等学校

私は、今回の三重インターハイが2回目のインターハイでした。去年の山形インターハイとは異なり、非常に暑い中での山行で、コース変更などもありましたが、私自身とても楽しめる大会でした。競技に関しては、悔しい点や反省点も多くありましたが、この大会、そして3年

間の登山部生活で学ぶことも多くあり、これから先も登山を続けていきたいという気持ちで今はいっぱいです。この経験を一生大切にしていきます。(3年生 辻 瑛衣美)



今年でインターハイの出場は2回目だったので、去年より落ち着いて大会に挑むことができました。猛暑のため、コースや行動態形などに変更があり大変でした。

ちょっとしたミスが響き、悔しい気持ちもありますが、それ以上に長く苦しい大会を仲間と共に協力し合って乗り越えたことの達成感で胸がいっぱいです。この3年間の貴重な体験をこれから先でも活かしていきたいです。

(3年生 新開 未玖)



コースは短縮しない方がよかったと思いました。特に最終日のチーム行動は楽しみにしていたので、とても残念です。このチームでの登山行動はこれで最後なので、チーム行動で鎌ヶ岳まで駆け上がり、充実感を味わいたかったです。

それでも、そうめんやアイスのおもてなし、全国の仲間との交流、暑かったけど4人で寝たテント泊など最高に良い思い出となりました。もう二度とこの4人で山に登ったり、テントで寝ることはないと思うと寂しいです。いい思い出をありがとうございました。

最後にとても残念なことがあります。読図のポイントは全て合っていた(満点だった)のにポイント記載不備ということだそうで、全てバツになっていました。登山の技術や知識以外のところで減点されるのはとてもおかしいことだと思います。読図についてはかなり頑張ってきたのに、その努力を認めてもらえませんでした。とても悔しいですが、その悔しさを取り返すために、来年のチームの後輩が頑張ると言ってくれています。

来年は地元の九州でインターハイが行われます。来年はもっと楽しいインターハイになるように、また1年間頑張ります。ありがとうございました。

佐賀県 唐津東高等学校

とても暑かった三重のインターハイ。最初はこの暑さの中、頑張れるかどうか、熱中症にならないかなと心配しましたが、終わってみればとても楽しかったというのが正直な感想です。酷暑の中、毎日サブザック短縮コースとなり、あっという間に疲れるまもなく登山行動は終わってしまいました。

大会前には暑さに慣れるために地元のハードなコースによく行きました。その時、山頂で浴びた水の爽快感。または県大会のタイムレースで味わった緊張感と達成感。そういったものが、集大成であるインターハイで味わうことができず、消化不良気味に終わったのがちょっと残念です。具体的には、3日ともサブザック行動で



大会を終えて

登山大会を終えて

登山隊長 葛原 義和
三重県立いなべ総合学園高等学校

1 はじめに

三重インターハイ登山大会が終わって数日経ったある日、私は菰野町内のある小学校を訪ねた。幕営地に立てた応援メッセージののぼりを書いていただいた小学校である。校長先生は私に「これを見てください」と一通の手紙を見せてくださった。差出人は大会に出場した選手たち。応援メッセージののぼりを作ってくれた小学生へのお礼文に、のぼりを囲んだ選手たちが笑顔で写っている写真が添えられていた。校長先生は「9月から始まる新学期の始業式で、全国の高校生のお兄さん、お姉さんが、あなたたちのおかげで菰野町に来ていい思い出を作ることができたと喜んでくれたよ、と話してあげたい」とおっしゃってくださった。

それからまた数日後、大会に参加した選手の諸君に書いてもらった大会感想文をまとめ始めた。そこには、大会期間中の暑い最中、自分たちをもてなすためにそうめんや草もち、冷たいお茶、アイスクャンディーをふるまっていたいたり、大会補助員に交じってボランティアでサンプリングを勧めたり掃除をしてくれたりしていただいていた菰野町の方々への感謝の気持ちが書かれていた。

今、私は、登山大会を菰野町で開催できたことに心から感謝している。応援メッセージののぼりは私から菰野町のすべての小・中学校に作製の依頼をした。しばらくして届いたのぼりを見て私は感動した。みな私の期待以上の力作揃いだったからだ。ご指導いただいた学校の先生方と児童・生徒たちの、登山大会で頑張る選手を応援しよう、という熱い思いのあらわれである。

また、選手への地元名産品の振る舞いやボランティア活動は、私から持ちかけたものではない。

すべて菰野町の方々からご提案いただき、準備から実行まで自主的にしてくださったものである。

記録的な猛暑の中、低山の鈴鹿山系で行われたインターハイ登山大会で、選手の諸君は相当な苦勞と辛抱の4日間を過ごしたはずであるが、これら菰野町の方々からいただいた「おもてなし」の心によって、良い思い出とともに記憶に残る大会になったのではないかと。

2 大会コース

インターハイ登山大会をやるぞ、と三重県高体連登山専門部全員が心に決めた2014年から2年間ほどは、鈴鹿山脈の北部から中部にかけての山域で実施したいと考えていた。鈴鹿山脈は変化に富んでいて登山者を飽きさせない魅力を持っている。それを全国からやって来る高校生に味わわせたい、と思っていたからだ。

「予報1号」にも書かれているが、北部の御池岳から藤原岳にかけてはカレンフェルトやドリネなどが点在するカルスト地形の中を歩き、中部の御在所山や鎌ヶ岳では浸食された花崗岩質の奇岩や岸壁の絶景を眺めながら登ることができる。どのルートが最も楽しめ、且つ選手輸送バスの運行に問題がないかなどを、登山専門部と三重県山岳連盟の有志で調査し続けた。

しかし、この大会コース案は2市1町にわたるため、それぞれの市町に大会を受け入れる受け皿を用意してもらうのは至難の業であった。また、班行動や隊行動ならば問題はないのだが、チーム行動のコースとして考えると、安全確保の面から配置役員の人数が相当数に上がることが予想された。結局、我々専門部の思いは、経費削減を至上とする現在の登山大会の運営にそぐわない、という結論に至ることになってしまっ

た。

菰野町1町でインターハイ登山大会を背負ってもらうことで大会コースはかなりコンパクト（事実、大会地図はこれまでにないA2サイズのもの）になったが、菰野町と周辺の県や市の境界ぎりぎりにまでコースを拡げていくことで、鈴鹿山脈中部のアルペン的な山容と、豊富に水を蓄えた豊かな自然を味わえるコース作りができた。



大会コース調査の一場面

3 行動形態

① 経緯

チーム行動が主流というインターハイの傾向を受けて、前年度（2017年度）の春までは大会の登山行動3日間のうち、1日目（三池岳・釈迦ヶ岳コース）は班行動、後の2日間（御在所中道・国見岳コースと鎌ヶ岳・御在所山コース）をチーム行動で実施すると計画していた。そしてシミュレーションとしてその年度に開催した東海地区の登山大会は、御在所中道・国見岳コースを使ってチーム行動で実施した。東海地区は男女それぞれ7チームで競うのだが、御在所中道のルート上で渋滞が発生した。途中に現れるキレットでの渋滞は想定していたが、コース上に設置したそれぞれの読図ポイント付近での渋滞は想定外であった。

どうすべきか頭を抱えながら迎えた山形大会で、私はチーム行動時の渋滞による混乱とその後の処理を大会本部に身を置きながら経験した。その時、三重の大会においてチーム行動、時間

差スタートで計画している御在所中道・国見岳コースでも同じ、またはさらに重大な混乱が起きると確信した。すぐに中央総務委員の方々に、このコースも班行動とすることを伝えて了解を得た。

この年の10月、「第1回安全対策会議」と銘打った役員研修会を実施した。私は総務の仕事も抱え、経費節約のために大会役員の削減を迫られる中でこれを計画せざるを得なかったので多忙を極めていた。ただ、それまで想定していたチーム行動の役員編成を、新たに班行動の編成として考え直すことはさほど困難ではなかった。危険回避のためにルート上に多くの役員を配置するよりも、班長・副班長が選手を引率して行動する方が、明らかに行動役員の人数は少なく済み、また役員の輸送が単純に行えるからである。

もちろん、三池岳・釈迦ヶ岳コースに加えて、危険な個所が比較的多い御在所中道を通るコースも班行動にすると伝えられた班長・副班長の方々は、選手を引率するという任務の重大さを負担と感じられたはずである。しかし、このことに反対する役員は皆無だった。選手の安全を守るといふことと大会を運営していくという責務をしっかりと背負ってくださっていると感じた。このような大会役員のみなさんだからこそ、すべてのコースを直前に変更した大会本番であってもしっかりと選手を支えて行動してくださったのだ。

班行動は制限時間を設定しないので、当日の気温や湿度等を鑑みて歩行スピードを変えることが可能で、暑い大会になることを予想していた我々にとっては比較的安全性が確保できるというメリットを感じられる行動形態である。とは言っても、A・B隊それぞれ188人＋行動役員の大人数が同時に動くのであるから、渋滞は否めない。だから先のほうを動く班と後ろを動く班では全くペースが違うことになる。当該年

度の4月に実施した第2回安全対策会議（役員研修会）が終わってから開催した県の登山専門部専門部大会実行委員会で、大会2日目と3日目の行動形態を隊行動に変更しようということに決めた。渋滞回避が不可能な三重大会のコースであるなら、渋滞によって起こる班の不公平な状況を、班の順番を入れ替える（ローテーションを行う）ことで少しでも緩和するのが主な目的である。

『登山部報 61号』では既に班行動1日、残る2日はチーム行動と公表していたので、この行動形態の変更を「予報1号」で知った全国の選手・監督のみなさんは戸惑われたかもしれない。山形大会と2回の安全対策会議を経て、県境稜線までの急な斜面につけられた狭い登山道が特徴である三重インターハイ登山大会のコースにおいて、選手の安全確保と競技の運営とを両立させようとするなら、結局、この方法に変更せざるを得ない、と判断したことにご理解をいただきたい。



大会本番、御在所中道のキレットを下る登山隊（赤嶺先生撮影）

② 大会本番

こうして隊行動のコースを2日間、チーム行動を半分取り入れたコースを1日として大会を始めた。が、果たして大会直前に大会本部は、コース短縮と変更をしたうえで3日間とも隊行動で実施するという決断を下した。気象予報士から異常な高温が続くという予報が出されたので、熱中症になる選手が多発する危険性が高まっている、そしてこの状況下でのチーム行動は

危険、と判断したからである。

この直前の変更には、私は隊行動を主とした行動形態を計画しておいて助かった、と思った。もし全日程がチーム行動という計画であったなら、おそらく行動前日の行動役員会議はひどく混乱して、当日、選手を安全に行動させる体制を築くことは無理だっただろう。また、チーム行動の役員輸送は単純ではないため、急な変更に対応仕切れなかったはずである。隊行動の隊編成をそのまま3日間に応用できたからなんとか対応できたのだ。

しかし、私を一番助けてくださったのは役員の方々である。大会までに「安全対策会議（役員研修会）」を3回行う中で、各コース隊長と班長・副班長が「選手の安全を守るのは自分たちだ」という責任感を高め、支援隊長をはじめとする支援隊、コースサポート隊、通信係、さらに総務役員と輸送担当役員がそれをしっかりサポートするぞ、という意識を高めてくださった。この団結力が大会時に発揮されたことが、今大会を大過なく終えることができた最大の要因である。

3日間全てのコースを短縮、変更するに当たっては、全国高体連登山専門部の松本部長のご決断によるところが大きい。登山行動に帯同していただいた認定国際山岳医5人から、猛暑による熱中症のリスクが極めて高まっているという意見書が大会直前に提出された。それを真摯に受け止め、選手の生命の安全を最優先に考えて決意していただいた。感謝の言葉もない。

そしてこれを受けて、懸命に競技に取り組む選手たちの思いに沿うことができる行動と審査の計画を立ててくださった松本審査員長と福永副審査員長、また臨機応変に審査の計画を審査員会に提案してくださった三重県の戸田、檜作両審査員にも感謝申し上げたい。

4 救護体制

菟野町消防本部にインターハイ登山大会を鈴鹿山系で8月に実施する計画を伝えに行ったの

が前年度の初めであった。熱中症による救急搬送を想定し、具体的に我々大会役員との合同搬送訓練を計画し始めたのがこの頃である。

また陸上自衛隊第 33 普通科連隊との合同訓練も前年度から計画を進めていった。10 月の第 1 回安全対策会議（役員研修会）には 2 人の自衛隊員が視察に来てくださった。そして平成 30 年 3 月 31 日に役員と自衛隊員との合同訓練を実施し、ヘリコプターでのピックアップポイントを調査、背負い搬送の訓練を行った。

平成 30 年度に入ってから、三重県防災航空隊と菰野町消防本部、陸上自衛隊第 33 普通科連隊が我々大会役員と共に、救護体制について合同会議を持った。ご出席いただいた皆さんは選手の命を助ける方策について活発に議論されていた。私は、大会役員だけではどうしようもないことでも、この人たちと一緒にすれば万が一の時にも精一杯の努力ができる、と強く思ったことを記憶している。

菰野町消防本部とは 6 月に搬送器具（レスキューキャリングラック）を使って背負い搬送をより安全に行う訓練、7 月には三重県防災航空隊と菰野町消防本部、四日市西警察署、陸上自衛隊第 33 普通科連隊と合同で、防災ヘリによる緊急搬送訓練を実施した。さらに大会期間中は自衛隊だけでなく、菰野町消防本部と三重県防災航空隊の各隊員も本部に詰めていただき、情報共有は図りつつ緊急事態に備えていただいた。

これら関係機関の方々が、実に真剣にインターハイ登山大会を支えてくださったことに深く感謝を申し上げたい。大会本番では陸上自衛隊

背負い搬送訓練の一場面



員の方以外の出番がなくて幸いであったが、これらの訓練や議論は我々大会役員個々の登山活動に生かされていくはずである。

5 医療体制

① 関わっていただいた医師・看護師

今大会では、行動役員として 5 人の認定国際山岳医と国際または国内山岳看護師を含む 3 人の看護師、計 8 人の医療従事者をお招きすることができた。

平成 29 年の初め、冬の御在所藤内壁でアイスクライミングをされていた三浦裕医師（当時名古屋市立大大学院准教授）に、前三重県山岳連盟理事長が声をかけたのが発端だった。三浦医師のご紹介は、予報 1 号に載せているのでここでは割愛する。前理事長から三重インターハイ登山大会への協力を依頼された三浦医師は、それを快く引き受けてくださった。そして三重大会前年の山形大会に視察員としてご参加、帯同医師と共に行動していただいた。これらの経緯があって、低山である鈴鹿の山々で実施されるインターハイ登山大会は熱中症が多発する危険性がある、それをゼロにする方策をあなたたち役員と一緒に考えていきましょう、と言っていただくようになった。

続いて三浦医師は、岡山のインターハイ登山大会に帯同医師として活躍された兵庫県の野村医師と、国際山岳看護師の浦川看護師も招請してくださった。こうして、大会にむけて私たち役員は、この 3 人と一緒に大会コースを歩き、医療体制を計画していくことになる。

たとえば昨年 10 月「第 1 回安全対策会議（役員研修会）」。台風の接近で激しく雨が降る中、コース視察に同行いただき、夜も意見交換にお付き合いいただいた。翌日は大雨でコース視察は中止、三浦医師が野村医師と浦川看護師を交えて熱中症関連、特に登山中におしっこをすることの重要性について、半日かけて講義をしてくださった。この後、2 回実施した安全対策会

議（役員研修会）にも必ずご出席いただいた。

また三浦医師と浦川看護師は平成 30 年度に入って、岩手県、長野県、大阪府、静岡県、愛知県から医師と看護師を招請してくださった。第 2 回安全対策会議（役員研修会）では静岡から宮田看護師、第 3 回では加えて大阪から江村医師、愛知から福島看護師も駆けつけていただいた。ご自身の非常に多忙なスケジュールを三重インターハイ登山大会のために調整してくださったのである。

そして、遠方のために安全対策会議（役員研修会）にご参加いただけない医師の方々も含めた 8 人の方々は大会直前まで活発にメールで意見交換を行い、救護の体制や山中での治療のやり方などの意思統一をされていた。

このようにして、医師・看護師の方々はインターハイ登山大会への理解を深めてくださり、同時に大会役員は熱中症への理解とその対策、的確な応急処置の方法などについて理解を深めていった。

8 人の方々は大会期間中、登山行動中だけでなく、行動後の引き継ぎ式が済んだ後も幕営地の救護所に残って選手の面倒を見てくださったり、健康チェックカードを点検して行動に不安のある選手をピックアップして救護所に来てもらったりと、実に献身的に活動していただいた。

さらに行動役員の医師・看護師に加えて、三重北医療センターから 6 人の看護師が、毎日 2 人ずつ日替わりで設営救護所に詰めてくださ



救護所で打ち合わせを行う医療スタッフ

た。様々な理由で不安を抱えた選手が救護所を訪ねるのだが、看護師の方々はそれにしっかりとかわっていただいた。いろいろとご不便やご迷惑をおかけしたことをここで改めてお詫びするとともに、感謝を申し上げたい。

② 医療体制に関する反省点

反省すべきは、ただただ私のコミュニケーション不足である。

合計 14 人の、選手・監督のために持てる力を充分発揮しようという志を持った医療スタッフに恵まれた大会であった。しかし、私はその方々にインターハイ登山大会独自のルールと今大会の任務を細かく説明することができなかった。特に審査基準に関しては、互いに質疑応答を交えて周知しておくべきであった。これができていなかったために、選手に対応していただく際にも混乱を招いた。

各府県から、または各病院から集まってくださった医療スタッフだから意思疎通を図るのは難しかったが、それでもメールなどのコミュニケーション手段を使って私から情報発信をして、理解に時間のかかる登山大会のルールや様子の把握に努めなければならなかった。また大会直前に集まっていただく機会を設けて、お互いが顔を合わせて医療救護マニュアルの読み合わせをすべきだった。

これらのすべきことができなかった理由は、登山隊長が大会に関する医療体制の管理を一手に引き受けたことに尽きる。受け身ではなく積極的に選手や監督に関わっていかうという思いを持った医療スタッフに対して、大会における任務や日々変化するかもしれない細かなスケジュールを伝えて、どう動くのがベターなのかを丁寧に相談しながら決めていく医療専門の大会役員の配置が重要だった、と猛省している。

③ 今後の大会医療スタッフ

これまでのインターハイ登山大会の医療スタッフの招請については、開催地の実行委員会に

全面的に任せられて、「山に登れる医師または看護師」を探すのに苦労していたと聞いている。しかし、昨今の競技性が強められたインターハイ登山大会において、いつまでもこのような状況では十分な医療体制を作ることができず、それが原因で重大な事故が起こってしまうかもしれない。選手の健康を管理し、選手の命を救える山岳医療に精通した医師・看護師がこれまでに以上に必要とされているのである。

三重の大会に行動役員としてご参加いただいた医師・看護師の方々は、日本の登山界を担っていくホープを育てるインターハイ登山大会に、今後も関わるのが自分たちの役割である、と常々おっしゃっていた。この方々は選手たちと共に行動して健康管理や治療に当たり、文字からだけではなく実際に大会のルールや雰囲気把握いただいた、唯一の山岳医療のプロフェッショナルチームである。全国高体連登山専門部は主導権を発揮して、可能な限り同じメンバーに今後の登山大会の医療スタッフとして参加要請をしなければならない時期に来ている。



6 最後に

山岳ガイドで国立登山研修所講師の笹倉孝昭氏に、剣岳で確保技術講習を受けているとき、笹倉氏は私に、「自分が高校生の時に山岳部でインターハイを目指して頑張ったが、その経験と知識は、確実に今の自分の礎となっている」と話してくださった。

また、今大会に出場した栃木県立矢板東高校

のチーフリーダーは、「審査の対象となっている項目はもちろん、コース短縮や医療体制の充実度から、インターハイが安全登山のスタンダードである事を実感しました」と感想文に書いている。

私も同じ考えだ。それ故に、インターハイ登山競技で選手たちが評価されるものは、ある部分に特化したものではなく、計画し、行動し、自己とチームの健康をマネジメントし、翌日のために食べて寝る、という登山に関わるすべてが等しく評価されるべきで、そのことが若い自立した登山者を育てるために重要である、という認識を持ち続けたい。

追記

三重のインターハイ登山大会に参加された選手・監督のみなさん、暑さに苦しめられた鈴鹿の山々にも、ようやく秋の気配が漂い始めました。皆さんの故郷の山々もそうであるように、鈴鹿の山も秋は紅葉が美しく、それが澄んだ青空にとともよく映えて私たちを楽しませてくれます。皆さんが下見や大会期間中に歩いたコースも、秋には夏とは違った味わい方ができます。

いつか機会があれば、秋の鈴鹿の山を訪れてください。菰野のキャンプ場の管理人さんたちも大歓迎してくれます。そして下山後は、湯の山温泉の湯につかって疲れを癒しつつ、三重での登山大会の思い出に浸っていただきたいと思います。

登山隊長として今大会を振り返ると反省すべき点が次々と湧いてきます。そのたびに、選手と監督のみなさんのご理解、ご協力に対して感謝の思いが湧いてきます。本当にありがとうございました。





平成30年度 全国高等学校総合体育大会登山大会 第62回 全国高等学校登山大会

主催 (公財)全国高等学校体育連盟 (公財)日本山岳スポーツライミング協会 三重県 三重県教育委員会 菟野町 菟野町教育委員会 共催 読売新聞社 特別協賛 大塚製薬 協賛 JTB マイナビ KDDI カンコー電子版
後援 (公財)全国高等学校体育連盟登山専門部 三重県高等学校体育連盟 三重県山岳連盟 後援 スポーツ庁 (公財)日本スポーツ協会 日本放送協会 (公財)三重県体育協会 菟野町体育協会

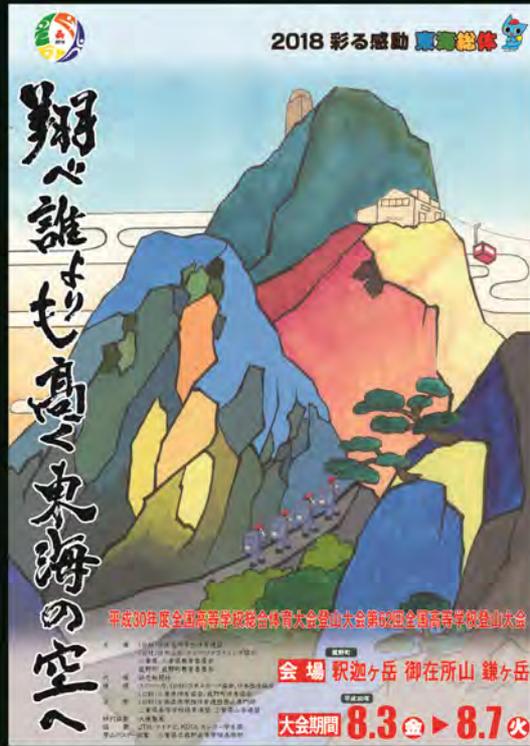
全国高等学校登山大会



日本山岳スポーツライミング協会



読賣



平成30年度全国高等学校総合体育大会登山大会 第62回全国高等学校登山大会







← 八風谷

















感動をありがとう





平成30年度全国高等学校総合体育大会登山大会
第62回全国高等学校登山大会
記録報告書

平成30年度全国高等学校総合体育大会登山大会菰野町実行委員会

〒510-1292 三重県三重郡菰野町大字潤田1250番地
菰野町教育委員会事務局 教育課 社会教育室内
TEL:059-391-1160 FAX:059-391-1195
MAIL:syakaik@town.komono.mie.jp

ISBN978-4-944175-07-9
C1075



©インターハイ